

# KYOTO UNIVERSITY 2008

知と自由への誘い

京都大学 大学案内 2008



# 知と自由への誘い

京都大学 大学案内 2008

## Index

001 総長メッセージ

### 京都大学の教育

- 002 京都大学の教育システム
- 004 京都大学で学ぶということ
- 005 京都大学の教養教育を担う「全学共通科目」
- 007 活力ある教育の場の形成と、環境の充実を目指して
- 008 ポケット・ゼミ

### 京都大学の教育を支える施設

- 014 学術情報メディアセンター
- 016 図書館

### さらなる飛躍へ

- 018 国際交流
- 020 大学院進学
- 023 就職支援
- 026 ベンチャー起業

### 学生生活サポート

- 028 学生生活を支援する制度や施設
- 030 京都大学生生活協同組合
- 032 クラブ・サークル

### 学部紹介

- 036 総合人間学部
- 040 文学部
- 044 教育学部
- 048 法学部
- 052 経済学部
- 056 理学部
- 060 医学部
- 066 薬学部
- 070 工学部
- 074 農学部
- 078 教員の研究テーマ紹介

### 資料請求・お問い合わせ

- 094 入学者選抜要項・学生募集要項の請求方法
- 095 多様な入学制度／お問い合わせ先一覧

### 京都大学について

- 099 京都大学のすがた
- 100 キャンパスマップ・交通案内

## 京都大学の基本理念

京都大学は、創立以来築いてきた自由の学風を継承し、発展させつつ、多面的な課題の解決に挑戦し、地球社会の調和ある共存に貢献するため、自由と調和を基礎に、ここに基本理念を定める。

### 研究

京都大学は、研究の自由と自主を基礎に、高い倫理性を備えた研究活動により、世界的に卓越した知の創造を行う。

京都大学は、総合大学として、基礎研究と応用研究、文科系と理科系の研究の多様な発展と統合をはかる。

### 教育

京都大学は、多様かつ調和のとれた教育体系のもと、対話を根幹として自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめる。

京都大学は、教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する。

### 社会との関係

京都大学は、開かれた大学として、日本および地域の社会との連携を強めるとともに、自由と調和に基づく知を社会に伝える。

京都大学は、世界に開かれた大学として、国際交流を深め、地球社会の調和ある共存に貢献する。

### 運営

京都大学は、学問の自由な発展に資するため、教育研究組織の自治を尊重するとともに、全学的な調和をめざす。

京都大学は、環境に配慮し、人権を尊重した運営を行うとともに、社会的な説明責任に応える。

(平成 13 年 12 月 4 日制定)

# 京都大学を目指すみなさんへ

京都大学総長 尾池 和夫



京都大学は、学問をおさめて21世紀の世界で活躍することをこころざす、あらゆる人びとを受け入れ、そのこころざしの実現の場を提供します。そのために、学習に安心して励むことのできる快適なキャンパスを実現するよう努力を続けています。

大学では、蓄えられた知識と知恵を受けつぐために学習を深めます。その上に大学ではさらに新しい知識をくわえていくための研究が、文字通り昼夜をわかつた進められています。京都大学に入学した学生のみなさんには、このような大学での活動に参加していただくこととなります。そのため、学生としての生活の基盤をしっかりかため、心身を鍛え、バランスのよい感覚を身につけ、立派な社会人として通用する人になって巣立って行くまで、京都大学が学生のみなさんの活動の場となるよう、支援しながらみなさんの成長を見守っていきます。

吉田キャンパスの北と東西に高さのそろった山地があつて、3方を山に囲まれた盆地にこのキャンパスがあります。豊富な地下水をたくわえ、それによって世界の人びとの集まってくる古都の文化をはぐくんできた京都盆地で、京都大学は地域との連携のもとにその文化を世界に発信しています。22500人の学生たちの一員となり、入学式を迎える4月には、哲学の道のある琵琶湖疏水に沿って桜が満開

になり、入学式の前後には、多くの課外活動の先輩たちがみなさんに入部を勧めることでしょう。秋には最高に美しい紅葉が、世界遺産の京都盆地をつつまます。京都大学に来た1300名の留学生もそれを楽しみにしています。

国立大学法人京都大学が京都大学を設置し、国からの運営費交付金で教育と研究が行われています。豊かな教養と人間性、さらには強固な責任感と高い倫理性を涵養し、国際的視野とコミュニケーション能力を備えた人材を育成する、という目標に向かって、多くの整備が着々と行われています。基礎研究をはじめとするさまざまな学術研究を推進するとともに、社会や経済の変化に対応することのできる幅の広い視野と総合的な判断力をそなえた人材を育てることが京都大学の目指す目標です。

京都大学の基本理念には、「京都大学は、多様かつ調和のとれた教育体系のもと、対話を根幹として自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめる。」また、「京都大学は、教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する。」とあります。この京都大学への入学を旨として、大いに学習を深めてほしいと願っています。

京都大学の初代総長木下廣次は、履修科目の選択肢を広げるなど、学生の自主性を尊重した教育方針を採用したことで知られている。京都大学創立後最初の入学宣誓式において、木下は「大学学生に在りては自重自敬を旨とし以て自主独立を期せざるべからず」と述べている。



# 京都大学の教育システム

## 柔軟な教育システム

京都大学の教育は、学部や研究科によって様々な形をとっています。入学者は、10の学部のうちいずれかの学部(学科)に属することになりますが、学部卒業までにどのような教育を体験するかは、各学部の理念と教育方針にもとづいた教育課程によって異なります。あるいは同じ学部にも属していても、卒業後にどのような進路を希望するかによって、教育課程は異なってくることもあるでしょう。

教育課程のことを「カリキュラム」といいますが、これはもともと個々人が歩んだ道程を指す言葉です。そこには、与えられた課程を受動的に辿っていくのではなく、自分で自らの将来を見据えながら、自分の学ぶ道を作り上げていくという含意があります。京都大学は、学生が主体的・能動的に学ぼうと思えば、それに対して十分な学習を提供できるような柔軟な教育システムを備えています。ここでは、学部教育から大学院教育までを辿りながら、みなさんに京都大学が提供する教育の特徴を概観しておきましょう。

## 全学共通教育

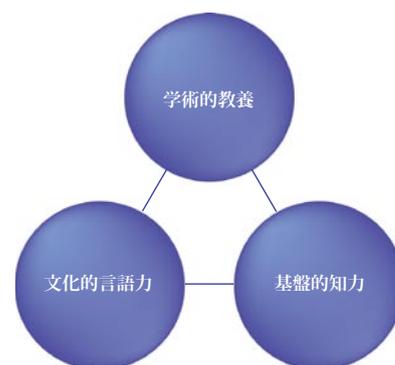
どの学部に入学者の場合も、まずは全学

共通科目を受講しなくてはなりません。全学共通科目とはその名前のとおり、京都大学の全学部の学生が共通して受講する科目群をさします。この科目群は、一言でいえば教養教育をおこなうためのものです。教養教育は、専門の勉強を始める前に、あるいは専門の勉強と並行しつつ、専門以外の分野も含め文理を問わず広く学ぶという形をとりますが、それは単に該博な知識を得るためではありません。京都大学で考える教養教育の目的は、大きく三つに分けられます。

第一には、これまで人類が築き上げ、そして現在も築きつつある学問・研究の諸分野に広く向き合い、その方法論や世界観、探求の姿勢といったものを学ぶことです。これは学問という領域をはるかに超え、人生観や世界観にまで及ぶでしょう。学問に対峙することを通して、人間的な成長や成熟も期待されていると言ってもよいでしょう。第二には、自分の言葉(言語)で批判的かつ論理的に思考を組み立て、それを他者へ伝え表現していくことを学ぶことです。この場合の言語とは、高度な日本語運用能力はもちろんのこと、あらゆる分野において世界的に活躍するために不可欠な、外国語の習得を含みます。このような批判的思考と言語運用能力を鍛えるためには、他者や異文化を正しく理解しようと努め、ま

た協調関係を築きあげようとするのが重要です。教養教育の第三の目的は、専門教育の課程で必要とされる基礎的な学力や知識・技能を習得することです。これは、将来、みなさんが社会や学術研究をリードしていくための基盤となる知識を得るだけではなく、見通しのつかない新たな複雑な状況において、適切に課題を分析し解決法を見つけようとする姿勢も含まれます。

以上のような教養教育の3つの目的、すなわち教養教育を通して獲得される能力と素養を、京都大学では順に、学術的教養、文化的言語力、基礎的知力



しかし、全学共通教育を履修すればこれら3つが自動的に獲得できるというもので



はありません。京都大学の提供する全学共通科目は、大変多様な構成となっています。専門教育といってもよほどの高度な専門性をもっている科目もあれば、基礎的な事項の習得や他分野との関連に重きをおいた基礎論もあります。大学によっては、教養教育に期待される能力の習得をプログラム化して、入学者に一律に履修を課しているところもあります。しかし、京都大学はそのような立場をとりません。京都大学の学生は、入学当初からきわめて専門志向の強いことが、これまでの調査から分かっています。すなわち、自分はどのような専門領域に進みたいか、明確なビジョンを持つ学生が多いのです。したがって京都大学では、教えるべき専門的な内容を薄め技法の習得にのみ特化したような科目を提供するのではなく、最先端の知の生まれてくる現場に触れてもらい、研究者の背中を見て学んでいくことを学生に期待しています。このような教育構成の場合、学生の主体的で能動的な関わりが何よりも重要となります。与えられることを待つのではなく、自分から求め学問の現場に参加していく態度を身につけることが要求されます。すなわち、「生徒」から「学生」へと転換することが、必要なのです。

## 学部での専門教育

全学共通科目を履修しつつ、あるいは各学部が定める履修を完了した後、学部の専門教育に入ります。学部によっては、1年次からすでに、相当な専門教育を受けるところもあります。学部の教育課程を修めたと見なされるための学習内容は、各学部の理念と教育方針に基づいて決定されています。

専門教育の課程に入ったからといって、教養教育と無縁になるわけではありません。京都大学の全学共通科目は、専門を勉強し始めてからも必要とあれば、いつでも履修できる構成になっています。すなわち、自分の専門の枠を広げ、自分たちの学問的範疇や方法論に関して省察し、さらに創造的にそれを広げていくことができるよう、他の学問分野との対話の可能性を開いています。この意味で京都大学の教養教育は「高度一般教育」とも呼ばれています。また、一定の条件において、専門教育に入ってから、他学部の専門科目も履修できる場合が多いことも、京都大学の恵まれた条件と



してここに付記しておきます。

学部によって異なりますが、専門教育では、研究室やゼミに属したり、学科や系と呼ばれる学部よりさらに専門化した集団に所属することになります。学部の専門教育は、少人数教育の特徴を備え持つことも多く、教員との関係もさらに密なものとなるでしょう。また、講義で知識を習得するだけでなく、実習や演習といった、専門分野に特に必要とされる技能を習得するための学習形態も増えてきます。いずれの学部であれ、卒業前には、各学部での学びの総決算とでもいうべきハードルがあります。卒業研究をおこなったり卒業論文を作成したりするほか、国家試験の受験が重要な学部もあります。みなさんの希望する学部がどのような教育課程となっているかは、本誌の各学部のページを参照してください。

## 大学院の教育

学部卒業後には、就職する場合もあれば、さらに上位学位（修士号、博士号）の取得をめざして大学院に進学する場合があります。京都大学では卒業生のうち約60%が大学院に進学します。いずれにしても、学部在籍中から、どのような方向に進むかということ、考えて準備しておく必要があります。

ここでは、大学院の課程に関して紹介しましょう。まず修士課程では、学部の専門課程よりも、さらに専門的な学習をすることになります。修士課程には、大きく分けて、研究者養成のための従来型の大学院の課程と、高度な職業的スキルをもつ実務家養成のための専門職大学院の課程がありま

す。修士課程では、専門家としての第一歩を踏み出すことになります。また、大学院によっては、いったん社会に出た後に再び大学で勉強したい人のために、在職社会人を対象としたコースを設けているところもあります。

大学院には、他大学や他学部の卒業生、勤務経験のある社会人も入学してくるので、学部時代よりも学生の年齢層やキャリアが多様となるでしょう。また、分野によっては留学生の数も多くなります。このような多彩な人々の中で、みなさんの人間関係はさらに豊かなものとなるでしょう。また、大学院では、自分でテーマを発見し学んでいくことが重要となります。すなわち、良い答えを見つけることばかりでなく、良い問いを発することも重要となるときです。修士課程修了時にも、研究者養成の課程では修士論文の作成が、専門職大学院では関連専門職の資格試験の受験という、ハードルがあります。

修士課程を修了した後、研究型大学である京都大学では博士課程にまで進学する学生が多いのが特徴です。そこでは、研究テーマを自ら開拓し研究計画を立て、それにもとづき教員からの指導をうけます。博士課程に在籍する間には、学会での発表や学術雑誌への論文の投稿なども行うことになり、研究者としての活躍が始まるでしょう。また、様々な研究奨励資金に募集しそれが受給されることもあるかもしれません。このような研究の成果として、博士論文を執筆し審査に合格することで、国際的に通用度の高い学位である博士号を取得することができます。

# 京都大学で学ぶということ

東山 紘久 (教育・学生担当 副学長)



京都大学は1897年に、東京大学に続き日本で2番目に設立された大学です。首都機能のある東京ではなく、近畿という歴史文化が深く中央政府から距離を置いた土地に設けられたこともあって、自由闊達な教育と研究の学風が築かれてきました。京都大学は帝国大学としての創立当時より「自重自敬」の精神のもと、学生と教員の自主性と自律性を重んじていました。また、現在の吉田南構内にあった旧制第三高等学校も自由の気風に溢れていました。第二次世界戦後、これら二つを母体に発足した新制の京都大学においても、それらの伝統は「自由の学風」として現在まで脈々と引き継がれています。

京都大学は総合大学すなわち university です。この言葉が示すとおり、多様性 (diversity) が統合 (unify) されている場です。それは、ひとつの小宇宙であると言ってもよいでしょう。10 学部と 17 研究科、13 の研究所と 25 の教育研究施設において、2 万 2500 人以上の学生と 2800 人以上の教員、2200 人以上の事務・技術職員が、人類知のあらゆる分野にわたり、研究と教育に関わる活動をおこなっています。

京都大学は大学の類型からいえば「研究型大学」に分類されます。10 の学部はいずれもその上位学位課程、すなわち修士号や博士号取得のための大学院教育課程を備えています。(注 1) また、独立研究科と呼ばれる大学院のみの課程はもちろんのこと、研究所やセンターが提供する大学院協力講座もあり、各分野の最先端の研究と深く関連した教育が行われることが、京都大学の特徴です。さらには、研究者養成のためのだけでなく、現代社会で要求される高度な専門的職業に関する能力と知識をもった高度専門職業人を育てるための専門職大学院も設置され、総合大学ならではの多様性を持っています。こうした活動を、創立以来蓄積されてきた図書館の蔵書、博物館の収蔵品、さらには電子メディ

アネットワークなどの情報基盤が背後から支えています。

このような恵まれた環境から生み出される研究は、世界的にもトップレベルを誇っています。物理学、化学、医学生理学の分野で 5 人のノーベル賞受賞者を輩出したことは言うに及ばず、数学のフィールズ賞をはじめ、多くの研究者が学術上の顕彰を受けてきました。数多く発表されている世界大学ランキングにおいても、京都大学は数千におよぶ世界の大学の中でも 20 位～30 位 (上位 1% 内) に安定して位置し続けています。また、哲学や文学、教育学などの人文科学諸分野での京都学派の伝統、人類学や生態学、地域研究分野でのフィールドワークの伝統など、日本や世界の学問に与えた影響は実に大きなものがあります。さらに、第二次世界大戦前に思想や言論統制の厳しさが増す中、法学部の教員と学生が中心となって学問の自由を死守しようとした、「瀧川事件 (京大事件)」に象徴されるように、常に研究・教育の自主性と自律性を重んじてきました。

京都大学が、京都という恵まれた土地にあることも大きな財産です。新入生に京都大学を選んだ理由を尋ねると、「自由の学風」と「研究教育の卓越性」のほかに、京都という土地への憧れも上位に上がってきます。京都には 1200 年以上にわたって先人たちが築き上げてきた、有形無形の文化があるばかりでなく、先人たちが守ってきた山紫水明の自然環境もあります。かつて哲学者の西田幾多郎博士が散策し思索したことから、鹿ヶ谷の疎水辺りの小径が「哲学の道」と名付けられたように、京都に残る自然や数多くの文化財は、私たちの内的な対話と探求を支えてくれるものとなるでしょう。キャンパス内でも 11 の施設が登録有形文化財となっています。

京都大学の主なキャンパスは、吉田、桂、宇治の 3 つに大きく分かれています。学士教育課程 (学部) の段階では、教養教育 (全学共通教育) も学部専門教育も吉

田キャンパスを中心に行われ、ひとつのキャンパスで連続して学べることも大きな魅力です。下宿する学生のほとんどは自転車で通学できる範囲内に居住することになりますが、このことは授業時間以外でも学生間の親密な交流を可能にしています。また京都には多くの大学が存在するので、他大学の学生との交流も期待できます。

大学での学びの場は、授業ばかりではありません。クラブ・サークル活動といった課外活動にも、あるいは教職員や先輩同輩との交流にも、人格や人間性を陶冶していく大変重要な役割があります。京都大学には現在 150 を超えるスポーツ、文化に関する全学公認団体があり、大学はその活動と運営を施設や資金面で支援しています。また学生の主体的な学びと探求をサポートする施設も充実しています。学生が自己を探求し作り上げていくことを個別に親身になって支援するカウンセリングセンターは、国内の大学随一の充実度を誇っています。就職を支援するキャリアサポートも充実しています。また、大学の成員が不当に不利益を被ることなく、真に自由で人間的な関係を築き保てるために、セクシャルハラスメントやアカデミックハラスメントの防止と対策にも力を入れています。

創立以来受け継がれてきた「自由の学風」を堅持していくことは、実はたやすいことではありません。自由を守り通していくためには、自律と責任、自発性と自己管理が必要だからです。京都大学で学び研究することは、そうした自分への厳しさを引き受けることでもあります。みなさんもこれからぜひ、類まれなる教育・研究の環境をもつ京都大学で学び研究し、この大学の伝統をともに創り上げていくプロセスに参加されることを期待します。

(注 1)

現在は大学院重点化により、大学院のほうが京都大学の主体となり、そこが学部教育も提供するという形になっています。

## 全学共通教育の実施体制と

### 全学共通科目の特徴

京都大学の全学共通教育（教養教育）は、主として「全学共通科目」によって具現化されています。

全学共通教育は大学院人間・環境学研究科及び大学院理学研究科を実施責任部局、その他の研究科・研究所・センター等を実施協力部局と位置づけ、全学あげて取り組むという、他大学には例のない特徴的な体制で実施しています。全学共通教育の全学的な責任組織である高等教育研究開発推進機構では各部局から提供される科目について、実施責任部局及び各研究科等の教員が参画する全学共通教育システム委員会のもとに設置された4つの専門委員会と11の科目部会において、カリキュラムの設計や科目審査を行い、基礎から応用、高度な内容まで多様で特色ある科目を提供しています。

## A 群科目（人文・社会科学系科目）

A 群科目は、哲学・思想、歴史・文明、芸術・言語文化、行動科学、地域・文化、社会科学、複合の各系列に区分されています。その授業形態は講義とそれに関する少人数の授業である基礎ゼミナール（講読・実習などを含む）に大別され、科目数も300を超えるヴァリエティに富んだ内容となっています。これらの科目は、人間の興味・関心は多様であるという前提に基づいて保持されており、京都大学のA 群科目の大きな特徴にもなっています。

## B 群科目（自然科学系科目）

B 群科目には、数学、物理学、化学、生物学、地球科学、情報科学及び複数領域にわたる応用的な講義・実験・実習科目が提供されています。

これらの科目には、理系の基礎科目やより高度な内容の科目のほか、文系学生を対象

とする教養科目等があります。

## C 群科目（外国語科目）

C 群科目には、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、イタリア語、スペイン語、朝鮮語、アラビア語、日本語（留学生用）の10ヶ国語があります。

外国語教育においては、学術的教養の涵養と学術的言語技能の修得を目指すとともに、異文化理解と外国語運用力の養成にも努めています。また、英語では「自律学習型CALL」を活用した授業を大規模に導入しており、今後、他の外国語を含めCALLを活用した授業がさらに充実するよう取り組んでいます。

## D 群科目（保健体育科目）

D 群科目は、スポーツ実習と運動や健康に関する講義で構成されています。社会的交流

# 京都大学の教養教育を担う「全学共通科目」

「自由の学風」を尊重しつつ、  
真に学生の力を発揮できる教養教育を提供するために

## 全学共通科目（教養科目）

平成19年度は、人間・環境学研究科と理学研究科を中心に、各学部、研究科、研究所及びセンター等から968科目の提供があり、内訳は次のとおりです。

A 群（哲学・思想、歴史・文明、芸術・言語文化、行動科学、地域・文化、社会科学等の系列科目）：371 科目

B 群（数学、物理学、化学、生物学、地球科学、情報科学等関連科目）：390 科目

C 群（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、イタリア語、スペイン語、朝鮮語、アラビア語、日本語〔留学生対象〕）：92 科目

D 群（スポーツ実習等）：6 科目

複数群：109 科目

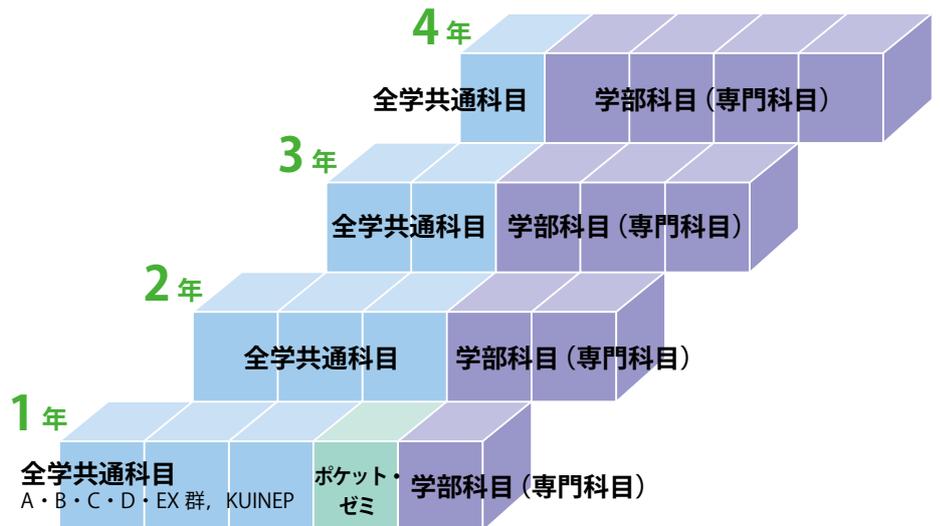
EX 群（大学コンソーシアム京都単位互換科目）：23 科目

[全学共通科目について詳しく知るには]

高等教育研究開発推進機構

教育推進部共通教育推進課

<http://www.z.kyoto-u.ac.jp/>



## 学部科目（専門科目）

学部科目（専門科目）は、各学部の教育方針に基づき、1年次から学部の専門科目を配当しています。なお、他学部の専門科目も受講することができます。

\* 学部の専門科目については、学部紹介のページをご覧ください。

# 全学共通科目

技能の養成, スポーツ動作の技能向上, 体力・健康作りを目的とするスポーツ実習では, ソフトボール・サッカー・テニス・バレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール・フィットネス・二軸動作等を開講しています。講義では, 身体や神経科学に関する学術的知識を学び, 心身ともに健康で豊かな生涯を送る知恵や教養を身につける内容となっています。

## EX 群科目 (大学コンソーシアム京都単位互換科目)

EX 群科目は, 大学コンソーシアム京都に加盟する大学が単位互換科目として提供する科目のうち, 「美術」, 「芸術」, 「芸能」の各分野の中から本学が指定する科目のことをいいます。

※特色ある全学共通科目として, 次の3種類の科目が開講されています。これらも授業内容により A ~ D の各群に分類されます。

## 新入生向け少人数セミナー (ポケット・ゼミ)

新入生向け少人数セミナーは, 新入生に学問へのモチベーションを与えることを目的として, 1 回生の前期のみ本学専任教員が様々な形態で行う授業です。10 名程度の少人数という親密な人間関係の中で教員との対話を重視する授業は, 学生と教員の双方から高い評価を得ています。(平成 19 年度は, 146 科目を開講)

各学部の特徴あるポケット・ゼミの内容を, 8 ページから 13 ページに紹介しています。

## 国際教育プログラム (KUINEP)

国際教育プログラムは, 京都大学と海外の大学との学生交流協定の一環として, 海外の協定校から迎えた留学生と本学の学生を対象に学際的・先端的なテーマを英語で行う授業です。(平成 19 年度は, 22 科目を開講)

## 国際交流科目

国際交流科目は, 海外でのフィールド研修や外国の大学での授業を通じて現地の自然, 政治, 経済, 文化, 歴史などを学ぶことを目的としている授業です。これまでにタイ・中国(上海)・韓国・ベトナムで実施されています。(平成 19 年度は, 5 科目を開講)

## 全学共通科目の科目選択から単位認定まで (平成 19 年度前期の例)

原則として, 前期・後期ごとに授業を完結するセメスター制を実施しています。



# 活力ある教育の場の形成と、 環境の充実を目指して

学生と教職員が一緒になって学び嬉々として熱中する場（Field）を提供

## 新入生向けガイダンスの実施

高等教育研究開発推進機構では、全学部の新入生を対象とした「全学共通教育に係る新入生向けガイダンス」を実施しています。

このガイダンスにおいて、本学の教育課程及び「自由の学風」に根ざした教育理念や学生個人の自学自習を基本精神とした教養教育の目的・目標等を紹介し、さらに総合大学としての特徴を生かして各学部、研究科、研究所及びセンターから提供される多様な全学共通（教養）科目について、その選択の仕方や適正な履修方法の説明を行い、学生の自律的な学習を促しています。



## KULASIS

KULASIS（クラシス）とは、全学共通科目のあらゆる情報を Web 化することにより、より早く正確な情報伝達及び学生・教員への支援やサービスの充実を目指し、高等教育研究開発推進機構で開発しているシステム

の名称です。

学生はパソコン・携帯電話から学内外を問わず、教務情報（休講・授業変更・レポート等）の確認・履修登録・採点確認等の機能を利用することができます。ログイン件数は多い日には 10,000 件を越え、全学共通科目を履修するためには必要不可欠なものとなっています。

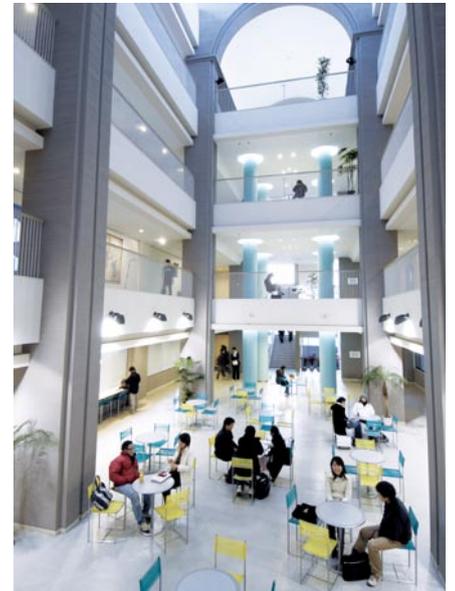
また、学部専門課程や大学院でも利用できるよう KULASIS の機能拡充を進めています。

## Student Research Room

学生が自主的に学習できる静かな空間を提供することを目的に「Student Research Room」を吉田南総合館北棟地階に設置しています。10 時から 19 時までの開室時間に多くの学生が来室しています。



【写真】 Student Research Room の様子



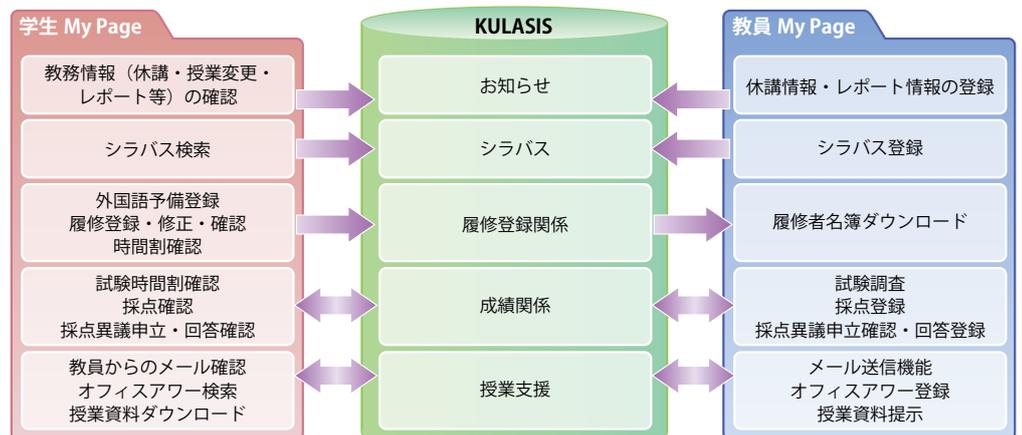
【写真】 吉田南総合館 館内

## 吉田南構内の学習・教育環境の整備

全学共通教育が主に行われている吉田南構内では、年間約 9,000 人の学生が授業を受け、1,000 人以上の教員が授業を担当しています。高等教育研究開発推進機構では、甲子園の約 5.7 倍の広さを持つ構内の教育環境整備や安全に配慮した歩行者と車のゾーニングを図るとともに、自習室やリフレッシュコーナーの設置等、学生が自主的に学習でき快適に過ごせる空間を提供しています。また、学生の課外活動へも積極的に支援しています。



右：KULASIS の概要（平成 19 年 3 月現在）  
上：KULASIS のログイン画面



# POCKET SEMINAR

## ポケット・ゼミ

京都大学では、特色ある教育を目指して、平成10年度より新入生向け少人数セミナー（ポケット・ゼミ）という授業科目を開設しています。ポケット・ゼミは、入学直後の新入生の希望者を対象に、全学の教員がボランティアとして実施する授業で、原則として10人程度の少人数単位で前期に実施され、大学とはどういうところか、学問をすることはどういうことか、最先端の分野でどんなことが行われているかなどについて、教員が直接に学生に語りかけ、あるいはさまざまな研究のフィールドに誘う、いわば「京都大学そのものへの入門」の授業として機能しています。最近では140余りの科目が提供され、1,200人近くの学生（全新生の40%以上）が受講しています。

ポケット・ゼミは本学が全国に先がけて取り組みを進めてきた少人数教育の授業法であり、これまで教員、学生の双方から高い評価を得ており、京都大学の将来にとっても重要なものと考えられています。

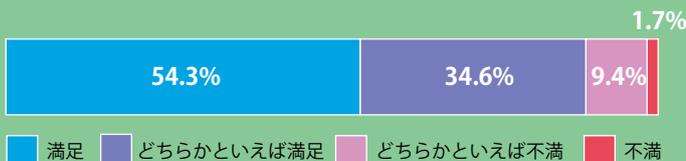
右のページでポケット・ゼミの内容の一部を紹介しています。



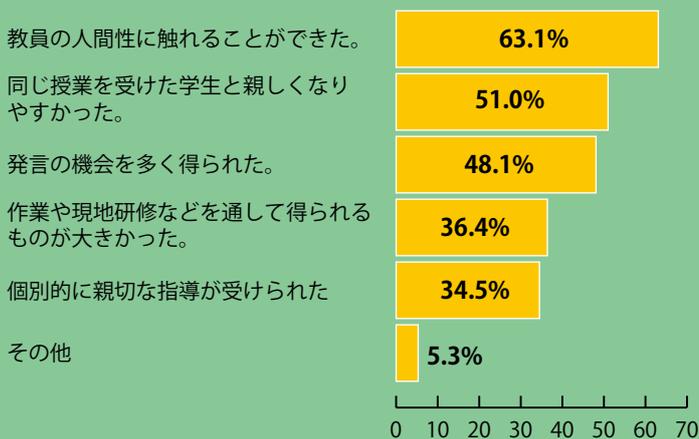
## ポケット・ゼミを受講した学生へのアンケート調査の結果

〔「新入生向け少人数セミナー（ポケット・ゼミ）の現状と課題 —平成15年度アンケート調査報告—」, 京都大学高等教育研究開発推進機構, 平成16年3月発行より抜粋〕

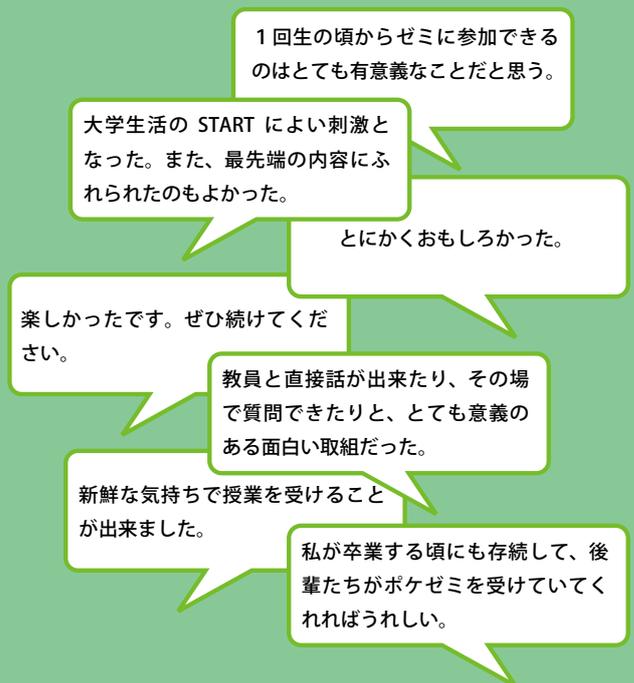
### Q：全体としてポケット・ゼミの授業に満足していますか？



### Q：少人数形式の授業の良かった点



### Q：自由記述による意見





**なぜ、このテーマを取り上げるのか**

旅という言葉を目にし、耳にして心動かされない人はいま、それに比べ旅行記に関心のある人はそれほど多くない。紀行文学は文学にあってはマイナーな存在である。しかも文学という枠に旅行記をはめ込むのは間違っている。

旅行記を読むとは、その基になった旅を読み、旅する人を読み、旅する地域を読み、旅した時代を読むことである。こう考えるならば、旅行記の意義はもっと幅広いことに気づく。旅行記を読む面白さも膨らむ。旅行記や旅が科学や研究の対象になることも理解できる。ところが、このような認識は従来非常に弱い。それだけに「研究する」意義は一層大きい。しかも、このような研究は学問分野の枠組みを超えずして遂行できないし、それを

超えて研究することの重要性の認識は総合人間学部の理念でもある。

では、なぜアジアか。約めて言えば、京都大学で学んだことを糧として世界にはばたいていく新入生にとって、日本を含むアジアへの理解と関心を深めることがいよいよ求められるからである。とりわけ 19 世紀のアジアは、20 世紀や今日、あるいは未来のアジアの理解にさえ不可欠である。そしてそれを臨場感・実感を伴う形で理解するには良質な旅行記が何よりである。

**ゼミをどう進め、何をやるか**

なかでも、22 歳から 70 歳までアジアを中心に旅を重ね、ベストセラーとなる旅行記を出し続けたのみならず、旅に基づく様々な活動を展開し、

今なおその作品が多くの読者を得ている病弱で小柄な英国人旅行家イザベラ・バードの旅行記は、「研究する心」をもって読む時、一層興味深い。

そこでこのゼミではその講読を、深く、多面的に、かつ、スコットランド国立図書館などにおけるバードの旅の世界に関する私の写真展の写真や、貴重な古地図なども活用しつつ行う。謎を解き明かしつつ研究する面白さを実感してもらう。きっとバードのすべてに感動し、元氣を得るだろう。同時に、私の造語「ツイン・タイム・トラベル」への関心を膨らませ、将来に生かす術も得るだろう。これは新しい旅の形であると共に、人生を豊かにするものとしての旅への最適の方法でもある。



人間・環境学研究科

**金坂 清則** 教授

専門分野：人文地理学、イザベラ・バード研究

P O C K E T S E M I N A R



**読みながら考える**

このゼミナールのスタイルは「中世的」である。対象がそうだけでなく、思考のための方法が中世的なのである。西洋中世はキリスト教の圧倒的な影響下にあったために、人々は聖書という権威ある「神の書物」を出発点としてものを考えてきた。思想のはじまりは「権威をいったん認めること」だというのは西洋中世の大きな特徴なのである。このような考えを重視して、授業では中世の書物を少し

という問いかけが頻繁になされることになる。

**議論をするということ**

だから、時には読んでいる書物を少し離れて、参加者の間で考えが違っていることがはっきりして議論が巻き起こることにもなる。そんなとき、私は参加者が「教えて欲しい」「決着をつけて欲しい」と私に希望しないようにお願いしている。そうではなく「教師は討論の交通整理役になりますから」と言うことにしている。世の中には簡単に答えのない難問がたくさんある。それでも「なぜだろうか」「どうすればいいのだろう」と問わざるを得ないのが人間というものらしいから、正解がすぐには見つからない場合に探求を簡単に放棄するのではなく、踏みとどまって議論をしてゆくための方法を身につけることが大事だと思う。この「討論」という学問の方法が整備され組織化されたのも、西洋中世の大学の特徴の一つであった。中世的なスタイルは古くさいものに思えるかもしれないが、忘れてはならない知の手法なのである。

**映画『薔薇の名前』**

『薔薇の名前』という映画を観たことがあるだろうか。1986年に封切られたジャン＝ジャック・アノー監督の作品で、イタリアの記号論者ウンベルト・エーコ原作の同名の小説（1980年刊）をもとにした映画である。西洋中世 14 世紀の北イタリアの修道院で起こった連続殺人事件を修道士が解決するという物語だが、書物が主人公の映画とも言える（観ていない人のために、これ以上種明かしはしません）。と同時に、これは思想をめぐるドラマでもある。中世という時代状況のなかでも、人間たちは実にさまざまに異なった考え・思想を抱いていたのだということが直感的に分かる映画である。

ずつ読んでいる。アウグスティヌス、アンセルムス、アベラール、トマス・アキナス、クザヌスなどの古典的なテキストに触れることで、参加者はそれまで知らなかった新しい世界を発見することになる。しかし他方で、『薔薇の名前』の登場人物たちはみなキリスト教徒として聖書の権威を信じていたという点で共通しているはずなのに、そこから結果として出てきた彼らの思想は神秘主義的で狂信的なものから経験と論理を重視した合理主義的なものまで、実に大きな振幅を持っていた。中世においても最後は自分の頭で考えるほかなかったのである。このゼミナールでも、古典的書物を知るというだけでなく、その書物が提起している課題に「それじゃあなた自身はどう思いますか」



文学研究科思想文化学専攻

**川添 信介** 教授

専門分野：西洋中世のスコラ哲学

「こころ」を考えるのは、簡単そうでむずかしいこのポケゼミでは、「こころ」についてさまざまな角度から考えようとしています。通常、こころを考える学問は心理学だと思われがちですが、心理学について少しかじり始めると、心理学が研究の対象としているのは「こころ」ではなく「行動」であることが分かります。それは、心理学が科学的方法論をもっていることに拠ります。すなわち、「こころ」が不可視であるため、そのままでは科学的研究の手法では扱えないために、「こころ」を「行動」と置き換えていると

いう事情があるのです。「こころ」の働きが「行動」であると考えられるわけですから、それでは、「こころ」そのものを扱うことはできないのでしょうか。まず、素朴にこのような観点から出発しようとしています。すると、「こころ」とは何なのかということが、たちまち大きな問題になってきます。「こころ」とは……。

現代科学と「こころ」

ところで、現代物理学の中心に在る「量子力学」の世界にほんの少し足を踏み入ると、

量子というのは概念であってそのような物質が存在するわけではないことに気づかされます。量子は概念であり、量子そのものは観測できない。これは「こころ」と似てはいないでしょうか。けれども、量子は現代物理学のなかで立派に研究対象になっています。それでは、「こころ」も現代科学のなかで考えることができるの

でしょうか。どうなんだろう……。

主体とは何か

「こころ」はどのようなときに機能するのでしょうか。「こころ」が機能するときには何が不可欠なのでしょう。このようなことも考えてみると非常に意味深いと思います。わたしは、「こころ」が機能するときには主体が不可欠となると考えています。ではその「主体」とは何なのでしょう。わたしとは……。

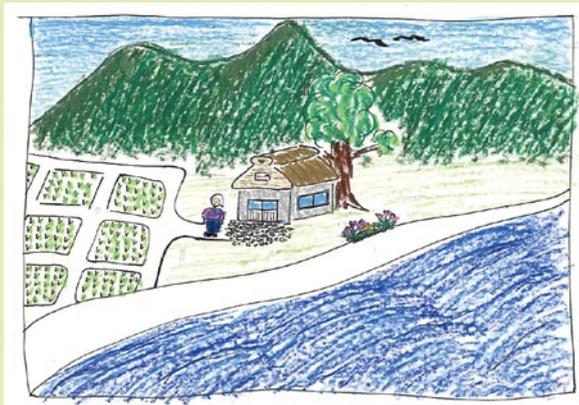
ゆったりと

このように、「こころ」について素朴な観点から出発して考えていきますが、その際には身体がリラックスしていることが必要です。真夏の3日間、集中講義のスタイルで少人数でゆったりとやりたいと思います。

教育学研究科

皆藤 章 准教授

専門分野：心理臨床学、臨床実践指導学



「この絵は何を物語るのか」

P O C K E T S E M I N A R

「刑法入門」

法学部

ニュースなどで報道されている犯罪現象に関心のある人は少なくないでしょう。また、2009年には裁判員制度が導入され、否応なしに刑法にかかわるとい人も出てくるかもしれません。刑法とは、犯罪と刑罰に関する法です。刑罰は、自由や財産という人権に対する制約ですから、何を犯罪と呼び、それをどのように処罰するかは、国会の民主的な法律を根拠とし、適正な刑事手続を経て決められなければなりません。しかし、法律と裁判さえあればどんな処罰もできるというわけではありません。ここには守らなければならない一定の基本理念や原則があり、その具体的な内容に関しては、裁判官の間でも結論の分かれる難しい問題が少なくありません。

まず、国民主権・三権分立の原則から、刑罰法規は裁判所や行政機関ではなく国会の「法律」として定めなければなりません。国は法律を公布して、処罰される行為とされない行為とを事前に人々に告知し、行動の自由を保障します。ある行為がなされた後で新しい法律を作ったり刑を重くしたりして、その法律を前の行為に適用することは許されません（それは国による裏切りにあたります）。また、法律は、処罰範囲を明確に示している必要があります。法律がない場合には、いかに不当な行為であっても処罰できません。刑罰による人権の制約は、どうしても必要な場合にだけ許され、また、処罰は犯罪の重さに見合っていないと見なされません。これらの諸原則を「罪刑法定主義」と

呼びます。

次に、犯罪を構成する行為の内容も、いくつかの段階を経て確定されます。AがBを死亡させたとして、Aの行為とBの死亡結果との間に因果関係があれば、Aの行為は原則として違法だといえるでしょう。しかし、これが、Bの突然の襲撃に対抗してやむをえずなされた行為

であったときは、正当防衛として違法性が阻却されるかもしれません。違法性が否定されなくても、Aが殺意をもって行動したのか、過失だったのか、あるいは、これが不可抗力による事故でAは無過失だったのかによって、被害は同じでも刑の重さが大きく異なり、場合によっては無罪ということもありえます。Aが心神喪失だったときは、責任無能力で無罪となります。

このゼミでは、前半の回で、犯罪と刑罰に関するこうした一般原則について学び、後半の回では、「ストーリー」「安楽死」「児童虐待」など、現在特に問題となっているトピックをいくつかとり上げて、刑罰制度の望ましいあり方について考察しま



す。授業では、毎回の担当者がテキストの内容をまとめて報告を行い、その後、問題点について全員で討論します。また、京都地方裁判所で刑事裁判を傍聴し、裁判官の方々のお話をうかがう企画も実施しています。普段マスメディアや本でしか見聞きしない刑事裁判を、仲間と共に目の前の現実として体験することは、忘れられない印象として残るに違いありません。

法学研究科

高山 佳奈子 教授

専門分野：刑法



金融工学とは、英語の Financial Engineering を和訳したものです。Financial Engineering は 1970 年代に米国で生じた造語であり、ファイナンスに対する工学的なアプローチを総称したものです。では、ファイナンスとは何でしょうか？現代の経済学では、人・物・金・情報をその考察対象としていると言われますが、学問分野としてのファイナンスは、お金にまつわる現象に関して、消費者、企業、行政当局といった個々の経済主体の視点から考察する学問と言えます。金融工学が世の中で認知されたきっかけは、

1973 年に米国で、デリバティブ（金融派生商品）の一種である金融オプションを取引するシカゴオプション取引所が開設されたのと同時期に、F.Black と M.Scholes が Black・Sholes 式もしくは BS 式と呼ばれる金融オプションの価格を求める価格式の導出に成功したことによります。

この式の値は、関数電卓を用いれば簡単に求めることができ、しかも、BS 式登場以来、金融オプションの実際の市場価格とこの式で求めた値との差が非常に小さかったため、BS 式は関係者の間で瞬く間に流布し、現在では、証券会社の営業マンが持ち歩く電卓には、BS 式が予め組み込まれているほどになっています。現在、米国では、デリバティブ市場が急成長をとげ、想定元本ベースの残高では、GNP の額をはるかに越えています。BS 式の出現がなければ、ここまで規模が拡大しなかったと言えます。このこ

との功績から、発案者の一人である Sholes 氏は、1997 年にノーベル経済学賞を受賞しました。先に述べたデリバティブ市場の発展と相俟って、今日のように高度にグローバル化した金融市場の中で暮らす現代人にとって、他者に先んずるためには、金融工学の基礎知識は、ファイナンスのプロフェッショナルのみならず、一般の人々にとっても必要不可欠な知識と言えます。しかしながら、我が国では、ファイナンスや金融工学に従事する研究者やその理論を正しく理解する実務家の数が欧米諸国に比して圧倒的に不足し、残念ながら、その研究水準は、欧米のはるか後塵を拝しているというのが現状です。

このポケットゼミを通じて、早期にこうした問題に開眼し、ファイナンスや金融工学に興味をもつ人々が一人でも増えてくれれば、この分野の研究に身を置く一人として、望外の喜びを禁じ得ません。みなさんの積極的な参加を期待しています。

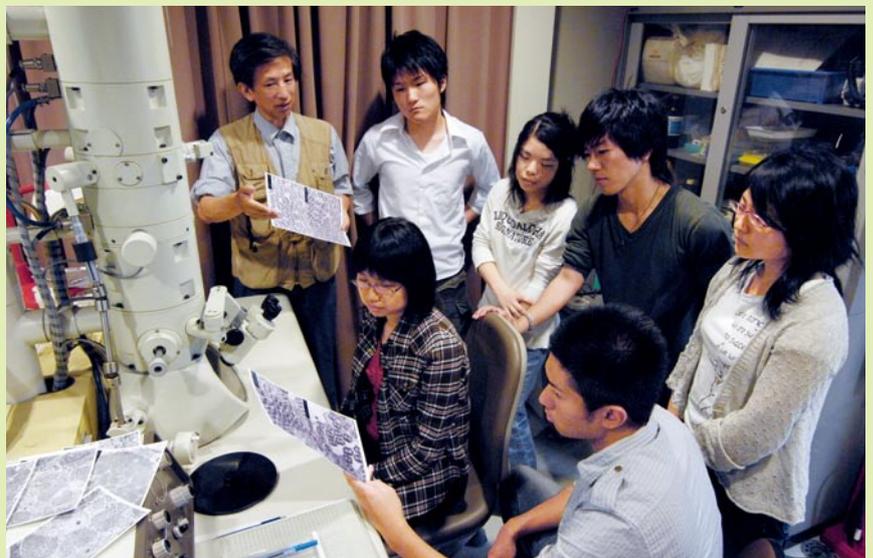
経営管理研究部  
岩城 秀樹 准教授  
専門分野：金融工学

P O C K E T S E M I N A R

「動物のかたち作りを探る」

高校の生物教育ではウニとカエルの正常発生に加えて、カエルではオーガナーザーによる一次胚誘導や割球の分離などを例に、発生のしくみについても学びました。大学ではこの発生のしくみを別の視点で学ぶことにより、動物のかたちがどのようにできてくるかをより深く理解することができます。

使用している教科書は、高校を卒業したばかりの 1 年生には少し難しい S.F.Gilbert の Developmental Biology（発生生物学）です。この中の両生類とショウジョウバエの発生について、聞き慣れない専門用語に苦労しながら一人一回レポーターを担当しています。高校の生物では単に誘導という言葉で済ませてしまう内容でも、大学では Wnt signaling, TGF-beta signaling, BMP signaling など分泌タンパクと受容体および阻害因子の相互作用としてとらえます。さらに転写調



節因子による遺伝子発現の調節を学ぶことにより、動物のかたち作りの概念をおぼろげながらも身に付け、生物学に対する見方が変わることを目指しています。

ポケゼミを電子顕微鏡室で行っていますので、ゼミ形式に加えて、実際に動物のかたちを見るために手も動きます。具体的には、夏休みの 1-2 日を使って、透過型電子顕微鏡による微細構造の観察、走査型電子顕微鏡による表面微細構造の観察、パラフィンに埋めたおたまじゃくしの切片製

作など、普段経験できないことにも挑戦します。今年は理学部生が一人も受講しておらず、医学部や農学部の学生に加えて経済学部の学生も受講しています。文科系の学生であっても生物に対する興味のある人の参加を期待しています。

理学研究科  
久保田 洋 准教授  
専門分野：発生生物学



講者の理解を深めるようにしています。新規の医薬品や技術を初めてヒトに適用することがもつ諸問題、例えば、科学的妥当性のほか、安全性の確保、患者さん等の対象者の権利の尊重、法的規制などについても概説し、問題提起を行います。

**受講者の積極的参加による討論**

本ゼミの受講者としては、将来、医療、医学研究、医薬開発の現場に携わる可能性の有無に関わらず、新しい医療が作られていく過程に興味や疑問を持ち、積極的に討議に参加してくれる人を求めています。従って比較的様々な分野に進む予定の学生が集まっています。前半で担当教員が概説したことを踏まえ、後半では、各受講者が興味を持っている新医療をテーマとして調べた結果を順次発表して、自らの考えを述べ、それに基づいて参加者全員が、それぞれの立場から意見を述べ合います。効果や安全性が確立されていない新規医療を自分が世界で初めて受けるかどうかの選択を迫られたらどうするか、など様々な考え方があがるテーマについて、若く柔軟な発想で議論することで教員を含め相互に刺激し合え、多くの新鮮な考え方に会えるゼミだろうと思います。

医学部附属病院

清水 章 教授

専門分野：探索医療開発学、分子免疫学

**大学附属病院の使命としての新規医療開発**

大学・医学部の附属病院は、総合的・標準的で質の高い医療を提供するとともに、医師、医療人を養成・教育する場となっています。これに加えて、京都大学医学部附属病院はその使命の一つとして、「新しい医療の開発と実践を通じて社会に貢献する。」ことを基本理念として掲げています。

一方、研究大学である京都大学では、分子生物学、遺伝子科学、発生工学、材料工学、などの基礎科学分野において、医療への応用可能性を持った多くの世界最先端の研究成果が日々得られています。これらの研究成果を新しい医療（医薬品、診断・治療の方法、医療機器）へと展開・転換し

ていくことは、まさにこの基本理念に合致するものとして附属病院に求められているものと考えられます。

**探索医療センターの活動紹介と新規医療開発における諸問題**

附属病院探索医療センターは、基礎研究成果の新しい医療への展開・転換を効率的に行うシステムを構築するために設立されたものです。このゼミの前半では、主に京都大学医学部、附属病院、ことに探索医療センター現在進行中の新規医療開発の実例をベースに、新しい医療を効率的に開発していくための道筋・方法について概説して、受

P O C K E T S E M I N A R



**担当教員**

所属部局	職名	氏名	分野名
薬学研究科	教授	佐治 英郎	病態機能分析学
薬学研究科	准教授	山下 富義	薬品動態制御学
薬学研究科	准教授	久下 裕司	病態機能分析学
薬学研究科	准教授	久米 利明	薬品作用解析
薬学研究科	准教授	新留 徹広	創薬神経科学
薬学研究科	准教授	矢野 義孝	臨床薬学教育開拓

**授業のテーマと目的**

体の中での薬の動き、作用を理解し、医療における薬物治療の役割について考える。

**授業計画と内容**

薬は体の中を動き、標的部位に到達し、そこで生体の分子と相互作用することによって効果を発揮する。薬の動きとその制御、働きについて理解し、医療における薬物治療の役割、有効性について考える。

生活空間再生学の構築

21世紀を迎えて、工業社会で破壊されてきた自然環境や地域文化を大切に、生活の質を高めることが大きな課題として浮上している。そこでは、新しいものの「創造」とともに、既存のもの「保存・再生」を環境形成の重要な方法として位置づけることが求められている。

こうした状況をふまえて、建築学科の6名の教員が異なる視点から「生活空間再生学」を構築する試みを紹介する（サブテーマ：京町家とまちなみの再生、京都の都市景観の創造的再生、コミュニケーションと音空間設計、安全で環境にやさしい大空間構造物の構造設計、地球環境負荷低減のための再生可能エネルギー利用、文化財建造物の修理現場を見学し、既存木造建築の保存・修復・再生の基礎的技術を学ぶ）。

歴史都市・京都の都市景観の再生をめざして

私のテーマは京都の景観再生である。1200年を超える歴史を有する京都は、山紫水明の豊かな自然に恵まれ、古代から現代に至る様々な時代の文化を蓄積しているが、残念なことに20世紀後半の乱開発により、町家の滅失、街並みの破壊など、都市景観は大きく変容してきた。

京都市では、2007年3月に大幅なダウンゾーニングを含む画期的な「新景観政策」のための条例が成立したところである。景観再生が集客力を高め、優れた人材の集積をもたらす、歴史都市の

再生を可能にするからである。

現地で学ぶ京都の眺望景観

京都市の「時を超え光り輝く京都の景観づくり審議会」「美観風致審議会」、京都府の「景観条例検討委員会」等の委員を務めてきた経験をふまえて、景観問題と景観再生の諸方策について解説した後、今話題になっている「眺望景観の保全・再生」について学ぶ機会を設けた。

具体的には、今出川通りと鴨川が交差する賀茂大橋から、賀茂川、北山の山並み、糺の森、比叡山などの雄大な眺望景観を望み、そこから賀茂川右岸（西岸）を北大路橋まで、「大文字」、東山や北山の山並みを楽しみながら散策し、さらに有名な円通寺まで足を伸ばして、庭園・比叡山の借景を経験してもらった。

京都は、境内の眺め、通りの眺め、水辺の眺め、庭園からの眺め、山並みへの眺め、「しるし」への眺め、見晴らしの眺め、見下ろしの眺めなどの魅力的な眺望景観の宝庫である。学生たちは眺望景観を通して、自然の中で他者と共に生きていることを実感したはずである。

ポケットゼミの位置づけと評価

成績評価は、6名の教員がレポートを課し、そ



れぞれの評価を総合して行う。深い知識や経験を、少人数の学生にわかりやすく伝えていくポケットゼミは、全国的にも大変ユニークな授業である。教員にとっても、きらきらと目を輝かすフレッシュマンとの出会いは、教育研究の原点を想起する貴重な機会なのである。



工学研究科建築学専攻  
門内 輝行 教授  
専門分野：人間生活環境学

P O C K E T S E M I N A R



テーマと目的

昆虫と聞くと毛嫌いな人が多いのですが、それはゴキブリ、カ、ハエなど、ついつい厭な害虫のイメージを思い浮かべてしまうからに違いありません。しかし、昆虫に対するそのような見方や感性は、あまりにも一面的・皮相的であり、それでは昆虫たちも立つ瀬がありません。人類とともに地球上でもっとも繁栄している動物である昆虫は、それゆえに生態系の中できわめて重要な役割を果たしています。このポケットゼミは、昆虫と人間と

のさまざまな関わりについて学ぶことを通して、正しい昆虫観を見につけてもらうことを目的としています。その具体的なプログラムは以下のとおりです。

エントモメテイクサイエンスについて学ぶ

エントモメテイクサイエンスは、「昆虫から学ぶ科学」と定義されます。それは、昆虫の形態、機能、行動、および生態から学び、それを人間生活に役立てていこうとする、新しい昆虫科学です。バイオミクリーの創始者の一人であるジャン・ベニユス女史の「バイオミクリー革命は、産業革命とは違って、われわれが自然界から「搾りとれる」ものではなく、「学べる」ものを重視する時代をひらく先達なのです」という言葉に、その本質が凝縮されています。自然の中で長大な進化的歴史を生きてきた生物たちは皆、学ぶべき、掛け替えのない宝ものなのです。京都大学のCOE拠点「昆虫科学が拓く未来型食料環境学の創生」では、地球上で最も繁栄している動物である昆虫類の叡智から学び、それをヒントにした科学技術を、人間の生活や産業に生かすことにチャレンジしています。そのプログラムについて概説することにより、エントモメテイクサイエンスに対する理解を深めてもらいます。

芦生研究林でのフィールド体験

京大の芦生研究林は西日本最大級の原生的自然

が残っているわが国の貴重な自然遺産です。ところが、この貴重な自然が今、崩壊の危機に瀕しているのです。増えたシカにより下層植生が食い尽くされ、その結果、昆虫を初めとして生物的多様性が失われ、土壌流出すら起きようとしているからです。シカの個体群密度が増大した理由としては、オオカミの根絶、ハンターの減少、戦後の拡大造林、地球温暖化など、人為が介在した複合的要因が挙げられます。人間のさまざまな営為が、生物間相互作用を通して、いかに意図せぬ重大な結果を生態系に招くのかを、芦生研究林というフィールドにおいて、体験的に学習します。

奄美大島における環境教育の視察  
(希望者のみ)

昆虫COEは現在、東洋のガラパゴスとも言われる奄美大島において、龍郷町教育委員会と連携し、環境教育プロジェクトを立ち上げています。その活動実態を視察することにより、自然を保全する上での環境教育の大切さとその中で昆虫が教材として果たす役割を学びます。

農学研究科応用生物科学専攻  
藤崎 憲治 教授  
専門分野：昆虫生態学

# 学術情報メディアセンター



ダイナミックに変化する情報環境において、  
実社会で即戦力となる人材の育成と、  
情報関係の基礎技術の教育に  
取り組んでいます。

## 【教育における学術情報メディアセンターの役割】

全学共通科目の語学教育と情報教育をセンターの計算機環境を利用して行っています。

### 全学共通教育における役割

学術情報メディアセンターでは、京都大学におけるさまざまな教育研究活動を支えるために、高い安全性と利便性を備えた先端的な情報環境を構築・運営しています。センターでは、学術情報ネットワーク (KUINS)、スーパーコンピューティングサービス、および学生の皆様に関係の深い語学学習システム (CALL)、教育用コンピュータシステム、そして、遠隔講義支援サービスを情報基盤機構と共に提供しています。

### CALL

CALL (コール) とは、Computer-Assisted Language Learning の略で、コンピュータを使用した外国語学習を指しています。CALL 授業には、「教室学習型 CALL」と「自律学習型 CALL」があります。「自律学習型 CALL」クラスは、学生が大学の自習室や自宅などコンピュータの使用できる環境で、CALL 用に開発された CD-ROM 教材を使用し、時間や場所に拘束されることなく学習することができます。

現在、自律学習型 CALL を大規模に導入

している英語授業では、成績は3回の試験の得点とFDに記録された学習時間に基づいて判定されます

英語における自律学習型 CALL の導入は、再履修者が非常に多くなり、大人数クラスでの授業を余儀なくされたため、高度な英語教育の実施に支障を来すようになったことが契機ですが、「発音、文法、基礎会話」等の外国語基礎運用能力向上のための新しい教育方法として、他大学から高い評価と関心を獲得しているだけでなく、学生の満足度も高いという結果が出ています。

また、ドイツ語、フランス語等においても CALL 用の教材を独自で開発し、教室学習型 CALL 授業に導入するとともに、CALL 用自習室における学生の自律学習にも活用されています。



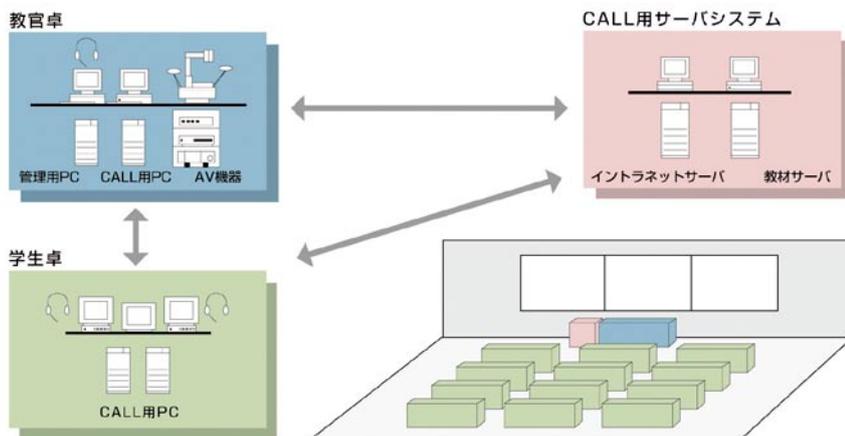
【写真：上】 CALL 自律学習用端末の利用風景

【写真：下】 CD-ROM 版 CALL 教材

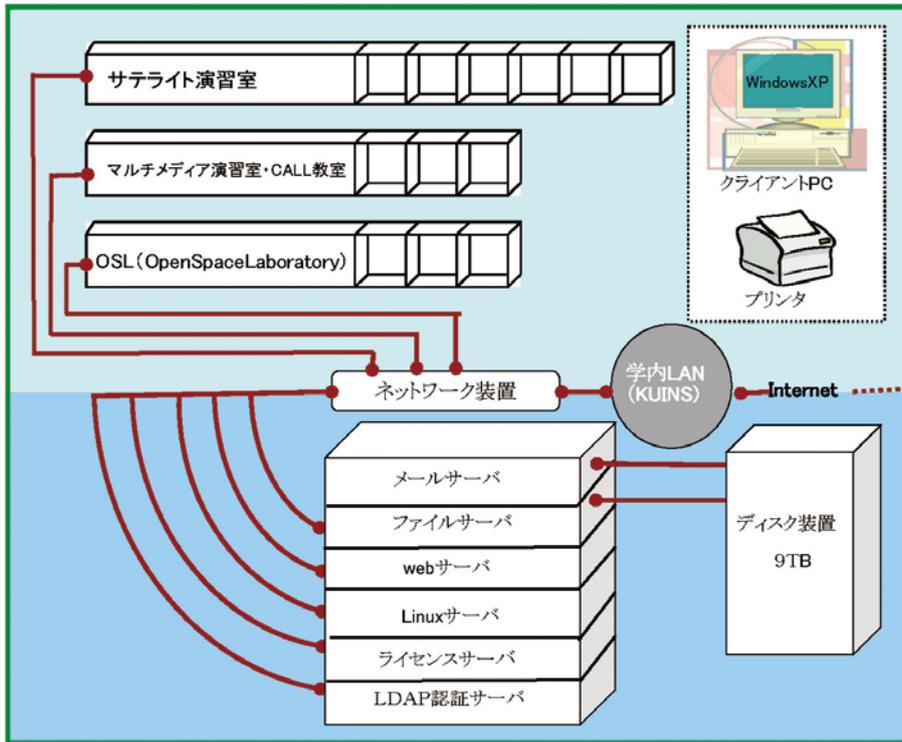
### 情報教育

京都大学では、理工系学部のみならずほとんどの学部において基礎情報処理教育が行われています。その内容はいわゆるコンピュータに関する読み書き能力を中心としたものです。理工系学部によってはこれらの教育を専門基礎科目として、あるいは、全学共通科目のB群科目としていますが、文系学部ではさらに初歩的なレベルからの教育も行われています。

学術情報メディアセンターでは、全学共通科目だけでなく、各学部でのメディアを利用した教育も支援しています。



CALL 教室システム概念図



【図】教育用コンピュータシステム システム構成図

## 【センターの提供するシステムおよびサービス】

### CALL 自律学習コーナー／ CALL Learning Space

学術情報メディアセンター南館オープンスペースラボラトリー内には、「CALL 自律学習コーナー」を展開しており、語学教材を自習できる端末を設置しています。

CALL 自律学習用端末では、センターで開発された Introduction to the Beauties of Kyoto を始め、本学教員が開発した英語、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国・朝鮮語などの自律学習用外国語教材、またライセンス取得済みの市販教材の一部の学習をすることができ、学生にとっては、必須の環境となっています。

また、同じく語学の自習室として、吉田南総合館北東2階に設けられた「CALL Learning Space」には、ヘッドセットとCALL 授業（外国語教育参照）のテキストがインストールされた Windows 自習用端末を20台設置し、ティーチング・アシスタントの常時配置で学習を支援しています。

### 教育用コンピュータシステム

教育用コンピュータシステムはネットワークに接続されたパーソナルコンピュータ約1,300台を学術情報メディアセンター南館内の演習用マルチメディア設備を備えた教室や

CALL 教室、サテライト端末室など30カ所に展開しています。その一部は利用者がいつでも使える自習用端末として、学術情報メディアセンター南館、附属図書館、人間・環境学研究科・総合人間学部図書館内にオープンスペースラボラトリー (OSL) として設置し、運用しています。

これらの端末では、Windows と Linux の2系統のオペレーティングシステムが利用可能です。またオフィスソフトのほかプログラミング言語の処理や統計処理、数式処理など大学での学習に必要なさまざまなソフトウェアが導入されています。さらに、利用者には電子メールのアカウントが与えられ、WWWブラウザを利用した Web メールシステムにより学内だけでなく、学外からもメールの読み書きが行えます。このようなサービスにより、授業と自習とに統合的な情報環境を提供するとともに、電子メールや WWW を利用したコミュニケーション環境を提供しています。

学術情報メディアセンター南館 OSL のサービス時間  
月～金曜日：10:00～20:00  
土曜日：10:00～18:00（試行中）  
（祝・祭日を除く）

担当：情報環境部 情報基盤課  
教育システム支援グループ

## 遠隔講義支援サービス

遠隔講義支援サービスでは、学術情報メディアセンターをはじめとする学内の遠隔講義用施設を利用して、国際遠隔講義、大学間遠隔講義、キャンパス間遠隔講義など、さまざまな遠隔講義の支援を行っています。国際遠隔講義としては、時差の少ないアジア圏との遠隔講義が定期的に行われています。台湾との遠隔講義、中国、マレーシアとの3ヶ国同時進行型遠隔講義、インドネシア、タイとの国際シンポジウムなど、新しい講義やセミナーも次々に開設されています。国内の他大学（慶応義塾大学、広島大学、東京電機大学など）との遠隔講義も開講されており、他大学の学生と同時に講義を受けることのできる機会も広がりました。

これらの遠隔講義の多くは全学共通科目として開講されており、学年や学部にかかわらず受講できる体制となっています。さらに、桂キャンパスの開設にともなって、吉田、桂、宇治それぞれのキャンパスを結ぶ高精細遠隔講義システムも運用されています。開講されている講義をキャンパス間の移動なしに受講できるため、受講科目選択の幅が広がっています。

このほか、衛星回線を用いた遠隔講義システム SCS の運用を行っており、国内の多数の大学・研究期間を結んだ遠隔講義、会議を支援しています。さらに、このような遠隔講義の設備や技術を用いて、京都市や京都府をはじめとする学外組織の文化・学術活動を支援しています。



【写真：】国際遠隔講義風景

担当：情報環境部 情報基盤課  
データベース・遠隔講義支援グループ

# 図書館



[写真] 附属図書館閲覧室

## 充実した資料の蓄積と、 情報技術による学術情報サービスにより、 学習支援・研究支援を行っています。

### [教育・研究における図書館の役割]

#### 附属図書館

附属図書館は学習・教育・研究支援機能をもち、学生、教職員をはじめ、学術情報を必要としている人々に広くサービスを行っています。IT時代にふさわしい図書館をめざして、情報リテラシー教育、新入生のためのオリエンテーション、留学生のためのオリエンテーション等各種講習会を実施しています。

蔵書は下の表に示されているように、附属図書館では約88万冊、全学で約623万冊所蔵しており、創立より107年にわたる歴史から、国宝「今昔物語集 鈴鹿本」をはじめ、古文献資料、特殊文庫、全集ものコレ

クション等、貴重なものが数多くあります。また、理工学系外国雑誌のセンター館として国内未収集の学術雑誌を東京工業大学と連携して収集し、全国の研究者の利用に供しています。また、学外からインターネットを介して京都大学附属図書館ホームページにアクセスして、次のページにあるようなデジタル化した貴重資料を見たり、京都大学が所蔵している図書や雑誌を検索することができます。学内からは電子ジャーナルと文献データベースが利用できます。

#### 蔵書数（平成19年4月1日現在）

部局名	蔵書数			所蔵雑誌種類数		
	和書	洋書	計	和雑誌	洋雑誌	計
附属図書館	605,905	275,866	881,771	13,240	11,203	24,443
全学	3,196,378	3,032,007	6,228,385	51,578	51,326	102,904

注：全学の蔵書冊数に附属図書館の冊数含む

#### 館内の施設・設備等

閲覧室	1,100 席
1 階	端末コーナー 参考図書、雑誌、新聞、常設展示、 ラウンジの各コーナー
2 階	開架図書と閲覧室
3 階	情報端末室、メディア・コモン、 A Vホール
地 階	書庫

3階の情報端末室には学術情報メディアセンターのオープンスペースラボラトリーとして80台のパソコンおよび情報コンセント64口があります。このパソコンの利用にあたっては学術情報メディアセンターへの登録が必要です。

#### 蔵書検索システム (KULINE)

京都大学の蔵書は、蔵書検索システム KULINE (Kyoto University Libraries Information Network system) で検索できます。KULINE はインターネットで公開していますので、どこからでも検索できます。

URL <https://op.kulib.kyoto-u.ac.jp/webopac>

KULINE は京都大学の蔵書約623万冊のうち約310万冊が検索できます。検索のページのキーワード欄に書名・著者名等を入力し検索をクリックすると、所蔵している本の書名と京都大学のどこの図書館・図書室で所蔵されているかを知ることができます。中国語の簡体字やハングル等、多様な文字の表示もできます。

#### メディア・コモン (Media Commons)

附属図書館に、映像や音楽が楽しめる「メディア・コモン」があります。CD、DVDをはじめ多種のメディアに対応できるように構想され、勉学や研究に必要な映像や音声情報を活用できるほか、学生や教職員が読書や勉強で疲れた頭を映像や音楽でリフレッシュさせることができます。

ガラス張りの広さ240m<sup>2</sup>のスペースに、DVDやビデオ・カセットが見られる1人用個

人ブースが16席、窓越しに時計台や吉田山を見ながらCD、カセットを聴くことができる1人用ソファが8席、50インチの大型プラズ



【写真】メディア・コモン (Media Commons)

マ・ディスプレイで迫力ある映像を楽しむことのできる4人用AVコーナーが2ヵ所等合計32席があり、さらに5.1チャンネルスピーカーを装備したメディア・シアター (防音設備付/10席) などがゆったりとした空間に配置されています。

京都大学文学部卒業生である故片田清氏寄贈のCDコレクション、4,875枚のほか、DVD約717点 (映画, ドキュメンタリー, 音楽), ビデオ約465点 (ドキュメンタリー, 言語) などを置いています。

## 京都大学の学習・研究活動を支える 図書館・図書室群

附属図書館

附属図書館宇治分館

人間・環境学研究所・総合人間学部

図書館

文学研究科図書館

教育学研究科・教育学部図書室

法学研究科・法学部図書室

経済学部・経済学研究科図書室

理学研究科・理学部

理学部中央図書室

数学教室図書室

物理学教室図書室

宇宙物理学図書室

地球物理学図書室

化学教室図書室

生物科学図書室

地質学鉱物学教室図書室

医学図書館

医学部保健学科図書室

薬学研究科・薬学部図書室

工学研究科・工学部

地球系図書室

建築系図書室 (吉田・桂)

物理系図書室

航空宇宙工学図書室

電気系図書室 (吉田・桂)

化学系図書室

工業化学科図書室

地球工学図書室

農学研究科・農学部図書室

エネルギー科学研究科図書室

アジア・アフリカ地域研究科

アジア地域研究専攻図書室

アフリカ地域研究専攻図書室

情報学研究科図書室

地球環境学堂図書室

**京都大学電子図書館** >> <http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/>

貴重資料画像

国宝『今昔物語集 (鈴鹿本)』

BC500

『論語』

500

『伊勢物語』

1000

『源氏物語』

1500

『付喪神』 (御伽草子)

1800

『日本植物誌』  
-シーボルト来日

**京都大学所蔵資料でたどる年表**

このように京都大学は、国語の教科書に載っている古典作品や、歴史上の重大な出来事に関する資料を多数所蔵しています。

『伊勢物語』

『平家物語』

『天正遣欧使節肖像画』

『國女歌舞伎絵詞』  
-阿国歌舞伎

# 国際交流

留学生との交流や、海外への留学を通して相互の教育・研究水準を高めるとともに、異文化理解、国際協調精神を身につける。



〔写真〕吉田キャンパス内の留学生との交流施設「KI・ZU・NA（きずな）」

留学生交流は、相互の教育・研究水準を高めるとともに、国際理解、国際協調の精神の醸成、推進に大きな役割を果たしています。更に、開発途上国の場合はその人材要請に協力するなど、国際貢献のための重要な国策とされています。京都大学では、現在81ヶ国から約1,300名の留学生を受け入れ国際色豊かなキャンパスとなっています。

近年、留学生交流の新たなニーズとして、大学に在籍しながら1年程度の短期間外国の大学に留学する短期留学が活発化しており、本学においてもこの留学を積極的に支援し、その施策を展開しています。

## 京都大学国際教育プログラムについて (KUINEP [Kyoto University International Education Program])

このプログラムは、海外の学生交流協定を締結している大学から学部学生を半年もしくは1年間受け入れて本学の学生とともに英語で教育することにより、本学学生の国際性を育成し、留学生との相互交流を活発にすることを目的としたものです。

開講科目は22科目で、本学の全学共通科目として提供し、単位を認定します。

## 短期留学推進制度について

この制度は、大学間の学生交流協定等に基づき海外の大学へ派遣される学生に対して我が国が奨学金を支給し、諸外国の大学との留学生交流の一層の拡充を図ることを目的として設けられたものです。

受給候補者は大学の委員会により全学から選考されます。(採用数は若干名)

## 授業料等を不徴収とする大学間学生交流協定校への派遣留学について

この制度は、海外の大学との学生交流協定に基づいて本学の学部又は大学院に在籍しつつ、1年以内の1学期又は複数学期、協定校で教育を受けて単位を取得又は研究指導を受けるものです。

毎年、10月ごろに学内の一次募集及び1月ごろに二次募集を行い、書類選考及び必要に応じ面接を行い派遣留学生を決定します。

京都大学が学生交流協定を結んでいる相手は、19か国41大学3大学群あります。京都大学を通じて出願手続きができ、留学先では授業料等を支払う必要はありません。

## 授業料等を不徴収とする大学間学生交流協定による派遣留学(交換留学)に関するQ&A

### Q1：学生交流協定とは何ですか？

学生交流協定は、学生の交流(交換留学)についての取り決めで、①在籍する大学に授業料を納めることにより派遣先大学での授業料等が免除されることや②留学先で修得した単位の一部を在籍する大学で修得したものと

して認める単位互換などについての取り決めをしています。

**Q2：派遣留学（交換留学）とは何ですか？**

国際交流を促進するために、学生交流協定に基づいて、互いに学生を留学させあうシステムのことです。京都大学に在籍しつつ、1学年以内の1学期又は複数学期のあいだ、京都大学が協定を結んでいる海外の大学に学位取得を目的としない留学をし、教育を受けて単位取得し、又は研究指導を受けるものです。

**Q3：語学力・学力はどのくらい必要ですか？**

留学生生活を円滑に過ごすための必要最低限の語学力は、渡航前から必要ですし、また留学すれば自然と語学力が高まるというものでは決してありません。日本の学校へ進学する場合と同様、留学にも一定以上の学力が必要です。1回生の時から十分な準備をし、派遣留学の応募書類提出時には、基準を満たしているようにしてください。

英語圏への留学のための語学力証明書には TOEFL が使われることが一般的です。

非英語圏への留学についても日常生活で、読む・聞く・話す・書くことができ、教育のため授業の聴講及び研究指導を受けることのできる程度の力は最低限必要です。

**Q4：派遣留学（交換留学）の準備にはどのくらいの期間がかかりますか？**

派遣留学（交換留学）を希望する学生は、留学を希望する一学年前に、所属の学部・研究科を通じて学内選考用の申請書（日本語）を提出することが必要です。協定校が提供する資料の中から、自分の専攻領域に合ったプログラムや履修したい講義を持つ大学を事前に自分で調べてから、学内選考用の書類を提出する必要があります。

派遣留学（交換留学）は、年度により募集日程及び協定校に多少変更がありますが、毎年10月ごろ及び1月ごろに学内募集を行います。

学内選考を通過した学生は、その後、留学希望先の大学の願書に加えて、推薦状、留学目的、研究予定等を記した書類を提出することになります。

**Q5：派遣留学先で取得した単位は、京都大学で認定されますか？**

留学先で修得した単位を本学で修得した

単位として認める単位認定制度があります。

**Q6：一募集期に、複数の大学に応募できますか？**

学内の一次募集では、一校に絞って応募していただきます。二次募集では、第二希望まで選んで応募していただき、実際の出願は全学的調整により、一校にさせていただきます。

**Q7：大学の情報・資料はどこで入手できますか？**

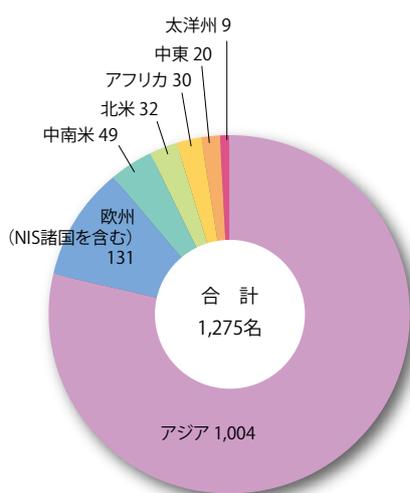
協定校から定期的にもたらされてくる資料は、留学生ラウンジに保存してありますので、自由に閲覧できます。そこにないものは、各校のインターネットサイトで見てください。

**Q8：派遣留学（交換留学）するための奨学金はありますか？**

協定校への派遣留學生を対象とした奨学金として、次の奨学金・助成金制度があります。

- ①独立行政法人日本学生支援機構の短期留学推進制度（派遣）  
奨学金 月額 80,000 円
- ②京都大学教育研究振興財団からの助成を受けて、京都大学が実施する京都大学「留学派遣」  
渡航費の一部助成

**外国人留學生受け入れ状況（平成 19 年 5 月 1 日現在）**



**留学促進のための説明会**

学生のみなさんに海外への留学を身近に感じてもらうため、年間を通して、各種の説明会を開催しています。主な内容として、交換留学、大学院レベルの留学、夏休み等を利用する語学研修、TOEFL 対策等があり、教職員、生協、関係団体、学生組織、留学体験学生等による詳しい説明・体験談、協定校から来ている留學生とその大学へ留学したことのある京都大学生のペアによる協定校紹介など、有益な情報、助言の得られる機会ですので、ぜひ参加して下さい。



**大学間学生交流協定校への派遣実績一覧（平成 18 年度）**

国名	大学名	人数
大韓民国	ソウル大学校	1
シンガポール共和国	シンガポール国立大学	2
オーストラリア	シドニー大学	2
	ニューサウスウェールズ大学	1
ニュージーランド	オークランド大学	1
オーストリア共和国	ウィーン大学	2
フランス共和国	ストラスブール大学連合	5
	グルノーブル大学連合	4
ドイツ連邦共和国	フンボルト大学	1
	ボン大学	1
オランダ王国	ライデン大学	2
	ユトレヒト大学	3
スウェーデン王国	ウプサラ大学	2
スイス連邦	ローザンヌ大学	2
連合王国	サセックス大学	2
カナダ	トロント大学	1
	ケベック州大学学長協議会	3
アメリカ合衆国	ジョージワシントン大学	1
	ハワイ大学	2
13カ国	17大学 3大学群	39

その他、学部・研究科独自の学生交流協定に基づく留学、個人手続きによる短期語学研修、大学院生を中心とした調査等の海外渡航が京都大学生により行われています。

# 大学院進学

留学生との交流や、海外への留学を通して相互の教育・研究水準を高めるとともに、異文化理解、国際協調精神を身につける。

京都大学の卒業生には、伝統ある「自由の学風」の中で培われた知性・感性・倫理性といった力を、社会における様々な分野の中でさらに磨きつつ、活かして行くことが期待されています。学部卒業後の進路としては就職か大学院進学が考えられますが、いずれの進路を選ぶにせよ、京都大学は、皆さんが誇りある京都大学卒業生として、社会に貢献できるような道を進めるよう、サポートします。

大学院進学者は、全国的に増加傾向にあります。とりわけ京都大学は、大学院を充実させた研究型大学の特徴として、平成19年(2007)3月に学部を卒業した2797名のうち、約62%が大学院に進学しました。

各部卒業後に就職の道へ進んだのは、約26%です。その就職先は、後のページに挙げるように、多種多様な職種へと進み、大学で学んできた知識と技能を活かしています。

## 大学院進学

学部を卒業した後、学部教育で身につけた知識や教養、技術をより深めることを希望するならば、大学院進学を選ぶことになるでしょう。

大学院とは、次世代を担う研究者あるいは高度な知識と技能を持った実務者を養成す

る課程です。したがって、学部教育よりもさらに専門的な知識を身につけ、自分自身で研究を行う能力や専門的な実務能力を養うこととなります。標準修業年限は、博士前期課程(修士課程)の2年間とそれに続く博士後期課程(博士課程)の3年間で、定められた単位を修得し、必要な研究指導を受けて研究論文の審査と最終試験に合格すれば、修士もしくは博士の学位が授与されます。またいわゆる飛び級制度を認めている大学院もあります。指定の単位を優れた成績で取得した者で学部在籍が3年間以上の者に入学を認めたり、それぞれの標準修業年数に満たなくても学位を授与したりする場合があります。

進学先については、学部と関連した大学院へ進学することが一般的ですが、異なる分野の大学院へ進学することも可能です。一般に大学院には学部よりも多種多様なバックグラウンドを持つ学生が集まり、多様性が増すこととなります。

## 学部を持つ大学院

京都大学の10の学部は、それぞれが大学院を備えています。正確に言えば、大学院重点化が行われた現在は、大学院が主たる組織であり、そこが学部教育も提供している



という形になります。学部とつながる大学院は、総合人間学部と統合した人間・環境学研究科、文学研究科、教育学研究科、法学研究科、経済学研究科、理学研究科、医学研究科、薬学研究科、工学研究科、農学研究科です。それぞれが、学士課程(学部)の教育と連続した、高度な研究と教育をおこなっています。詳しくは、各学部の紹介のページを参照してください。

## 平成18年度卒業者の進路状況

学部名	進路		卒業者数		進学者数		就職者数		臨床研修医		その他	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
総合人間学部	102	40	49	12	43	25					10	3
文学部	100	87	34	25	57	54					9	8
教育学部	33	45	13	22	14	20					6	3
法学部	308	118	105	53	124	36					79	29
経済学部	205	47	17	9	163	33					25	5
理学部	257	26	215	24	24	0					18	2
医学部	84	21	1	0	0	0	77	19			6	2
薬学部	59	34	53	30	2	3					4	1
工学部	876	63	770	50	84	12					22	1
農学部	200	92	165	79	26	10					9	3
合計	2,224	573	1,422	304	537	193	77	19			188	57



〔写真〕法科大学院における模擬裁判による授業

## 独立研究科

京都大学には学部を持たない大学院課程、すなわち独立研究科が5つあります。エネルギー科学研究科、アジア・アフリカ地域研究科、情報学研究科、生命科学研究科、地球環境学舎、がそれにあたります。いずれの研究科においても、多様な学部の卒業生を受け入れ、複合的学域の創出・深化に携わる研究者や実務家の養成を主眼にした大学院教育の体系化をめざしています。

エネルギー科学研究科では、エネルギー持続型社会形成を目指して、理工系に人文社会系の視点を取り込みつつ学際領域としてエネルギー科学の学理の確立をはかり、地球社会の調和ある共存に寄与する、国際的視野と高度の専門能力をもつ人材を育成することをめざしています。

アジア・アフリカ地域研究科では、これまでの京都大学での地域研究の伝統をもとに、大学院5年一貫教育でフィールドワークを重視し、地域の現場での生活を通して問題を発見し、生態・社会・文化が複合する地域の実態の調査研究を進めていく地域研究者や国際貢献できる実務者の育成を目的としています。

情報科学研究科では、自然および人工システムにおける情報に関して、その生成や認識、伝達、制御などの幅広い側面について、人文科学と理工科学との学際的な手法により研究していきます。そこでの成果は、人類知の様々な分野に寄与することが期待されています。

生命科学研究科では、従来の理学、農学、医学、薬学分野の知識と技術を統合し、遺伝子、分子、細胞を探索の単位とする従来

の生命科学を超え、より高次な生命現象解明へ取り組む新しい生命科学の研究を創出し、複雑な生物圏を理解し地球環境保全と人類の福祉と幸福に寄与できる人材の養成をめざしています。

地球環境学舎は、地球環境問題の解明と解決のために、環境安定とそれを支える人間活動の双方に資する新たな文明理念と科学技術知を構築すること、そしてそれを現実世界に適用する人材育成を行うことを目的として平成14年に設置されました。

## 専門職大学院

研究者養成に主眼をおいていた従来の修士課程とは異なり、高度で専門的な職業能力をもった実務家を養成するための、新しい形の大学院です。現場で活躍する各分野のスペシャリスト等も専任教員として招き、現場の複雑な問題を解決するための知識と技能の獲得をめざした教育をおこなっています。京都大学では、医学研究科で平成12(2000)年に専門大学院として開設された社会健康医学系専攻が、平成15(2003)年専門職大学院となりました。また法学研究科では法曹養成専攻(法科大学院)を平成16(2004)年に開設しました。さらに、平成18(2006)年には公共政策専攻(公共政策大学院)および経営管理専攻(経営管理大学院)の2つの専門職大学院が開設されました。以下に簡単に紹介します。

### 医学研究科社会健康医学系専攻

この専攻は、将来、保健・医療・福祉分野における専門職あるいは教育研究職につ

くことを希望する者が、「社会における人間」の健康に関わる問題を探知・評価・分析・解決するために必要な幅広い知識、技術、態度を身に付けることを目的としています。教育の対象となる分野は自然科学から人文社会科学まで多岐にわたります。

わが国は知的創造立国を志向しており、今後は医療分野でも特許を広く認めようとしています。そこで先端医学の研究成果を知的財産として管理・活用する高度専門職を育成するために、平成16年度には知的財産経営学コースが開講されました。

また、ヒトや集団を単位とした臨床研究を推進するため、平成17年度には医師・歯科医師を対象とした1年制のコース臨床研究者養成コースを開設しました。

さらに平成18年度には、先端医療に対応できる高度な専門的知識とコミュニケーション能力を持ち、患者・家族・被験者の立場を理解して新医療とのインターフェースとなりうる人材を総合的に養成する遺伝カウンセラー・コーディネータユニット(「遺伝カウンセラーコース」・「臨床研究コーディネータコース」)が開設されました。

## 法科大学院

法科大学院は、法の精神が息衝く自由で公正な社会の実現のため、幅広い分野において指導的な役割を果たす創造力ある法律家を養成します。法学部・法学研究科の伝統にならない、自主・独立の精神と批判的討議を重んじ、自由闊達な教育環境の中で、法制度に関する原理的・体系的理解、緻密な論理的思考能力、法律家としての高い責任感を涵養し、社会の抱える構造的な課題や最先端の法的問題に取り組むことのできる総合的な法的能力の育成を図ります。また実務的課題にも対応した教育を充実させるため、実務経験の豊富な多くの実務家教員を迎え、研究者教員と実務家教員が連携しつつ、理論と実務を架橋する高度な教育を提供しています。

## 公共政策大学院

公共的な仕事に携わる高度専門職業人を養成する専門職大学院として、2006年4月に開学したばかりの大学院です。定員40名で、少人数教育をとります。専任の教員は12名ですが、他にも法学研究科、経済学

研究科をはじめとした、他研究科の教員、さらには実務家が授業を担当します。

ここでは、中央・地方レベルにおける国内行政および立法機関、国際機関、NPO/NGO、シンクタンク等の職業に従事する者のほか、一般企業において公共的な業務に携わる者など、公共政策分野の高度専門職業人を育てることを目的としています。したがって公共政策の立案・遂行・評価に必要な専門的知識だけではなく、優れた教養と高い倫理的責任感を備えた人材の育成を目指しています。そのため、法学・政治学・経済学・経営学を有機的に結合した科目や、実務経験者による具体的な事例に則した実践的な知識を涵養する科目を提供すると同時に、幅広い視野と教養を身につけるために原理的・歴史的知識を教授する科目も多数用意されています。

## 経営管理大学院

マネジメントに関する専門的かつ実践的な能力を備えた真のプロフェッショナルを育成するための大学院です。ビジネススクールとして、専門的知見を持つ社会人、多様なバックグラウンドを持つ学生、外国人留学生といった人材を受け入れており、相互の刺激と切磋琢磨を通じて、現代の複雑なマネジメント諸課題に取り組むことができる実践的知識と論理的思考力の獲得を目指します。

本大学院は、科学的な理論に基づいた専門的な知識と実践的な問題解決能力を修得するために、多様な授業科目を提供します。そして、主に1年生前期に基礎科目、1年生後期から2年生前期に専門科目、そして2年生前期からは実務科目と発展科目という体系的な履修を実現する科目構成をとっています。そして、スーパーバイザーが、それぞれの学生の知識や履修状況、そして将来の希望を踏まえ、履修すべき科目や学修すべき内容についてアドバイスを与え、積極的に学びを支援します。

## 社会人のための大学院コース

現在、社会状況はますます複雑化し、職業を持つ社会人でも大学で再び学び直すことを希望する人が増えています。あるいは、大学を卒業して就職した後に、現場の具体的な問題に触れてこそ、学習や研究を深めていく必要性を感じるという場合もあります。この

## 大学院への進学（●印は主な出身学部を紹介しています。）

	総合人間学部	文学部	教育学部	法学部	経済学部	理学部	医学部	薬学部	工学部	農学部
<b>文学研究科</b> 文献文化学専攻 思想文化学専攻 歴史文化学専攻 行動文化学専攻 現代文化学専攻	●	●								
<b>教育学研究科</b> 教育科学専攻 臨床教育学専攻			●	●						
<b>法学研究科</b> 法政理論専攻 法曹養成専攻（法科大学院）	●	●		●						
<b>経済学研究科</b> 経済システム分析専攻 経済動態分析専攻 組織経営分析専攻 現代経済学専攻					●					
<b>理学研究科</b> 数学・数理解析専攻 物理学・宇宙物理学専攻 地球惑星科学専攻 化学専攻 生物科学専攻	●					●				●
<b>医学研究科</b> 医学専攻 医科学専攻 社会健康医学系専攻 人間健康科学系専攻							●			●
<b>薬学研究科</b> 創薬科学専攻 生命薬科学専攻 医療薬科学専攻								●		
<b>工学研究科</b> 社会基盤工学専攻 都市社会工学専攻 都市環境工学専攻 建築学専攻 機械理工学専攻 マイクロエンジニアリング専攻 航空宇宙工学専攻 原子核工学専攻 材料工学専攻 電気工学専攻 電子工学専攻 材料化学専攻 物質エネルギー化学専攻 分子工学専攻 高分子化学専攻 合成・生物化学専攻 化学工学専攻	●								●	
<b>農学研究科</b> 農学専攻 森林科学専攻 応用生命科学専攻 応用生物科学専攻 地域環境科学専攻 生物資源経済学専攻 食品生物科学専攻	●									●
<b>人間・環境学研究科</b> 共生人間学専攻 共生文明学専攻 相関環境学専攻	●	●								
<b>エネルギー科学研究科</b> エネルギー社会・環境科学専攻 エネルギー基礎科学専攻 エネルギー変換科学専攻 エネルギー応用科学専攻	●								●	●
<b>アジア・アフリカ地域研究研究科</b> 東南アジア地域研究専攻 アフリカ地域研究専攻						●				●
<b>情報学研究科</b> 知能情報学専攻 社会情報学専攻 複雑系科学専攻 数理工学専攻 システム科学専攻 通信情報システム専攻	●					●			●	
<b>生命科学研究科</b> 統合生命科学専攻 高次生命科学専攻	●					●		●		●
<b>地球環境学舎</b> 地球環境学専攻 環境マネジメント専攻	●	●							●	●
<b>公共政策教育部</b> 公共政策専攻				●	●					
<b>経営管理教育部</b> 経営管理専攻					●	●			●	

ような要請に応えるため、京都大学には社会人の大学院進学のための制度が整備されています。この制度には大きく分けて、研究者養成を主眼にした大学院がおこなっている「社会人特別選抜」と、先述した高度専門職業人養成大学院への入学があります。

京都大学でも多くの大学院が社会人特別選抜をおこなっています。いずれも、社会での実務経験のある人材に対して門戸を開き、リフレッシュ教育の機会を提供するとともに、多様な人材を受け入れることで大学院の活

性をねらっています。

また、専門職大学院では、当該専門と直結する分野以外を卒業した者や在職社会人を積極的に入学者として受け入れており、多様なバックボーンをもつ人々がこれまでの自分のキャリアを活かしつつ、専門的な職業能力を身につけるよう工夫されています。

※大学院の詳細な内容や入学選抜方法については、大学院各研究科にお問い合わせ願います。



[写真]「就職ガイダンス」の様子

# 就職支援

企業・組織での実務者として、社会での活躍を目指すために。  
豊かな人生をおくるために。

## キャリアサポートセンター

我々や企業を取り巻く経済状況が好転するなか、団塊の世代の大量退職もあって求人数を大幅に増やす企業が増加しています。しかし、各企業がより優秀でかつ自社に合う学生を求める傾向に変わりはなく、内々定獲得の二極化が進むなど、全ての学生にとって状況が改善されたというわけではありません。一方、学生側の就職に対する希望が多様化しており、学生の希望と企業側の求める人材とのマッチングをいかに図るか、学生がいかに自分の能力や経験を活かせ、かつ適性にあった就職先を見つけることができるかが大きな課題となってきています。

また、大学院への進学率が高い本学では、学生自身が自分の進むべき道（将来の進路・職業）について早い時期から考えていくことは、充実した学生生活を送るうえで重要なことであるとと考えています。

キャリアサポートセンターでは、学生の就職活動を支援するため、各種就職関連ガイダンスや就職相談の実施に加え、各種企業資料・会社案内（パンフレット）、求人情報、OB・OG名簿、就職関連書籍・ビデオ・CD、企業主催のセミナー・説明会開催情報及びインターンシップ募集情報の収集・閲覧並びにメールマガジンの発行、求人票検索システムの運用等を行っています。就職関連書籍・ビデオ・CDについては貸し出しも可能です。

近年の就職活動においては、インターネットの活用が不可欠なものとなりつつあることか



[写真] キャリアサポートセンター

## 平成 18 年度開催ガイダンス等一覧

行事名	実施回数等	のべ参加者数(人)
就職ガイダンス	6回	1,692
企業ガイダンス	15回	3,481
キャリアデザイン講座	3回	294
合同企業説明会	全4回 計7日	2,806
公務員関係ガイダンス等	全14回 計16日	912
就職セミナー	41回	1,884
業界研究セミナー	3回	151
内定者による相談会	24回	60
エントリーシート添削	19日	118
模擬面接	29日	167
SPI 模擬テスト対策講座, SPI 模擬テスト	講座1回, テスト2回	270
国家公務員1種採用試験 対策講座 [有料]	3講座, 計11日	68
マスコミ就職直前対策 セミナー [有料]	2講座, 計14日	89
弁理士試験対策講座 [有料] (無料ガイダンス1日含む)	1講座 計35日	128
就職相談室	185日	672
計		12,792

ら、キャリアサポートセンターに就職情報検索用のパソコンを数台設置し、学生が自由に利用できる環境を整えています。

## ガイダンス等の開催

就職活動の概要を紹介する「就職ガイダンス」、企業の人事担当者を招いて企業概要や求める人材像等について説明を受け、併せて業界研究を行うことを目的とした「企業ガイダンス」の実施のほか、少人数を対象とした自己分析講座、ビジネスマナー講座、個人又は少人数を対象としたエントリーシート添削、模擬面接などを実施しています。「キャリアデザイン講座」として、学部1・2年生を対象とした将来のキャリアを考えるための講座、将来研究者を目指す人たちに向けての講演会、女性のキャリアを考える講演会などを実施しています。また、有料の講座を、外部で受講するより割安で受けられるシステムを導入し、

キャリアアップの機会増大を図っています。

## 就職相談室の開設

就職情報企業から就職指導の専門家を相談員として招き、就職・進路にかかる様々な相談に対応しており、専門的立場から適切なアドバイスを行っています(予約制)。気軽に、また、何度でもご利用いただけます。

## インターンシップ

### — 実社会体験を学びに活かす —

インターンシップは、学生が在学中に企業・団体等の現場において実社会を体験する貴重な学びの機会です。

京都大学におけるインターンシップの活用

本学では、就業体験を通してキャリアアップを目指す在学生に対して、多種多様なインターンシップについての情報提供を行っています。国内の国公立・民間研究機関、地方公共企業体や民間企業等における現場での貴重な経験を、大学における学びに活かせるようサポートします。毎年多くの在学生がインターンシップを体験し、近年は、外国の研究機関や企業におけるインターンシップに積極的に参加する在学生も増えています。本学では、このような学外でのインターンシップを授業に採用し、学外の国公立・民間機関等で行った就業体験を単位として認定する制度を取り入れている学部（学科）や研究科もあります。

## インターンシップの効果

社会の現場での就業体験を通して、次のような効果が期待できます。

- ・責任感や人間関係を学び、人間的に大きく成長することができる。[人間的成長]
- ・働くことに対してのイメージがより具体的になり、目的意識を持った就職活動を行える。[修業意識の高揚]
- ・自らの学生生活を振り返る良い機会となり、今、自分が何をすべきかが見えてくる。[学習意欲の向上]

## インターンシップの種類

- ・学外実習等の授業科目とする場合。  
→単位として認定します。
- ・学校行事等、大学等における活動の一環として位置づける場合。  
→単位認定しません。
- ・企業等が実施するインターンシップのプログラムに学生が個人的に参加する場合。  
→単位認定しません。

## 海外インターンシップ

世の中のグローバル化が進み、国際的な広い視野やコミュニケーション能力を身に付けることのできる海外インターンシップへの関心が高っています。

海外インターンシップ体験を希望する学生を支援するため、京都大学内においては、以下の2つの委員会が活動しています。

### 「外国での研修に参加しよう！」

#### —京都大学イアエステ学内委員会

イアエステ (<http://www.iaeste.or.jp/>) は、理工農薬系学生のための国際インターンシップを仲介している国際非政治団体です。海外に派遣される学生は主に夏休みを利用し2～3ヶ月間、現地の企業や、大学、研究

機関で就業体験します。イアエステ日本支部は1964年の設立以来、2500人以上の国内の学生を海外へ派遣しています。また、理事役員メンバーの指導の下、事務局職員と学生ボランティア（学生運営委員会）によって運営されています。

私達はその京都大学学内委員会のメンバーで、夏休みに来日する海外の研修生のサポートや、学内での派遣生募集の為に認定試験などの広報、派遣予定の日本の学生と帰国してきた派遣生OBとの交流会の開催など、インターンシップに関するあらゆる援助をしています。

認定試験を受けて、海外で自らの力量を試すのもいいですが、国内での受け入れや派遣の支援という裏方のような活動をする事で見えてくる世界もあります。専門分野を持つ海外の学生と交流できるのも大きな刺激になります。国際的な広い視野を有する研究者を目指す方、理系・文系の垣根無く、英語をツールとして使いたい皆さん、イアエステについてもっと知ってみませんか？

### 「It's up to you!」

#### —アイセック京都大学委員会

アイセックは、100を超える国と地域に活動拠点を持つ世界最大規模の国際学生

NPOであり、“Peace and Fulfilment of Humankind's Potential”を理念に、海外インターンシップ事業を行っています。アイセック京都大学委員会は、海外インターンシップの運営を行い、学生に対して異文化環境のもとで社会経験を積む機会と学びを得る機会を提供しています。また企画事業として、着物を通じて日本の伝統文化への理解を促す活動も行っています。(<http://www.aiesec.jp/kyoto/>)

国内外に幅広いネットワークを持つアイセックには、多種多様なステージで活動できる機会が存在します。インターンのために来日した各国の優秀な学生や、海外へインターンの場を求める意識の高い日本人学生…彼らのサポートをする中で、アイセックメンバーは日々多くの刺激を受けています。JICAや大学教授・企業など外部パートナーとの協働、他大学・他国のアイセックメンバーとのプロジェクトなどを通して、価値観の多様性や社会の可能性に触れる場をアイセックは提供してくれます。あとはみなさんのやる気次第!あなたの充実した学生生活をお約束します。  
(連絡先:kyoto@aiesec.jp)

## 海外インターンシップ体験談

### 「海外インターンシップ」

私は、3回生から4回生に上がる春、北アフリカのモロッコで約2ヵ月間インターンをしてきました。このインターンは、日本でメジャーな企業インターンではなく、NGOでの半ばボランティア的なインターンであり、私は地域のコミュニティーセンターで、英語や日本文化について教えるCultural Studyを担当していました。

モロッコの国教はイスラム。メディアでも「イスラム」という文字を目にしない日はないといえるほどのこの情勢下で、2ヵ月半という短い期間ではありましたが、現地の人と身近に接し、時には意見をぶつからせ、得た多くの体験は、本当に貴重なものでした。黒いベールや祈りなど、日本のテレビで見ていると、半ば「異常」ではないか、と感じてしまった習慣も、現地の生活の文脈の中で見てみれば自然な生活であり、「違い」でしかないのだな、と感じたことも一度や二度ではありません。また、まったく異なる様々な価値観に触れたことで、自分自身を相対化して見るができるようになり、以前より自由に物事を考えられるようになった気がします。

現地で生活していく中で、自分の目で見て対話して考える、ということの大切さを改めて感じました。



総合人間学部4回生  
松原 史 さん

【写真】生徒たちと

### 「日本を外から眺めてみる。自身を外から眺めてみる。」

IAESTEの海外研修で私が経験したことだ。私はIAESTEの海外研修を通じてセルビアの首都ベオグラードの建築系企業で4ヶ月間の研修に参加した。彼の地では、工学研究科建築学専攻で学んだ知識を活かし、建築設計に関わる業務に携わることができた。

IAESTEの海外研修では、自身の専門分野を活かした、海外の企業もしくは研究機関での研修に参加できる。大学で学んだことが実際に職業として自身に合っているか自問できるよい機会でもある。そして、当然そこには現地での生活も介在する。

研修と他の研修生との共同生活では、冒頭に書いたような刺激的な出来事に満ちていた。日本のことについて様々な事を聞かれた。うまく答えられたことも、うまく答えられないこともあった。周りを眺めると判断基準や振る舞いが違っていた。逆に自身の行動を、日本の常識ではない、違ったフレームで捉え直す必要があった。

私が海外研修で得られた経験は、日本では得難いものだったと思う。世界へ飛び出し、異なる環境で生活し、働く。他の研修生と向き合って語り合ったことも私の中の何かを変えた。充実した密度の濃い貴重な経験だったと思う。



工学研究科建築学専攻修士課程2年  
馬場 航 さん

【写真】他のIAESTE研修生との昼食風景（本人は左列前から4人目）

# [資料] 卒業生の産業別就職状況について

平成 18 年度卒業生の産業別就職状況（医学部をのぞく）

産業	学部	総合人間学部		文学部		教育学部		法学部		経済学部		理学部		薬学部		工学部		農学部		男子計	女子計	総合計
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
農業																				0	0	0
林業																		2		2	0	2
漁業																				0	0	0
鉱業								1		2										3	0	3
建設業					1			1								6	2			8	2	10
製造業	食料品・たばこ				2													2		0	4	4
	繊維工業・衣服			1		1	1									1		1		3	2	5
	印刷・同関連業	1	1	3	3															4	4	8
	化学工業・石油	1	2	1	1				1	1	5	2			1	1	1			9	8	17
	鉄鋼・非鉄・金属								2				1				6			9	0	9
	一般機械器具		2						1	3							2		1	6	3	9
	電気・機械器具	1	1		1				4	3	10	2					9	3		24	10	34
	電子・デバイス	1															1		2	4	0	4
	輸送用機械器具	1	1	4	1				2	1	1		1				8			17	3	20
	精密機械器具				1				1		4						4			9	1	10
	その他	1	1						1	8	1						1	1		10	4	14
電気・ガス・水道業		1	1	3	1		1	5	2	10						1			19	6	25	
情報通信業		12	3	17	13	3	3	9	1	1	1	5				14	2	1	62	23	85	
運輸業		1		2			4	8	2	8						6		1	26	6	32	
卸売小売・飲食	卸売業	1	2	1			1	12	4							3		3	20	7	27	
	小売業		1		5					1						3		2	6	6	12	
金融・保険業	金融業	5	2	4	4	1	29	2	26	10	6		2		4		2	2	78	21	99	
	保険業	1		2	3			9	2	10	1	3				1		4	30	6	36	
不動産業		1			1	3		1	1	3	1								8	3	11	
飲食店・宿泊業		1	1					1										1	3	1	4	
医療・福祉	医療・保健衛生			1			1	1						1					2	2	4	
	社会保険福祉介護			1			1												1	1	2	
教育学習支援	学校教育	3		2	2	2	1			1		1				3			12	3	15	
	その他	1	2	2	1	2	1	1	1	1	1	3				1		1	12	6	18	
複合サービス事業				1						58	8								59	8	67	
サービス業	法務						1												0	1	1	
	学術・開発研究	1						1				1				1			4	0	4	
	宗教			1		1													2	0	2	
	その他	7	3	3	7	1	2	12	6			1				6	1	3	33	21	54	
国家公務		1	1	2	4		2	17	4	4	2	1				2	1	1	28	15	43	
地方公務		1	1	5	4	1		6	4	2	1			1	1		1	2	17	13	30	
上記以外										5	3	1				1			7	3	10	
総合計		68		111		34		160		196		24		5		96		36				
男子計	女子計	43	25	57	54	14	20	124	36	163	33	24	0	2	3	84	12	26	10	537	193	730

# ベンチャー起業

自らのアイデアを具現化し、  
ベンチャー起業を志す人を様々な面からサポートします。



## 世界から注目されるロボットの開発



ロボ・ガレージ代表  
**高橋 智隆** さん  
(2003年工学部物理工学科卒)

私は工学部在学中よりロボットに関する研究を基に試作機を製作し、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーで行われている特許相談・起業支援などのプログラムを利用することで、技術やアイデアを企業に売り込む活動をしてきました。結果、模型玩具ロボットが世界中で販売されることとなりました。そして、2003年の卒業と同時にベンチャー「ロボ・ガレージ」を創業し、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーに拠点を置いてロボットの開発や事業展開に取り組んでいます。

## 起業を目指すみなさんへ (教育活動について)

ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー (VBL) 主催の講義、「新産業創成論」では、新産業創出への最近の動きおよび大学における取り組みを概論するとともに、ベンチャーの動向・企業経営、特に注目される学生起業のベンチャーや京都ベンチャーの内実、およびハイテクベンチャーの基盤となる知的財産権(特許)、今後の産学連携の在り方・戦略に関して、この分野で活躍されている実際の企業の経営陣・弁理士・研究者の方をお呼びし、受講生との討論を主体に行っています。

また、将来の産業・科学技術の発展の担い手となる起業家や研究者育成の一環として、ハイテクベンチャーの種となる技術アイデアの創出と特許化を支援するため、院生・学生・そして高校生を対象とした「テクノ愛」(後述)を財団法人近畿地方発明センターと共同で毎年開催しています。

## ベンチャー起業支援システム

VBLでは独自のベンチャー起業支援システムを展開しています。そのシステムでは、「特許相談室」と「起業相談室」の2つの相談室を深い連携のもと推進し、ベンチャー起業を志す人のサポートを行っています。

特許相談室では、予約が入り次第随時国際イノベーション機構知的財産部のアドバイザーによる京大全学の教職員ならびに学生を対象とした知的財産(特許)に関する個別相談に無料で応じています。技術特許・ビジ



ネスモデル特許の出願相談に加え、発明の新規性、先行技術調査などを相談することができます。現在までに100件を越える出願特許がなされ、その内約30件が通常実施やオプション契約に至っており、相談者からだけでなく学内外からも高い評価を得ています。

起業相談室では、毎週水曜日に京都リサーチパーク株式会社プロジェクト開発部より専門アドバイザーに来館頂き、事業計画・法人設立や、大学発ベンチャーに不可欠な兼業申請手続き、経営コンサルタント、資金調達方法、インキュベーション施設の利用等について無料で相談することができます。

## テクノ愛

このコンテストは非営利で運営しており、高校生・大学生の発明、創造活動を啓蒙、

応援するコンテストです。

ユニークな発想やベンチャー精神を持つ人材の育成の一環として、身近な生活に役立つ技術から最先端技術までの幅広いアイデアを、高校生・大学生などを対象に広く募り、審査により表彰します。優れたアイデアには表彰だけでなく、希望者には起業化へのアドバイス・サポートも行います。例年、大学の部の入賞アイデアをはじめとし、高校生のアイデアの特許出願もサポートしています。



## 教育学部発ベンチャー 「有限会社関西教育考学」活動紹介

「大学の知を社会に還元」することを目的として、2005年よりベンチャー・ビジネス・ラボラトリーに拠点を置いて活動しています。

特に、高校生の皆さんに学ぶことの楽しさや奥深さを知ってもらいたいという思いから、高校・大学連携事業に力を入れています。具体的には、京都大学の先生方を講師に迎え、大学での研究内容を分かりやすく紹介する「京大知的好奇心学講座」の提供や京大生がガイドをつとめる京大キャンパスツアーを実施しています。京大キャンパスツアーは入試企画課と連携して行っています。

有限会社関西教育考学  
代表取締役

田坂 繭子さん

(2005年教育学研究科教育科学専攻修了)



## 京都大学 VBL

京都大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー (VBL) は、全学の教育・研究施設として工学研究科を主体に、情報学・理学研究科、化学研究所等の教員・博士研究員および大学院生・学生を含む横断的で柔軟な運営組織から形成されています。「先進電子材料開発のための原子・分子アプローチ」を教育研究テーマとして掲げ、次世代の産業を支える基盤技術である研究開発プログラムの推進と、ベンチャー精神に富んだ創造的人材ならびに起業家マインドを持った若手研究者の育成を通して、また本学の様々な組織とも連携して、大学を核としたイノベーション創出活動を展開しています。

2003年にはVBL内に、京都大学の教員や院生などの起業家の活動の場として、「京大ベンチャーズ」を開設しました。

さらに京大の学生・教員・職員を対象としたベンチャー起業支援システムとして「特許相談室」と「起業相談室」を開設し、特許取得方法やベンチャー起業ノウハウを無料で相談できる場を提供しています。

また、独創性とベンチャー精神に富んだ若手育成のための教育プログラムとして「新産業創成論」や「先端電子材料学」を開講し、そしてハイテクベンチャーの種となる技術アイデアの創出と特許化を支援するため、院生・学生・そして高校生を対象とした「テクノ愛」を毎年開催しています。

このようにVBLは、特許・起業相談室、各種講義などの試策を通してベンチャー起業支援を行うと共に、全学の教育・研究・基盤技術創成のための中核的推進拠点として機能しています。



[写真] 京都大学 VBL 外観

# 学生生活を支援する制度や施設

## 学習・研究に安心して取り組んでもらうために。

### [学生生活を支援する制度や施設]

#### 身体に障害がある方たちへのサービス

本学では、身体に障害があつて、受験及び就学上の特別な配慮を必要とする入学志願者のための相談を常時行っています。受験及び就学上必要な特別措置等について協議いたしますので、ご相談ください。また、進路上の相談にも応じています。

なお、相談の内容によっては対応に時間を要することもありますので、この相談を希望する方は、出願前の早い時期に、志望する学部の教務掛へ照会してください。

(照会先については、95ページを参照してください。)

#### 履修相談

本学では、新入生を対象としたガイダンスを実施しています。全学共通科目については、高等教育研究開発推進機構が4月入学時に「新入生向けガイダンス」を開催しています。専門科目については、各学部において新入生向けガイダンスの実施や教務掛の窓口において履修相談に応じています。

(全学共通科目については、共通教育推進課教務運営グループ [Tel.075-753-6508 ~ 6511] に照会してください。専門科目については、95ページの各学部教務掛に照会してください。)

#### 経済的に困難な方たちへのサービス

##### 入学料・授業料免除等

###### (1) 入学料免除

入学前1年以内において、出願者の学資負担者が死亡し、又は出願者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、入学料の納付が著しく困難であると認められる方について、出願者本人からの申請により選考の上、全額又は半額を免除する制度です。

###### (2) 入学料徴収猶予

経済的理由により入学料の納付期限までに納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる方及び入学前1年以内に出願者の学資負担者が死亡し、又は出願者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、入学料の納付期限までに納付が困難であると認められる方について、出願者本人からの申請に

より選考の上、入学料の徴収を猶予する制度です。

###### (3) 授業料の免除

本学では「授業料免除」と「授業料免除京都大学特別枠」という二つの免除制度があります。

「授業料免除」は経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる方及び入学前1年以内に出願者の学資負担者が死亡し、又は出願者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、授業料の納付が著しく困難であると認められる方について、出願者本人からの申請により選考の上、各期ごとに全額又は半額を免除する制度です。「授業料免除京都大学特別枠」は出願資格として学業優秀を条件としないこと、後期授業料(前期は実施しません。)の全額を免除することが「授業料免除」と異なっています。(問い合わせ先: 学生センター経済担当

Tel.075-753-2536)

#### 入学時に要する納付金(平成19年度)

入学料	授業料
282,000円	(前期分のみ) 267,900円 (年額) 535,800円

\*入学時に改定されることがあります。  
\*納付金は、全学部において同額です。

#### 奨学金制度

学業成績や人物が優れかつ健康であつて、経済的な理由により就学が困難であると認められる場合に奨学金を申請することができます。

##### 日本学生支援機構奨学金

高校在学中に大学進学後、貸与を受けよう并希望する方に予約採用が、進学後に採用を希望する方に在学採用の申請方法があります。

なお、第1学年(編入学の入学年次を含む)において希望により、貸与月額の初回振込時(又はその翌月)に定額(300,000円)を増額して貸与する制度があります。

申込のできる方は、一定の収入金額以下の方、又は国の教育貸付け(国民生活金融公庫の教育ローン)を申込んで貸付を受けることができなかつた方が申込みます。

#### 貸与月額(平成19年度入学者)

	自宅通学者	自宅外通学者	採用数(注)
第一種奨学金(無利子貸与)	45,000円	51,000円	258名
第二種奨学金(有利子貸与)	3・5・8・10万円のうちから選択		195名

(注)平成18年度1年次在学採用数

#### 地方公共団体奨学金及び民間団体奨学金

本学には、日本学生支援機構奨学金以外に地方公共団体奨学金及び財団法人、公益法人、民間企業等の出資による民間団体奨学金などの多様な奨学金制度があります。

募集等の条件は団体により種々異なりますが、募集時期はほとんどが4月~6月の間です。

なお、都道府県市区町村の教育委員会で取り扱っているケースも多いので、直接出身地等の教育委員会に問い合わせるのもいいでしょう。

奨学金を貸与或いは給付されている在学学生は、大学院生を含めて約350名います。

毎年約40団体より募集があり、約80名が新規に採用されています。

#### 小口短期貸付金(学生援助会)

学生センターでは、病気や不慮の事故、家庭からの送金の延着、その他の急な出費に対し、最高5万円まで無利子で短期間(1~6カ月以内)の貸付融資を行っています。

なお、金額によっては、あらかじめ保護者等を保証人とする債務保証書を提出する必要があります。

(問い合わせ先: 学生センター経済担当

Tel.075-753-2535)

#### 学生寄宿舍

本学の学部学生が入居できる学生寄宿舍は、右ページ上の表の3寮です。いずれも大学の近くにありまので、便利で安価に生活することができます。詳しくは、学生センターへお問い合わせください。

(問い合わせ先: 学生センター生活担当

Tel.075-753-2539・2540)

## 学生寄宿舎一覧

	吉田寮	熊野寮	女子寮
収容定員	147名	422名	35名
対象学生	男子・女子	男子・女子	女子
建物構造	木造 2階建(3棟)	鉄筋コンクリート 4階建(3棟)	木造モルタル塗 2階建(2棟)
居室様式	和室	洋室	洋室
食堂の設置	無	有	無
寄宿料(月)	400円	700円	400円
光熱水料等	2,000円から3,500円(各寮により異なります)		
通学時間(※)	徒歩約5分	徒歩約15分	徒歩約7分

※吉田キャンパス本部構内までの参考通学時間

## 下宿・アパート等の紹介サービス

学生センター生活担当では、入学手続の日から下宿・アパート等を紹介しています。風呂は無く、台所・トイレも共同ですが、その分、部屋代も安価で、4.5畳で15,000円、6畳で20,000円前後のものを紹介しています。

また、京都大学生生活協同組合では、アパート・マンション等の紹介をしています。  
(問い合わせ先：学生センター生活担当  
Tel.075-753-2533, 京都大学生生活協同組合  
ルネ南側別館 Tel.075-771-0823〈桂、宇治の物件等の紹介も有〉)

## アルバイトの紹介サービス

学生センターでは、主に家庭教師・祭礼行列員等のアルバイトを紹介しています。

祭礼アルバイトは、京都の三大祭(葵祭、祇園祭、時代祭)等で、行列に参加したり、山車を引いたりするもので、学生生活の思い出にもなり、学生に好評のアルバイトです。

なお、その他一般のアルバイトは、京都大学生生活協同組合で紹介しています。  
(問い合わせ先：学生センター生活担当  
Tel.075-753-2533, 京都大学生生活協同組合  
コンベンション・サービスセンター  
Tel.075-752-0374)

## 健康管理について

### 保健管理センター

本学学生の健康の保持と増進を図り、最適な健康状態で充実した学生生活を過ごしてもらうために、健康管理を専門的に行う施設として保健管理センターを設置しています。

センターには専任の医師と看護師がおり、健康診断や保健指導などの予防医療、応急措置などの初期診療、その他健康に関するあ

らゆる相談を行っています。病院などとは異なり、ちょっとした不安や疑問を解決するためにごく気軽に受診することができます。また、検査や投薬も受けられます。個別の相談や診療は正門西側カフェレストラン・カンフォアラ隣の保健診療所で受け付けます。

### 保健診療所

保健診療所では、下記各科の専門医が、本学学生の病気やけがの診療と健康相談・メンタルヘルス相談を行っています。

- (a) 診療科名  
内科, 神経科, 皮膚科, 眼科, スポーツ整形外科, 耳鼻咽喉科
- (b) 診療受付時間  
10:00 ~ 12:30, 14:00 ~ 16:30
- (c) 休診日  
土曜日, 日曜日, 国民の祝日及び年末年始(12月29日~1月3日)は全日休診です。  
なお、臨時休診日(定期健康診断実施日等)は、その都度受付の掲示板に掲示しています。
- (d) 料金  
学生の診察や相談は無料です。ただし検査, 投薬, 処置, 診断書作成は実費となります。正課中の負傷は、初回治療のみ処置や投薬も無料です。  
(各科の診療などの問い合わせ先)  
Tel 075-753-2404 (受付) 又は  
Tel 075-753-2405 (内科)

## 学生教育研究災害傷害保険

学生が、「急激」かつ「偶然」に「外来」の事故を被った場合の災害補償を全国的な補償救済措置として制度化されたもので、本学では、教育研究活動中等の不慮の災害事故補償のため、保険料も低額な本保険への

全員の加入を強く勧めています。

また、インターンシップ、教育実習、介護体験、ボランティア活動等において学生が万が一相手にケガをさせたり物を壊したりした時に備えて賠償責任保険の加入も勧めています。さらに教育研究活動中の補償を24時間に拡大し、アルバイトや自主参加のインターンシップも含めた学生生活の幅広いリスクに対応した学生生活総合保険もあります。

(問い合わせ先：学生センター生活担当  
Tel.075-753-2533)

## 京都大学学生健康保険組合

京都大学では、昭和25年より本学学生が、風邪やケガで学内の医療機関で治療を受けた場合、学生相互に医療費を補助することを目的とした、学生健康保険組合を設置しています。

この保険組合に加入すると学内の医療機関(京都大学保健診療所及び医学部附属病院)等で受診した1年間に支払った医療費の総額の一部を補助します。組合費は1年間500円で全員が加入されるようお勧めします。

(問い合わせ先：学生センター生活担当  
Tel.075-753-2534)

## カウンセリングセンター

京都大学では、学生が学生生活を送る上で出会う様々な悩みや問題を相談できる場所として、カウンセリングセンターを設置しています。大学は、単に知的な学習・研究のためだけではなく、全人格的な成長・発達のためのものであるべきものです。しかし学生生活の中で、自分だけでは抱えきれない問題が生じてくることもあるかもしれません。友人や家族にさえずりにくい内容の場合もあるでしょう。そういう時のために、カウンセリングセンターがあるのです。

カウンセリングセンターでは、心理学(臨床心理学・相談心理学・青年心理学など)を専門とするスタッフが相談に応じています。現在、1年間に約500人の学生が相談に訪れ、のべ5,000回に上る相談面接がなされています。

(カウンセリングセンターの詳細については、ホームページをご覧ください。

<http://www.kyoto-u.ac.jp/counseling/>)



【写真】本部構内の正門横にあるカフェレストラン「カンフォアラ」

## バランスのとれた食生活や、 書籍・文具・日用品など、 生協は生活のすべてをサポートします。 [京都大学生生活協同組合]

学内の各キャンパスには、京都大学生生活協同組合が運営するカフェレストラン、食堂、ショップなどがあり、京都大学での勉学・教育・研究生生活を幅広くサポートしています。

### 朝食から夕食まで、 食生活をサポート

生協食堂では安全で安心な食材を使用し、栄養バランスの取れた豊富なメニューで、朝食から夕食時間帯までの食生活をサポートしています。レシートへの栄養価表示や、食生

活や健康に関する情報の提供、食生活相談や体力測定など、学生の食の自立を応援し、健康への関心を高める企画に取り組んでいます。

### 書籍からパソコン、文具など、 勉学・研究生生活をサポート

講義に必要な教科書や専門書、雑誌から文具類やパソコンまで、大学での勉学や研究に必要なとされる商品、サービスを提供しています。特に書籍・雑誌は生協組合員の特典

として定価の10%引（CDは15%引）で提供し、大変喜ばれています。

### 安全で安心な大学生活をサポート

行動範囲や社会的責任の広がる大学生活、事故や病気などの「万が一」に備えるため、「学生総合共済」に取り組んでいます。安い掛金で大学生活にぴったりの保障が自慢です。京都大学では約70%の学生・院生が加入し、給付金額は1年間（05年10月～06年9月）で636件、約3,579万円でした。事故や病気にあわないための予防活動や情報提供にも力を入れています。

### 京都大学の内外で大好評、 「京都大学オリジナルグッズ」

最近急増している京都大学への観光客や修学旅行生などから人気の京都大学オリジナルグッズも生協で販売しています。手頃なボールペン・レポート用紙・Tシャツ・タオルなどから、贈答に最適のクリスタル用品や時計のほか、「食べられるオリジナルグッズ」とし



【写真：左】ショップ内でのパソコンコーナー



【写真：右】同じく書籍コーナー

## 京都大学生協同組合各施設の営業時間

キャンパス（学部）	施設の名称	営業時間（平日）	取扱内容等	
吉田キャンパス 北部構内 (理・農)	食卓部	8:20～21:00	1階:カフェテリア食堂, 2階:喫茶(計250席)	
	購買部	10:00～18:00	文具・食品・日用品の販売等	
本部構内 (文・教・法・経・工)	中央食堂	8:00～21:00	カフェテリア食堂, 喫茶(計396席)	
	時計台生協ショップ	10:00～20:00	文具・食品・日用品の販売等 (薬品・クリーニングは10:00～17:00)	
	京大ショップ	10:00～17:00	京大オリジナルグッズ, 教員図書等	
	コンベンション・サービスセンター	10:00～17:30	JRチケット発券, イベントサポート, アルバイト紹介	
	生協本部	組合員センター	10:00～17:00	生協加入・脱退, 共済給付申請
	正門カフェレストラン「カンフォーラ」	9:00～22:00	カフェレストラン(計100席)	
吉田キャンパス 吉田南構内 (全学共通・総人)	吉田食堂	10:30～16:30	1階, 2階:カフェテリア食堂(計587席)	
	吉田ショップ	8:30～19:00	文具・食品・日用品の販売, 教科書販売等	
吉田キャンパス 医学部構内 (医・薬)	食卓部	11:00～17:00	カフェテリア食堂, 喫茶(計174席)	
	ショップ	10:00～18:00	文具・食品・書籍などの販売	
吉田キャンパス 西部構内	カフェテリア「ルネ」	11:00～22:00	カフェテリア食堂(計494席)	
	ショップルネ	パソコンコーナー	10:00～19:00	パソコン本体・パーツ・周辺機器・ソフトウェア
		書籍コーナー		教科書・参考書などの専門書, 一般書, 雑誌等, スタディガイド
		旅行, プレイガイド		海外・国内旅行, プレイガイド等
ルネ南側別館	11:00～17:00	住まいの斡旋, 自転車・バイク, 家具・家電リサイクル用品		
宇治キャンパス (各研究所)	食卓部	11:00～20:00	カフェテリア食堂(計168席)	
	購買部	10:30～18:00	文具・食品・日用品の販売等, JRチケット発券	
桂キャンパス	桂Bクラスター キャンパスショップ	10:00～18:00	文具・食品・日用品の販売等, JRチケット発券	
	桂Bクラスター カフェテリア食堂「セレネ」	11:00～21:00	カフェテリア食堂(計126席)	
	桂Bクラスター カフェ「アルテ」	9:00～20:00	喫茶(展望デッキ席もあります。計244席)	
	桂Aクラスター ショップ	10:00～20:00	文具・食品・日用品の販売等, JRチケット発券	
	桂Aクラスター ベーカーリーショップ「リュージュ」	8:00～20:00	焼きたてパン, 調理パン等	

詳しくは京都大学生協ホームページ <http://www.s-coop.net> をご覧ください。

て好評な八つ橋, かわらせんべい, 飴などに  
加え, 新しくチョコレートが仲間入りしました。  
また京大教員が考案した元素記号の立体周  
期表「エレメンタッチ」なども大学らしいと評  
判です。

### 京大受験生や, 新入生も 応援しています。

生協では京都大学を受験する皆さんの宿  
泊の手配も行い, 安心して受験していただ  
けるようお手伝いをしています。受験の不安を  
和らげようと, 受験生のサポートには在校生  
があたっています。

また毎年3月には新入生の住まい探しや生

【写真】百周年時計台記念館内  
にある「京大ショップ」。  
京都大学オリジナルグッズや京  
都大学の教員が執筆した書籍が  
購入できます。



活用品の購入ができる「新入生センター」を  
開設し, 京都大学での新生活がスムーズに  
始まるお手伝いをしています。

ほかにも, 京都大学オープンキャンパスで  
のキャンパスツアー開催や各種相談コーナー

の運営などを通して, これから京都大学を  
目指す人々へのサポート活動にも力を入れて  
います。

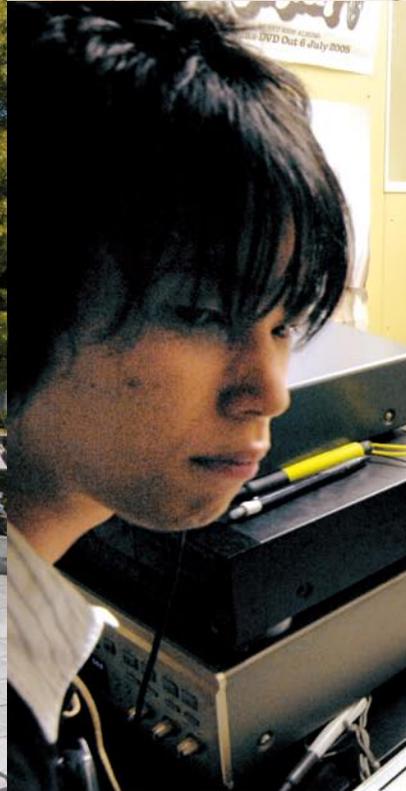


## 弓道部

「弓道は性別や体格の別なく誰もが等しく競い合えるスポーツです。私たちは2007年に新しく完成したばかりの道場で、男女一緒に大勢の仲間と稽古に励んでいます。皆さんが京都大学に入学したら、自分の学部だけでなくクラブ活動を通してより多くの人や世界に出会ってください。」



## グライダー部



## 文科系サークル (108 団体)

### 〔音楽・ダンス系〕

音楽部交響楽団  
軽音楽部  
音楽研究会  
合唱団  
グリークラブ  
アカペラサークル・CRAZY CLEF  
ギタークラブ  
マンドリンオーケストラ吹奏楽団  
リコーダー同好会  
E.M.B.G.  
軽音サークル・こんべいとう  
軽音サークル・ZETS  
吉田音楽製作所  
民族舞踊研究会  
ALL 京大舞踏研究会  
アマチュアダンスクラブ  
観風会  
千鳥会  
アンブラグド  
Egoistic Dancers  
エレクトーンサークル KUES

### 〔芸術・古典系〕

劇団ケツペキ  
劇団ペーパームーンシアター  
映画部  
映画文化研究会  
シネマ研究会  
雪だるまプロ  
漫画研究部  
アニメーション同好会  
創作サークル「名称未定」  
美術部  
美術研究会  
陶芸部  
写真部  
書道部  
能楽部観世会  
能楽部宝生会  
能楽部金剛会  
能楽部狂言会  
心茶会  
落語研究会  
囲碁部  
奇術研究会  
将棋部

### 遊劇隊

デジタル写真サークル Dig \* Photo

### 〔宗教系〕

キリスト者学生会  
基督教共助会  
平和哲学研究会  
古典に学ぶ会  
原理研究会

### 〔人文・社会・自然系〕

クイズ研究会  
RPG 研究会  
SF 研究会  
唯物論研究会  
京大に在籍する在日韓国・朝鮮人学生の集い  
韓国文化研究会  
京都大学韓国人留学生会  
京都大学留学生会  
アフリカ研究会  
京都ムスリム協会  
歴史研究会  
地理同好会

### 鉄道研究会

バス研究会  
天文同好会  
粋な科学の会  
生物科学の会  
ころぼっくる  
野生生物研究会  
都市公害問題研究会  
環境ネットワーク 4R の会  
環境サークルえこみっと  
社会科学研究会  
機械研究会  
E.S.S.  
エスぺラント語研究会  
児童文学研究会・紙風船  
点訳サークル  
手話サークル  
グッドサマリタンクラブ  
さいもんめ  
放送局・KUBS  
現代社会研究会  
アジア連帯！学生キャンペーン  
刑事法研究会  
探検部

### MPI (経営・政策勉強会)

京都大学かるた会  
きのこじき  
京都大学自然農研究会

### 〔その他〕

学生平和委員会  
人権研究センター  
ユネスコ学生クラブ  
ユニセフクラブ  
アイセック  
全学学生自治会同学生会  
西部講堂連絡協議会  
文化サークル連合  
応援団  
11 月祭全学実行委員会  
京都大学新聞社  
京大学生新聞会  
京都大学生協学生委員会  
京都大学院生協議会  
ボランティアサークル Aile  
ローバースカウトクラブ



## ラクロス部

「我々男子ラクロス部は過去3回の全日本選手権出場、2回の関西学生リーグ優勝を果たし、目標を日本一と設定して日々密度の濃い練習をしています。男子ラクロスには豪快なシュート、華麗なパス、観客を熱くさせる激しいボディコンタクトなど様々な見所があります。あなたもラクロスという新しい世界に挑戦してみませんか。」

# クラブ・サークル活動



## KUBS 京都大学放送局

昨年度 NHK 全国大学放送コンテスト 3 部門入賞！

「何かを作るためには設備も必要ですが、それよりも気の合う人と意見を交換することが大切です。色んな人が集まる京都大学なら、気の合う人に会えるチャンスもきっと広がります。京都大学に新たな扉を開きに来てください。」



## 居合道部

### 体育会所属の運動部 (48 団体)

- 合気道部
- アーチェリー部
- 居合道部
- ウェイトリフティング部
- 空手道部
- グライダー部
- 剣道部
- 硬式庭球部
- ゴルフ部
- サッカー部
- 自転車競技部
- 柔道部
- 少林寺拳法部
- スキー競技部
- 相撲部
- ソフトボール部
- 卓球部
- バスケットボール部
- バレー部
- ハンドボール部
- フィギュアスケート部
- ボウリング部
- ボクシング部
- ライフル射撃部
- ラグビー部
- アイスホッケー部
- アメリカンフットボール部
- ウィンドサーフィン部
- カヌー部
- 弓道部
- 剣道部
- 硬式野球部
- サイクリング部
- 山岳部
- 自動車部
- 準硬式野球部
- 水泳部
- スピードスケート部
- ソフトテニス部
- 体操部
- 馬術部
- バドミントン部
- バレーボール部
- フィールドホッケー部
- フェンシング部
- ボート部
- ヨット部
- ラクロス部
- 陸上競技部

### 体育会に所属していない体育系サークル (40 団体)

- 京都を歩く会
- 散策の会
- オリエンテーリングクラブ
- ワンダーフォーゲル部
- フリークライミングクラブ
- 神陵ヨットクラブ
- 硬式庭球同好会
- 硬式庭球同好会・フリーク
- KIDDY KIDS
- フレームショット
- 京大ソフトテニスサークル
- テニスサークル・JUST OUT
- 京大 T.C.T
- スキー同好会・スノーパンサー
- 基礎スキークラブ・ラスカル
- 青城サッカークラブ
- 飛翔会
- 持久走同好会
- メイプル・
- バスケットボール同好会
- バスケットボールサークル・
- フリークラブ
- バスケットボールサークル・L.E.D
- バレーボールサークル・JUSTICE
- 剣道同好会・指薪会
- 天之武産合気会
- 空手同好会
- 東洋医学拳法京都大学支部
- 太極拳同好会
- 圓和道部
- ソフトボール同好会・
- プレッシャーズ
- 卓球同好会 SMASH × SMASH
- バドミントンサークル・
- レモンスカッシュ
- アルパトロスゴルフ同好会
- アウトドアサークル・
- DOWN HILL
- バードマンチーム・
- シューティングスターズ
- BREEZE
- チアリーディングサークル
- TREVIS
- 有機農業研究会
- ブーメランサークル
- ウッドストック (軟式野球)
- Nekthy (フットサルサークル)

### 課外活動施設

- 北部グラウンド
- 北白川スポーツ会館
- 馬場 (厩舎)
- 吉田南グラウンド
- テニスコート
- 総合体育館
- 総合体育館附属プール
- バレーコート
- 弓道場
- アーチェリー場
- 相撲場 など
- 【学外の施設】
- 白馬山の家
- 白浜海の家
- 笹ヶ峰ヒュッテ
- 志賀高原ヒュッテ など





# 学部紹介

京都大学の10の学部についてご紹介します。

学部の特徴、教育カリキュラム、学ぶ事ができる科目などについて述べられています。また、各学部の在学学生や卒業生が自らの学部について語った生の声も収録しています。

みなさんが受験する学部を決める際の指針としてください。

36 — 総合人間学部

40 — 文学部

44 — 教育学部

48 — 法学部

52 — 経済学部

56 — 理学部

60 — 医学部

66 — 薬学部

70 — 工学部

74 — 農学部

## 総合人間学部が望む学生像

本学部の基本理念に共鳴し、積極的に総合人間学の開拓を志す学生、また文系・理系の既成の枠に縛られることなく、多様化する21世紀国際社会のリーダーたらしめる学生、未知の分野・未踏の地を恐れず限りない好奇心をもてる学生、学を究めるうえでその先に見えてくる新たな地平に無上の喜びを感じることでできる学生、本学部はそういう学生が門をたたくことを望んでいます。

## 総合人間学部への誘い

本学部は、平成4年10月1日に法令上設置され平成5年4月に第一期生を迎え入れました。京都大学で最も新しい学部です。

この学部を「総合人間学部」と名付けた理由は、ここで研究と教育が、自然と調和した人間の全体的形成を目標とするからです。「総合人間学」は、心理や思想といった内面、あるいは身体面からだけでなく、政治・経済・文化・歴史といった社会環境、さらには物質や生物などの自然環境との関係を含めて、人間存在のあらゆる面に光を当てようとする学問です。すなわち、人間と、人間をとりまく世界を、総合的に捉える学問の確立が、総合人間学部にとえられた課題です。

現代社会の危機感の中にあるわれわれは、人間自身を最大のテーマとして取り上げます。そうしてこそ初めて人類生存や文明の可能性が求められるからです。このような根本問題の追究は、従来のように高度に専門化された研究だけでは不可能でしょう。京都大学の自由な学風と伝統のもとに、既存の個別科学の枠を越えた、より多様で総合的な学問の場を提供すること、これをわれわれはめざしています。

総合人間学部は、人間・環境学研究科(大学院)に直結する学部として構成されています。専攻分野の細分化を避けて、1学部1学科制をとり、総合人間学科の下に、人間科学系、認知情報学系、国際文明学系、文化環境学系、自然科学系の5学系を設けました。時代の要請にもかかっています。

5学系全体で120名の入学生は、最初の1年間ほどの学系にも属しません。そして、自由に広い学問分野に触れた上で、2年進級時に自らの学系の主専攻を選択します。その際、「文系」「理系」のいずれの入学試験を経たかは問われません。また広い視野を持つ創造性豊かな人間を育成する目的で、副専攻制度を設けています。これは各自の主専攻の他に、異なる学問分野を系統的に履修することによって、幅広い専門知識を身につける制度です。副専攻を選択し、所定の単位を修得した場合は、卒業の際に、学位記と並んで主専攻・副専攻を明記した専攻認定書が発行されます。

[写真] 気象観測用繫留気球



## 総合人間学部の教育

### 5つの学系

総合人間学部には、5つの学系があります。

人間をめぐる現代の複雑な状況は、過去の人間について蓄積された叢智の上に、人間についての根源的、総合的理解を緊急に行う必要性を提起しています。このような必要性に応えるため、思想、社会、文化の3方面から人間の総合的な把握がなされねばなりません。この3側面から現代の人間を系統的に学ぶことによって、従来存在しなかった新しいタイプの人材を養成するため、「人間科学系」が設置されています。また、今日、人間と機械の情報処理の問題を総合的に学ぶことは、焦眉の急務となっています。脳の機能とは何かから、人間の認知、行動発言、言語機能の探求、その基礎にある情報科学と数理科学にいたるまで深く学ぶために「認知情報学系」が設置されています。

世界のグローバル化が進む状況のなかで、西洋ならびに近代主義と、非西洋とその固有の文明を複眼的に捉えることが要請されています。近代主義を主として社会科学領域や歴史文化研究の側面から分析し、いち早く近代化した日本のあり方を検討するとともに、東アジアとの比較を行うことによって国際的で新しい文明の理念を構築するために、「国際文明学系」が設置されています。また、世界各地の固有の民族性や地域性、人間にとって基本的な居住の視角から各文明の特質を解明し、文明相互の交流を理解するために「文化環境学系」が設置されています。

さらに自然を理解し、人間と自然の共生を保持するために、多様な自然現象を物理科学、物質科学、生物科学、地球科学的手法によって探求し、自然現象の構造や基本原理を明らかにする必要があります。自然科学の諸分野の基礎を学ぶとともに、自然と人間の共生関係を維持するための自然観・物質観念を養成するために「自然科学系」が設置されています。

以上5学系から総合人間学部・総合人間学科が構成され、それらのダイナミックな連携のもとでの教育と研究をめざしています。

### 専攻の決定

前期日程「文系」、前期日程「理系」という入学試験の形態にかかわらず、本学部入学生はすべて、入学後1年間、どの学系にも分属しません。自由な学風のなかで、幅広い学問分野に触れ、自分の専攻する分野を見極めた上で、2年進級時に主専攻を決めて、学系に分属されます。

### 4年一環教育

柔軟で広い視野をもつ知性の涵養を目的とした全学共通科目と、総合人間学部固有の授業科目を、4年間を通じて有機的に結合させたカリキュラムで実施します。大学院「人間・環境学研究科」の教員が、総合人間学部の学部教育を担当し、指導教員となっています。また、卒業研究指導教員とは別に、教員アドバイザー制度を設け、履修上の指導と学生生活上の相談に応じます。

### 副専攻制度

総合人間学部では、広い視野を持ち創造性豊かな人間を育成する目的で、主専攻のほかに、副専攻の制度を設けています。副専攻は、各自が所属する学系の専門分野以外の特定の分野を系統的に履修する制度です。これによって、専門以外の分野にも深い知識と素養を身につけることができます。副専攻は、指導教員とよく相談の上、各自で選択します。副専攻を修得したことに対しては学士の学位記とは別に副専攻名を記した認定書が発行されます。

## 大学院「人間・環境学研究科」

総合人間学部の大学院進学志望者の多くは、「人間・環境学研究科」を受験して進学しています。また、本学の他の各研究科や他大学の大学院に進学することもできます。「人間・環境学研究科」には、次の3専攻が設けられています。

### 共生人間学専攻

本専攻では、「人間相互の共生」という視点をふまえて、社会や文化の中に生きる人間存在のありようを探求し、人間同志が共に生きるなかから生まれる諸問題を解決できる人材を育成するための教育研究を行ないます。このため、人間社会論講座、思想文化論講座、認知・行動科学講座、数理科学講座、言語科学講座及び外国語教育論講座の6講座を設置しています。

### 共生文明学専攻

本専攻では、自然と人間・社会とを対峙させ、自然を制御することを文明の営みとしてきた西欧文明、及び自然との共生を文明の営みとしてきた地球上の他の文明を考察することによって、「文明相互の共生」を可能にする方策を探求し、関連する諸問題を解決できる人材を育成するための教育研究を行ないます。このため、現代文明論講座、比較文明論講座、文化・地域環境論講座及び歴史文化社会論講座の4講座を設置しています。

### 相関環境学専攻

本専攻では、従来の科学・技術・産業に内在する「開発」の論理を見直し、人類を含めた生態系の、全体としての存続に寄与することを志向する「人間と自然の共生」の論理を学問的営為に根づかせるべく、そのための新しい科学・技術のあり方を探求し、それとともに自然と人間との共生を図る新しい社会システムのあり方を模索し、関連する諸問題を解決できる人材を育成するための教育研究を行ないます。このため、共生社会環境論講座、分子・生命環境論講座、自然環境動態論講座及び物質相関論講座の4講座を設置しています。

■総合人間学部のホームページ：<http://www.h.kyoto-u.ac.jp/>

■入学についてのお問い合わせ：総合人間学部教務掛 **tel.075-753-6506**

## 在学生からのメッセージ



### 自分なりの「総合人間学」を

4回生  
白川 喜一 さん

私は入学以来、「環境」を一つのキーワードとして学んできました。現在は分析化学の研究室に所属し、主に琵琶湖の水質を対象とした研究をしています。今はまだ専門分野の知識や手法を学ぶので精一杯ですが、いずれは生態学、あるいは政策学といった他分野からのアプローチも加え、水環境を広い視野から捉えていければと思っています。

総合人間学部にはあらかじめ敷かれたレールのようなものがなく、進む方向が定まらずに迷うことが多々あります。そのため、自分が取り組みたい事の軸となる分野をなるべく早く見つけることも必要です。一方で異質な「面白さ」が至る所に散らばっているのがこの学部の良さでもあります。ここでの4年間を有意義なものにするのは、あなた自身の好奇心と積極性です。ぜひ楽しみながら、自分なりの道を拓いていって下さい。



### 自由な学びの場で

3回生  
大澤 友里恵 さん

自分のテーマを徹底的に追求できる場所、それが総合人間学部です。履修に関する制限が非常に少なく、いつ、何の授業を取るか、講義かゼミか、自分の関心に従い自由に選択することができるのは総人の大きな魅力でしょう。

私はこの自由さを活用し学生生活を送っています。転学部をして総人で学び始め、国際協力とアグリビジネスという二つの興味から他学部の授業も受けながら、理解を深めています。また、時間の自由が利くため、部活との日々の両立、スタディツアーへの参加などを通じて、幅広く刺激を受ける毎日です。今年はタイの大学への交換留学も決定しており、更に異なる視点から自分の課題を見つめることができる機会だと楽しみにしています。

大学における学びの場は至る所に広がっています。様々な場所で感じた刺激を是非総合人間学部での学びの糧として下さい。

## 卒業後の進路

[進学]

約5割が人間・環境学研究科等の大学院へ進学します。

[就職]

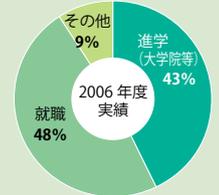
就職先は、官公庁や教育機関、マスコミやIT関連といった情報通信業、金融業、化学・電気・機械等のメーカー、広告会社等のサービス業等、総合人間学部の特色を示すように多岐に渡っており、卒業生は社会の広い分野で活躍しています。

就職先の例

トヨタ自動車、大阪ガス、JR東海、三井住友銀行、東京海上日動火災保険、花王、シャープ、富士通、日本写真印刷、NITTコミュニケーションズ、共同通信社、丸紅、高等学校教員、国土交通省

就職者内訳

製造業 14名/電気・ガス・熱供給・水道業 2名/情報通信業 15名/運輸業 1名/卸売・小売業 4名/金融・保険業 8名/不動産業 1名/飲食店・宿泊業 2名/教育・学習支援業 6名/サービス業 11名/国家・地方公務員 3名/その他 1名



## 総合人間学部で取得可能な資格

総合人間学部では、高等学校、中学校、養護学校の教育職員になることを目指す学生は、教育職員免許法の定めにより、所定の単位を修得し、所定の手続きを行えば免許状が取得できます。

また、博物館等の専門職員となるための学芸員の資格も、博物館法の定めにより、他学部の科目を修得することで、取得することができます。

総合人間学部で取得できる教育職員免許状の種類及び教科

種類	教科
中学校一種	国語, 社会, 数学, 理科, 保健体育, 英語, ドイツ語, フランス語
高等学校一種	国語, 地理歴史, 公民, 数学, 理科, 保健体育, 情報, 英語, ドイツ語, フランス語

## 卒業生からのメッセージ



### 知の可能性を拓く場所

2000年卒業  
京都大学大学院 人間・環境学研究科 助教  
松村 圭一郎 さん

高校時代、漠然と研究者になりたい、という思いを抱きながらも、既存の学問分野にはあまり魅力を感じることができず、総合人間学部に入りました。はじめはいろんな授業を受けてみたりと試行錯誤がありましたが、「文化人類学」という学問に出会って、すっかりその魅力にとりつかれてしまい、そのまま研究の道を歩むことになりました。

総合人間学部には、130名を超える教員がいて、さまざまな学問分野を身近に感じ、知ることができます。既存の枠組みにはおさまらない何か新しいことをやりたい、自分の未知の可能性を試してみたい。そんな思いを抱いている人にとって、この学部は、とても多くのものを得ることができる場所だと思います。みなさんもぜひ総合人間学部につまづいてたくさんの知の可能性をきり拓いてみてください。



### ふかく・ひろく

2006年卒業  
京都大学大学院 人間・環境学研究科  
修士課程2年  
久山 雄甫 さん

本欄をご覧のみなさんは、総合人間学部では様々な分野を幅広く学ぶのだと思われるかもしれませんが、確かに様々な領域を横断する学び方がここでは可能ですし、私もそれに惹かれてこの学部を選びました。ただし今では、とことん追及することのできる「自分のテーマ」を文・理という縛りなしに探ることができるという表現のほうが、この学部には適切だと思っています。私もまた、ある思想の持つ限りない「ふかさ」を知ることができたからこそ、一層この学部特有の幅の「ひろい」刺激を感じるようになりました。さらには一年間、交換留学制度を利用してドイツのハイデルベルク大学で学びましたが、様々な世界の経験も、たとえば語学や知識が身につけていればいるほど、充実したものになると思います。

みなさん、ともに「ふかく・ひろく」学びましょう。

## 学系紹介

### 人間科学系

本学系は、既存の人間についての知を踏襲しつつ、より包括的根底的な人間理解を目指しています。その道筋として3つが考えられます。第一は「思想」の方向で、人間存在の哲学的、倫理的解明ならびに芸術などの創造行為の思想的、歴史的解明です。第二は「社会」研究の方向で、社会的存在としての人間の形成や社会行動について実証的、理論的研究です。第三は「文化」研究の方向で、文学や映画などの文化現象についての歴史的社会的な研究です。「思想」、「社会」、「文化」の三方向はさらに以下の6分野から成り、それらは相互に有機的に連関し、人間についての知を刷新して、新たな総合的学構築を目指します。

人間存在論、創造行為論、人間形成論、社会行動論、文芸表象論、文化社会論

### 認知情報学系

脳、身体、言語、数理情報などに関する研究をおし、人間の多様な創造世界に関する理解を深めることが本学系の目的です。

人間同士、あるいは人間と環境との関わりは、脳、身体、言語等をインターフェイスとして行われています。環境の認識と環境への働きかけは脳内の認知機構と行動制御機構によって実現されるものです。人間相互のコミュニケーションは言語システムを媒体に行われ、それを媒介する計算機の情報処理には複雑な数理機構が関与しています。

本学系では、人間の健康や脳の機能から、人間の認知、行動発現、言語機能、そしてその基礎となる運動・代謝栄養医学、情報科学や数理学に至るまで、人間や機械の情報処理システムを総合的に学びます。その過程で、理系・文系という枠を超えた幅広い探究能力と、人間の認知行動の総合的理解に基づく科学的で柔軟な思考能力を身につけることを目指しています。

認知科学、行動制御学、身体機能論、現象数理論、数理情報論、言語情報科学、言語比較論、外国語教育論

### 国際文明学系

「タコツボ化」した社会諸科学や人文諸学が現代社会の直面する深刻な諸問題の解決に十全な有効性を発揮し得ないという指摘がなされるようになってすでに久しい。

学生諸君には、本学系が提供する社会科学系諸分野あるいは日本・東洋・西洋の歴史と文化に関する人文系諸分野のなかから特定のものを専攻として選択しその研究に従事する一方で、関連諸学を領域横断的に学び、言葉の真の意味での「ユニバーシティ」で学んだ人間であれば当然に体得すべき高度で幅広い教養（リベラル・アーツ）と柔軟な思考に裏づけられた専門知識の修得を心がけていただきたい。

「何をどう学ぶか」を自分自身で設計したいと願う意欲的で主体的な学生よ、来たれ。

文明構造論、現代社会論、国際社会論、歴史社会論、東アジア文化論、西欧文化論、共生社会環境論

### 文化環境学系

文化環境学系では、近代文明のグローバル化が進化する現代にあつて、その基層単位をなす世界各地固有の民族性や地域性、人間社会にとって基本的な居住の諸相の実態と、将来的な意義を見定める視座の確立を追求します。また、各文明の地域的特性を多角的に比較しながら、文明相互の交流とその文化的所産、さらには文明の自己相対化の諸相を複眼的な視点から解明します。

教育方針としては、文明に関して日本人の常識が必ずしも世界の常識ではないこと、文明はたえず交流変化しつつ、その自己同一性は長く保たれるという複雑な存在であることを理解し、文化や環境の諸問題を研究する上で、現場で学ぶことの重要性を身につけてもらいます。

授業は、大学院・人間環境学研究科の以下の研究分野に属する教員によって行われます。

多文化複合論、地域文明論、文明交流論、文化人類学、地域空間論、環境構成論

### 自然科学系

自然科学系は、物質や生命、地球・宇宙を支配する基本原理やその間の相関関係を理解することを目指した学系です。物理学、有機・無機化学、生物学、地球科学で構成されています。

それぞれの学問領域が持つ基本的な考え、知識を基礎とし、さらにその間の壁を越えて新しい領域を模索するために必要な教育と研究が行われています。自然科学の基礎に基づく「自然観」と、他の系での学修から得る「人間観」を組み合わせ、各自の「知」を求めることが目標となります。

講義は、大学院人間・環境学研究科の以下の研究分野に属する教員によって行われます。

分子環境相関論、生命環境相関論、生物環境動態論、地球環境動態論、物質物性相関論、物質機能相関論



気象観測用気球の繫留準備作業

## 専門科目

主専攻	科目
人間科学系	<p><b>【入門科目】</b> 人間科学入門</p> <p><b>【人間形成論関係】</b> 人間形成論、人間形成論演習ⅠA、人間形成論演習ⅠB、人間形成論演習ⅡA、人間形成論演習ⅡB、人間形成史論、人間形成史論演習A、人間形成史論演習B、関係発達論、関係発達論演習A、関係発達論演習B、精神病理学・精神分析学、精神分析学Ⅰ、精神分析学Ⅱ、精神病理学・精神分析学演習A、精神病理学・精神分析学演習B</p> <p><b>【社会行動論関係】</b> グループ・ダイナミクス実習A、グループ・ダイナミクス実習B、人間行動論、社会情報論、人間行動論演習A、人間行動論演習B、社会情報論演習A、社会情報論演習B、宗教現象学、生命倫理学、宗教学研究論演習A、宗教学研究論演習B、社会心理学演習A、社会心理学演習B</p> <p><b>【文化社会論関係】</b> ヒストリー・オブ・アイディアズⅠA、ヒストリー・オブ・アイディアズⅠB、ヒストリー・オブ・アイディアズⅡA、ヒストリー・オブ・アイディアズⅡB、ヒストリー・オブ・アイディアズ演習A、ヒストリー・オブ・アイディアズ演習B、動態映画文化論ⅠA、動態映画文化論ⅠB、動態映画文化論ⅡA、動態映画文化論ⅡB、動態映画文化論演習ⅠA、動態映画文化論演習ⅠB、動態映画文化論演習ⅡA、動態映画文化論演習ⅡB、制度・生活文化史ⅠA、制度・生活文化史ⅠB、制度・生活文化史ⅡA、制度・生活文化史ⅡB、制度・生活文化史演習ⅠA、制度・生活文化史演習ⅠB、制度・生活文化史演習ⅡA、制度・生活文化史演習ⅡB、メディア・スタディーズⅠA、メディア・スタディーズⅠB、メディア・スタディーズⅡA、メディア・スタディーズⅡB、メディア・スタディーズ演習A、メディア・スタディーズ演習B</p> <p><b>【人間存在論関係】</b> 自己存在論A、自己存在論B、自己存在論演習A、自己存在論演習B、認識人間学A、認識人間学B、認識人間学演習ⅠA、認識人間学演習ⅠB、認識人間学演習ⅡA、認識人間学演習ⅡB、人間実践論A、人間実践論B、人間実践論演習A、人間実践論演習B、環境存在論、環境規範論、環境存在論演習、環境規範論演習、人間存在論特殊講義A、人間存在論特殊講義B、人間存在論特別演習</p> <p><b>【創造行為論関係】</b> 創造行為論演習ⅠA、創造行為論演習ⅠB、創造行為論演習ⅡA、創造行為論演習ⅡB、近代芸術論演習A、近代芸術論演習B、近代芸術論A、近代芸術論B、舞台芸術論演習A、舞台芸術論演習B、舞台芸術論A、舞台芸術論B、創造ルネッサンス演習A、創造ルネッサンス演習B、創造ルネッサンス論A、創造ルネッサンス論B</p> <p><b>【文芸表象論関係】</b> 英米文芸表象論講義A、英米文芸表象論講義B、英米文芸表象論演習ⅠA、英米文芸表象論演習ⅠB、英米文芸表象論演習ⅡA、英米文芸表象論演習ⅡB、英米文芸表象論講義ⅠA、英米文芸表象論講義ⅠB、英米文芸表象論講義ⅡA、英米文芸表象論講義ⅡB、ドイツ文芸表象論講義A、ドイツ文芸表象論講義B、ドイツ文芸表象論演習A、ドイツ文芸表象論演習B、ドイツ文芸表象論講義A、ドイツ文芸表象論講義B</p>

専門科目

主専攻	科目
認知情報学系	<p>[入門科目] 認知・行動科学入門, 言語・数理情報科学入門</p> <p>[認知行動科学関係] 行動神経機能論, 行動神経機能論演習, 行動神経機能論実験, 行動神経機能論ゼミ1, 行動神経機能論ゼミ2, 行動制御学演習1, 生体情報論, 生体情報論演習, 神経機能論実験A, 生体情報論基礎ゼミ, 環境生理学, 環境生理学演習, 神経機能論実験B, 環境生理学基礎ゼミ, 認知機能論, 認知機能論演習, 認知機能論実験, 認知機能論ゼミA, 認知機能論ゼミB, 視覚認識論, 視覚認識論演習, 視覚科学実験, 細胞生理学, 細胞生理学演習, 細胞生理学実験, 細胞生理学ゼミA, 細胞生理学ゼミB, 運動医学, 運動医学演習, 運動医学実験, 呼吸循環機能論ゼミ, 神経・筋機能論ゼミ, 代謝機能論, 代謝機能論演習, 代謝機能論実験, 代謝機能論ゼミA, 代謝機能論ゼミB, 生活習慣と生体機能障害, 運動療法実験, 応用運動医学ゼミ, 分子運動医学ゼミ, トレーニング科学, 運動制御実験, 運動制御ゼミA, 運動制御ゼミB, 生体生理学実験, 生体生理学演習</p> <p>[数理情報論関係] 数理現象論A, 数理現象論B, 数理構造論A, 数理構造論B, 数理科学ゼミナール, 数理科学特論I, 数理科学特論II, 数理科学特論III, 複素解析B, 実解析A, 実解析B, 計算機科学の基礎A, 計算機科学の基礎B, 計算論, 計算と位相, 情報処理の方法と演習A, 情報処理の方法と演習B, 数理科学論講究, 情報科学のためのプログラミングI, 情報科学のためのプログラミングII, プログラミングとその応用I, プログラミングとその応用IIA, プログラミングとその応用IIB</p> <p>[言語科学関係] 言語構造論A, 言語構造論B, 言語構造論演習A, 言語構造論演習B, 言語機能論A, 言語機能論B, 言語機能論演習A, 言語機能論演習B, 言語認知論, 言語認知論演習A, 言語認知論演習B, 言語比較論A, 言語比較論B, 言語比較論演習A, 言語比較論演習B, 英語構造・表現論A, 英語構造・表現論B, 英語構造・表現論演習A, 英語構造・表現論演習B, 言語科学ゼミナールIA, 言語科学ゼミナールIB, 言語科学ゼミナールIIA, 言語科学ゼミナールIIB, 言語科学ゼミナールIIIA, 言語科学ゼミナールIIIB, 言語科学ゼミナールIIIA, 言語科学ゼミナールIIIB</p>
国際文明学系	<p>[入門科目] 国際文明学入門A, 国際文明学入門B</p> <p>[社会相関論関係] 文明構造論I A, 文明構造論I B, 文明構造論II A, 文明構造論II B, 文明構造論III A, 文明構造論III B, 文明構造論IV A, 文明構造論IV B, 文明構造論演習I A, 文明構造論演習I B, 文明構造論演習II A, 文明構造論演習II B, 文明構造論演習III A, 文明構造論演習III B, 文明構造論演習IV A, 文明構造論演習IV B, 現代社会論I A, 現代社会論I B, 現代社会論II A, 現代社会論II B, 現代社会論演習I A, 現代社会論演習I B, 現代社会論演習II A, 現代社会論演習II B, 現代経済文明論I A, 現代経済文明論I B, 現代経済文明論II A, 現代経済文明論II B, 多文化社会論I A, 多文化社会論I B, 多文化社会論II A, 多文化社会論II B, 多文化社会論演習I A, 多文化社会論演習I B, 多文化社会論演習II A, 多文化社会論演習II B, 国際関係論I A, 国際関係論I B, 国際関係論II A, 国際関係論II B, 国際関係論III A, 国際関係論III B, 国際関係論IV A, 国際関係論IV B, 地域研究基礎ゼミナールA, 地域研究基礎ゼミナールB, 国際関係論演習I A, 国際関係論演習I B, 国際関係論演習II A, 国際関係論演習II B, 公法原理論, 契約関係原理論, 国家・社会法システム論I A, 国家・社会法システム論I B, 国家・社会法システム論II A, 国家・社会法システム論II B, 国家・社会法システム論III A, 国家・社会法システム論III B, 国家・社会法システム論演習I A, 国家・社会法システム論演習I B, 国家・社会法システム論演習II A, 国家・社会法システム論演習II B, 社会経済システム論I A, 社会経済システム論I B, 社会経済システム論II A, 社会経済システム論II B, 社会経済システム論III A, 社会経済システム論III B, 社会統計論A, 社会統計論B, 社会統計論基礎ゼミナールA, 社会統計論基礎ゼミナールB, 社会経済システム論演習I A, 社会経済システム論演習I B, 社会経済システム論演習II A, 社会経済システム論演習II B, 社会経済システム論演習III A, 社会経済システム論演習III B, 社会統計論演習A, 社会統計論演習B, 比較経営組織論A, 比較経営組織論B, 公共政策論I A, 公共政策論I B, 公共政策論II A, 公共政策論II B, 公共政策論基礎ゼミナールII A, 公共政策論基礎ゼミナールIIB, 公共政策論演習I A, 公共政策論演習I B, 公共政策論演習II A, 公共政策論演習II B</p> <p>[歴史文化社会関係] 欧米歴史社会論I A, 欧米歴史社会論I B, 欧米歴史社会論II A, 欧米歴史社会論II B, 欧米歴史社会論演習I A, 欧米歴史社会論演習I B, 欧米歴史社会論演習II A, 欧米歴史社会論演習II B, 日本歴史文化論I A, 日本歴史文化論I B, 日本歴史文化論II A, 日本歴史文化論II B, 日本歴史文化論演習I A, 日本歴史文化論演習I B, 日本歴史文化論演習II A, 日本歴史文化論演習II B, 中国社会論I A, 中国社会論I B, 中国社会論II A, 中国社会論II B, 中国社会論演習I A, 中国社会論演習I B, 中国社会論演習II A, 中国社会論演習II B, 中国文字文化論, 中国書誌論, 中国古典講読A, 中国古典講読B, 中国文化論演習I A, 中国文化論演習I B, 中国文化論演習II A, 中国文化論演習II B, 日本語学・日本文学I A, 日本語学・日本文学I B, 日本語学・日本文学II A, 日本語学・日本文学II B, 日本語学・日本文学III A, 日本語学・日本文学III B, 日本宗教史論A, 日本宗教史論B, 日本語学・日本文学演習I A, 日本語学・日本文学演習I B, 日本語学・日本文学演習II A, 日本語学・日本文学演習II B, 日本語学・日本文学演習III A, 日本語学・日本文学演習III B, 書論・書写演習A, 書論・書写演習B, 古典講読A, 古典講読B, 日本語学文献講読A, 日本語学文献講読B, 西欧近現代表象文化論I A, 西欧近現代表象文化論I B, 西欧近現代表象文化論II A, 西欧近現代表象文化論II B, 西欧近現代表象文化論III A, 西欧近現代表象文化論III B, 西欧近現代表象文化論IV A, 西欧近現代表象文化論IV B, 西欧近現代表象文化論演習I A, 西欧近現代表象文化論演習I B, 西欧近現代表象文化論演習II A, 西欧近現代表象文化論演習II B, 西欧近現代表象文化論演習III A, 西欧近現代表象文化論演習III B, 西欧近現代表象文化論演習IV A, 西欧近現代表象文化論演習IV B, 西欧古代・中世表象文化論I A, 西欧古代・中世表象文化論I B, 西欧古代・中世表象文化論II A, 西欧古代・中世表象文化論II B, 西欧古代・中世表象文化論III A, 西欧古代・中世表象文化論III B, 西欧古代・中世表象文化論演習I A, 西欧古代・中世表象文化論演習I B, 西欧古代・中世表象文化論演習II A, 西欧古代・中世表象文化論演習II B, 西欧古代・中世表象文化論演習III A, 西欧古代・中世表象文化論演習III B</p>
文化環境学系	<p>[入門科目] 文化環境学入門A, 文化環境学入門B</p> <p>[比較文明論関係] ユーラシア文化複合論A, ユーラシア文化複合論B, ユーラシア文化複合論演習A, ユーラシア文化複合論演習B, ヨーロッパ・ユダヤ文化複合論A, ヨーロッパ・ユダヤ文化複合論B, ヨーロッパ・ユダヤ文化複合論演習A, ヨーロッパ・ユダヤ文化複合論演習B, 文化交渉複合論A, 文化交渉複合論B, 文化交渉複合論演習A, 文化交渉複合論演習B, 東北アジア文化・社会論A, 東北アジア文化・社会論B, 東北アジア文化・社会論演習A, 東北アジア文化・社会論演習B, 東ヨーロッパ比較言語論A, 東ヨーロッパ比較言語論B, 東ヨーロッパ比較言語論演習A, 東ヨーロッパ比較言語論演習B, 東アジア比較芸能論A, 東アジア比較芸能論B, 東アジア比較芸能論演習A, 東アジア比較芸能論演習B, 東アジア比較言語・文化論A, 東アジア比較言語・文化論B, 東アジア比較言語・文化論演習A, 東アジア比較言語・文化論演習B, 日欧知識交流史A, 日欧知識交流史B, 日欧知識交流史演習A, 日欧知識交流史演習B, 比較パラダイム文明論A, 比較パラダイム文明論B, 比較パラダイム文明論演習A, 比較パラダイム文明論演習B, 近現代民族移動論A, 近現代民族移動論B, 近現代民族移動論演習A, 近現代民族移動論演習B, 比較動態文化論A, 比較動態文化論B, 比較動態文化論演習A, 比較動態文化論演習B</p> <p>[文化・地域環境論関係] 環境構成論I, 環境構成論II, 環境構成論III, 環境構成論IV, 環境構成論演習I, 環境構成論演習II, 環境構成論演習III, 環境構成論演習IV, 環境構成論演習V, 環境構成論演習VI, 環境構成論演習VII, 環境構成論演習VIII, 環境構成論演習IX, 環境構成論演習X, 環境構成論演習XI, 環境構成論演習XII, 環境構成論演習XIII, 環境構成論演習XIV, 環境構成論演習XV, 環境構成論演習XVI, 環境構成論演習XVII, 環境構成論演習XVIII, 環境構成論演習XIX, 環境構成論演習XX, 環境構成論演習XXI, 環境構成論演習XXII, 環境構成論演習XXIII, 環境構成論演習XXIV, 環境構成論演習XXV, 環境構成論演習XXVI, 環境構成論演習XXVII, 環境構成論演習XXVIII, 環境構成論演習XXIX, 環境構成論演習XXX, 社会人類学演習A, 社会人類学演習B, 文化動態論演習A, 文化動態論演習B, 環境人類学演習A, 環境人類学演習B, 文化行為論A, 文化行為論B, 生態人類学演習A, 生態人類学演習B, 文化人類学方法A, 文化人類学方法B, 社会人類学方法A, 社会人類学方法B, 宗教人類学方法A, 宗教人類学方法B, 地域空間論I, 地域空間論II, 地域空間論III, 地域空間論IV, 地域空間論V, 地域空間論演習I, 地域空間論演習II, 地域空間論演習III</p>
自然科学系	<p>[入門科目] 自然科学入門</p> <p>自然科学英語, 量子力学, 物性基礎論I, 物性基礎論II, 物性特論I, 物性特論II, 流体力学, 物質分析論, 物質機能論, 物質構造論, 分子構造論, 分子反応論, 生体分子機能論A, 生体分子機能論B, 細胞生物学A, 細胞生物学B, 分子細胞生物学特論, 自然史特論, 生物適応変異論, 生物多様性・生態学, 物理学演習A, 物理学演習B, 物理数学演習, 物質構造機能論演習A, 物質構造機能論演習B, 分子構造機能論演習A, 分子構造機能論演習B, 分子細胞生物学演習, 自然史演習, 地球科学演習, 課題演習: 物理学・レーザー物理学, 課題演習: 物理学・構造と物性, 課題演習: 物理学・核磁気共鳴, 課題演習: 物理学・電子と波動, 課題演習: 物理学・物理の基礎A, 課題演習: 物理学・物理の基礎B, 課題演習: 物質の構造と機能, 課題演習: 分子の構造と機能, 課題演習: 生物学, 課題演習: 地球科学, 自然科学特別ゼミナールA, 自然科学特別ゼミナールB</p>

# 文学部

Faculty of Letters

## 文学部が望む学生像

言うまでもなく、文学部は詩人や小説家を養成する学部ではありません。そもそも、何か特定の職業に就いて生きるための訓練の場所ではないのです。それでは、何をやるのでしょうか。たとえば、人が仕事の手を休め、ふと我に帰って、自分の人生や家族や社会や時代について、ぼんやりと考えを巡らすとき、知らず知らずのうちに文学部の研究領域にそっと触れていると言えます。つまりその人は無意識の内に、人って何だろう、社会とは何かという根源的な問いの前に立っているのです。この種の省察は、生きる上ですぐに役立つものではありません。でも本当は、人が人である限り、大切にしなければならないものなのでしょう。それを問い、省察し、研究するのが私たちの文学部なのです。こうした立場に共感をおぼえ、狭い実利的な目的や関心とは必ずしも直結しない人文学の諸分野に対する強い学習意欲と研究への高い志をもつ新入生を本学部は歓迎します。

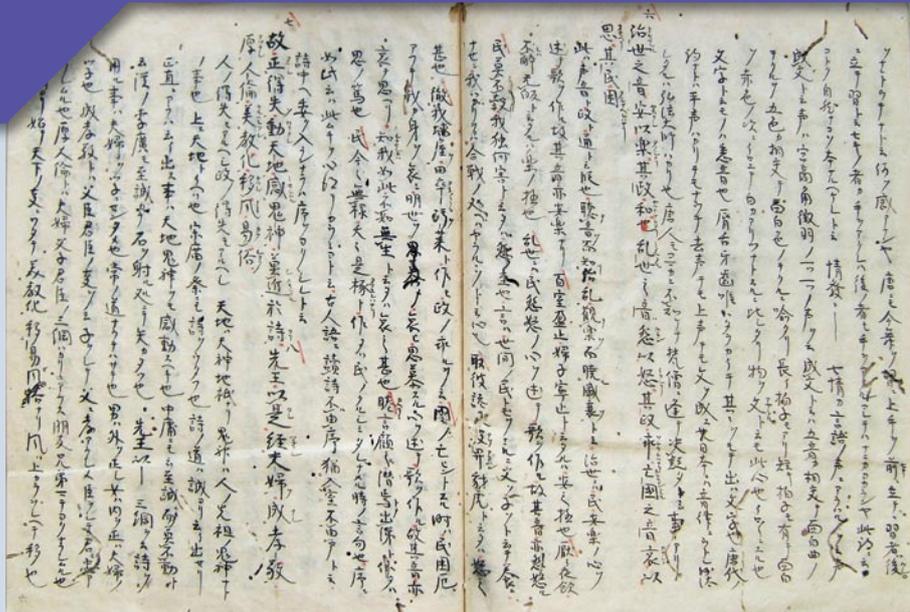
## 文学部への誘い

文学部は2006年に創立100周年を迎え、次の100年に向けて新たな一歩を踏み出しました。創立以来何度かの改組を経て、現在本学部には哲学基礎文化学系、東洋文化学系、西洋文化学系、歴史基礎文化学系、行動・環境文化学系、基礎現代文化学系の6つの系と、その中に32（大学院では31）の専修が設置され、人類の思想や言語文化、歴史、行動さらには文化全般に関する諸学問（狭義の人文学のみならず社会科学や自然科学の一部も含まれます）をカバーしています。

文学部の多種多様な研究を束ねる唯一のキーワードは、人間とその文化的営みです。ですからその研究は、人類文化の遙かな起源から現代まで、地理的にはこの日本から始まって地球の全域に及びます。そのため、文学部の広大な研究領域をカバーする系と専修も実に多種多様です。学部生は2回生になる時に6つの系のいずれかに仮分属し、さらに3回生で32の専修のいずれかに分属します。それぞれの専修は、教員と学生（＝学部生＋大学院生）からなる独立した研究室を形成しており、学部生は教員や大学院生と授業等の場を共有することを通して、多くのことを学んでゆきます。さらに研究室の多くは、他大学で研究者として活躍している卒業生を加えた研究会を運営しています。この研究室を中心にした独自のネットワークの裾野が、各専修の学問的伝統を支えているのです。

「京都学派」と呼ばれる独自の自由な学風を育み、各界に多数の人材を送り出してきた本学部は、わが国の数ある文学部の中でも特筆すべき位置を占めています。100年の歴史を通して培われた文学部の勉学環境は、他所ではなかなか体験できるものではありません。これから入学してこられる皆さんには、この文学部という知的交流の場にぜひ加わり、新風を吹き込んでほしいと願っています。

[写真]『毛詩国風篇聞書』



## 文学部の教育

### 国際化と新しい研究者の育成

他学部と同様、文学部における教育の大きな目標は研究者の養成にあります。日本研究であれ、外国研究であれ、国内の評価だけで研究者として認められた時代は終わりました。今では国際交流の活発化によって、哲学、歴史、文学、行動文化学、いずれの分野でも、国際化が進行しつつあります。その中で、日本人研究者は世界の研究者と対等に渡り合い、自分の研究の価値を世界に認めさせ、国際研究水準の引き上げに寄与し、最終的には世界の研究者が、ナショナルリズムの垣根を乗り越えて、相互理解の共通基盤に立つよう努めなければなりません。そのために文学部では学部生の段階から、外国留学や外国人研究者との交流、さらには専修横断の学際的な公開シンポジウムなどへの参加を通じて、国際スタンダードにかなった研究者を育てようとしています。

### 文学部の4年間

文学部の学生が1回生の時に履修する科目はほとんどが全学共通科目で、ごく少数のものを除いて学部専門科目の履修は2回生になってからです。学年が進むにつれて勉強する分野が限定されがちですので、1・2回生の間はできるだけ幅広い学問分野に触れておいた方が長期的にみればプラスになるでしょう。また、この時期は所属の専修が決まっていらないとはいえ、ある程度将来分属する専修を念頭においてそれぞれに必要な外国語を勉強しておくことが望まれます。

2回生になるときは、3回生で専修に分属する準備として6つの系に仮分属します。文学部は理工系の学部と比べると規模は小さいですが、32の専修があり、その研究内容は千差万別といってもよいくらいです。多くの専修での研究内容は皆さんにとっては未知のものですから、どのようにして専修を決定すればよいか、とまどうかもしれません。そこで、2回生では、1回生の秋に行った希望調査に従って系に仮分属し、各専修が開講している入門講義や基礎演習といった学部専門科目を履修して、2回生の秋に希望専修を決定する準備をします。もちろん3回生になって専修に分属する際には、他の系の専修に分属することもできます。2回生で履修する文学部英語や各国語の文献講読は系の分属に従ったクラス編成のもとで行われます。これは、各専門分野に関連した文献を読解するためのものです。

3 年生では本格的な専門教育が始まります。各専修に所属して、講義の他、演習や特殊講義といった専門的な授業を履修しますが、中には大学院生と席を並べるものもあります。そのような授業では、大学院生と同じ資格で報告を行ったり、討議に参加することになります。最初は圧倒されてとまどうかもしれませんが、大学院生の真剣な態度から学問研究というもの身近に感じられるようになるでしょう。他学部比べて文献講読の形式をとる授業が多いかもしれませんが、専修によっては実験や野外実習（フィールドワーク）を課しているところもあります。

4 年生では、卒業論文の作成が勉強の中心になります。各自が自ら論文のテーマを決定し、資料を集めて分析し、論文にまとめていく過程は、皆さんにとっては初めてのことで、ときには苦しいかもしれませんが、一つのを完成することの重要性を学ぶことができるでしょう。この経験は卒業以後の社会生活にとっても非常に有意義なものです。そして大学院へ進学して研究を進めようと考えている人にとっては、卒業論文が本格的な研究の最初の一步となります。

■文学部のホームページ：<http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/index-j.html>

■入学についてのお問い合わせ：文学部第一教務掛 **tel.075-753-2709**

## 在学生からのメッセージ



### 文学部 —— 多様な学問の世界

科学哲学科学史専修 3 年生

衛藤 良太 さん

「進化論の統合」、「量子力学の誕生」、「チューリングマシン」。驚かれるかもしれませんが、これらはどれもみな私が受講している専門科目のテーマです。私の専攻する科学哲学科学史は、哲学・歴史学という観点から科学を読み解くことを目指す学問であり、文理の壁を超えた複合領域を研究の対象としています。

このように京都大学の文学部は、国文学や日本史学、哲学といった文学部の王道といわれる分野から、私が属している科学哲学科学史のような分野まで、実に多様な学問を学べる機会を提供してくれます。この多様性がこそ文学部の魅力であり、多くの人にその門戸を叩かせる要因となっているのではないのでしょうか。

文学部への入学を志すみなさんは、この多様性に過剰なまでの期待を持っていてもよいと思います。



### 飛び込んでおいで!

社会学専修 4 年生

平井 咲子 さん

大学を出た後何をするか? 何を求めて大学に入るか? こんなことに悩む人、結構いるんじゃないでしょうか? 私もそのひとり、さんざん悩んだけど、そのときの結論は「大学入ってから探そう」というものでした。そして結局、1 つの学部の中に多くの専修があって色々なことを勉強でき、選択肢が広がりそうな京大文学部に行くことを決めました。

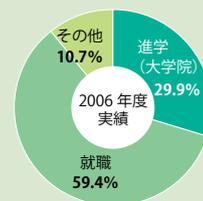
自分がこの先どうなりたいか、その答えは、文学部の多種多様な授業、日本の人文科学の最先端をいく先生方や最高の友達との出会い、また就職活動を通して見えてきます。

今考えたら、大学を選ぶという短い時間にその先の長い人生のことを決める必要はないし、大学に入ってからいろんな人に出会っている人なものを見て、ゆーっくり考えればそれでいいと思います。京大文学部は、迷ってる人には自由にゆーっくりものを考える時間を与え、迷ってない人はがっつり鍛えてくれる。そんな場所です。

だから迷ってる人も迷ってない人も、とりあえず、飛び込んでおいで!

## 卒業後の進路

ここ数年は、就職者が 55% 前後、大学院進学者が 30% 前後、他大学や各種学校への進学者が 3% 前後で、男女別に見てもその割合は大きな変化はありません。就職者の特徴としては、これまでは、公務員、教員、マスコミ関係が多数を占めていましたが、最近では情報通信業に就く割合が高くなってきました。また、一つの企業等に集中して就職するのではなく、幅広い業種に分散しているのが、大きな特徴です。



就職先の例  
紀伊屋書店、エム・アイ・ティー(MIT)、ソラン、みずほフィナンシャルグループ、三菱重工業、読売新聞社、読売テレビ放送、関西電力、TBS テレビ、UBS 証券

## 文学部で取得可能な資格

文学部では、教育職員免許状の取得を目的とした教職課程をはじめ、博物館学芸員の資格取得の教育課程を設けています。また、地理学専修の卒業生で測量に関する科目を修得し、卒業後 1 年以上測量に関する実務を経験した者は、測量士の資格を取得できます。他に、教育学部開講の所定の科目を履修することによって、図書館司書、学校図書館司書教諭の資格を取得できます。

取得できる教職免許：中学校一種（国語・社会・英語・仏語・中国語・宗教）、高等学校一種（国語・地理歴史・公民・英語・仏語・中国語・宗教）

## 卒業生からのメッセージ



### 発掘調査は面白い

2000 年 考古学専修卒業  
大阪府教育委員会事務局 勤務

土屋 みづほ さん

初めて参加した発掘調査で「発見する」おもしろさに惹かれ、考古学を専攻しました。学年があがり、主導的な立場で調査に臨むようになるにつれ、調査方法を「考え」、調査結果を「解釈する」ことの魅力も増していききました。泊まりこみの調査にもしばしば参加しましたが、調査の進め方について夜遅くまで議論したこともありました。

現在は、行政組織の考古学技師として、調査のほか、文化財の保存活用など、文化財保護に関わる様々な仕事に携わっています。大学で学んだ考古学の知識や発掘調査技術と直結しているのはもちろんですが、議論を重ねて手順を決め、より適切な方法で物事を進めていくという調査での経験は、業務全般で役立っていると感じます。



### 文学部での学生生活を振り返って

2004 年 アメリカ文学専修卒業  
NHK 勤務

吉田 宗功 さん

大学院まで 7 年間文学部に在籍しました。一口に文学部といっても、人により研究している内容は様々です。

僕は自身はアメリカ文学を専攻し、H.メルヴィルという 19 世紀の作家を研究しました。作品を丁寧に読み解く中で、彼の思考の癖や一語一語に込めた思いなどが少しずつわかるようになってきました。さらに参考文献を読むことで、メルヴィルの小説世界の豊かさを学びました。自分とは遠い世界が自分の中に広がっていく——これが文学部の魅力だと思います。

医学や薬学などのように世の中に直接、貢献出来ることは少ないし、文学部で勉強したことが必ずしも就職につながるわけでもない。しかし、一人の作家と向き合ってきたことは、きっと自分のどこかを豊かにしてくれたはずだ。

こんな僕の話に興味をもってくれたあなた、文学部に適性ありですよ。

## 学科紹介

### 哲学基礎文化学系

ここは、様々な文化圏・言語圏において蓄積されてきた哲学・思想を学び、新しい時代の思想の担い手たらんとする人材を育成する「場」です。そこはまた、社会や他の学問領域において自明とされている事柄が、原点に立ち返って問い直される「場」でもあります。「殺人は悪。」これは現代日本の常識です。でも、その根拠は何でしょう。そもそも「善・悪」の区別には、どんな意味があるのでしょうか。また科学や歴史学は「実証的な学問」を目指しています。しかし、ここで標榜されている「実証性」とは一体何なのでしょう。これらの問いを問うことは、文系・理系の枠を超えた人間の知的営み全般へと眼差しを向けることでもあります。哲学基礎文化学系とは、そんな知的野心あふれる「場」でもあるのです。

哲学、西洋哲学史(古代・中世・近世)、日本哲学史、倫理学、宗教学、キリスト教学、美学美術史(美学・芸術学、美術史学、比較芸術学)

### 東洋文化学系

東洋文化学の5つの専修の名前から分かるように、「東洋文化学」の「東洋」は、日本、中国、インドのそれぞれを中心とした三つの文化圏を研究対象としています。それらの地域の文学、思想、語学、文化を歴史的に考察して行くのが、本系の主たる研究分野です。ただ、日本の文化は、中国文化の影響が大きく、中国文化はインド文化の影響を受けているので、隣接する国の文化の研究にも注意を払う必要があります。インド古典学では、紀元前から存在する多くの古典から、現代の口頭伝承までを研究対象としており、仏教学では、インドからチベット、中国周辺の仏教の研究を行います。中国関係では、専門教育の前に、中国語の学習をしていることが望ましく、インド古典、仏教学では、サンスクリットなど関係諸語、また英語、フランス語、ドイツ語の習得を重視しています。

国語学国文学、中国語学中国文学、中国哲学史、インド古典学、仏教学

### 西洋文化学系

西洋文化学系は、ヨーロッパおよびアメリカの文化と社会について、主として文学と言語の視点に立って研究教育を行っています。取り扱われる時代は、古典古代から中世、近代、現代までと広範囲にわたっています。どのような研究対象を選ぶにせよ、文献資料の正確な読解と整理が研究の基礎となるため、まず最初に十分な語学能力を養うことが大切です。また図書館には貴重な文献が多数所蔵されており、有効に活用することができます。西洋文化学系は次の7つの専修からなり、それぞれの文化圏の文学、言語、芸術、思想、社会に関心をもつ学生諸君を待っています。

西洋古典学、スラブ語学スラブ文学、ドイツ語学ドイツ文学、英語学英文学、アメリカ文学、フランス語学フランス文学、イタリア語学イタリア文学

### 歴史基礎文化学系

歴史基礎文化学系は、日本史学・東洋史学・西南アジア史学・西洋史学・考古学の5つの専修科目によって構成されています。文献史料を主な材料とする前四者と考古学では、研究方法は大きく異なりますが、いずれも人類社会の発展の状況を時間軸に沿って跡づけ、考察しようとする点では共通しています。また、文献・史料を読み解く基礎学力を重視し、演習・実習の授業の充実にも努めている点も5専修の共通点です。

文学部の図書室だけでなく、附属図書館・博物館や人文科学研究所などの近隣の施設に豊富な史料が所蔵されています。また、他の系で行われている授業—たとえば、地理学や現代史学、東西の古典語など—を合わせて学ぶことにより、人類文化の営みを総合的にとらえる視点を獲得することができます。とても恵まれた学習環境にあると言えるでしょう。

日本史学、東洋史学、西南アジア史学、西洋史学、考古学

### 行動・環境文化学系

心理学専修では、心の働きを実験を通して研究しています。基礎心理学、実験心理学、基礎行動学、行動学、認知心理学を中心とする基礎的領域を扱い臨床心理学は含みません。

言語学専修では、人間の言語が機能する仕組みについての理論的研究、現在話されている言語を調査・分析し記述する研究、古文書を読み言語の変化や、文献以前の言語について推定する研究などが行われています。

社会学専修では、社会の構造や変化、人々の関係、文化などについて研究します。地域、家族、ジェンダー、メディア、福祉、環境など様々なトピックを扱い、社会調査に力を入れています。

地理学専修では、地域の形成過程や地域構造の分析を通して、地表空間における様々な人間活動を研究しています。地理学、地域環境学、環境動態論の各小分野では、地域現象全般、人間と環境の関係、景観とその変遷を対象とした研究を扱っています。

各専修ではそれぞれの分野について固有の基礎的な方法を修得することが不可欠です。講義内容を十分理解するために1、2回生から入門的講義、演習、実習や講読の必須科目を設定しています。

心理学、言語学、社会学、地理学

### 基礎現代文化学系

基礎現代文化学系は、科学哲学科学史、二十世紀学、現代史学、情報・史料学という4つの研究分野からなる小さな系ですが、現代の文化と社会について、人文学の視点から考察することを目指しています。現代は、人類史においてもっとも大きな変貌を遂げた時代だと言われます。その変貌を捉えるために、哲学や歴史、思想、文学といった従来の研究分野のみならず、映像や科学、情報といった現代文化を特徴づけるものではあるが、これまで人文学ではあまり扱われてこなかった分野にも視野に入れ、私たちの生きている現代をつねにグローバルな視点に立って考える学際的な研究を行っています。

科学哲学科学史、情報・史料学、二十世紀学、現代史学

## 専門科目 (学部共通科目)

1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
サンスクリット(2時間コース)、現代インド語(ヒンディー語)	博物館学Ⅰ、博物館学Ⅱ、博物館学Ⅲ、博物館学実習、ギリシア語(2時間コース)、ギリシア語(4時間コース)、ラテン語(2時間コース)、ラテン語(4時間コース)、スペイン語(初級)、スペイン語(中級)、イタリア語(初級4時間コース)、イタリア語会話(中級)、朝鮮語(初級)、朝鮮語(中級)、サンスクリット(4時間コース)、チベット語(初級)、アラブ語(初級)、ポーランド語(初級) モンゴル語、オランダ語、リトニア語、英語、英語論文作成法、情報処理、情報処理、書道	ヘブライ語、イラン語(初級)、チベット語(中級)、リトニア語	

専門科目 (系別科目)

系	1 年生～	2 年生～	3 年生～	4 年生
哲学基礎文化学系		系共通科目(哲学)講義,系共通科目(西洋古代哲学史)講義,系共通科目(西洋中世哲学史)講義,系共通科目(西洋近世哲学史)講義,系共通科目(日本哲学史)講義,系共通科目(倫理学)講義,系共通科目(宗教学)講義,系共通科目(キリスト教学)講義,系共通科目(美学)講義,系共通科目(美術史学)講義,哲学演習,西洋哲学史講読,日本哲学史講読,美学美術史学講読	哲学特殊講義,哲学演習,西洋哲学史特殊講義,西洋哲学史演習,日本哲学史特殊講義,日本哲学史演習,倫理学特殊講義,倫理学演習,宗教学特殊講義,宗教学演習,宗教学講読,キリスト教学特殊講義,キリスト教学演習,キリスト教学講読,美学美術史学特殊講義,美学美術史学演習Ⅰ,美学美術史学演習Ⅱ,美学美術史学演習Ⅲ	卒業論文(哲学),卒業論文(西洋哲学史),卒業論文(日本哲学史),卒業論文(倫理学),卒業論文(宗教学),卒業論文(キリスト教学),卒業論文(美学美術史学)
東洋文化学系	系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)講義,系共通科目(インド哲学史)講義,系共通科目(仏教学)講義	系共通科目(国語学)講義,系共通科目(国文学)講義,系共通科目(中国語学)講義,系共通科目(中国文学)講義,系共通科目(中国哲学史)講義,国語学国文学講読,中国語学中国文学講読,中国哲学史講読,インド古典学演習	国語学国文学特殊講義,国語学国文学演習,中国語学中国文学特殊講義,中国語学中国文学演習,中国語学中国文学外国人実習,中国哲学史特殊講義,中国哲学史演習,インド古典学特殊講義,インド古典学演習,インド古典学講読,仏教学特殊講義,仏教学演習,仏教学講読Ⅰ,仏教学講読Ⅱ	国語学国文学演習,卒業論文(国語学国文学),中国語学中国文学演習,卒業論文(中国語学中国文学),卒業論文(中国哲学史),卒業論文(インド古典学),卒業論文(仏教学)
西洋文化学系	系共通科目(西洋古典学)講義,系共通科目(イタリア語学イタリア文学)講義	系共通科目(スラブ語学スラブ文学)講義,系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)講義,系共通科目(英語学)講義,系共通科目(アメリカ文学)講義,系共通科目(フランス語学)講義,系共通科目(フランス文学)講義,西洋古典学講読,スラブ語学スラブ文学講読,ドイツ語学ドイツ文学講読,ドイツ語学ドイツ文学外国人実習,英語学英文学外国人実習,アメリカ文学講読,アメリカ文学外国人実習,フランス語学フランス文学演習,フランス語学フランス文学講読,イタリア語学イタリア文学講読	西洋古典学特殊講義,西洋古典学演習,スラブ語学スラブ文学特殊講義,スラブ語学スラブ文学演習,スラブ語学スラブ文学講読,ドイツ語学ドイツ文学特殊講義,ドイツ語学ドイツ文学演習Ⅰ,ドイツ語学ドイツ文学演習Ⅱ,ドイツ語学ドイツ文学演習Ⅲ,英語学英文学特殊講義,英語学英文学演習Ⅰ,アメリカ文学特殊講義,アメリカ文学演習Ⅰ,フランス語学フランス文学特殊講義,フランス語学フランス文学演習Ⅰ,フランス語学フランス文学演習,フランス語学フランス文学外国人実習,イタリア語学イタリア文学特殊講義,イタリア語学イタリア文学演習,イタリア語学イタリア文学外国人実習	卒業論文(西洋古典学),卒業論文(スラブ語学スラブ文学),卒業論文(ドイツ語学ドイツ文学),卒業論文(英語学英文学),卒業論文(アメリカ文学),卒業論文(フランス語学フランス文学演習Ⅰ),卒業論文(フランス語学フランス文学演習Ⅱ),卒業論文(フランス語学フランス文学),卒業論文(イタリア語学イタリア文学)
歴史基礎文化学系	系共通科目(考古学)講義,系共通科目(先史学)講義	系共通科目(日本史学)講義,系共通科目(東洋史学)講義,系共通科目(西南アジア史学)講義,系共通科目(西洋史学)講義,日本史学講読,東洋史学講読,西洋史学講読,考古学実習	日本史学特殊講義,日本史学演習Ⅰ,日本史学実習,東洋史学特殊講義,東洋史学演習Ⅰ,東洋史学演習Ⅱ,東洋史学演習Ⅲ,東洋史学演習Ⅳ,東洋史学演習Ⅴ,東洋史学演習,東洋史学実習,西南アジア史学特殊講義,西南アジア史学演習Ⅰ,西南アジア史学演習Ⅱ,西南アジア史学講読,西南アジア史学実習,西洋史学特殊講義,西洋史学演習Ⅰ,西洋史学演習Ⅱ,西洋史学演習Ⅲ,西洋史学講読,西洋史学実習,考古学特殊講義,考古学演習Ⅰ,考古学演習Ⅱ	日本史学演習Ⅱ,日本史学実習,卒業論文(日本史学),卒業論文(東洋史学),卒業論文(西南アジア史学),西洋史学演習Ⅴ,卒業論文(西洋史学),考古学演習Ⅲ,卒業論文(考古学)
行動・環境文化学系	系共通科目(言語学)講義Ⅰ	系共通科目(心理学)講義Ⅰ,系共通科目(言語学)講義Ⅱ,系共通科目(社会学)講義,系共通科目(地理学)講義,心理学実習Ⅰ,心理学実習Ⅱ,言語学基礎演習,社会学特殊講義,地理学講読,地理学実習	系共通科目(心理学)講義Ⅱa,系共通科目(心理学)講義Ⅱb,系共通科目(心理学)講義Ⅱc,系共通科目(心理学)講義Ⅱd,系共通科目(心理学)講義Ⅱe,心理学講義,心理学特殊講義,心理学演習Ⅰ,心理学講読,心理学実習Ⅲ,言語学特殊講義,言語学演習,言語学卒論演習,社会学特殊講義,社会学演習,社会学講読,社会学実習,地理学特殊講義,地理学演習Ⅰ,地理学講読	心理学演習Ⅱ,卒業論文(心理学),卒業論文(言語学),社会学演習,卒業論文(社会学),地理学演習Ⅱ,卒業論文(地理学)
基礎現代文化学系	系共通科目(科学史)講義,系共通科目(情報・史料学)講義	系共通科目(科学哲学)講義,系共通科目(二十世紀学)講義,系共通科目(現代史学)講義,系共通科目(日本現代史)講義,系共通科目(基礎現代文化学)基礎演習Ⅰ,系共通科目(基礎現代文化学)基礎演習Ⅱ,系共通科目(基礎現代文化学)情報技術演習,系共通科目(基礎現代文化学)講読Ⅰ,系共通科目(基礎現代文化学)講読Ⅱ,系共通科目(基礎現代文化学)講読Ⅲ,系共通科目(基礎現代文化学)講読Ⅳ,系共通科目(基礎現代文化学)講読Ⅴ,系共通科目(基礎現代文化学)講読Ⅵ	系共通科目(基礎現代文化学)講読Ⅳ,科学哲学科学史特殊講義,科学哲学科学史演習,情報・史料学特殊講義,情報・史料学演習,二十世紀学特殊講義,二十世紀学演習Ⅰ,二十世紀学演習Ⅱ,現代史学特殊講義,現代史学演習Ⅰ,現代史学演習Ⅱ	科学哲学科学史演習,卒業論文(科学哲学科学史),情報・史料学卒論演習,卒業論文(情報・史料学),二十世紀学卒論演習,卒業論文(二十世紀学),現代史学卒論演習,卒業論文(現代史学)

## 教育学部が求める学生像

20世紀は教育が学校中心に機能した学校教育社会でした。しかし、21世紀は学校社会だけでなく、社会のさまざまな場所と一人ひとりの人生のさまざまな局面とにおいて、人間形成の営みがゆるやかにネットワーク化される「人間形成社会」が出現すると予想されます。これからの教育学は、この「人間形成社会」の展開過程で必要になる、新しい種類の〈教育〉を創造するという課題に取り組まなければならない。

そのため、教育学部では、人間と社会について深い関心と洞察力をもち、柔軟な思考と豊かな想像力に富む学生を求めています。

## 教育学部への誘い

教育学部は、戦後の学制改革にあたって、教育という広範で複雑な諸事象とその学問的基礎となるべき教育諸科学の重要性にかんがみ、教育諸科学の総合的な研究・教育にあたる学部として発足しました。

同時に学部発足以来、本学の全学部学生のために教育職員を養成するための教職課程の運営と教育に当たると共に、現職教員の再教育にも力を注いでいます。また、いったん他の学問分野で専門教育を受けた者、あるいは大学卒業後社会経験を積んだ者で再度本学部に入學して教育諸科学の勉学を望む者が近年増加しているのを受けて、昭和58年4月から一般社会人を含めた国内外の大学卒業者の第3年次編入学を行っています。さらに戦後の社会の急速な変化に伴う青少年の発達上の問題に関わる教育相談と治療を行うため、それまでの実践的蓄積をもとに、昭和55年から心理教育相談室が開設され平成9年4月には、それを発展させた臨床教育実践研究センターが設置されました。また、教育学部においては、平成10年4月から、基礎教育に重点を置き、幅広い視野を得ることを目的として教育科学科に統合し、3系制（現代教育基礎学・教育心理学・相関教育システム論）に再編しました。平成11年4月からは教育科学専攻に専修コース（修士課程）が設置され、大学院が高度な専門職業人の養成に向けて一層解放されました。

近年、いじめ、不登校をはじめとした「こころの問題」が多発し、子どもの置かれている状況が社会問題となっています。あらゆる子どもに潜在する広く教育に関連した問題として、普遍化したとらえ方を促すものです。これらは大人のかかえる問題でもあります。このように、教育学は現代社会においてますます重要な役割を果たす学問であると考えられます。

[写真]「発達教育講読演習」のゼミ風景



## 教育学部の教育方針

### 学部教育の方針

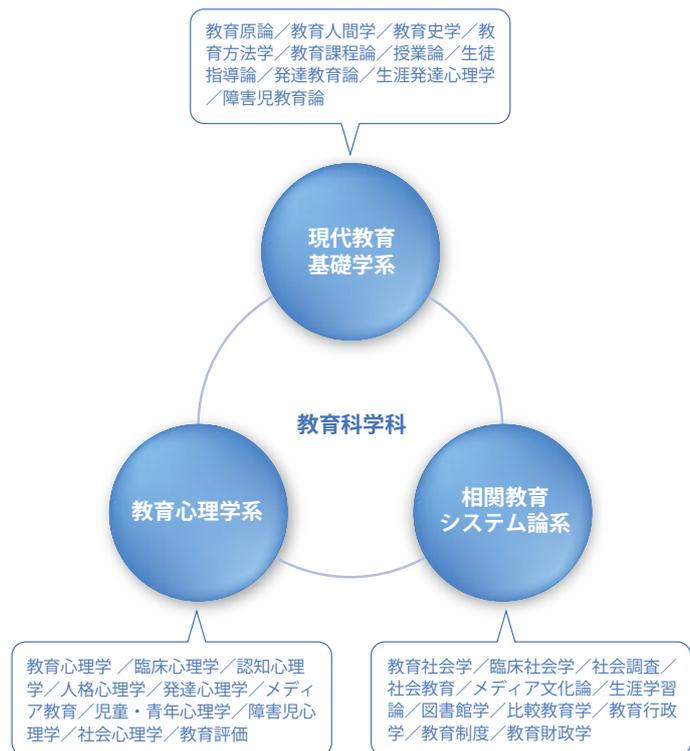
教育学部においては、一般教育と専門教育を有機的に関連させながら、現代人にとりわけ必要とされる、広い視野と異質なものの理解、多面的・総合的な思考と批判的判断力を備えた「人間らしさを擁護し促進する態度」を啓培するための高度な一般教育と幅広い専門教育を行っています。

### 学部4年間のカリキュラム概要

教育学部生については、1回生の必修科目として「教育研究入門」「情報学」を開講しています。また、全学の学生を対象にして、教職科目をはじめ、毎年継続的に多くの「全学共通科目」として講義及び少人数ゼミ等の教養教育科目を開講しています。

教育学部は、平成10年度から1学科（教育科学科）3大学科目（系）で教育編成を行っております。これは、教育の総合的理解が必要な学部段階では、教育に関する諸科学の修得に重点を置いた幅広い基礎教育を重視し、ゆるやかに専門的分化を図ることを目的としたものです。

それぞれの大学科目（系）における教育内容は、以下のとおりです。



教育学部では、入学者選抜試験により毎年60名が入学しており、当初は主として基礎となる教養科目を履修しますが、次第に専門科目や高度一般教育としての教養科目を受講することができます。

平成19年度入試から後期日程試験を廃止し、前期日程試験において、入試の多様化の一環として幅広い分野から学生を選抜することを目的に、「文系」型、「理系」型入試が実施されました。

入学当初は所属系を特定せず、各自が学習を進めながら最も適した道を探して、3年次に系への分属を決めます。



[写真] 臨床教育学専攻の授業風景

平成6年度(1994)から2年次学生に対し、分属オリエンテーションを実施し、学生の希望分属を尊重しつつ、調整を図っていますが、系によっては単位修得状況等をもとに決定します。

■教育学部のホームページ：<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/>

■入学についてのお問い合わせ：教育学部教務掛 [tel.075-753-3010](tel:075-753-3010)

## 在学生からのメッセージ



### 学問することの喜びを

教育科学科 相関教育システム論系 3 回生

花田 香菜子 さん

「人の心」に興味を持ち、入学した教育学部。入ってみて様々な考え方やアプローチの仕方を学び、次第に教育社会学に惹かれるようになりました。現在は、日々、社会の本当の姿とはどのようなものなのか、日常の場面から世界に至るまで、幅広い視点で探求しています。

また、学問の魅力もさることながら、教育学部には他では出会えないであろう、個性的で魅力的な面々が学年を問わずたくさんおり、そんな人たちに囲まれて過ごす毎日は刺激に溢れています。

多くの分野に渡って専門の教授がいらっしゃるのも、この教育学部の魅力の一つです。入学したときに志すものがある人もそうでない人も、新鮮で興味深いものの方見方に触れ、時には心拍数が上がるほどの刺激を受けながら、今まで知らなかった自分の新たな一面にも出会えるに違いありません。



### 今「教育」を学ぶことの大切さ

教育科学科 2 回生

安藤 孝雄 さん

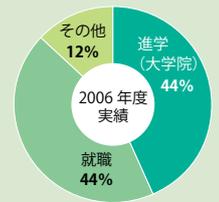
元々は大学で心理学を学びたいと思い、心理学で有名な教育学部に入学しようと思ったのが志望の動機でした。しかし、実際に教育学部に入学し色々な授業を受け先輩の話聞いていくうちに、心理学ではなく教育社会学やメディア論などの相関教育システム論系の分野の学問に興味を持ち出しました。

今日の日本では教育をどう扱っていくのかというのは非常に重要な問題となっています。そういった時代に教育学部で教育について学べるのは非常に有意義なことだと思います。

また、教育学部は一学年ークラスという形式をとっておりクラスの仲がとてもよいのが他の学部にはない特徴です。また先輩やOBとのつながりもとても強く色々な人と交流することができます。教育には不可欠な“交流”の中で育まれながら教育を学べるというのはとても意味のあることだと思います。

## 卒業後の進路

教育学部の平成18年度卒業生は78名で、そのうち34名(約44%)が就職しています。その中には教育(学校)関係に就職し、教師等になった人も数名います。また、34名(約44%)が大学院に進学しています。残りの10名(約12%)は聴講生等です。



### 就職先の例

文部科学省、NHK、フジテレビジョン、京都新聞社、リクルートマネジメントソリューションズ、IBM、三井住友銀行、東海旅客鉄道、近畿日本鉄道、阪急電鉄、JTB、Z会 他

## 教育学部で取得可能な資格

本学部の修学期間内に教育職員免許法に定められた科目の必要単位を修得し所定の手続きをすれば、教育職員免許法の中学校1種、高等学校1種免許状を取得することができます。また、中学校、高等学校の免許状を取得し、免許法に規定する特別支援教育領域に関する科目の単位を修得すれば、特別支援学校教諭1種免許状を取得することができます。本学で取得できる免許状は、聴覚障害者・知的障害者・肢体不自由者に関する教育の領域です。

その他修学期間中に法律に定める科目の必要単位を修得すれば、それぞれ社会教育に関する指導・助言を与える社会教育主事、博物館の資料収集、保管展示及び調査研究などの仕事に携わっている学芸員、図書館法に規定している図書館において図書に関する職務に携わる図書館司書の資格を取得することができます。また、教育職員免許状を有する者が図書館学に関する科目の必要単位を修得すれば、学校図書館司書教諭の資格を取得することができます。

## 卒業生からのメッセージ



### 教育学部で得たもの

2007年 卒業  
JTB 中部 勤務

蒲池 理恵 さん

高校時代に「人」「心理」「子供」…と、自分の興味・関心のある事柄を突き詰めていった結果が、教育学部でした。しかし幅広く学べるだけに、在学中には自らの方向性について迷うこともしばしば…。また、京都大学は「自由」であるが故に、自ら動かなければならないという厳しさもありました。

そのような中で、自ら問いを立て、それにアプローチする方法を見つけ出し、自分なりの結論を出す。4年間を通してその訓練を幾度となく行えたことが、今でも大きな力となっています。教育旅行という仕事に関わり、以前よりも更に教育現場に入る機会が増えた今、その事を改めて痛感しています。

教育学部で過ごした4年間は、親身になって下さる先生方・真剣に議論を交わせる仲間と囲まれ、本当に充実していました。皆さんも教育学部で楽しい大学生活を!

# 大学科目(系) 紹介

## 現代教育基礎学系

現代教育基礎学系は、哲学、思想、歴史、心理学などに基盤を置く専門分野から構成され、教育に関わる事象について、学校教育はもとより家庭教育、社会教育など広い領域を視野に入れた研究・教育を行っている。教育についてのものの考え方や見方が、どのようにして形成されるのか、人間の生成、成長発達はどうに捉えられるのか、実際の学校教育において、授業はどのような仕組みや方法で行われているのか、その教育内容はどんな原理で構成されているのか、など教育活動の基礎を様々な研究方法やアプローチを通して教授する。

教育の現場やフィールドとして人間の活動領域を捉え直し、教育学についての幅広くかつ周到な識見を備えた専門家を育てるためのカリキュラムを提供している。

教育原論、教育人間学、教育史学、教育方法学、教育課程論、授業論、生徒指導論、発達教育論、生涯発達心理学、障害児教育論

## 教育心理学系

教育心理学系では、教育心理学、認知心理学、臨床心理学を中心に充実したカリキュラムが生まれ、他学部の心理学系教室とも連携して活発な教育・研究活動が行われている。

教育心理学では人の発達の特徴、教授-学習法、知能、メディア教育など、教育活動に密接にかかわる心理学的諸側面に関する知識の習得とその応用をめざす。認知心理学では、記憶、推論、意思決定、他者理解、共感といった高次認知過程の諸側面に関する主要な理論や知見を学習し、さらに心理実験調査等を実施して各自の研究をまとめる。臨床心理学では人格の形成、心理療法の諸理論、心の健康とストレス等に関する基礎知識を習得し、種々の心理検査の実習を通して臨床実践に役立つ手法を身につける。教育心理学系では、心の仕組みとはたらきについての幅広い識見と柔軟な思考力の育成を基本としつつ、大学院進学希望者の指導にも力を入れており、教育心理学・認知心理学・臨床心理学の研究者をめざす人、大学院修了後に臨床心理士の資格取得をめざす人にも適した教育カリキュラムを整備している。

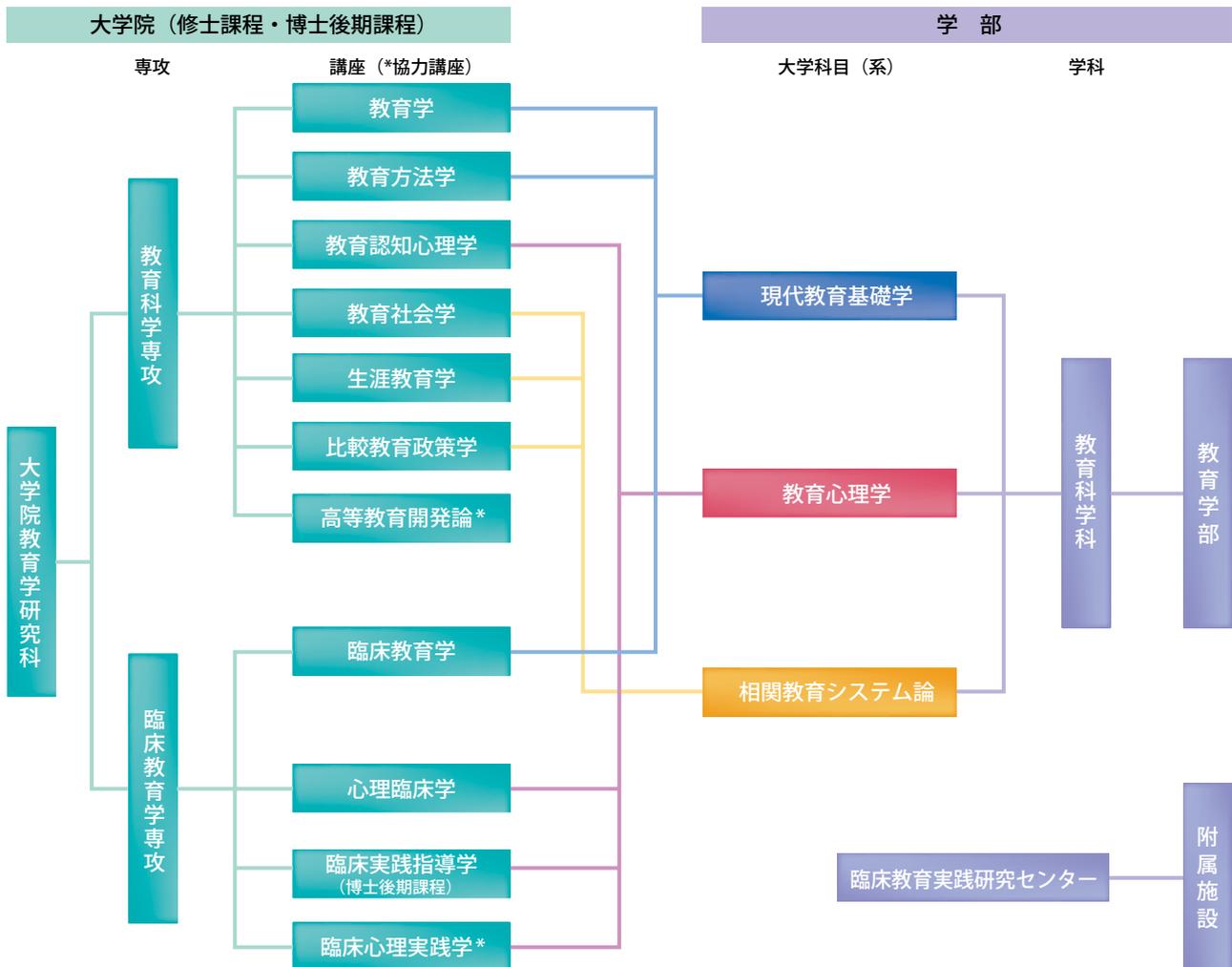
教育心理学、臨床心理学、認知心理学、人格心理学、メディア教育、発達心理学、児童・青年心理学、障害児心理学、社会心理学、教育評価

## 関連教育システム論系

21世紀は単に学校だけが教育にかかわるのではなく、社会全体が人間形成社会になり、そうした社会での教育の柔軟なありかた、ネットワーク化が課題になります。関連教育システム論系は、こうした方向を視野に入れて、教育と社会との結びつきを創造的に探求することを目的としています。教育社会学では、人間の社会形成にかかわる集団の教育作用について研究するとともに、学歴社会、青少年問題、教育変動などの諸問題を社会学の手法を用いて分析しています。生涯教育学では、図書館やメディアを含んで、生活のなかでの多様な学習のあり方を、とりわけ国際的・歴史的な観点から理論的、実践的な研究をしています。比較教育政策学では、国際的視野に立って、教育制度、政策、実践、理論などの比較考察をしています。また政策科学的視点からは、具体的に教育行財政についての立案などを行っています。学部教育においては、これからの社会と人間に求められている重要な課題を意識したカリキュラムを提供し、特に少人数のゼミや講義に特徴があります。

教育社会学、臨床社会学、社会調査、社会教育、メディア文化論、生涯学習論、図書館学、比較教育学、教育行政学、教育制度、教育財政学

## 教育学研究科及び教育学部における研究・教育の概略図



専門科目

大学科目(系)	1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
現代教育基礎学系	教育研究入門Ⅰ・Ⅱ 情報学Ⅰ・Ⅱ	教育原理Ⅰ・Ⅱ, 民族と教育, 教育史概論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 教育史, 教育学基礎演習Ⅰ・Ⅱ, 臨床教育学基礎演習Ⅰ・Ⅱ, 教育人間学概論Ⅰ・Ⅱ, 臨床教育学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育方法論, 発達教育論Ⅰ・Ⅱ, 生涯発達心理学基礎論Ⅰ・Ⅱ, 生涯発達心理学講義Ⅰ・Ⅱ, 生徒指導論, 精神保健Ⅱ, 障害児教育の教育課程論, 教育方法学基礎演習ⅠA・ⅠB, 教育方法学基礎演習ⅡA・ⅡB, 学校論ゼミナール, 教育課程論Ⅰ・Ⅱ, 教育心理学実習A・B, 心理学統計実習A・B, 障害児教育指導法Ⅰ・Ⅱ, 小児の発育整理と衛生Ⅰ・Ⅱ, 聴覚障害教育課程論, 知的障害教育課程論, 肢体不自由教育課程論	教育情報学, 教育学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 教育史専門ゼミナールⅠA・ⅠB, 教育史専門ゼミナールⅡA・ⅡB, 教育史文献講読演習Ⅰ・Ⅱ, 教育史史料講読演習, 教育人間学講読演習Ⅰ・Ⅱ, 教育人間学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 臨床教育学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 教育方法専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 発達教育専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 教育方法講読演習Ⅰ・Ⅱ, 発達教育講読演習Ⅰ・Ⅱ	
教育心理学系	教育研究入門Ⅰ・Ⅱ 情報学Ⅰ・Ⅱ	教育心理学概論Ⅰ・Ⅱ, 臨床心理学概論Ⅰ・Ⅱ, 障害児心理学講義Ⅰ・Ⅱ, メディア教育概論, 発達教育論Ⅱ, 知覚心理学講義A・B, 社会心理学講義, 教育認知心理学基礎演習A・B, 教育心理学実習A・B, 心理学統計実習A・B, 肢体不自由者の心理・生理・病理, 人格心理学概論Ⅰ・Ⅱ, 児童・青年心理学講義, 認知心理学概論Ⅰ・Ⅱ, 発達心理学講義A・B, 文化心理学講義, 発達教育論Ⅱ	教育情報学, 応用認知心理学講義, 発達心理学講義C, 認知心理学講義Ⅰ・Ⅱ, 比較心理学講義, 神経生物心理学講義, 多変量解析論, 乳幼児の心理学, 教育心理学コアムⅠA・ⅠB, 認知心理学課題演習, 臨床心理学課題演習, 教育心理学講読演習Ⅰ・Ⅱ, 臨床心理学講読演習Ⅰ・Ⅱ, 健康心理学講義	教育心理学コアムⅡ
相関教育システム論系	教育研究入門Ⅰ・Ⅱ 情報学Ⅰ・Ⅱ	教育社会学概論Ⅰ・Ⅱ, 臨床社会学概論Ⅰ・Ⅱ, 社会学講義, メディア文化論, 生涯学習概論Ⅰ・Ⅱ, 社会教育計画論Ⅰ・Ⅱ, 同和・人権教育論, 図書館情報学概論Ⅰ・Ⅱ, 図書館サービス論, 資料組織論, 図書館資料各論, 学習指導と学校図書館, 学校経営と学校図書館, 読書と豊かな人間性, 比較教育学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育行政学概論Ⅰ・Ⅱ, 憲法第一部・第二部, 行政学, 財政学, 教育政策学入門, 教育法学, 相関教育システム論基礎演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・Ⅲ, 情報サービス論, 情報サービス論演習, 情報検索演習, 資料組織論演習Ⅰ・Ⅱ, 情報メディアの活用	教育情報学, 教育社会学講義, 教育社会史, 現代教育社会論, 図書館経営論, 図書館資料論, 比較教育学講義, 行政法Ⅰ部, 教育行政学, 教育経営学Ⅰ・Ⅱ, 教育社会学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 社会調査Ⅰ・Ⅱ, 生涯教育・図書館情報学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 比較教育学専門ゼミナール, 教育政策学専門ゼミナール, 相関教育システム論講読演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	

教職科目

1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
	教職教育論, 教育学概論Ⅰ, 教育課程論Ⅰ・Ⅱ, 比較教育学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育人間学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育心理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 授業心理学Ⅰ・Ⅱ, 発達教育論Ⅰ・Ⅱ, 教育社会学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育行政学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育方法論, 道徳教育論, 教育学概論Ⅱ, 特別活動の理論と実践, 生徒指導論, 生徒指導の精神と具体的方策, 教育相談, 国語科教育法Ⅰ・Ⅱ, 社会科教育法Ⅰ・Ⅱ, 地理歴史科教育法, 公民科教育法, 数学科教育法Ⅰ・Ⅱ, 理科教育法Ⅰ・Ⅱ, 英語科教育法Ⅰ・Ⅱ, 保健体育科教育法Ⅰ・Ⅱ, 商業科教育法, 工業科教育法, 農業科教育法, 情報科教育法Ⅰ・Ⅱ, 民族と教育, 同和・人権教育論, フランス語科・ドイツ語科・中国語科・水産科・宗教科の各教科教育法	教職総合演習, 教育実習Ⅰ	職業指導, 教育実習Ⅱ, 教職教育

特別支援教育に関する科目

1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
	障害児教育総論, 知的障害者の心理・生理・病理, 聴覚障害者の心理・生理・病理, 肢体不自由者の心理・生理・病理, 聴覚障害教育課定論, 知的障害教育課程論, 肢体不自由教育課程論, 聴覚障害教育総論Ⅰ・Ⅱ, 小児の発育生理と衛生Ⅰ・Ⅱ(発達障害), 障害児教育の教育課程論		特別支援教育実習

# 法学部

Faculty of Law

## 法学部が望む学生像

法学部では、世界・国家・社会の様々な問題に対する強い関心を持ち、多方面にわたる学力、とりわけ社会科学に関する基礎的な学力を備え、論理的思考力に優れた学生を求めています。

## 法学部への誘い

法学部は、明治32年（1899年）に法科大学として創設されました。それ以来、すでに34,000余名の卒業生を世に送り出しています。

創設期の教授陣は、自由な学問研究を尊び、東京帝国大学とは異なる大学のあり方を模索しました。明治32年から行われた卒業論文制度とそれに関連した演習の必修化は、そうした模索の成果です。今では、卒業論文制度は残っていませんが、演習を重視するとともに、自由選択の余地をできるだけ広げ、学生の自主的学修を奨励するという伝統は、脈々と受け継がれています。

発足時の講座数は23でしたが、戦後の経済・社会の急激な変容、文化・科学の著しい進展に対応して次第に拡充をとげ、昭和58年度には、39講座を擁するに至りました。平成4年度からは、研究・教育の国際化・学際化・高度化に対応して、従来学部配置されていた講座を大学院に配置した21の大講座へと再編するとともに、この大学院講座の担当者が学部教育も担当するとの組織変更がなされました。平成16年4月には、法科大学院の設置に伴い、大学院組織全体が、12の大講座に再編されました。学部の教育も、基礎的・基本的なものに重点が置かれるようになりました。なお、平成18年度には、経済学研究科と協力して、新しい専門職大学院として、公共政策大学院が発足しました。

また、平成15年度には、本学部・大学院の「21世紀型法秩序形成プログラム」が文部科学省「21世紀COEプログラム」の一つに採択され、大きな補助金を得て、活発な研究を続けています。

法学部は、国家や社会のあり方を見直したり、組織を運営する際に指導的な役割を果たせる人材を養成することを目的としています。今日、世界も日本も大きな転換期を迎えており、それに伴って様々な問題が生じています。こうした状況に対応した新しい制度を設計するためには、文化の多様性を尊重し、平和な社会の実現に貢献できる豊かな国際感覚を備え、法律や政治の仕組みに関する専門的な知識を持ち、社会全体を視野に入れて知識を組み合わせる構想力を養わなければなりません。法学部は、こうした能力を備えた人材を育成するために、豊かな教養と法律学・政治学の基礎的知識を提供することを使命としています。

[写真]「民法第一部」の講義風景



## 法学部の教育

### 卒業までの単位取得の仕組み

法学部を卒業するためには、各科目を履修し、試験で合格点をとる必要があります。法学部の試験は100点満点で採点され、60点未満は不合格となります。合格した場合、各科目の授業時間に応じて単位が与えられます。

本学は、夏休みを境に、1年を前期と後期の2学期に分けるセメスター制を採用しており、外国語および保健体育科目を除き、半期週1時間の科目は2単位、半期週2時間の科目は4単位となっています。卒業に必要な単位数を構成する科目は、教養科目と専門科目とに分かれます。教養科目は半期2単位が原則であり、専門科目には、2単位科目と4単位科目（週2時間）とがあります。卒業するためには、教養科目を46単位以上、専門科目については、演習2単位を含む84単位以上を取得しなければなりません。

### 第1・第2学年では主として教養科目を学ぶ

教養科目は、一般教養科目、外国語科目、および保健体育科目からなり、これらの科目は、「全学共通科目」として提供されます。

一般教養科目は、人文・社会科学系科目と自然科学系科目からなります。卒業するためには、人文・社会科学系科目から20単位以上、自然科学系科目から8単位以上取得しなければなりません。

外国語科目は、英語とその他の外国語からなり、英語を6単位以上、その他の外国語のうち一つを8単位以上取得しなければなりません。第一学年における外国語科目は、原則として学部のクラス単位で開講されます。

保健体育科目は、講義と実技それぞれ2単位、合計4単位まで履修することができますが、人文・社会科学系科目または自然科学系科目で代替することもできます。

これらの教養科目は、卒業までのどの学年においても履修することができますが、実際には、主として、第1および第2学年で履修するようにカリキュラムが編成されています。なお、本学では、1年生のことを1回生、2年生のことを2回生と呼びます。

### 高学年になるほど専門科目の授業が増える

1回生のみが受講・受験することができる専門科目は、通年4単位の外国書講読（英語）と、半期2単位の、法学入門、政治学入門①・②、家族と法、司法制度論です。

2・3回生配当科目は、憲法第一部、憲法第二部、刑法第一部、民法第一部、

国際機構法です。その他の専門科目は、原則として3・4回生配当科目ですが、2回生も履修できる2・3・4回生配当科目もあります。刑法第二部と民法第二部がこれに当たります。さらに、政治学関連科目と一定の基礎法関連科目からは、それぞれ2科目に限って、2回生も履修ができます。

上記以外の六法系科目や一部の基礎法関連科目は、3・4回生配当科目となっています。経済学部の一部の科目も履修できます。

演習は3・4回生に配当され、半期2単位で、4単位まで履修できます。少人数クラスで周知な予習に基づいた活発な討論が行われています。

## 科目選択の自由と主体的学習

こうしたカリキュラム編成は、1・2回生では、広く深く教養を身につけることを主たる目標とし、専門科目の本格的な勉強は、それを基礎として3回生以上で行うことを推奨しているのです。必須科目はありませんので、このような趣旨を踏まえ、自分なりにどのような科目を選択し、学習計画を練っていくかは、すべて学生各自の主体的判断に任されています。もっとも、専門科目については、学生に対し堅実な学習を促すため、各学期において履修登録できる専門科目の単位数に上限を設けています（キャップ制といいます）。

■法学部のホームページ：<http://kyodai.jp/>

■入学についてのお問い合わせ：法部教務掛 tel.075-753-3107

## 在学生からのメッセージ



### ささやかな、そして力強い想像力を学ぶ

学部3回生

宮本 瑤一 さん

高校の時分、偉大な芸術に触れるとしばしば壮大な想像力の前に圧倒される自らの精神の貧弱さを痛感した私は、想像力は日常から養われるはず、それならば日常に根ざしている学問で自らを鍛えたいという思いで法学部に進みました。ここを選んだ理由は必修科目がなく、圧迫感を感じることなく学習できると思ったからです。法学部では主に法律科目・政治科目の基礎をほぼ自由に学ぶことができます。また三回生からは少人数制のゼミを受講でき、興味のある分野の教授に指導していただく機会や、異なった考えを持つ学生同士の討論を通じて物事を見る視野をひろげる機会を持つことができます。本学で私は解釈を通じて自らのささやかな想像力が現実の問題に挑戦する喜びを感じています。皆さんも、それぞれの目標を持って法学部の門戸をたたいてください。



### 「自己選択」が全ての環境

学部4回生

谷本 浩隆 さん

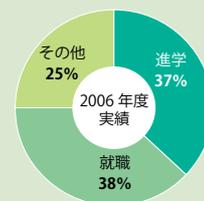
何かを求めて努力する者に対しては多くのものを与え、何もしない者には何も与えない—これが法学部の実態です。学生に与えられるものは、諸方面で研鑽を積んでおられる教授陣による「講義」、教授や学生との議論によって知的刺激が得られる「ゼミ」、そして膨大な文献が所蔵されている「図書館」…といった「学びの場・ツール」だけ。これらをどう活用するかは選択は学生次第。

この「選択」は非常に困難なものですが、その過程で得られる経験は将来他でもない「自分自身の」人生を歩んでいくための大きな糧となるでしょう。また、与えられる「選択肢」はどれも、多くの知識や刺激をもたらす最高水準のものと言っても過言ではありません。

向上心に溢れた受験生の皆さんには、是非この素晴らしい環境にチャレンジし、自らを高めていくって欲しいと思います。

## 卒業後の進路

卒業生の進路は、司法修習生、国家・地方公務員、民間企業、法科大学院を含む大学院への進学など多方面にわたっていますが、なかでも、平成16年度より開学した、全国各地の法科大学院へは、進学者の約86%が進学しています。また、平成18年度に設置された京都大学公共政策大学院は、入学者の20%が本学部の出身です。民間企業への就職先としては、金融・保険業が比較的多いですが、業種を問わず幅広く広がっています。



## 法学部で取得可能な資格

法学部では、教育免許状の取得を目的とした教職課程を設けています。また、法学部以外の学部が開講する科目を修得することにより、その学部で取得できる資格や、受験資格が得られることがあります。

取得できる資格の例：教育職員免許状（中学1種社会・高校1種公民）

## 卒業生からのメッセージ



### さまざまな人との出会い

2006年 卒業

京都大学大学院法学研究科法曹養成専攻  
(法科大学院)

藤田 浩晃 さん

大学生になると課外活動においてはアルバイトやサークル、授業においても大教室での授業だけでなく少人数で行うゼミもあり、さまざまな場面で今まで以上にいろいろな意味ですごい人と出会う機会があります。そして彼らと対話していくうちに自己の知的好奇心を満足させ価値観も大きく成長させることができ、そのことによって卒業後の進路についても多くの影響を受けると思っています。

現在、私は京都大学のロースクールに在籍しています。この中でも頭の回転がいい人や自分とは違った考え方を持つ人がおり、彼らと授業の予習や復習のために、もしくは授業中において論議することによって日々刺激を受けながら勉強に励んでいます。皆さんもこの大学に来て多くの人と出会い、充実した生活を送ってください。



### 仲間と恩師、そして自由に成長できる環境

2006年 卒業

丸紅株式会社 無機・農業化学品部  
無機化学品第二課 勤務

前田 悟志 さん

「良き仲間」「良き師」「自由に学べる環境」—これこそが京大法学部を表す言葉ではないでしょうか。

国際政治を学びたいという想いから法学部に入学。国際政治学のゼミでは、日米同盟や対中外交について研究しただけでなく、教授からは人生で大切にしていけるべき教訓をたくさん学びました。講義やゼミを通じて、高い志を持って全国・全世界から集まってきた仲間達と出会いました。彼らと夜通し繰り広げた議論は、僕の人生を豊かなものにしてくれました。

他大学との合同ゼミや、韓国での文化交流。そしてオーストラリア留学—自由に何でも経験し、学べる環境だからこそ、実現できたことだと感じています。

総合商社の社員となった今、京大での経験を胸に、人生をどう設計しているか、ワクワクしながら考えているところです。高校生の皆さん、京都はいいところです。頑張れ!

## 教員紹介

### 中森喜彦 教授 (刑法)

犯罪論の体系的構築。

### 西村健一郎教授 (社会保障法)

社会保障の法理論。

### 吉岡一男 教授 (刑事学)

犯罪現象の包括的理解にもとづいて、刑事法や刑罰など刑事制度を中心に、犯罪対応のあるべき姿を検討しています。

### 櫻田嘉章 教授 (国際私法)

生活関係の国際化に伴い、私人の間で発生する法律問題を解決するための基礎及び応用理論。

### 森本 滋 教授 (商法)

会社法の比較研究・金融関連法の研究。

### 芝池義一 教授 (行政法)

国や地方自治体が行っている行政活動のための法制度や個別の制度を分析するための「行政法の一般理論」について研究しています。

### 徳田和幸 教授 (民事訴訟法)

民事訴訟における手続保障のあり方、多数当事者訴訟に関する諸問題等についての研究。

### 河上倫逸 教授 (西洋法制史)

ヨーロッパ近・現代法を歴史的文明現象として把握し、その比較研究。法の歴史的・社会理論の構築。

### 錦織成史 教授 (民法)

とくに、不法行為、損害賠償の分野を中心に研究しています。

### 初宿正典 教授 (憲法)

近代以降のドイツ憲法史にヒントを得つつ、日本国憲法の諸問題を特にドイツ憲法と比較しながら研究しています。

### 位田隆一 教授 (国際法)

国際法の観点から生命倫理の研究と実践を進めています。

### 岡村周一 教授 (行政法)

行政訴訟法その他行政法の諸問題の研究。

### 小野紀明 教授 (政治思想史)

特に 20 世紀の西洋政治哲学を哲学や芸術思潮と関連させながら研究している。他方で、今日の社会的問題に積極的に対応しようとする現代的規範理論も、政治思想史を基礎として考察しています。

### 林 信夫 教授 (ローマ法)

ローマ社会における契約法を中心に、法の存在の形態、展開過程の歴史的メカニズムの解明に取り組んでいます。

### 的場敏博 教授 (政治学)

現代日本の政党政治を、①戦後日本の政党政治の流れの中に、②他の先進民主主義国との比較の中に位置づけています。

### 大石 眞 教授 (憲法)

民主制・議会制度を中心とした憲法学の研究を行うとともに、日本憲法史や宗教法制などを考察しています。

### 伊藤之雄 教授 (日本政治外交史)

日本の政党政治や外交の発達過程や近代・現代国家の展開と共に、伊藤博文・原敬などの有力政治家を考察しています。

### 山本 豊 教授 (民法)

契約の内容規制、消費者契約、電子契約など現代契約法の先端的問題の研究。

### 寺田浩明 教授 (中国法制史)

伝統中国における法(成文法や裁判や契約)のあり方を比較法史的視点から研究しています。

### 高木 光 教授 (行政法)

行政活動を適正妥当なものにするための法的ルールはいかにあるべきかを研究しています。

### 木南 敦 教授 (英米法)

アメリカ合衆国の法制度について比較という観点を取り入れて研究しています。憲法、信託法、小切手法といる取り上げています。

### 松岡久和 教授 (民法)

不動産物権変動論、金融・担保法、不当利得法などを具体的な各論の中心に置き、最終的には民事財産法の構造をどう捉えるかを研究しています。

### 真淵 勝 教授 (公共政策)

日本官僚制の研究。とくに経済官庁が対象である。ゼミでは市町村合併や年金など、近年話題になっている政策テーマが取り上げられています。

### 新川敏光 教授 (政治過程論)

福祉国家の構造、その発展と再編の政治について、比較論的に研究しています。

### 川瀆 昇 教授 (経済法)

独占禁止法と証券取引法を中心に経済法の全般を法と経済学的手法も利用しつつ分析しています。

### 村中孝史 教授 (労働法)

雇用されて働いている人たちの労働条件や、労働組合をめぐる法律関係について、教育・研究を行っています。

### 浅田正彦 教授 (国際法)

国際法の諸問題につき軍縮や武力行使を素材として研究を行い、国際法全般にわたって教育を行っています。

### 潮見佳男 教授 (民法)

民事責任の基本問題。

### 亀本 洋 教授 (法理学)

正義論と法学方法論を中心に、法理学または法哲学と呼ばれる分野の研究と教育を行っています。

### 酒巻 匡 教授 (刑事訴訟法)

刑事手続法の基本問題。

### 山本克己 教授 (民事手続法)

民事手続法の基本問題。

### 岡村忠生 教授 (税法)

国際課税の諸問題、特に多国籍企業への課税や、個人所得課税の基本問題について、研究を進めています。

### 洲崎博史 教授 (商法)

保険契約法の基本問題。

### 前田雅弘 教授 (商法)

株式会社の適切な管理運営を確保するために、法はどうあるべきかという問題を中心に研究しています。

### 鈴木基史 教授 (国際政治経済分析)

国際紛争・協調の実証的・理論的分析。

### 山本敬三 教授 (民法)

現代契約法の基礎的研究。

### 北村雅史 教授 (商法)

企業の健全性確保の見地から、経営者の義務・責任や経営機構に関する会社法制のあり方について研究しています。

### 塩見 淳 教授 (刑法)

市民の安全確保と自由領域の保障とをともに果たしうるような刑法を求めて研究・教育を行っています。

### 服部高宏 教授 (ドイツ法)

現代ドイツにおける法形成過程に関する研究。ケアの法制度化をめぐる諸問題に関する研究。

### 伊藤孝夫 教授 (日本法制史)

日本法制史全般にわたる諸問題、日本近代法の形成と展開。

### 秋月謙吾 教授 (行政学)

中央地方関係にかかわる官僚制の研究。

**横山美夏 教授 (民法・フランス法)**

契約に関わる基礎的な法律問題について、フランス法と日本法とを比較検討しながら研究しています。

**中西 寛 教授 (国際政治学)**

国際政治の歴史的展開。

**佐久間 毅 教授 (民法)**

権限のない者がおこなった契約などの取引の効力をどのように考えるべきかを、主に研究しています。

**笠井正俊 教授 (民事訴訟法)**

民事訴訟における審理の在り方、専門的知見を要する訴訟に特有の問題等を中心に研究を進めています。

**唐渡晃弘 教授 (政治史)**

ヨーロッパ政治外交史、とくに民族問題と国民国家の研究

**酒井啓亘 教授 (国際法)**

国連の平和維持機能を国際法の観点から研究しています。

**土井真一 教授 (憲法)**

憲法の基本原理、とりわけ法の支配と権力分立論について、研究を行っています。

**毛利 透 教授 (憲法)**

民主主義と表現の自由の基礎理論、統治機構改革、憲法訴訟論などを研究しています。

**山田 文 教授 (民事手続法)**

民事紛争解決手続(訴訟外手続を含む)について、制度論的・法解釈論的なアプローチで研究しています。

**高山佳奈子 教授 (刑法)**

因果関係や故意・責任能力といった犯罪の成立要件、および犯罪に対する刑罰のあり方を研究しています。

**中西 康 教授 (国際私法)**

国際民事手続法の基礎理論及び欧州統合における法の役割について研究しています。

**橋本佳幸 教授 (民法)**

不法行為法を中心に、民事財産法の直面している現代的諸問題について研究・教育を行っています。

**待鳥聡史 教授 (アメリカ政治)**

議会と大統領が別個に選ばれる「二元代表制」下で、政策決定に大きな権限を持つ議会の研究を行っています。

**村上光瑠 教授 (刑事裁判実務)**

刑事手続法の理論と実務の架け橋、裁判員裁判の巡る諸問題等について、教育と研究をしています。

**中田昭孝 教授 (民事裁判実務)**

民事訴訟法などの理論を民事裁判の実務の観点から研究・教育を行っています。

**松田一弘 教授 (知的財産法)**

特許権侵害訴訟及び特許審決取消訴訟に関する諸問題について研究しています。

**森川伸吾 教授 (中国法)**

対中直接投資並びに日中間の企業取引及び紛争処理に関連する法律問題を研究しています。

**堀江慎司 准教授 (刑事訴訟法)**

伝聞法則をはじめとする刑事証拠法を中心に、刑事手続法全般について研究、教育を行っています。

**島田幸典 准教授 (比較政治学)**

英独を中心とする欧州諸国制の比較的研究。

**深澤龍一郎 准教授 (行政法)**

行政機関が裁量権限を行使することによって発生するさまざまな法的問題について研究を行っています。

**船越資晶 准教授 (法社会学)**

批判法学の法・社会理論。

**戸田 暁 准教授 (企業法務)**

証券取引法などの企業法の理論と実務に関する諸問題について研究を行っています。

**稲森公嘉 准教授 (社会保障法)**

社会保障の法理論及び法制度について、主に医療保障のしくみを中心に研究を行っています。

**曾我部真裕 准教授 (憲法)**

憲法で保障された表現の自由、特にマスメディアの自由について研究しています。

**齊藤真紀 准教授 (商法)**

会社における関係者間の利害調整枠組みの研究を行っています。

**奈良岡聰智 准教授 (日本政治外交史)**

大正期を中心とする近代日本の政党政治、政官関係、日英関係について研究しています。

**増田史子 准教授 (国際取引法)**

国際商取引法、とくに国際運送を中心に、貿易取引の私法的規整について研究しております。

**愛知靖之 准教授 (知的財産法)**

特許法、とりわけ特許発明の技術的範囲画定に関する諸問題を中心に研究を行っています。

**高谷知佳 准教授 (日本法制史)**

前近代日本の社会と秩序の多面性について研究しています。

**エスタ ティナ オットマン 准教授 (国際公共政策)**

国際関係、特に中東地域の紛争・紛争解決を研究しています。

**濱田 毅 准教授 (刑事法)**

刑事手続法と刑事実体法について、実務(特に検察実務)の観点から、研究及び教育を行っています。

**専門科目 (平成19年度開講分)**

法学部専門科目	経済学部開講科目	演習
法理学, 法社会学, 日本法制史, 西洋法制史, ローマ法, 東洋法史, 英米法概論, ドイツ法, 憲法第一部, 憲法第二部, 行政法第一部, 行政法第二部, 税法, 国際法第一部, 国際法第二部, 国際機構法, 民法第一部, 民法第二部, 民法第三部, 民法第四部, 商法第一部, 商法第二部, 経済法, 民事訴訟法, 国際私法, 労働法, 社会保障法, 刑法第一部, 刑法第二部, 刑事訴訟法, 刑事学, 政治原論, 政治過程論, 比較政治学, アメリカ政治, 国際政治学, 国際政治経済分析, 政治史, 日本政治外交史, 政治思想史, 行政学, 公共政策, 法学入門, 政治学入門①, 政治学入門②, 司法制度論, 家族と法, 外国書講読(英), 外国文献研究(英・独・仏), 特別講義(中国法, 日本政治思想史, 外交史), 特殊講義(夫婦・親子法の現代的課題), 演習	ミクロ経済学1, ミクロ経済学2, 社会経済学1, 社会経済学2, 経済政策論1, 経済政策論2, 財政学, 租税論, 経済史1, 経済史2, 金融論, 基礎統計学, 経済統計学, 経営学原理, 会計学1, 会計学2, 経済学史, 社会政策論	法理学, 東洋法史, ローマ法, ドイツ法, 英米法, 憲法, 行政法, 税法, 国際法, 民法, 国際機構法, 商法, 経済法, 国際私法, 労働法, 社会保障法, 刑法, 刑事学, 政治原論, 政治過程論, 国際政治学, 国際政治経済分析, 政治史, 日本政治外交史, 政治思想史, 行政学, 公共政策, 日本法制史

## 経済学部が望む学生像

経済学の研究対象である経済活動は、人間が生きていくために最も基本的なものです。私たちが毎日生活しているのは、多くの人々が日々経済活動を営んでいるからこそ可能になっているものです。しかし、その経済活動は決して単純なものではなく、産業の空洞化、雇用問題、財政赤字、地球環境問題など、私たちが解決すべき経済問題が、次々と新たに発生し、複雑性を増しています。

このような状況を前にして、経済学の課題を解決するためには、即効性のある個々の断片的な知識を詰め込むよりも、どのような事態になっても対応できる柔軟な思考力と創造力を備えることが、むしろ重要であると考えています。このような素質を有した学生を経済学部は期待しております。

## 経済学部への誘い

### 伝統性と先端性の統合

本学の経済学部は1919（大正8）年に法学部（法科大学）から別れて誕生しました。法学部の時代にもすでに1899（明治32）年から経済学関連の講義がスタートしていたから、その歴史は日本でも一、二という伝統をもっています。この長い歴史の間に京都大学経済学部は、多数の著名な研究者を輩出し、また個性的な実業界のリーダーや各方面で活躍する優れた人材を送り出してきました。さらに、本学部はたえず先端的分野の拡充をはかってきました。最近の例をあげると、2006年に経済学部・経済学研究科を母体として、新たにMBA取得コースとして経営管理大学院を開設しました。

### 自学自習と少人数教育の重視

京都大学は自由闊達な気風を求める「自由の学風」を歴史的に育んできましたが、経済学部も学生の自学自習・自発自啓を基本精神としています。学部科目はすべて選択科目であり、必修科目はありません。経済学や経営学の専門科目だけでなく、隣接分野である法学・政治学科目を含めて、幅広い分野から自主的に選択し、自由に学ぶことができます。また、大学院との共通科目や、経験豊かな社会人講師による講義も開講しています。

また、本学部では、創立以来、演習（ゼミナール）制度を重視し、少人数の学生と担当教員による対話型学習システムをつくってきました。ゼミナールは、学生が共同学習と討論を通して最も成長できる場であるとともに、親しい友人をつくる絶好の場です。卒業後もゼミナール単位での同窓会が盛んに行われています。

### 多様性と国際性

本学部は、論文入試をはじめ、留学生入試、外国学校出身者入試、3年次編入学入試など、国立大学のなかで先んじて、多様な入試制度を導入してきました。そのねらいは、多様な経験をもった学生の能力を一層高めるとともに、多様な学生同士が刺激し合いながら相互に切磋琢磨し、豊かな教養と人間性、国際感覚を身につけることにあります。ちなみに、留学生の比率は大学院生を含めると京都大学のなかでは最も高く、国際性にあふれる学部です。

[写真] 岩城准教授のゼミ風景



## 経済学部の教育

### 第1学年で学ぶこと

第1・第2学年では「全学共通科目」と呼ばれる教養科目を主として履修します。これと並行して第1学年では、経済学部が提供する「入門科目」を受講し、経済学の基本を学ぶことになります。入門科目には、「マクロ経済学入門」、「ミクロ経済学入門」、「社会経済学入門」、「基礎統計学」、「経済史・思想史入門」、「現代経済事情」、「経営学入門」、「会計学入門」、「情報処理入門」があります。これら9つの科目の概要については、2ページ後に紹介しています。

### 第2学年から学ぶこと

第2学年からは経済学の専門科目を受講することができます。専門科目は、「専門基礎科目」と「専門科目」に分かれています。「専門基礎科目」として、マクロ経済学、ミクロ経済学、社会経済学、計量経済学、経済統計学、経済史、経済学史、経済思想など経済学の基本となるもの、国の経済活動に関わる経済政策や財政学、資金の流れに関する金融論、経営学の基礎である経営学原理、企業の仕組みに関する経営組織論、企業が顧客に対してどうすればよいかを考えるマーケティング、企業を運営するために必要な資金を考える経営財務論や会計学などがあります。「専門科目」としては、今日の経済・経営の分野において必要とされる多数の講義が用意されています。これら「専門基礎科目」と「専門科目」はすべて選択科目であり、必修科目はありません。さらに、経済学や経営学の専門科目だけでなく、隣接分野である法学・政治学科目を含めて幅広い分野から、自分自身の興味と関心に応じて、自主的に受講科目を選択することができます。

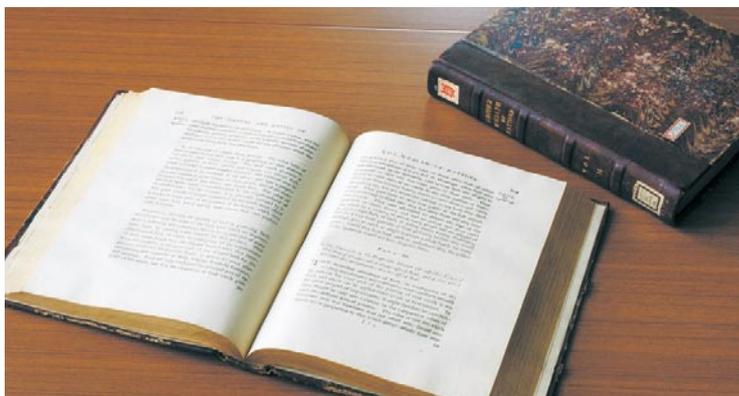
### 少人数ゼミナール

京都大学経済学部で重要な役割を果たしているのは演習（ゼミナール）です。指導教員の指導のもとで、少人数の学生同士で、様々な具体的なテーマについて報告・討論しながら、問題の本質を捉えるべく共同で学習します。ゼミナールにおいて、自発的な参加意欲や勉学意欲をつちかい、コミュニケーション能力を高めることができます。ゼミナールでの主体的な勉強を通じて身につけた能力は、一生役立つと思います。第2学年からゼミナールに参加することができます。ゼミナールは各教員が特定のテーマで毎年各学年10名を募集し、指導します。第3学年進級時に、所属ゼミナールを変更することも認められています。ゼミナール参加者は、第4年次に卒業論文を提出することができます。

### 「自学自習」と学問の自由

大学での勉強は基本的に「自学自習」です。つまり自分で問題を見つけ、自分でものを考え、自分でその解決を見つけ出すことが求められます。また、大学を支える基本原理は「学問の自由」です。自由があるから多様な考え方が生

まれ、科学は進歩し、社会の要請に応えることができるのです。自由な学問を行うためには学問の伝統のなかで育まれてきたものをしっかり勉強する必要があります。自由に絵を描くためにはしっかりとデッサンの修行を積み重ねなければならないことと同じです。経済学の考え方を学ぶことができれば、社会のどのような立場にあっても迷うことなく判断できる力を得ることができると思います。このような意味で、自由に学ぶことのできるどころが京都大学経済学部です。



『国富論』  
「経済学の父」と称されるアダム・スミスの『国富論』の初版（経済学部図書室所蔵）

■経済学部のホームページ：<http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/>

■入学についてのお問い合わせ：経済学部教務掛 tel.075-753-3406

## 在学生からのメッセージ



### 実学として学問を究める

2 回生  
大成 安代 さん

学問が、社会貢献をしないならば、それを追究してもただの自己満足にすぎない。予てから私はそのように考えており、最も生活の近くにあり、且つ実体が把握できかねた経済を学びたいと思い、経済学部に進みました。ミクロ経済学、マクロ経済学、統計学といった知識が将来的な社会活動に結びつかなくてもよいと私は考えます。それらを学ぶ過程で得た自分の考え方をどのようにして社会に役立てるか、その如何に実学の成否は委ねられているのではないのでしょうか。経済学部に進むと、多岐にわたる経済学部専門科目を学びます。二年生からは自分の興味のある分野を、ゼミに所属し専門的に討議できます。しかし、折角自由の学風と評判高い京都大学に入ったのですから、格式高い教養的な学問体系にふれ、自分の価値観を再構築する楽しさも味わって欲しい。



### 経済学は私たちの生活そのもの

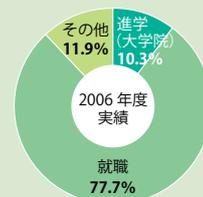
4 回生  
松永 翔 さん

私たちの生活範囲を経済学では学問の領域としています。優れたモノやサービスをいかに安く作り、消費者に届けるかが学問のベースです。近年では、医療や農業の分野でも経済学は利用されています。時に煩雑な数式に出会いますが、多くは今まで生活してきた事象を扱うため、親しみをもてると思います。そして、その中に自分に合った学問分野が見つかることでしょう。

現在私は M&A（企業の合併・買収）について学んでいます。時代背景、合併した理由、合併後の経過を学ぶ中で物事を包括的に見ることの大切さ、分類することの大切さを学びました。図書館・資料室には豊富な資料があり、充実しています。現代は情報が氾濫している上、断片的です。だからこそ、時系列を含んで、物事を包括的に、複合的に、広範な経済問題として捉えることの意義は大きいはずですよ。

## 卒業後の進路

京都大学経済学部はすでに 80 年余の歴史があり、多数の個人的な人材を社会に送り出してきました。学界のリーダーとして多数の優れた研究者を出してきましたし、政界・実業界のトップリーダーも少なくありません。毎年 1 割強の学生は大学院へ進学しています。



### 就職先の例

富士通、三菱東京UFJ銀行、キャノン、大阪ガス、住友商事、トヨタ自動車、みずほフィナンシャルグループ、関西電力、読売新聞、住友生命、日本生命、三井物産、京都銀行、三井住友銀行

## 経済学部で取得可能な資格

大学を除くすべての国公立、私立学校の教員となるためには教育職員免許状が必要です。

経済学部は教員免許状についての課程認定を受けており、教育職員免許状に定められた所要の単位を修得すれば、次の種類の免許状が取得できます。

高等学校教諭：「地理・歴史」、「公民」、「商業」  
中学校教諭：「社会」

## 卒業生からのメッセージ



### 官庁エコノミストのお仕事

1981 年 卒業  
内閣府 勤務  
吉岡 真史 さん

私の高校時代には、出来のいい友人は医者になるべく医学部を志望したり、弁護士を目指して法学部に入ったりしましたが、私から見るとどちらも困った人を相手にする職業だという気がして、社会のみんなが豊かになるのに役に立ちそうな経済学部を希望しました。

京都大学では長期的で本質的な経済の動きを学ぼうとの観点からゼミナールを選びました。おかげで、本来の経済の勉強とともに、多くの友人とも交流し、京都大学経済学部でしか得られない有意義で貴重な経験をした 4 年間だったと思います。

卒業してからは、官庁（経済企画庁）に職を求めましたが、短期的な金融資産市場における株価や金利の動きを追いかける市場エコノミストと違って、豊かな国民経済を目標とする官庁エコノミストの私には、京都大学において経済活動の本質について学んだことは大いに役立っていると考えています。明日の日本経済のために、京都大学経済学部で得られるものは大いに役立つと思います。



### なぜ京都大学でなければならぬか

1992 年 卒業  
三菱重工業株式会社 勤務  
藤村 泰生 さん

京都大学の魅力を一言で言えば、「自由」だ。型にはまらない生き方をしたかった私にとって、その器は京都大学でなければならなかったのだ。その自由にあこがれ、日本全国はもとより、全世界から様々な人が集まって来る。さながら知の梁山泊である。

教科書に載っているような絶対的な真理はない。自分なりの真理を求めて、多様なバックボーンを持った先生方や友人達と会話、そして議論をする。

自分一人では到底思いつかない視点からの意見がどんどん出てくる。「そんな考え方もあるのか」「そういうやり方もあるのか」。大いなる刺激を受け、ものごとを「考える力」を養えたと思う。

どんなことでも、しっかりと「考える力」そして「考え抜く力」。この力は、現在の職場でも複雑な問題の「解決力」に大いに役立っている。君も是非、梁山泊に来たれ！

## 入門科目紹介

### ミクロ経済学

市場メカニズムのもとで経済行動を分析する学問を「ミクロ経済学」と言います。ミクロ経済学の起源は19世紀から20世紀にかけて登場した最大化原理を基礎に置く完全競争モデルまでさかのぼります。しかし現代経済は大企業による寡占化の道をたどり、完全競争の虚構性が批判されるようになりました。そこで将棋のように戦略的に意思決定する「ゲーム理論」が登場しました。ゲーム理論を中心とした現代ミクロ経済学はたくさんの応用経済学の基礎ツールとなっています。医療・福祉経済学、マーケティング経済学、情報・通信経済学、都市・交通経済学、企業・組織経済学、環境経済学のような先端分野で、ミクロ経済学が役に立っています。

### 基礎統計学

統計学は元々は国家の為政者が行政のために必要とした、資料を提供するための方法だった様です。人口、所得、耕地面積等の資料を収集し、整理し、一国の国力を測ることなどが当初の目的でした。今日では、データの処理にも幅があり、行政だけでなく、商業、そして、株式や為替におけるような売り買いに直接結びつく統計、など応用は様々です。基礎統計学では、記述統計学と数理統計学によって成り立つ二つの領域を概観します。前者では、物価指数など、実務上よく使われるツールの説明をします。後者では、データに関する様々な推定や、仮説に関する検証を学びますが、多少とも、数学的です。この講義では、このような最も基礎的なツールを学ぶことも、非常に重要です。

### 経営学

経営学は、広く経営現象を研究する学問です。「経営」とはある目的を達成しようとする事業について、それを計画し、指揮し、管理する活動です。その対象は民間企業の経営が従来の中心でしたが、近年は病院や政府、地方自治体などの社会的部門でもその経営の善し悪しが問題にされるので、広がってきています。企業の経営でさえ単純に利益だけを目的として行われておらず多くの人が利害や欲求の関連の下に動いていますので、経営は複雑なシステム現象であり、それを研究する経営学も非常に複雑な理論体系となっています。経営学は企業だけではなく病院や政府、NPOなどを経営することの難しさとその醍醐味を理解させてくれると思います。

### マクロ経済学

マクロ経済学は経済活動を大きな視点から分析する経済学の1分野です。大きな視点というのは、つまり、その分析対象が特定の個人、企業、産業の経済活動ではなく、1国経済や世界経済全体だということです。なぜ経済は好況と不況を繰り返すのか、政府は景気の変動を抑制するためにどのような政策を採ればよいのか、なぜ産業革命以降先進国は産業構造の転換を果たし所得の大きな上昇を達成できたのか、それに対し多くの発展途上国が農業中心の経済構造から脱却できず所得の低い状態にあるのはどうしてなのか、といった疑問をもったことがあるでしょう。マクロ経済学が取り組んでいるのは、これらの疑問により正確な答えを与えることだといえます。

### 経済史・思想史

温故知新という言葉を知っていますか？昔のことから新しいことを知る、経済史や思想史とは、まさにそんな学問です。このふたつの分野は、現在の経済社会や経済学を歴史的に眺めることで、経済や社会に関する「忘れ去られた課題」を再発見し、併せて「新しい課題」や「経済学のあり方」を構想します。例えば、ある国が経済大国になる過程の分析からその秘訣や条件そして様々な問題点を学んだり、ある企業の発展・没落から経営とは何かと考へてみたり、また、人間が集団形成するときの諸問題を把握することで理想社会について提言したりします。歴史的な発想法を身につけて、当たり前だった日常の「新たな可能性」について一緒に考えてみませんか。

### 会計学

会計学は、「事業の言語」といわれる会計を対象として発達した学問です。会計の仕方がかわれば事業の見え方もかわるため、どのような考え方に基づいて事業活動を認識し表現すべきかという問題が重要になります。会計学は、現実の会計を正確に理解するとともに、望ましい会計について考えてきた学問です。会計は、社会会計・国民経済計算といったマクロ会計と、家計・企業会計・非営利法人会計・公会計といったミクロ会計に分類されます。また、会計情報の利用者の相違によって、企業外部の株主や債権者などに対する財務会計と経営者などのための管理会計に分類されており、それぞれに対応して財務会計学と管理会計学が発達しています。

### 社会経済学

もともと「社会経済学」は、スミス、リカード、マルクスなど古典派と呼ばれる人たちの経済理論の名称でした。かれらは、経済分野だけでなく政治や文化などの分野に及ぶ広い社会的視座をもつとともに、数世紀に及ぶ歴史を考察する長期的視野をもっていました。しかし、20世紀に入ると、大量生産技術の成立といった技術面の変化や、巨大企業の出現といった組織面の変化によって、古典派経済理論の有効性は低下しました。このような資本主義の変化をふまえて、新たな理論を作ったのはケインズとカレツキです。現代の社会経済学は、古典派経済学者たちの社会的歴史的視点とケインズとカレツキの理論とを結合して、現代資本主義の構造や制度を分析します。

### 現代経済事情

人間の社会を扱う以上は、経済学は経済的・社会的問題の解決という目的意識から無縁ではありえません。これは「政策関心」と言い換えることもできるでしょう。経済政策論、財政学、金融論、社会政策論、世界経済論、公共経済学など、「現代経済事情」の諸講義は、いずれも「現代の社会問題や経済問題を素材に考える」という共通項を持っています。経済問題に対しては通常さまざまなアプローチがあります。複雑な社会現象そのものを理解する際には、やはり総合的・多面的な分析視角が必要となります。「現代経済事情」の諸講義に共通するねらいは、現実の経済問題などへの感受性と複眼的な見方を養うことにあります。

### 情報処理

情報処理とは人間の意思決定活動であり社会活動そのものです。またインターネットやコンピュータなどの情報通信技術は、このような活動を支援する道具です。今では、情報通信技術の急速な発展が社会を大きく変え、情報通信技術なくしては企業の経営が成り立たなくなってきました。情報処理は、単に、経済学や経営学を学び、理解し、分析するためだけに活用されるものではありません。コンピュータシミュレーションによって社会や組織を解析し、あるいは未来を予測するといった新しい方向も生まれています。情報通信技術と情報処理は、経済学や経営学と深く関係し、今後の発展が期待される分野なのです。

講座・教員一覧

専攻名	講座名	教授	准教授	講師	助教	助手
経済システム分析	経済理論	八木紀一郎 小島專孝 宇仁宏幸	遊喜一洋	ディミター・ヤルナゾフ		
	統計・情報分析	大西 広 森棟公夫		飯山将晃		白井 亨
	歴史・思想分析	田中秀夫 堀 和生	坂出 健 竹澤祐丈			
経済動態分析	比較制度・政策	今久保幸生 岡田知弘 久本憲夫 岩本武和	黒澤隆文 久野秀二	稲葉久子		
	金融・財政	(植田和弘)	島本哲朗 諸富 徹			
	市場動態分析	田尾雅夫 西牟田祐二 文 世一				
現代経済・経営分析	現代経済学	下谷政弘 西村周三 塩地 洋 依田高典	渡邊純子	櫻田忠衛		
	国際経営・経済分析	山本裕美 根井雅弘	菊谷達弥 宇高淳郎			
	経営管理・戦略	若林靖永 成生達彦	曳野 孝	マスワナ・ジャン・クロード		
	市場・会計分析	藤井秀樹	若林直樹 澤邊紀生			
	事業創生	末松千尋 日置弘一郎 徳賀芳弘	梶山泰生			
	ファイナンス工学		岩城秀樹			
	ビジネス科学	吉田和男	松井啓之			
プロジェクトセンター			宮崎 卓			
寄附講座		木島正明	西出勝正		片川真実	

専門科目

1・2 回生	2 回生～	3 回生～
<p>●入門科目</p> <p>ミクロ経済学入門, マクロ経済学入門, 社会経済学入門, 経済史・思想史入門, 現代経済事情, 経営学入門, 会計学入門, 基礎統計学, 情報処理入門</p>	<p>●専門基礎科目</p> <p>ミクロ経済学 1, ミクロ経済学 2, マクロ経済学 1, マクロ経済学 2, 社会経済学 1, 社会経済学 2, 経済史 1, 経済史 2, 経済政策論 1, 経済政策論 2, 財政学, 金融論, 計量経済学, 経済統計学, 経営学原理, 経営戦略, 経営組織 1, 経営組織 2, マーケティング 1, マーケティング 2, 経営財務, 会計学 1, 会計学 2</p> <p>●専門科目 I</p> <p>社会思想史, 日本経済論, 公共経済学, 世界経済論, 社会政策論, 経済数学 1, 経済数学 2, 経営史, 財務会計, 管理会計, 組織経済論, 情報処理論 1a, 情報処理論 1b, 情報処理論 2a, 情報処理論 2b, 経済学史, 日本経済史, 欧米経済史, 工業経済論, 国際経済学, 国際金融論, 労働経済論, 農業経済論, 国際経営史, 国際農政論, 金融政策, 証券投資論, 派生証券論, ファイナンス工学, 保険論, 比較経営論, IT ビジネス論, ネットワーク経済論</p>	<p>●専門科目 II</p> <p>社会経済変動論, 経済哲学, 意思決定論, 計画理論, 経営情報論, アジア経済史, ヨーロッパ経済論, 経済統合論, 比較経済システム論, 市場経済移行論, 地域産業論, 地域開発論, 租税論, 公共政策論, 地方財政論, 財政政策論, 金融リスク論, サービス経済論, 医療経済学, 交通経済論, 情報・通信産業論, 現代経済思想, 進化経済学, 産業組織論, 産業・企業成長論, 東アジア経済論, 現代日本産業論, 人的資源管理論, オペレーション・マネジメント, 都市経済学, 組織調査論, 非営利組織経営, 流通論, マーケティング・リサーチ, 会計監査論, 経営分析論, 原価計算論, 国際会計論, 国際経営論, 事業創成</p>

大学院連携科目	「特別科目」及び「演習」	留学生対象科目
応用計量経済学, 上級計量経済学, 上級統計学, 上級数理統計学, 思想史の方法と対象, データベース構築論, 国際財政論, 金融システム論, 土地経済論, 環境経済学, 数理経済学, 国際マーケティング	外国経済書講読, 演習, 卒業論文, 特殊講義	基礎比較経済論, 基礎企業ガバナンス論, 基礎人的資源論, 基礎組織行動論

## 理学部が望む学生像

- ・自由を尊重し、既成の権威や概念を無批判に受け入れられない人
- ・自ら考え、新しい知を吸収し創造する姿勢を持つ人
- ・優れた科学的素養、論理的合理的思考力と語学能力を擁し、粘り強く問題解決を試みる人

## 理学部への誘い

自然はどのようになっているか、そして自然はなぜそのように成り立っているのか、自然を動かす法則は何なのか、私達人間はしばしばこういう疑問を抱きます。理学部は、答えを誰も教えてくれないような自然への疑問を持つ人達が、自然の声に耳を傾け、疑問を解く喜びとともに、さらなる自然の深い秘密に接することを楽しむ学部です。

理学部は、京都大学の中でも最も長い歴史をもつ学部で創立以来何度かの改革を行ってきましたが、最近の大きな改革は1994年に理学科のみの一学科制が発足したことです。この制度は、多岐にわたる学問分野を学ぶ過程で自らの適性を発見し、それに応じた専門分野の選択を可能にし、同時に従来からの学問分野の枠組みにとらわれない人材の育成を意図しています。3年次、4年次において、各専門分野に分かれ、少人数ゼミや実験・実習を通じて更に深く学問的教養を身に付けます。学生の自ら学ぶ意欲を尊重し、育てていく教育方針が基本です。

京都大学理学部は、国内国外において著名な多数の独創的研究者を輩出してきました。その中にはノーベル賞やフィールズ賞のような国際的に最高レベルとされている賞の受賞者も含まれています。

また、理学部には霊長類研究など新しい研究分野を幾つも開拓してきた伝統が今でも息づいています。こうした学問の創造や開拓は、研究や教育に対する自由な雰囲気の中で生まれ育つものであり、一朝一夕でつくれるものではありません。このような環境において、今また、21世紀COE拠点として、5専攻(系)の全てにあたる5つの教育研究計画が評価され、理学部全体で活動しています。



## 理学部の教育

### 理学部の教育理念

#### 教育目標

- ・自然科学の基礎体系を深く習得し、それを創造的に展開する能力の養成
- ・個々の知識を総合化し、新たな知的価値を創出する能力の養成

#### 教育の特徴

- ・自由な雰囲気の下で学問的創造を何よりも大切にし、自律的学修が推奨される学風
- ・理学科のみの1学科制
- ・緩やかな専門化を経て、研究の最前線へ

### 理学部の教育方針

1年次・2年次では、主として全学共通科目と理学部学部科目を履修する。

1年次から2年次にかけては、全学共通科目である一般教育科目、外国語科目、保健体育科目などと学部科目である専門基礎科目を主として履修します。これらの科目は、大学院人間・環境学研究科及び理学研究科を実施責任部局として全学部ならびに研究所、研究センターなどにより、全学部の学生を対象に開講されています。また、講義以外にも演習、ゼミナール、講読、実験、実習など様々な形で授業は行われ、これらの科目を履修することによって、専門分野を学ぶための基礎を養うとともに、幅広い学問に接して高い教養を身に付け、人間としての視野を広げるよう工夫されています。

#### 少人数クラスを設け履修を円滑に進める。

系登録するには、所定の科目の単位を2年次の終わりまでに取得する必要があります。必要な単位数や科目履修の進捗などで不明なところがあれば相談できるよう、理学部教員2人が対応する少人数クラス(10数名)が設けられています。

#### 3年次から4年次にかけては主として専門科目を履修する。

理学部は理学科1学科とし、この学科には5つの系が設けられています。これらの系は、おおよそ次のような専門分野と対応しています。

- 数理学系： 数学
- 物理学系： 物理学、宇宙物理学
- 地球惑星科学系： 地球物理学、地質学・鉱物学
- 化学系： 化学
- 生物科学系： 動物学、植物学、生物物理学

系登録は、2年次の終りの時期に行います。3年次では、これらのいずれかの系に属し、その系が担当する課題演習を履修し、4年次においては課題研究(卒業研究)または講究(数理学系)を履修します。

全学共通科目に関しては、以下のように大別してA～Dの4群とそれらの組み合わせから成っています。

- A群科目 人文科学及び社会科学系科目
- B群科目 自然科学系科目
- C群科目 外国語科目

D 群科目	保健体育科目
A・B 群科目	科学論など
A・C 群科目	芸術交流論など
B・D 群科目	健康科学など

学部科目としては、専門基礎科目と専門科目とがあります。これらの科目の数は多く、広い分野にわたって履修することが可能です。特に専門科目は履修単位の上限はありません。これは広く浅く学ぶことを薦める意図ではなく、年次とともに履修科目の専門化の程度を進めて、自己に適した専門的課題を見つけて、それに関連する分野の科目を重点的に履修し易くするためのものです。

#### 4年次では卒業研究に取り組む。

4年次では、数理科学系では講究と呼び、他の系では課題研究と呼ばれる卒業研究が必修科目になっています。この科目の履修においては、学生は、個別に教員の指導を受け、研究の手法を学びつつ、課題の追求とその結果をまとめる基礎力をつけます。この学習を通じて、専門分野の研究の現場に触れることが期待されています。

#### 学部3年次から大学院への入学について。

大学院理学研究科は、数学・数理解析専攻と化学専攻においては、大学に3年以上在学した者で所定の科目とそれを優秀な成績で単位取得したと理学研究科が認めた者には、大学院修士課程の出願資格を認めています。また、修士課程または博士課程において、特に優秀と理学研究科が認めた者に、それぞれ、1年で修士の学位が、または修士課程と合計して3年の在学中で博士の学位が授与されることがあります。

■理学部のホームページ：<http://www.rigaku.kyoto-u.ac.jp>

■入学についてのお問い合わせ：理学部第二教務掛 [tel.075-753-3637](tel:075-753-3637)

## 在学生からのメッセージ



### フィールドワーク

理学部生物科学系3年  
澤田 紘太 さん

私は、動物の行動や生態についての研究がたくてこの大学を選びました。特に、子育てや性転換、配偶システムなどといった魚類の繁殖戦略に興味を持っています。魚類をはじめとする海洋生物には、非常に多様な繁殖様式が見られます。その1つ1つがどのようなメカニズムで進化してきたのかを解き明かしたいと思っています。

行動生態学のようなマクロ生物学を勉強する上では、机上の勉強や室内での実験だけでなく、実際に野外に出て生き物を見るのが重要になります。京都大学では、実習などでそのような体験をする機会が豊富に用意されています。また多くの先生方が、実際にフィールドでの研究をされています。この点が、京都大学の魅力の1つだと思います。



### 未知の世界の旅人

理学部物理科学系4年  
村松 真臣 さん

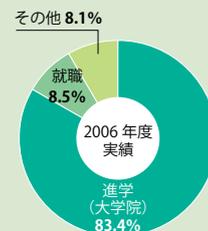
私の尊敬する湯川秀樹博士の言葉に「未知の世界を探求する人々は、地図を持たない旅人である。地図は探求の結果として、できるのである。」というのがありますが、これほど理学部の本質を言い当てた言葉はないと思います。

私の現在の探求は、原子核や素粒子の相互作用の内の電磁相互作用、弱い相互作用、強い相互作用を記述する「標準模型」を理論的、実験的背景から理解する事です。理論が予想した粒子を実験で見つけ、実験に合うように理論を作りながら素粒子物理学が発展してきた歴史を伝統のある京大で学ぶのは大変刺激的です。

京大理学部は入学してもすぐには専攻が決まらないので、自分が何をしたいかを悩みながらもじっくり考えることができ、きっと自分だけの「地図」を描けると思います。

## 卒業後の進路

卒業後大学院に進学する者が全体の5分の4以上に達し、博士の学位取得者は毎年100人を超えています。卒業後民間企業等に就職し専門的・技術的職業に従事する者は全体の10分の1程度です。



#### 就職先の例

三菱自動車、理化学研究所、NTTデータ、日本生命、京都銀行、三井住友銀行、住友信託銀行、野村證券、日本コントロールシステム、DeNA、アップ、フューチャーアーキテクト、コナミデジタルエンタテインメント、新和海運、AIG エジソン生命、京進、和歌山県、千葉県、塾講師

## 理学部で取得可能な資格

理学部では、教育職員免許状の高等学校教諭一種免許状(数学・理科)と中学校教諭一種免許状(数学・理科)の課程認定を受けています。

数理科学系・物理科学系・地球惑星科学系の卒業生については、測量法施行令第14条第1項に規定する「相当する学科」としての認定を受けていますので、所定の科目を履修することにより、測量士補の資格を取得することが可能です。

また、学芸員資格についても、必要な科目を修得することにより取得することが可能です。

## 卒業生からのメッセージ



### 自由な学風と研究環境

2005年 卒業  
京都大学大学院理学研究科  
数学・数理解析専攻博士後期課程1年  
木村 嘉之 さん

京都大学の印象を述べるにあたって、私が真っ先に思い浮ぶものは、自由の学風と豊かな研究を育むことの出来る環境です。

理学部では理学科として入学した後、様々な分野から自分の好きな学問を発見し、自由に取り組むことが出来ます。

例えば、私は物理学を学びたいという動機で理学部への入学を選びましたが、1・2回生の頃の講義の中で数学に興味を持ち、現在、表現論という分野を専攻しています。

大学生活において、自分を取り巻く人間環境は大きな役割を果たします。

研究分野の素晴らしい先生方や分野を同じくする友人との出会いだけでなく、自分の専門とは違う他の分野の友人との会話の中にも研究への刺激が得られることがあるでしょう。

私は、京都大学には、自由に学問を追求できる風土とそれを実現できる最高の環境があると思います。



### 求めよ、さらば与えられん

1996年 卒業  
独立行政法人海洋研究開発機構  
地球内部変動研究センター 研究員  
一瀬 建日 さん

元々地球科学の研究者となる事を目指していた私にとって、京大理学部在籍できた事は非常に幸運な事でした。自分の興味のある専門科目を1・2回生の頃から聴講してその事柄に関して好きなだけ理解を深めていくことができたのはいい刺激になりました。また、全国津々浦々からやってくる理学部の同級生の面々は個性派ぞろいでこれもまたいい刺激でした。

しかし、ただ存在するだけではこのような刺激を受けられるとは限りません。京都大学の学生の自主性を重んじるという学風は、自ら行動したものにのみ結果を与えるという一面もあります。優秀な先生、先輩、同級生の多い理学部で得られるものは素晴らしいものですから、皆さんが入学後に積極的に行動して爽り多い学生生活を送られる事を祈っております。

## 各系の紹介

### 数理科学系

数学は、数、図形、数量の変化などの背後にある法則を明らかにすることを旨とする学問です。その長い歴史のなかで確固とした体系を築いてきましたが、現在でも多くの新しい問題が、その内部から、また物理学、地球惑星科学、化学、生物科学など他の科学からの影響の下に生まれ、それらを解決するために新たな理論が次々に創出されています。また数学は、その普遍的な性質により、自然科学は勿論のこと、情報科学、経済学など多くの分野とのつながりを持つようになっています。

数理科学系においては、20世紀前半までに確立した、代数学、幾何学、解析学の基礎を広く学習するとともに、最近の発展しつつある数学を目標として学びます。

数論、代数幾何学、複素多様体論、微分幾何学、トポロジー、微分位相幾何学、微分方程式論、関数解析、複素解析、代数学解析、表現論、作用素環論、力学系、非線形数学、確率論、数値解析、計算機科学、保険数学

### 物理学系

物理学は、自然界の普遍的な法則を明らかにし、物質の種類や時間・空間・エネルギーのスケールの違いによって様相の異なる様々な現象を、統一的に理解することを目的とする。本系は3教室に分かれ、物理第一教室では主に物質の構造と性質について、物理第二教室では時空の基本構造から素粒子、原子核、重力、宇宙論まで、宇宙物理学教室では太陽から宇宙論まで宇宙の様々なスケールでの諸現象について、それぞれ理論、実験、観測等をからめながら幅広い研究と教育を行っている。

不規則系物理学、量子光学・レーザー分光、低温物理学、光物性、固体量子物性、固体電子物性、化学物理・生命物理、ソフトマター物理、非線形動力学、凝縮系の理論、統計物理学、流体物理学、非平衡物理学、原子核・ハドロン物理学、高エネルギー物理学、宇宙線、素粒子論、原子核理論、天体核、太陽物理学、太陽・宇宙プラズマ物理学、恒星物理学、銀河物理学、理論宇宙物理学

### 地球惑星科学系

われわれの生活する地球、地球を取り巻く惑星間空間を研究の対象としている。雲の動きを引き起こす大気の流れ、日本の前に広がる太平洋の奥深くの静かな流れ、地震を起し火山を造る地球内部の変動、オーロラとして見える太陽からの粒子と地球磁場、ヒマラヤをつくり南米とアフリカを引き裂いたマントルの流れ、ダイヤモンドを造り出した高温・高圧の世界、35億年前らん藻として存在した生物はいかなる変遷を経て今見る生物になったか、他の惑星には生物は存在したか、身近で遙かな事柄を研究し教育している。

固体地球物理学、水圏地球物理学、大気圏地球物理学、太陽惑星系電磁気学、地球テクトニクス、地球物質科学、地球生物圏史、相関地球惑星科学

### 化学系

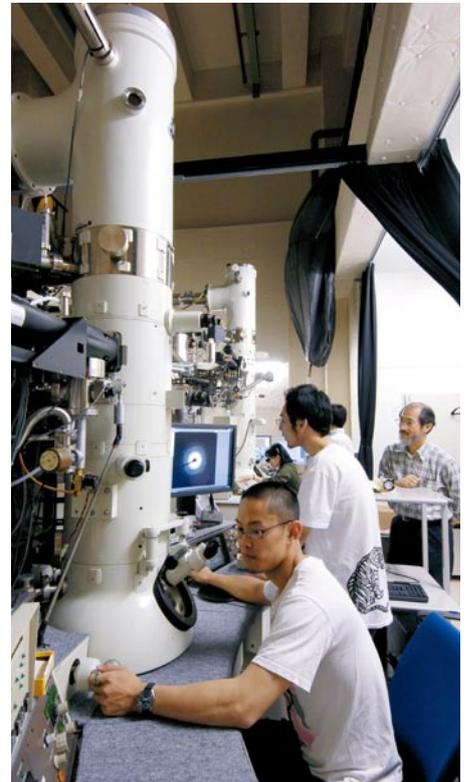
化学は、原子、分子のレベルで物質の構造、性質、反応の本質を明らかにし、それに基づいて自然を理解し有用な物質の創造を目指す、物質科学の要をなす学問です。原子、分子、生命から宇宙に至るこの自然界に存在するあらゆる物質を研究対象としますから、知的探求の場としては広大なフロンティアを持っており、その研究方法やスタイルも分野によってかなり異なり、合成、分析、測定の実験中心の分野から、理論と計算が中心の分野まで色々とあります。このように研究対象や研究方法も大変バラエティに富んでいますから、各人の能力や適性にに応じて自分に適した研究分野が大変見つけやすい学問分野です。

相関化学、理論化学、物理化学、物性化学、無機化学、有機化学、生物化学

### 生物科学系

生物科学系は、地球上の多様な生物が織りなす様々な存在様式や生命現象を研究対象としています。マクロ的な視点からは、生態学、行動学、系統分類学、人類学を中心に自然史や野外研究に重点をおいた伝統に培われた研究を展開し、生物の進化や多様性の機構を明らかにしようとしています。一方、様々な生物のゲノムが解読され、ライフサイエンスもポストゲノム時代に入り、新しい研究の方向性が求められるようになりました。ミクロ的な視点からは、動物や植物の細胞生物学、発生学、分子生物学、構造生物学の独創的な研究により多彩な生命現象を分子レベルで解明しようとしています。このようにミクロ・マクロの両方の視点から、多様なアプローチと方法論を駆使しつつ、生物をその環境と合わせて統合的に理解することを目指しているのが、生物科学系の特徴です。

自然人類学、人類進化論、動物系統学、海洋生物学、動物行動学、動物生態学、生態科学I、発生ゲノム科学、放射線生物学、細胞情報制御学、植物生理学、形態統御学、植物系統分類学、植物分子細胞生物学、植物分子遺伝学、生態科学II、ゲノム情報発現学、分子生物物理学、分子進化学、分子生体情報学、神経生物学、分子細胞生物学、分子発生学



[写真] 極低温顕微鏡室

## 全学共通科目(専門基礎科目)

### 科目

微分積分学A、微分積分学B、線形代数学A、線形代数学B、微分積分学統論A、微分積分学統論B、確率論基礎、数理統計、線形代数学統論、多項式環と計算機代数A、多項式環と計算機代数B、非線形数学、非線形数学セミナー、現代解析学の展開、関数論、数値計算の基礎、現代の数学と数理解析—基礎概念とその諸科学への広がり、対称性の数理A、対称性の数理B、物理学基礎論A、物理学基礎論B、初修物理学A、初修物理学B、熱力学、振動・波動論、力学統論、物理学実験、特殊相対論、電磁気学統論、現代の素粒子像、天体観測実習、やわらかな物理学—物質と生命の本質を探る、低温科学A、低温科学B、ビーム科学入門、レーザー科学、放射性同位元素と放射線の取扱入門、基礎物理化学A、基礎物理化学B、基礎有機化学A、基礎有機化学B、無機化学入門A、無機化学入門B、基礎化学実験、現代化学入門A、現代化学入門B、薬学物理化学(化学熱力学)、基礎地球科学I A、基礎地球科学I B、基礎地球科学II A、基礎地球科学II B、地球科学実験A、地球科学実験B、Field地球科学A、Field地球科学B、Visual地球科学概説、Visual地球科学演習、地球生物圏史セミナー、地質科学セミナー、地球物理学セミナーI、地球テクトニクス基礎セミナー、自然災害科学I、自然災害科学II、環境地図科学ゼミナールII、生物学実習I、生物学実習II、生物学実習III、生物自然史基礎論A、生物自然史基礎論B、真菌自然史A、真菌自然史B、動物自然史A、動物自然史B、植物自然史A、植物自然史B、生命現象の生物物理学、基礎生物学A、基礎生物学B、現代植物学、薬学生物学、薬用植物学、霊長類学のすすめ、生態科学、コンピュータグラフィックス実習A、コンピュータグラフィックス実習B、基礎情報処理、基礎情報処理演習、コンピュータサイエンス入門、グラフ・ネットワーク、科学英語A、科学英語B

専門科目

1年次	2年次	3年次
線型代数学演習A, 線型代数学演習B, 地球・惑星科学I, 地球・惑星科学II, 地球・惑星科学III, 現代化学セミナーA, 現代化学セミナーB, 大学で学ぶ物理学, 自然人類学A, 自然人類学B	集合と位相, 代数学入門, 幾何学入門, 基礎数学からの展開A, 基礎数学からの展開B, 数学基礎演習I, 数学基礎演習II, 解析力学I, 解析力学II, 波動と量子論, 熱・統計力学I, 物理のための数学I, 物理のための数学II, 物理学情報処理論I, 解析力学I理論演習, 解析力学II理論演習, 熱・統計力学I理論演習, 天文学概論, 計算地球物理学, 計算地球物理学演習, 地球連続体力学, 観測地球物理学, 観測地球物理学演習A, 観測地球物理学演習B, グローバルテクトニクス, 生物圏進化史, 地質科学通論I, 地質科学通論II, 基礎地質科学実習, 有機化学I A, 有機化学I B, 物理化学I (量子化学), 無機化学I, 物理化学II, 生物化学I A, 生物化学I B, 分子生物学I, 分子生物学II, 分子遺伝学I, 海洋生物学, 細胞生物学, 構造生物学, 無脊椎動物学, 生物物理化学, 生体分子科学, 基礎生物学実験I, 基礎生物学実験II, 基礎生物学実験III, 臨海実習第1部	代数学I, 代数学II, 幾何学I, 幾何学II, 解析学I, 解析学II, 微分方程式論, 函数解析学, 代数学演義I, 代数学演義II, 幾何学演義I, 幾何学演義II, 解析学演義I, 解析学演義II, 函数論統論, 数値解析, 計算機科学, 量子力学I, 量子力学II, 量子力学特論I, 熱・統計力学I, 物理実験学I, エレクトロニクス, 物性物理学I, 物性物理学II, 物理実験学II, 物理数学特論I, 連続体力学, 量子物性論, 電磁気学I, 電磁気学II, 物理学情報処理論II, 非線形科学, プラズマ物理, 宇宙物理入門, 物理の英語, 熱・統計力学II理論演習, 量子力学I理論演習, 量子力学II理論演習, 電磁気学III理論演習, 電磁気学IV理論演習, 現代物理学, 物理学課題演習(原子核物理:素粒子の基本相互作用-量子電磁力学, アインシュタインは正しいか?-EPRパラドックスを検証する-, 原子核と電磁場の相互作用, 粒子の加速, 高強度レーザー, 自然における対称性, 自然界の4つの力, 宇宙X線放射過程, 宇宙ガンマ線放射), 物理学課題演習(物性物理:相転移, 物質の光応答, 固体電子の量子現象, 高温超伝導と巨大磁気抵抗, プラズマ, 量子エレクトロニクス, 低温物性・超流動, 自己組織化現象のダイナミクス, ソフトマター), 基礎宇宙物理学I。自己重力, 基礎宇宙物理学II。電磁流体力学, 基礎宇宙物理学III。放射/観測, 物理学課題演習(宇宙物理:天体測光観測, 天体撮像観測, 天体分光観測), 弾性波動論, 地球流体力学, 電離気体電磁力学, 地球熱学, 測地学I, 地震学I, 海洋物理学I, 気象学I, 地球電磁気学, 物理気候学, 火山物理学I, 地形学, 地球惑星科学課題演習(地球物理:固体地球系, 流体地球系, 重力と地殻変動, 地球内部と地震発生, 地下構造と活構造・地表変動, 地球熱学, 海洋構造と変動システム, 気象学総合演習, 太陽惑星系のプラズマと電磁場, 気候システムと気候物理), 岩石学I, 岩石学II, 鉱物学I, 鉱物学II, 層序学, 地質調査法, 古生物学I, 古生物学II, 地球テクトニクスI, 地層学, 地球テクトニクスII, 岩石学実験I, 岩石学実験II, 結晶学演習, 地質科学野外巡検I, 地球テクトニクス実習I, 古生物学実験, 地球惑星科学課題演習(地質鉱物:地質科学研究法1, 地質科学研究法2), 生物化学II, 生物化学III, ケミカル・バイオロジー, 化学実験法I, 化学実験法II, 無機化学II A, 無機化学II B, 物性化学I, 物性化学II, 化学統計力学, 有機化学II, 有機化学III, 化学数学, 物理化学III A, 物理化学III B, 量子化学I, 量子化学II, 分析化学I, 分析化学II, 環境化学, 物理化学演習II, 計算機化学演習, 物理化学演習I, 無機・物性化学演習, 生物化学演習, 化学実験A, 化学実験B, 化学実験C, 化学実験D, 植物系統分類学II, 脊椎動物系統学, 動物行動学, 生態学I, 生態学II, 人類学第1部, 人類学第2部, 陸水生態学, 遺伝情報維持機構論, 分子情報学, 理論分子生物学, 発生生物学I, 発生生物学II, 植物生理学, 動物発生進化論, 植物分子生物学, 分子進化学, 環境生態学, 免疫生物学, 神経生物学, 分子遺伝学II, 膜生物学, ゲノム科学, 再生生物学, 細胞内情報発信学, 数理生物学, 植物分子遺伝学I, 生物間相互作用, 植物分子遺伝学II, 分子生物物理学, 生物学セミナーA, 生物学セミナーB, 生物学実習A, 生物学実習B, 生物学実習C, 生物学実習D, 生物学実習E, 臨海実習第2部, 臨海実習第3部, 臨海実習第4部, 野外実習第1部, 野外実習第2部, 陸水生態学実習I, 陸水生態学実習II, 安定同位体実習, 物質の創成と制御

4年次	卒業研究科目	特別講義
代数幾何学I, 代数幾何学II, 整数論I, 整数論II, 位相幾何学I, 位相幾何学II, 微分幾何学I, 微分幾何学II, 確率論, 偏微分方程式, 函数解析特論, 解析学特論I, 解析学特論II, 力学系, 非線型微分方程式, 数値解析特論, 計算機科学特論, 保険数学I, 保険数学II, 保険数学演習I, 保険数学演習II, 原子核物理学I, 原子核物理学II, 素粒子物理学I, 素粒子物理学II, 重力, 重力特論, ソフトマター, 量子力学特論I, 量子力学特論II, 量子力学特論III, 量子力学・光物性, 物理数学特論II, 非平衡統計, 物性物理学I, 物性物理学II, 太陽物理学, 恒星物理学, 銀河・星間物理学, 観測的宇宙論, 惑星物理学, 測地学II, 地震学II, 海洋物理学II, 気象学II, 太陽地球系物理学, 陸水学, 火山物理学II, 活構造学, 鉱物学特論, 惑星科学基礎論, 変成岩岩石学, 地史学, 鉱物学実習, 地質学機器分析法実習, 地質科学野外巡検II, 地球テクトニクス実習II, 理論テクトニクス特論, 無機化学III, 物理化学IV, 有機化学IV, 有機化学演習, 物理化学演習III	<p><b>[数学講義]</b> 代数学講義, 幾何学講義, 解析学講義, 計算機科学講義</p> <p><b>[物理学課題研究]</b> (原子核科学) 自然における相互作用I, 自然における相互作用II, 素粒子と原子核, 原子核の世界, 天体核現象, 高エネルギー天体物理 (物性科学) 不規則系の物性, 光物性, 固体電子物性, 超伝導と磁性, プラズマ, レーザー分光, 低温物理, 時空間秩序・生命現象の物理, 非線形・非平衡現象の理論, ソフトマターの階層構造と揺らぎ, 凝縮系の理論, 凝集系の分子分光, 分子集合体および無機化合物の構造と物性, 固体・表面のナノ構造解析, 液体の物理化学・理論生物物理化学, 化学物理理論 (宇宙科学) 太陽物理, 恒星物理, 銀河物理, 理論天文学</p> <p><b>[地球惑星科学課題研究]</b> (地球物理学) 地球・惑星プラズマ, 地球・惑星電磁場, 大気物理, 気候物理, 海洋物理, 地震・地球内部, 測地, 地表変動・固体地球物理・火山物理 (地質学鉱物学) 地球テクトニクス, 岩石学, 鉱物学, 地層学, 地史学</p> <p><b>[化学課題研究]</b> 有機物性化学, 生物構造化学, 量子化学, 理論化学, 分子分光学, 物理化学, 光物理化学, 分子構造化学, 電子スピン化学, 金相学, 表面化学, 無機物質化学, 有機合成化学, 有機化学, 集合有機分子機能, 生物化学, 遺伝子動態学</p> <p><b>[生物学課題研究]</b> 植物系統分類学, 動物系統学, 動物生態学, 生態科学, 自然人類学, 霊長類行動生態学, 動物行動学, 海洋生物学, 免疫生物学, 動物の発生と進化, 植物生理機能学, 植物の発生生物学・細胞性粘菌における細胞分化と形態形成, 植物分子遺伝学, 植物細胞分化の分子生物学, 分子細胞生物学, 放射線生物学, 細胞分子構造生物学, 分子情報学, ゲノム情報発現学, 細胞シグナル伝達の分子生物学, 神経生物学, 多細胞体構築の分子発生遺伝学, 遺伝子分子生物学, 幹細胞と幹細胞化の分子細胞生物学</p>	数学特別講義, 物理学特別講義, 地球惑星科学特別講義, 化学特別講義, 生物科学特別講義

## 理念と目標

京都大学医学部は、医療の第一線で活躍する優秀な臨床医、医療専門職とともに、次世代の医学を担う医学研究者、教育者の養成をその責務とする。

京都大学医学部が育てるのは、単に既存の知識を応用して医療にあたるだけでなく、病気など医学事象の背後にあるものを見抜き、自分の頭で考え、新たな知を創出できる人間、また、広く社会と人間行動を理解し病める人の感情を洞察できる人間、社会全体の健康をめざし高い倫理観を持って行動する人間である。

また、これを人類すべてに発信できる国際性豊かな人間を育てることも我々の使命である。

## アドミッションポリシー (医学部が望む学生像)

京都大学医学部は21世紀の医学・医療の発展を担い、人類の福祉に貢献することを自らの使命と考え、この理想を追求する学生を求めています。医学には大きく分けて、基礎医学および臨床医学の研究に携わる分野、多様な疾患に悩む患者の医療に携わる分野、さらに環境・福祉・予防など、広く地球的な視点から人々の健康増進に関わる社会医学分野があります。

医学は生命科学の中心分野の一つです。医学研究は生命の不思議を解き明かし、その結果知り得た生命の営みの原理に基づき、なぜ病気が起こるかを解明しようとするものです。さらにこの病因解明に基づき、新たな診断法や治療法、およびその予防法の開発に努力を傾けます。このような医学研究の遂行には、真理を追求するための強い好奇心と未知への挑戦心、不屈の精神と忍耐力などが必要です。

医療の原点は「人を愛する」ことにあります。それ故、医療に携わる者には、感性豊かな人間性や人間そのものに対する共感と深い洞察力、および人々の健康を増進し、病める者を救おうという強い意志と情熱が必要です。また現代の医療は多様な職種との専門家との連帯あるいは共同作業を要することから、医師には円滑に医療を遂行するための指導力と大きな包容力、ならびに厳しい倫理観が求められます。さらに、医療の進歩と発展に寄与するためには、強い向上心と探求心を持ち続けることのできる人材が求められます。

社会医学は、単に一人ひとりの患者ではなく、我が国あるいは世界の大きな集団を対象として、人々の健康増進を追求する分野です。さらに、このような問題解決のために行政的、あるいは啓発的活動も行う必要があります。このような社会的な要因による医学的問題解決のためには、秀でた社会性と優れた行政的活動能力、および幅広い国際性が要求されます。したがって、この分野では広い視野を持ち、人間社会全体に目を向ける感性、柔軟な思考力と豊かな人間性を持つ人材が望まれます。

京都大学は学生の自主性、自己啓発を教育の主眼として、個性豊かな創造性の涵養を目指しているため、自ら学習課題を発掘し解決しようとする主体性を持った人材を求めています。さらに、京都大学医学部は、多様な能力と幅広い教育背景を持ち、医学・医療の分野で指導的立場に立ちうる人材を集めたいと考えています。このような背景に鑑み、医学に従事する職業的な制約による適性を重視し、高い知的能力のみならず、人間性を含めた総合的に卓越した能力・人格を有する学生の入学を切望するものであります。

[写真] 附属病院での手術の様子



## 医学科 新医学領域の開拓と革新的医療の創成

### 医学科の教育がめざすもの

京都大学医学部医学科では、個々の学生の、医師、医学研究者としての資質を最大限開拓し、医学や医療の分野で活躍できる、すぐれたリーダーを養成することをめざしています。

「医師」には高度な専門知識の修得と同時に、その知識を論理的に使いこなす能力、病める患者さんと向き合って病気を治療する感性豊かな人間性や、人間そのものに対する深い洞察力を必要とします。また、何よりも、人々の健康を増進し、病めるものを救おうという強い情熱が必要です。一方、病気の発生機序の解明、新しい診断法や治療法の開発などを旨とする医学研究、制度を改革するための人間社会への深い理解も重要です。京都大学医学部は、このようなすぐれた医療人を育成することをめざしています。

「医学研究者」には、新しい知を開拓するための情熱と、卓抜した能力が必要です。京都大学には、国際的にもすぐれた業績をあげ、卓抜した開発能力を有する指導者が集まっており、研究開発のできる人材を養成する環境が形作られています。

### 生命科学の深淵に触れる基礎医学

第1学年、第2学年では、「全学共通科目」と呼ばれる教養科目を主とした科目の履修が主体となります。しかし、これと並行して、生命科学に関する基礎的な教材に関して、少人数で教員と議論したり、あるいは、人体の理解の基本となる解剖学をはじめとして基礎医学の履修を開始します。

基礎医学の履修は、第3学年では本格的になり、生命科学の深淵に触れる学習を、さまざまな面から掘り下げて深めていくことになります。専門科目の勉強と並行して、多くの学生が様々な研究室で研究に参加しています。世界的な先進的研究を行っている研究室が多く、最新の医学研究を身をもって体験できる機会となっています。

### 実践的な臨床医学教育

臨床医学の教育では、近年、単に医学知識を習得するだけでなく、臨床の現場に適応して責任をもって診療できる人材を育成することが強く求められています。京都大学では、節目、節目において、積極的に臨床教育の改革を進めてきましたが、単に各科が個別の分野の教育を行うだけでなく、学生が臨床医学を系統的に学習できるように、医学教育推進センターを設けて、実践的な臨床教育を推進しています。

医学部附属病院は、近年、多くの新しい部門、設備が加わり、例えば基礎医学との橋渡しとしての探索医療センターが設けられました。また、地域医療との密接な関係を作り上げ、医療機関同士の連携により医療の効率を上げるための地域医療ネットワークなどが組織されました。初期診療・救急医学のセクションも整備され、外科も新しい形に再編されるなど、新しい時代を担う組織づくりをめざして脱皮し続けています。施設も多額の寄付により、新しく構築されるなど整備が進んでいます。診療・治療・教育の場として充実した施設になっています。

また、学外の実習病院では、第一線で医療に携わっている経験豊かな医師が多

数臨床教授として学生教育に協力しており、豊富な臨床経験に基づいた少人数教育が行われます。これらを通して、最新の医療の発展に貢献できる人材養成をめざして、密度の高い教育が行われています。

■医学部医学科・医学研究科のホームページ：  
<http://www.med.kyoto-u.ac.jp/>

■入学についてのお問い合わせ：医学研究科 教務・学生支援室  
tel.075-753-4325

## 在学生からのメッセージ



### 本物を見て自由に羽ばたこう!

医学部医学科4回生  
中神 由香子 さん

開かれた自由な学府、それが京都大学です。京大のいいところは、本物と向き合い、やりたいことを自由にやれるところです。研究への情熱・臨床にかけるといふ思いなど、本物の心が溢れています。そして何より、本物の才能・能力を秘めた人に出会えます。

能力を発揮し、夢を実現するために必要な環境も用意されています。研究室に通いつめるのも、海外で研修するのも、自由です。また、カリキュラムに拘束が少なく、限られた6年間で最大限に利用できます。

私は去年、ドイツでの研究に参加し、今年はアメリカと発展途上国で医療研修をし、さらに帰国後は京大での研究にも参加させて頂きました。やりたいことをとことんやれるので、こんな欲張りも可能なのです。好きなことを自由にしたい!そんなあなたは京大向きです。この京大で自由に羽ばたきましょう!

## 学科紹介 (医学科)

医師や医学研究者を養成するための教育・実習を基本とします。すべての授業が必須科目で、6年間の授業で、医学全般をすべて学び、経験することになります。基礎医学は、生命科学と医師に必要な解剖学・病理学・法医学・社会健康医学などを学びます。臨床教育は、すべての臨床医学の分野について、授業と臨床実習によって、理論的な基礎と実際の医療現場での活用を学びます。

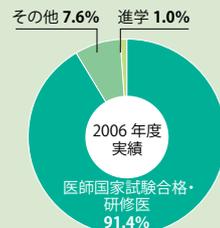
これらを通じて、6年の卒業後、医師国家試験の受験資格が与えられます。また、MD・PhDコースが用意されており、研究に専念することを希望する学生は、第4学年終了後、大学院へ進学して、医学研究に専念し、早期に学位を取得して研究者としての道を歩むことができます。

## 専門科目 (医学科)

1回生	基礎医学生物学, 基礎医学生物学(実習), 医学情報リテラシー, Early Exposure
2回生~3回生	組織学, 組織学実習・組織標本作製実習, 肉眼解剖学講義実習, 発生学, 生理学, 生理学実習, 実験動物学, 分子細胞生物学, 分子細胞生物学実習, 神経科学, 脳実習, 免疫学, 微生物学講義, 微生物学実習, 寄生虫学, 病理学総論, 病理学各論・実習, 法医学, 法医学実習, 薬理学・薬理学実習, 放射線生物学, 遺伝医学, 薬物動態学・毒性学, 医療情報学
3回生~4回生	社会・環境・予防医学, 診断治療学総論, 循環器病学・心臓血管外科学, 血液病学, 内分泌・代謝病学, 呼吸器病学, 消化器病学, 泌尿器科学・腎臓病学, 臨床神経学(神経内科学・脳神経外科学), 特殊感染病学, 免疫病学, 整形外科学, 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学, 眼科学, 婦人科学・産科学, 皮膚科学, 小児科学, 加齢医学(老年医学), 精神医学, 麻酔科学・集中治療医学, 救急医学, 放射線腫瘍学, 放射線診断学, 口腔外科学, 形成外科学, 医の倫理, 糖尿病・栄養内科学, 臨床検査医学
5回生~6回生	臨床実習(血液・腫瘍内科, 内分泌・代謝内科, 循環器内科, 消化器内科, 呼吸器内科, 免疫・膠原病内科, 老年内科, 糖尿病・栄養内科, 神経内科, 消化管外科, 肝胆膵・移植外科, 眼科, 産科婦人科, 小児科, 皮膚科, 泌尿器科・人工腎臓科, 腎臓内科, 耳鼻咽喉科, 整形外科, 精神科神経科, 放射線科/核医学, 麻酔科/救急部/集中治療部, 脳神経外科, 呼吸器外科, 心臓血管外科, 形成外科, 口腔外科/薬剤部, 検査部・感染制御部/輸血部, 病理診断部, 外来化学療法部)
6回生	卒業試験

## 卒業後の進路

研究分野によっては大学院に進学する者もありますが、一般的には医師免許取得後、医学部附属病院あるいは研修病院において2年間の臨床研修を受けます。



## 医学科で取得可能な資格

医学科の所定の課程を修了し、卒業した者および卒業見込み者は、厚生労働省が実施する医師国家試験受験資格が与えられます。

## 卒業生からのメッセージ



### 求めよ、さらば与えられん。

2006年 医学科卒業  
京都大学大学院医学研究科医学専攻  
高次脳形態学

田中 康裕 さん

私は卒業後大学院に進学し、金子武嗣教授の指導のもと、意識、記憶といった高次機能を実現する脳の作動原理を探究しています。学部生の頃には3年生時から成宮周教授のご好意で4年間薬理学の研究に没頭させていただきました。勉強との両立は大変でしたが、生命科学/医学の世界を肌で感じ、知識と技術を身に付ける過程で世界の現状を知り、そして、自分の興味、疑問を研ぎ澄ますことができたのは本当に有意義でした。京大医学部では医師となるための教育を越えて、1年生からでも「知りたい」という気持ちさえあれば、科学の歴史を動かしている現場に身を投じることが出来ます。そこでは意外と身近にある現代科学の限界と、ピンホールのように小さな穴から広がる限りない可能性を実感することができます。皆さんも求め、探し、扉を叩いてください。



### 自主性

2006年 医学科卒業  
京都大学医学部附属病院研修医

若江 亨祥 さん

私は大学卒業後、2年間の卒業臨床研修に従事しています。その中で、京都大学で学べてよかった点として、自主的に目標を設定し、能動的に取り組むことを身につけたことがあると思います。本学の特徴として、義務を課して「学ばせる」ことが少ない、自主的に「学ぶ」ことを奨励するという雰囲気があります。私は学生時代、学業の他に、部活動、研究室での実験にかかわっていましたが、どんなことでも自分で目標を設定し、自分で解決法を見つけるという習慣が身につきました。この自主的に学ぶという姿勢は現在医師として多忙な研修に従事する上でも非常に大事であると感じており、本学で大学生活を送れたことを大変ありがたく思っています。ぜひ皆さんもこの自主性を重んじる学風のもと、有意義な医学生生活を送られることをお勧めします。



【写真】作業学演習Ⅱ

## 保健学科が望む学生像

京都大学医学部がこれまで推し進めてきた医学研究並びに高度先進医療をさらに発展させ、豊かな保健・福祉社会を実現するため、新しく設置した保健学科において健康科学を確立し、人々の健康を実現したいと考えています。

これを具体化するには、共に学び共に展開する人材が必要です。保健学科は高度医療専門職を、そして将来の健康科学を発展させる人材を育成したいと考えています。恵まれた教育・研究環境で、そして学問を育む京都において、夢のあるチャレンジを志す若人を求めています。

## 保健学科教育課程の概要

本学科では、「健康について科学すること」を教育過程の中心として取り上げ、新入生から『人間健康科学概論』において、「健康科学」に関する基盤形成をしていきます。4年間を通じてヘルスプロモーションの考え方を学習し、保健医療福祉分野において「健康科学」を実践しうる人材を育成します。

チームに積極的に参画してリーダーシップを発揮できる医療専門職として、患者中心の医療を進めるために必要な共通理念・方法論を学習し、その基礎の上に立って高度先進医療に対応でき、国際的にも将来の医療を担うことのできる人材を育成します。

## 授業科目の区分

保健学科の授業科目は、全学共通科目、専門基礎科目、専門科目から成り立っています。全学共通教育は、個々の学問領域を超えた幅広い分野に共通する基礎的な知識および方法を教授するとともに、学生が高度な学術文化に触れることを通じて豊かな人間性を育むための教育を実施することを目的としています。専門基礎科目は、医学部保健学科全専攻の学生が個々の専門領域を超えて、医療従事者として共通する基礎的な専門知識を教授するものです。そして専門科目は、各専攻それぞれの専門分野における知識や技術を教授するものです。

学年	1		2		3		4	
セメスター	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
科目	全学共通科目				各専門科目			
	専門基礎科目 (全専攻共通・必修)				・看護学専攻 ・検査技術科学専攻 ・理学療法学専攻 ・作業療法学専攻			

## セメスター制の履修方法

セメスター制とは、1年を前期・後期の2学期に分けて、各学期ごとに履修科目登録と成績評価を行う制度です。保健学科は基本的にセメスター制をとりますが、各教科実習や臨床実習の実施日時は京都大学全体のセメスター日時と一致しない場合があります。

## 全学共通科目

全学共通科目はA群、B群、C群、D群の4群に区分されます。これをもとに保健学科は卒業に必要な基礎となる科目数と単位数を定めています。各専攻によって、特に履修を要望する科目があります。

## 専門基礎科目

専門基礎科目は医療専門職に進む学生が共通して学ぶべき医学・医療領域のコアカリキュラムと位置付けられる重要なもので、全専攻に共通する専門領域の基礎概念および基礎知識を理解するための科目です。全学共通科目と平行して第Ⅰセメスターより第Ⅲセメスターまでに、保健学科全専攻の学生は必須単位として共通履修することとなります。

専門基礎科目は生体の基礎、医療の基礎ならびに健康科学より構成され、13科目が含まれその配当単位は合計17単位となっています。全学共通科目として開講される基礎人体構造学、生体制御機構概論、医療情報学、健康人間学の4科目は全専攻の学生に必須単位であり、専門基礎科目としての履修単位とみなされます。

## 専門科目（看護学専攻）

看護学専攻では第Ⅰセメスターから、全学共通科目・専門基礎科目と並行して、看護学の基礎となる「看護学原論」、「生活環境看護学」、「コミュニケーション論」を学習します。これらの科目は、看護学において基本的な概念となる人、環境、生活、健康に対する理解を深めると共に、看護に対する興味を新たにしたり、各自の看護観を形成したりするための基盤となるものです。第Ⅱセメスターでは、援助方法の基礎となる「看護援助学」「看護援助学演習Ⅰ」など、より具体的な学習を進めます。

2年次以降は成人、老年、母性、小児、精神、地域の各領域の専門科目が本格的に始まります。ここでは、人体の構造や機能、病理などの専門基礎科目や、基礎看護学の学習を踏まえ、各領域の特性や捉え方、疾患をもつ人や状況のアセスメント、必要な援助方法などを学習します。一部の演習は各領域が共同し、事例を用いたより具体的なフィジカルアセスメントや症状マネージメントをしたり、援助の考え方を習得できるように学習します。

## 専門科目（検査技術科学専攻）

1年次：全学共通科目として「健康について科学すること」を教育テーマの中心として取り上げ、『人間健康科学概論』において、「健康の科学」に関する基盤形成をしていきます。また、チーム医療教育として、患者中心の医療を進めるために必要な共通理念・方法論を学習します。広い教養と見識を培う時期です。

2年次：基礎医学に関する講義を中心に問題を論理的に解説する能力を培います。生体の正常な機能と病因・病態を中心に、基礎医学の知識を総合的に理解する時期です。後期では臨床検査に関連する実習を行います。専門基礎科目を中心に編成されており、いずれ臨床医学の場で必要となる基礎医学を学習します。

3年次：臨床検査医学に必要な実習が主体となり、知識を経験に活かす時期となります。基礎医学の総論、実習を通じて学んできた知識を実習に活かし、臨床検査に関する技術を習得することにより、将来に向けて生きた知識と技術を体験します。

4年次：卒業ゼミとして、指導教員のもと各自が学生医学論文のための研

究に取りかかります。さらに、3年次までに実習してきた臨床検査学全般にかかわる実践的な検査実務を、病院実習として京都大学医学部附属病院の検査部・病理部・輸血部において、少人数単位で体得します。臨床検査技師の国家試験を受験しますが、その対策に終始することなく、チーム医療教育、地域医療、医療の国際協力など幅広い医療に関する問題および医工連携に直結する実習にも取り組んでいきます。

### 専門科目 (理学療法学専攻)

第Ⅰセメスターから「理学療法総論」を学び、「理学療法見学実習」で実際の理学療法の現場を見学・体験させることによって理学療法への興味を深めた後、第Ⅱセメスターから専門科目として人体構造学、運動機能解剖学などの基礎医学を学んでいきます。

第Ⅲセメスターには疾病概論、外傷・救急概論、病理学総論などの専門基礎科目を中心に学び、その後の専門科目を学ぶ上での基礎づくりを行います。そして第Ⅲセメスターから第Ⅴセメスターにかけては理学療法評価学、各疾患別理学療法学などの専門科目が始まり、それまでに学習してきた基礎医学と臨床医学を結びつけるような講義および実習を行います。

第Ⅵセメスターから第Ⅶセメスターにかけては臨床実習を行い、臨床現場における理学療法の実験を経験します。第Ⅷセメスターは卒業研究と各種セミナー等の演習科目により、さらに理学療法学を深めていきます。

### 専門科目 (作業療法学専攻)

作業療法学専攻では、第Ⅰセメスターで共通科目と並行し、早期臨床体験（臨床実習Ⅰ）として作業療法臨床場面を見学することで、作業療法への興味を深め、第Ⅱセメスターから人体の構造や機能等の基礎医学を学びます。第Ⅲセメスターでは、作業学や作業分析など作業療法の基盤となる専門科目の学習が始まり、身体障害、精神障害、発達障害の3領域の見学実習（臨床実習Ⅱ）など、専門課程を学ぶための基盤づくりを行います。

第ⅣからⅥセメスターにかけては、作業療法評価や作業療法治療学など作業療法の専門科目の学習、そしてそれらの技術を習得するための演習・実習を行い、第Ⅵセメスターで講義や演習で学んだ評価手順と技術を習得するために、評価実習（臨床実習Ⅲ）を行います。第Ⅶ、Ⅷセメスターでは、より高度な臨床応用力をつけるために、作業療法の治療計画と治療体験を、臨地実習（臨床実習Ⅳ）を通して学び、卒業研究で、将来の臨床家、研究者、教育者としての基盤を育みます。

■医学部保健学科のホームページ：<http://www.hs.med.kyoto-u.ac.jp/>

■入学についてのお問い合わせ：医学研究科 教務・学生支援室（保健学科教務担当）

tel.075-751-3906

## 在学生からのメッセージ



### 素敵な環境で学べる喜び

保健学科看護学専攻3回生

前迫 真人 さん

わが国は今や世界一の健康寿命を誇る国となり、人々の健康に対する関心はかつてない程高まっています。自立機能を障害する心身の病を防ぎ、人の抱えるあらゆる不安と向き合う医療が今、求められているといえるでしょう。つまり、予防的な視点で医学をとらえ、人々の健康を確立できる人材が必要とされているのです。

この高度先進医療を誇りとする京都大学医学部で、専門知識を含む幅広い知識を身につけ、次世代の日本の医療の担い手となってみませんか。

かといって、堅くなる必要はありません。京都大学には、数多くの学部および研究科があり、いろいろな学問に触れ、いろいろな友達に出会う機会がたくさんあります。あなたの興味のあることに全力で取り組むことで、爽りゆたかな学生生活が送れるでしょう。

## 卒業後の進路

**[看護学専攻]** 医療系（病院、診療所、助産院、訪問看護ステーション、保健所、介護老人保健施設など）、福祉系（健康福祉事務所、老人福祉施設、児童福祉施設、知的障害者援護施設など）、学校（養護教諭）、官公庁、企業、教育研究機関、大学院進学など

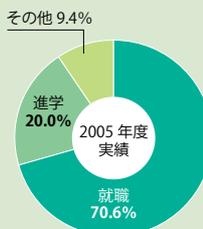
**[検査技術科学専攻]** 医療系（病院、診療所、保健所等）、教育研究機関、大学院進学、製薬等企業・研究所、医療機器メーカー、臨床検査センター、今後は高度先進医療関係、科学捜査研究所、医療・保健行政、大学院進学など

**[理学療法学専攻]** リハビリテーションセンター、国公立病院、私立病院、老人保健施設、肢体不自由児施設、通所リハビリテーション施設、大学院進学、行政機関、教育機関、関連企業、大学院進学など

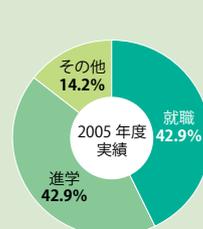
**[作業療法学専攻]** 医療系（病院、診療所、保健所、保健センターなど）、福祉系（児童福祉施設、精神障害者社会復帰施設、身体障害者社会性援護施設、老人福祉施設など）、養護学校、関連企業、研究所、保健医療福祉行政機関、大学院進学など

\* 医学部保健学科としては、未だ卒業生がありませんので、以下のグラフは2006年3月の京都大学医療技術短期大学部4学科の卒業生の進路状況を掲載しています。

看護学科



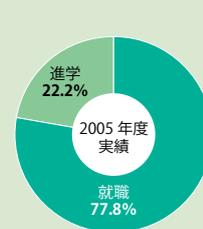
衛生技術学科



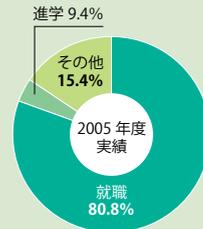
就職	60	国立・大学附属病院	33
		私立病院	27
進学	17	大学編入	15
		助産師課程	2
その他			8

就職	15	病院	9
		企業	5
		その他	1
進学	15	大学編入	11
		臨床工学技士専攻科	3
		その他	1
その他			5

理学療法学専攻



作業療法学専攻



就職	14	病院	14
		大学編入	4
進学	4		

就職	21	病院	15
		企業	1
		その他	5
進学	1	大学編入	1
その他			4

## 保健学科で取得可能な資格

保健学科の所定の課程を修了し、卒業した者および卒業見込み者は、以下の厚生労働省が実施する国家試験の受験資格が与えられます。

**[看護学専攻]** 看護師、保健師

**[検査技術科学専攻]** 臨床検査技師

**[理学療法学専攻]** 理学療法士

**[作業療法学専攻]** 作業療法士

### 看護学専攻

看護学の対象者は、あらゆるライフサイクルにある個人や家族はもとより、広く地域や国際社会にも及んでいます。また、病気の人だけでなく、疾病の予防や健康増進を含むあらゆる健康レベルにある人に関わっています。既成の枠にとられない新しい発想のもとで教育・研究を行い、新たな領域を開拓していくことをめざし、看護学専攻では、教育・研究体制として大講座制をとっています。

#### 1. 基礎看護学講座

人間、健康、環境、生活など、基本的な概念に関連する事柄やそこから派生する健康現象について、実践の基盤となるエビデンスの探求や評価手法を開発し、看護学全体の基礎となる知識や方法論の体系化や理論の検証をめざして教育・研究を行います。

#### 2. 臨床看護学講座

人の健康は身体的・精神的・心理社会的等様々な因子の統合として達成されます。臨床看護学講座では、主として成人期にある人のからだところの健康問題に対し、専門的な視点からアセスメントする方法や援助方法を開発し、実践の場で有効に活用できるよう、教育・研究を行います。

#### 3. 家族看護学講座

少子化・核家族化が進む21世紀において、家族は非常に重要な社会的単位であり、健康生活を維持・増進するための一次的なサポートシステムです。家族看護学講座では、さまざまな家族・社会の形態や環境のなかで、夫婦が自立して次世代を生き育てることに直接あるいは間接的に参加できるよう、母子とその家族を取り巻く専門的な理論と技術について教育・研究します。

#### 4. 地域・老年看護学講座

長寿・高齢化社会や少子化社会に対応してサクセスフルエイジング、介護予防、訪問看護等の地域高齢者に対する保健看護活動や地域組織活動、健康な街づくり、保健医療福祉の連携とネットワーク化等の地域看護の専門的な理論や技術について教育・研究します。

### 検査技術科学専攻

検査技術科学専攻は、近年の分子細胞生物学、遺伝子医療、移植医療、再生医療など医学および医療技術の急速な進歩に伴い、幅広い教養と専門医療職としてのより深い知識や最新の技術を習得した臨床検査技師を養成することを目的とします。本専攻は、基礎生体病態情報解析学、臨床生体病態情報解析学、ならびに情報理工学の3講座からなり、基礎医学、臨床医学、遺伝子工学、画像診断学・情報科学を含めた生命科学のあらゆる分野を視野に入れた幅広い知識や技術を学び、さらに国際的にも活躍しう研究者・教育者としての優れた人材を育成します。

#### 1. 基礎生体病態情報解析学講座

基礎生体病態情報解析学講座では、難病、移植、再生、生殖医療等の高度医療を主とする生体情報解析に対応できる検査技術科学を開発・発展させるために、生体からの情報を抽出し遺伝子、分子レベルから細胞、組織にわたる基礎的な生理学的ならびに病理学情報を分析します。これらの情報を基に病態解明のための分子診断検査、細胞情報解析ならびに形態学的解析技術等を開発し、これに関する教育、研究を行います。

#### 2. 臨床生体病態情報解析学講座

分子生物学、遺伝子工学技術の急速な発展・進歩に伴い、難治疾患に対する高度先進医療の開発が医療現場で大きく進展しています。臨床生体病態情報解析学講座では、移植・再生医療、遺伝子治療をはじめとする先端科学の臨床への展開を支援する臨床検査のエキスパートとして必要な理論や技術について教育・研究します。

#### 3. 情報理工学講座

生体医療情報解析に画像診断技術が高度先進医療として導入されつつあります。これらの診断機器を開発・導入する上で、基礎となる情報科学の理論、医用工学技術について習得する必要があります。そのために、情報理工学講座では、医学・医療分野と工学分野を融合した医工連携による最先端技術の研究開発および事業化に将来発展しう教育・研究を行います。

### 理学療法学専攻

理学療法は、日常生活に必要な基本的動作能力に障害があったり、または障害を引き起こす可能性のある人々に対して社会生活に適応するために必要な援助技術や治療技術を提供する実践科学です。少子高齢化の進んだ今日では、理学療法士の職域は医療現場だけでなく地域医療や福祉の分野などにも急速に拡大し、保健・医療・福祉専門職としてバランスのとれた活動が求められます。また理学療法士は、医療専門職の中でもとりわけ自由裁量に基づいた判断と行動が必要とされ、そのため専門領域の知識や技術の習得だけでなく豊かな人間性と問題解決能力の涵養が必要とされます。

理学療法学専攻は、このような社会的ニーズに応えることのできる理学療法士を養成するために運動機能開発学講座と健康運動機能学講座を設けています。

#### 運動機能開発学講座

運動機能開発学講座では、疾病や外傷などによって運動機能に障害が生じたり、後遺症が残存したものの、スポーツ障害や呼吸循環代謝障害などに対してこれらの回復や軽減を目的とした理学療法を対象にします。

#### 健康運動機能学講座

健康運動機能学講座では、健康な生活を営むために必要な運動機能について定量的、定性的に分析・評価するための方法を確立し、高齢者の保健、障害予防のための運動方法の研究などを対象にします。

本専攻の最大の特徴は、附属病院で実践される先端医療を目の辺りにした臨床教育に学生が自ら参画できる環境にあるということです。理学療法におけるこの領域は世界的にも未知の部分が多く、今後の可能性が注目されるどころです。

卒業後は、急性期、療養型の医療機関だけでなく、高齢者の保健・行政機関、リハビリテーションセンター、介護保険事業所、教育、研究機関などに就職し、リーダーとして活躍する事が期待されます。

### 作業療法学専攻

人の日々の生活は、身辺処理や生活管理などの日常生活活動、職業や家事・育児・学業などの仕事関連活動、余暇活動などとさまざまな作業活動によって営まれています。生活の質、健康な生活、社会参加の内容は、そうした作業活動のありように左右され、病や障害はその作業活動に支障を来たし生活に障害をもたらします。病や障害の有無にかかわらず人間の健康な生活を維持し、豊かにするには、日々の生活を構成するさまざまな作業活動の影響・効果を科学的に捉えることが必要です。作業療法学専攻は、健康科学の一環として「作業療法学」を確立し、より高度な専門性を備えた臨床、教育、研究に携わる人材を育成するため、作業機能開発学講座と作業機能適応学講座を設けています。

#### 1. 作業機能開発学講座

作業と人間との関わり、作業が生活に及ぼす影響・意義、など人間の健康生活に必要な作業活動の基本機能を神経筋骨格系の機能的側面、社会心理学的側面から理論的に理解、究明し、心身の障害に対する作業治療学、日常生活や社会生活の援助の基礎となる知識と効果的介入法の教育と研究を図ります。

#### 2. 作業機能適応学講座

精神機能、心理・社会機能、感覚・運動機能、高次神経機能、など人間の健康生活の基本となる機能に障害がある人々に対し、生活を構成するさまざまな作業活動を用いて日常生活の自律と適応、社会参加を図る作業療法に関し、高度な治療原理、問題解決法の考案・実施に関する臨床教育と研究を行います。

全学共通科目 (保健学科)

学 科	科 目
看護学専攻	健康心理学, 健康教育論, 人間健康科学概論, 分子細胞生物学, 医療有機化学 A, 医療有機化学 B, 神経科学総論 A, 神経科学総論 B, 基礎化学実験, 情報科学概論
検査技術科学専攻	健康心理学, 健康教育論, 人間健康科学概論, 数学基礎 A, 数学基礎 B, 初修物理学 A 又は物理学基礎論 A, 初修物理学 B 又は物理学基礎論 B, 医療有機化学 A, 医療有機化学 B, 神経科学総論 A, 神経科学総論 B, 分子細胞生物学, 物理学実験, 基礎化学実験, 情報科学概論, 基礎情報処理演習
理学療法専攻	健康心理学, 健康教育論, 人間健康科学概論, 神経科学総論 A, 神経科学総論 B, 人間発達学, 健康運動学, 分子細胞生物学, 医療有機化学 A, 医療有機化学 B, 情報科学概論, 基礎情報処理演習, 初修物理学 A 又は物理学基礎論 A, 初修物理学 B 又は物理学基礎論 B
作業療法専攻	健康心理学, 人間健康科学概論, 神経科学総論 A, 神経科学総論 B, 人間発達学, 健康運動学

専門科目 (保健学科)

大学科目 (系)	1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
看護学専攻	看護学原論, 生活環境看護学, 看護援助学, コミュニケーション論 (人間関係論), 看護援助学演習 I, 生活健康実習	生体防御看護学, 看護援助学演習 II, 生活援助実習, 成人看護対象論, 成人看護学 I, 成人看護学 II, 成人看護学演習, 精神看護学概論, 母性看護概論, 母性保健論, 小児看護概論, 小児保健学, 生育医療学, 在宅ケア論, 老年看護学, 保健福祉行政論, 地域看護学概論, 地域看護学断学, 保健看護政策論, 保健行動学習論, 地域看護活動論 I, 地域看護活動論 II	成人看護学実習, 精神看護学演習, 精神看護学実習, 母性看護学演習, 小児看護学演習, 家族看護学, 母性看護学実習, 小児看護学実習, 基礎助産学, 生殖科学, 助産診断技術学 I, 老年看護学演習, 老年看護学実習, 地域看護学演習, 地域看護学実習	看護管理・倫理学, 看護カウンセリング論, 緩和ケア論, 患者教育論, 高度医療看護論, リエゾン精神看護学, ヒューマン・セクシャリティ論, ペアレンティング論, 助産診断技術学 II, 助産経営学, 助産学実習, 看護研究, 選択実習, 症例研究,
検査技術科学専攻		生化学, 生化学実習, 分子生物学実習, 細胞生物学実習, 微生物学, 微生物学実習, 臨床検査総論, 血液学, 臨床生理学, 医用電子工学, 医用電子工学実習, 検査情報管理学	遺伝子検査技術学, 遺伝子検査技術学実習, 医動物学・実験用動物学, 医動物学・実験用医動物学実習, 病理学各論, 病理組織・細胞検査学, 臨床検査総論実習, 感染制御学, 血液検査学, 血液検査学実習, 臨床生理学, 臨床生理学実習, 臨床化学, 臨床化学実習, 生体応答解析学, 生体応答解析学実習, 医療情報学実習, 診療画像学概論, 画像情報学実習, 検査情報管理学実習, 生体応答解析学, 情報処理工学, 医用核磁気学	公衆衛生学実習, 検査精度管理学, 放射性同位元素検査技術学, 病理組織・細胞検査学実習, 画像診断機器工学, 医用機器システム学, 臨床実習, 臨床病態学, 卒業研究
理学療法専攻	理学療法見学実習, 理学療法総論, 人体構造学, 運動機能解剖学	リハビリテーション医学, 運動学, 筋・骨格系病態学, 筋・骨格系理学療法学, 神経系病態学, 人体機能学, 人体機能学実習, 発達障害系病態学, 老年医学, 日常生活援助法 I, 精神医学, 人体構造学実習, 理学療法評価学, 運動機能評価学実習, 義肢学	臨床運動機能学, 臨床運動機能学実習, 筋・骨格系理学療法学実習, 神経系理学療法学, 神経系理学療法学実習, 呼吸循環代謝系病態学, 呼吸理学療法学, スポーツ傷害理学療法学, 発達障害系理学療法学, 臨床評価実習 I, 臨床実習 I, 理学療法評価学実習, 老年期理学療法学, 地域理学療法学概論, 物理療法学, 生活動作学実習, 循環代謝系理学療法学, 装具学, 臨床評価実習 II, 日常生活援助法 II	身体運動解析セミナー, 画像診断セミナー, 運動機能解剖セミナー, 症例検討セミナー, 理学療法特論, 臨床実習 II, 卒業研究
作業療法専攻	臨床実習 I, 人体構造学, 運動機能解剖学	人体機能学, 人体機能学実習, 作業学, 作業分析学, 作業学演習 I, 作業療法評価学総論, 日常生活援助法 I, 臨床実習 II, 発達障害系病態学, 精神医学, 老年医学, 身体障害作業療法治療学総論, 精神障害作業療法治療学総論, 発達障害作業療法治療学総論, 人体構造学実習, 運動学, 筋・骨格系病態学, リハビリテーション医学, 神経系病態学, 運動機能評価学実習	作業療法管理運営論, 作業学演習 II, 生活機能評価学実習, 感覚運動統合機能評価学演習, 心理社会機能評価学, 日常生活援助法 II, 臨床実習 III, 研究方法論, 身体障害作業療法治療学各論 I, 身体障害作業療法治療学各論 II, 精神障害作業療法治療学各論 I, 精神障害作業療法治療学各論 II, 高次神経障害作業療法治療学各論 I, 発達障害作業療法治療学各論 II, 作業療法技術論, 高齢期作業治療学	地域作業治療学, 臨床実習 IV, 心理社会機能適応学原理/感覚統合機能適応学原理/高次神経機能適応学原理, 作業療法演習, 卒業研究

## 薬学部が望む学生像

京都大学薬学部は総合科学としての薬学の基礎体系を習得させ、創薬、医療薬学に関わる科学者、技術者、薬剤師を育成することを目標としています。

**薬科学科**：薬科学科の主たる使命は医薬品の創製です。自ら考え、探求し、創造する豊かな心を持つ人材が求められます。

**薬学科**：薬学科の主たる使命は最適な薬物治療の実現です。医療の進歩と発展を担うため、向上心と探求心を持ち続けられる人材が求められます。

## 薬学部への誘い

薬は人類の健康に大きく貢献し、不可欠なものとなっています。薬学は、この薬を創造、創生し、適正に使用するための学問を行う場です。薬の開発は先端的な科学と技術の融合の上に成り立っていますので、薬学を通して社会に貢献するためには、化学系、生物系、物理系、医療系など幅広い専門知識と医療人としての心を学ぶことが必要です。

京都大学における薬学の教育・研究組織は昭和14年に医学部薬学科として、有機化学系、分析化学系を中核に出発し、その後、薬学に対する社会的要請の広がりに対応して、生命科学系分野、医療系分野など研究分野を加え、総合科学としての薬学の教育、研究体制を整え、現在に至っています。

現在、薬学では、近年の急速な生命科学の進歩、医療の高度化に対応するために、新しい概念に基づく医薬品の創製・発展、医療への貢献に対応できる教育が求められており、その一環として、平成18年度から薬剤師国家試験受験資格が6年間の履修期間を要するという教育制度の変更も行われました。そこで、本薬学部では、この薬学教育、研究の大きな変革に対応するため、将来の医薬品の創製を担う創薬科学研究者、技術者養成を目指す4年制の薬科学科と、高度な医療を担い、それを指導できる薬剤師、医療薬学研究者、技術者養成を目指す6年制の薬学科の2学科を設置し、それぞれの目的に適した人材の育成に努めています。また大学院では、創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻、医薬創成情報科学の4つの専攻を設け、学部で養われた学力、技能を基盤として、より広い視野に立って薬学関連領域の学識を深め、研究能力を養うことを行っています。さらに、教育・研究の施設・環境の充実にも努め、最近総合研究棟および教育棟の新設、本館の大改修を行いました。また、文部科学省21世紀COEプログラムをはじめ、創薬、医療薬学分野の特色ある研究・教育プログラムにも採択され、創薬科学および医療薬学の充実した教育に努めています。薬学は先端科学研究と医療での社会的貢献が同時に可能な学術領域です。医薬品の創製と医療への貢献を目指す学問の場として、薬学部には皆様を招待します。

[写真] 新規医薬シーズ創製を目指した有機合成研究



## 薬学部の教育

### 創薬科学、医療薬学の研究者と 高度な職能をもつ薬剤師を育てる

薬学は疾患の治癒、健康の増進をもたらす医薬品の創成、生産、使用を目的とした総合科学です。薬学の基礎は物理学、化学、生物学である。これらの基礎科学の統合と応用により、薬学の教育・研究を発展させます。最近の医療技術の進歩と高齢化社会の問題等により、薬学に求められる社会的意義の重要性はますます増大しております。医薬品の研究開発や適正使用は人の健康や生命に関わるものです。薬学に携わる人間は単に学問的素養のみならず、高い社会性、道徳性が求められます。京都大学薬学部は4年制の総合薬学科で創薬科学、医療薬学の研究者、技術者の養成を目指してきました。平成18年度より京都大学薬学部は創薬科学研究者、技術者養成を目指す4年制の薬科学科と、高度な職能をもつ薬剤師、医療薬学研究者、技術者の養成を目指す6年制の薬学科の2学科となりました。

### 1～2回生（薬科学科、薬学科共通）： 全学共通科目を中心とした履修と専門教育への準備

1回生では教養・自然系基礎科目からなる全学共通科目と基礎専門教育科目を履修します。これらの科目は幅広い学問に接して高い教養を身につけるとともに、専門科目を学ぶための基礎学力、思考力を身につけることを目的としています。全学共通科目は人文・社会系科目、自然系科目、外国語科目からなっております。さらに、専門基礎教育科目として薬学倫理・概論、薬学生物学、薬学物理化学、基礎有機化学なども履修します。2回生では、全学共通科目と専門基礎教育科目として科学英語を履修するとともに、専門教育の科目も履修します。

### 3～4回生（薬科学科）：専門科目の講義と実習

3回生では薬学の専門知識・実験技術を学ぶための専門教育科目を中心とした科目を履修します。大学院教育に結びつく高度な専門知識を学ぶ研究基盤教育科目も一部入ってきます。主として午前中は講義、午後は実習を行います。実習は全て必修科目で薬学の全ての専門分野に関する実験技術を習得します。

4回生では主として特別実習を行います。特別実習はほぼ1年にわたって行われます。特別実習は希望する研究室に配属し、教員の指導、助言を受けながら、特定の専門領域の新しいテーマの研究に取り組みます。特別実習は薬学研究の現状を知り、将来の進路を考える上でも重要なものです。

### 3～6回生（薬学科）：専門科目の講義と実習

3回生では薬学の専門知識・実験技術を学ぶための専門教育科目を中心とした科目を履修します。大学院教育に結びつく高度な専門知識を学ぶ研究基盤教育科目も一部入ってきます。主として午前中は講義、午後は実習を行います。実習は全て必修科目で薬学の全ての専門分野に関する実験技術を習得します。

4 回生前期では主として午前中は講義、午後は医療薬学専門演習を行います。医療薬学専門演習は主として医療薬学分野の研究室をまわり、医療薬学分野全体の研究領域について学びます。4 回生後期から特別実習が行われます。特別実習は 6 回生まで行われます。特別実習は希望する研究室に配属し、教員の指導、助言を受けながら、医療薬学を中心とした種々の領域の新しいテーマの研究に取り組みます。特別実習は医療薬学研究の現状を知り、将来の進路を考える上でも重要なものです。5 回生では特別実習に加えて、医療における薬剤師の役割と職能を理解し、薬剤業務等を学ぶため、京都大学医学部附属病院薬剤部と学外の調剤薬局で 5 ヶ月間の実務実習を行います。



[写真] 模擬薬局における調剤実習風景

■薬学部のホームページ：<http://www.pharm.kyoto-u.ac.jp/>

■入学についてのお問い合わせ：薬学部教務掛 **tel.075-753-4514**

## 在学生からのメッセージ



### 新たな薬学部像

薬学部総合薬学科 4 回生

藤田 淳人 さん

薬学部で 6 年制と 4 年制の並立が始まりました。6 年制は臨床医療や薬局などで活躍する薬剤師を目指す人々が集まり、4 年制は企業や大学などでの研究者としての道を志す人々が集まります。私自身は研究者としての道を歩みたく薬学部に入学しましたが、入学してから病院実習などを通じて、臨床医療に従事する薬剤師さんを見て、手厚い臨床教育が施される 6 年制の必要性を痛感しました。薬の開発、治験、製造、販売・手渡し、これら全てが薬学部に関わる仕事で、人々の健康に貢献する役割を担っています。

私は現在、素敵な先輩達に憧れて、生体情報制御学分野に属し、メタボリックシンドロームに関連する研究を始めました。まだまだ百分の一人前くらいの研究者ですが、自分が開発に関わった薬が世に出て、人々の健康に貢献できれば…と願っています。



### 4 年間で学んだこと

薬学部総合薬学科 4 回生

松島 さやか さん

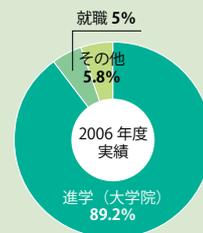
薬学部は、実に多くのことを吸収できる、恵まれた環境です。講義や専門実習では、「薬を創る」ための研究について学べ、病院実習や薬局実習では、実際に「薬を使う」現場に触れることができます。その中で、何に興味を持つかは人それぞれで、また、同じ個人であっても、その時々で興味の対象は変わるかもしれません。大切なのは、興味が湧くことに出会ったときに、積極的に学ぼうとする姿勢だと思っています。積極性が大事だということは、勉強に限らず、大学生活全般について言えることでしょう。

私は将来、化粧品開発の仕事に就きたいと思い、薬学部に入学しました。

しかし、入学から 4 年経った今、その目標は変化し、現在は薬品作用解析学分野の研究室で、中枢神経系の研究をしています。まだまだ先輩の教えを乞いながら作業を進めている段階ですが、学びの多い、充実した日々を送っています。

## 卒業後の進路

9 割以上が大学院に進学します。修士課程を修了した学生の 3 割が博士課程に進学します。大学院修了者の就職先には、企業、国立研究機関、大学等教育機関、医療機関などがあり、修士課程修了者では 6 割が製薬会社に就職しています。



[就職先の例 (修士課程修了者)]

小野薬品工業、田辺製薬、武田薬品工業、塩野義製薬、大日本住友製薬、小林製薬、ミルボン、医療品医療機器総合機構、大塚製薬、杏林製薬、協和発酵工業、興和、沢井製薬、第一アスピロファーマ、第一三共など

## 薬学部で取得可能な資格

薬学部卒業生にとって最も重要な資格は薬剤師です。薬剤師とは、厚生労働大臣の免許を受けて医薬品の製造、調剤、供給に従事できる者のことであり、公衆衛生の向上および増進に寄与し、国民の健康な生活を確保することを任務とします。薬剤師の免許は、薬剤師国家試験に合格したものに与えられ、6 年制の薬学科で卒業見込みの者及び卒業生が薬剤師国家試験に出願することができます。また、4 年制の薬科学科卒業生も必要な要件を満たせば、個別審査の上、薬剤師国家試験受験資格が与えられることがあります。このほかに、教員職員免許状などの資格が取得できます。

## 卒業生からのメッセージ



### 主体性を持って取り組むこと

2002 年 総合薬学科卒業  
武田薬品工業株式会社 勤務

石野 誠悟 さん

私の薬学部志望の動機は、薬剤師として患者さんと直接関わる仕事をしたいということにありました。しかし、薬学研究科での創薬研究を通じて薬を創る面白さを知り、現在は製薬企業での創薬研究に従事しています。社会に出ることを見越して大学で会得すべきことは、主体性を養うことにあると思います。ただ積極的であるということではなく、自身で目的・目標を捉え、行動に移し、出た結果に対して責任を持つ力を必要とします。これらの力は、大学院進学や就職などの自身の人生に直結した選択をするときや、研究室に所属して受け持った研究テーマに関する実験の遂行や議論を行うときなどに必要であると同時に、それらを通じて身につけていくものでもあると思います。ぜひ、頭の片隅に主体性を意識し、長い大学・大学院生活をより有意義なものにして下さい。



### 外を知り、内を知る

2000 年 薬学科卒業  
京都大学薬学研究科助教

天満 敬 さん

大学時代に私が最も打ち込んだことはサークル活動でした。全学のサークルですので、色々な学部の色々な人がいます。その中で色々な考え方に触れることで、将来医療に関わりたいという漠然とした私の思いが、明確なビジョンに整形された気がします。

京都大学は、優れた人・モノ・考え方で溢れています。もちろん講義や実習で薬学知識を学ぶことはとても大切ですが、薬学以外のことに興味をおいて始めて見えてくる薬学もあると思うのです。皆さんが京都大学に入学したら、ぜひ積極的に外的なこと、サークル・留学・ボランティア…などに関わり色々な経験を積んでください。

現在私は、一薬学研究者として「くすり」の研究に携わっています。皆さんが、色々な経験を通じて、知識だけじゃない真の医療人としてのバランス感覚を培われることを期待しています。

# 学科紹介

## 薬科学科

医薬品の創成、生産を目的とした総合科学として薬科学の基礎と応用に関する知識と技術を学びます。4年次には特別実習が行われます。卒業生の多くはさらに広い視野にたった専門知識を深め、研究能力を養うために、大学院に進学します。

## 薬学科

医薬品の適正使用を目的とした総合科学として薬学の基礎と応用に関する知識と技術を学びます。4～6年次には特別実習、病院実習、調剤薬局実習が行われます。薬学科は高度な薬剤師の養成を目指しますが、さらに広い視野にたった専門知識を深め、研究能力を養うことを希望する学生は大学院に進学します。

# 研究室紹介 (大学院の基幹分野, 協力講座, 寄附講座, COEプログラム協力講座, 統合薬学フロンティア教育センター)

## 創薬科学専攻

### 薬品有機製造学: 藤井信孝 教授 (兼任)

- ゲノム/プロテオーム情報取組型創薬研究
- 7回膜貫通G-蛋白共役型受容体の有機化学・創薬化学研究
- ペプチド類縁体をプローブとするケミカルバイオロジー研究
- 抗癌剤, 抗ウイルス剤, 抗癌剤の分子設計・合成研究
- 新規複素環骨格構築法の開発と創薬テンプレートへの応用

### 薬品合成化学: 富岡 清 教授

- 未来型触媒的不斉合成反応の設計と開拓
- 立体化学制御の分子論的基礎の構築と新概念の創出
- 分子の高次構造制御の有機化学
- 抗腫瘍性有機化合物の設計・合成と生物有機化学
- 生物活性天然物の全合成

### 薬品分子化学: 竹本佳司 教授

- プロセス研究を指向した環境調和型有機合成反応の開発
- 金属の特性を利用した高立体選択的な新反応の開拓
- 生物活性天然有機化合物及びその類縁体の全合成研究
- 機能性複素環化合物の合成とバイオプローブとしての利用
- 多点分子間相互作用するホスト分子の設計と生体機能の構築

### 薬品資源学: 伊藤美千穂 准教授

- 二次代謝機能発現に関する研究, 特にテルペノイドの生合成機構の解明
- 生薬ならびに薬用植物に含まれる生理活性成分の研究
- 薬用植物の実態と多様性に関する調査研究
- 海外伝統薬物の調査研究

### 薬品機能解析学: 松崎勝巳 教授

- 抗菌性ペプチドの作用機構の解明と創薬への展開
- アルツハイマー病発症機構の解明と予防・治療法の開発
- 膜タンパク質の構造形成原理の解明
- 受容体の機能解析と創薬
- NMRによる生体分子の構造解析

### 構造生物学: 加藤博章 教授

- X線結晶構造に基づいたABCトランスポーターの構造生物学
- ヘルペシソーム膜タンパク質の膜局在化メカニズムの構造生物学
- 精密立体構造に基づく酵素の触媒作用の構造的起源の解明
- X線結晶構造解析による生物時計の構造と機能の解明

### ゲノム創薬科学: 辻本豪三 教授 (兼任)

- ゲノム包括的解析による新規創薬標的の発見とターゲッ

### トバリテーション

- ゲノムインフォマティクスによる in silico 創薬研究
- 生体内オーファンG蛋白質共役型受容体のリガンド探索
- 遺伝子改変動物, 病態動物を用いた遺伝子の個体レベルの機能解析
- 患者個人の遺伝子多型情報に基づいた至適臨床薬物療法の実現

### 製剤機能解析学: 半田哲郎 教授

- リガ蛋白質粒子とアポリポ蛋白質の相互作用に関する生物物理化学的研究
- デイク状HDLの新生に関する生物物理化学的研究
- 脂質非ラメラ相の構造評価とその機能に関する物理化学的研究
- レムナント粒子の細胞毒性に関する研究
- ペプチドによる受容体型キナーゼの機能抑制に関する研究

### 精密有機合成化学: 川端猛夫 教授

- 動的不斉制御の方法論と不斉反応への利用
- 有機触媒による精密反応制御
- 分子のキラリティーに基づく高次構造の構築
- 分子認識および超分子化学に関する研究
- 生物活性化合物の創出を指向した新規合成法の開発

## 生命薬科学専攻

### 生体分子認識学: 竹島 浩 教授

- 小胞体 Ca<sup>2+</sup>シグナリングに関する研究
- 中枢系の新規情報伝達に関する研究
- 筋細胞の膜構築と機能に関する研究

### 分子微生物学: 渡部好彦 准教授

- インターフェロン産生と作用機序(抗ウイルス機構)の解析
- インターフェロンに対する多面的な細胞応答機序の解析
- インターフェロンと各種疾患との相関の探索
- インターフェロン遺伝子治療の基礎的研究

### 生体機能解析学: 金子周司 教授

- イオンチャンネルなどの膜輸送タンパク質を対象とする創薬, 機能解析, 薬効解析, 安全性評価, 病因論, ゲノム科学に関する研究
- 痛みの物質的基盤および鎮痛薬の作用機序に関する研究
- 薬物依存や薬物有害事象の分子機構に関する研究
- 生命科学用語オントロジーの研究

### 遺伝子薬学: 伊藤信行 教授

- 細胞増殖因子(FGF)の脂肪組織, 骨・軟骨, 脳形成など

### における役割の解明

- 遺伝子探索法による新規細胞増殖・分化因子遺伝子の探索と構造解析
- 遺伝子機能抑制小型魚類の作成による新規遺伝子の個体レベルでの機能解析
- 遺伝子欠損マウスの作成による新規遺伝子の機能解析とその分子機構の解明
- 組織形成, 組織修復の分子機構の解明と再生医学への応用

### 生理活性制御学: 小堤保則 教授

- 細胞死誘導型免疫抑制物質の作用機構と関連遺伝子に関する研究
- スフィンゴ糖脂質の持つ生理活性に関する研究
- シアル酸分子種に関する研究

### 生体情報制御学: 中山和久 教授

- ゴルジ体を中心としたタンパク質の細胞内輸送および局在化機構の解明
- プロスタグランジン受容体による局所ホメオスタシスの維持機構の解明

### 3) マスト細胞と局所環境のゲノムネットワーク研究

- 7回膜貫通型受容体(GPCR)によるGタンパク質共役機構の解析

### 神経機能制御学: 根岸 学 教授

- 神経ネットワーク形成, 神経可塑性の分子メカニズムの研究
- 中枢神経系におけるプロスタノイド受容体の情報伝達機構の研究
- 三量体G蛋白質及び低分子量G蛋白質による神経機能調節の研究
- ストレス遺伝子の発現機構

### 生体機能化学: 二木史朗 教授

- 細胞機能・遺伝子を制御する生理活性蛋白質の創製
- 細胞膜透過ペプチドベクターの開発とメカニズム
- 亜鉛フィンガー型転写因子のDNA認識と機能解析
- 細胞内ターゲティング(核・ミトコンドリアなど)の化学と分子設計
- 環境応答型機能性ペプチドのデザイン

## 医療薬科学専攻

### 薬品動態制御学: 橋田 充 教授

- 医薬品の体内動態の分子機構の解明と動態モデルに基づく数理的解析
- 治療の最適化を目的とする薬物の体内動態制御法, 製剤設計法の開発
- タンパク質医薬品の臓器, 細胞特異的ターゲティング技術の開発
- 遺伝子医薬品を対象とするドラッグデリバリーシステムの開発
- 薬物の経粘膜・経皮吸収の機構解析とコンピュータ吸収予測法の開発

- ニューロン生存と神経再生を制御する細胞内機能分子に関する研究

### 病態機能解析学: 佐治英郎 教授

- 脳疾患, 心疾患, がんでの生体機能変化をインビボ解析する分子イメージング法の開発とそれに基づく病態の仕組みの解明及び薬物作用の解明に関する研究
- 病態の特性に基づく標的部選択的移行, 選択的活性化をおこなう機能性画像診断・治療薬の創薬研究
- 生理活性金属化合物の生体作用の解明と治療への応用に関する研究

- 性タンパクの分泌方向性制御
- 高分子薬物の体内動態及び統計処理の解析法の開発とその薬物治療最適化への応用

### 医療薬剤学: 乾 賢一 教授

- 医薬品の体内動態と薬効・毒性に関する基礎と臨床
- 薬物トランスポーターの分子・細胞生物学的解析と臨床応用に関する研究
- 病態時の薬物動態・薬効の変動要因解析と患者個別投与設計に関する研究
- 薬物相互作用の in vitro 予測・評価系の開発に関する研究
- 薬物トランスポーター・代謝酵素の遺伝的多型とテーラーメイド医療

### 薬品作用解析学: 赤池昭紀 教授

- 中枢神経作用薬の薬理学を主要研究課題とする
- 抗痙攣薬, 難治性神経疾患治療および網膜変性疾患治療薬の薬理作用の解析
- 神経変性疾患におけるニューロン死の機序の解析とその保護因子の探索
- 胎仔血清に由来する神経保護化合物セロフェンド酸の作用機序の解析

### 病態情報薬学: 高倉喜信 教授

- 遺伝子治療医薬品の体内動態支配因子及び細胞取り込み機構の解明
- 免疫応答制御を目指したDNAワクチン及びタンパクワクチンの開発
- RNA干渉を利用した遺伝子治療実現のための核酸医薬品のデザインとデリバリー
- 極性を持つ上皮・内皮細胞への遺伝子導入による生理活

医薬創成情報科学専攻

薬理ゲノミクス：辻本豪三 教授

- 1) ゲノム包括的解析による新規創薬標的の発見とターゲットバリデーション
- 2) ゲノムインフォマティクスによる in silico 創薬研究
- 3) 生体内オーファンG蛋白質共役型受容体のリガント探索
- 4) 遺伝子改変動物、病態動物を用いた遺伝子の個体レベルの機能解析
- 5) 患者個人の遺伝子多型情報に基づいた至適臨床薬物療法の実現

ケモゲノミクス：藤井信孝 教授

- 1) ゲノム/プロテオーム情報収斂型創薬研究
- 2) 7回膜貫通G-蛋白質共役型受容体の有機化学・創薬化学研究
- 3) ペプチド類縁体をプローブとするケミカルバイオロジー研究
- 4) 抗癌剤、抗ウイルス剤、抗痴呆剤の分子設計・合成研究
- 5) 新規複素環骨格構築法の開発と創薬テンプレートへの応用

システムバイオロジー：岡村 均 教授

- 1) 哺乳類生体リズムにおける時間の生成と調律の仕組みを、細胞、組織、生体という多層レベルで解明する。

- 2) 哺乳類時計遺伝子の同定とリズムの分子機構の研究
- 3) 多層にわたる時間の分子ネットワークシステムの研究
- 4) リガンド、受容体の解析による時間を調律する創薬研究

システムケモセラピー（制御分子学）：掛谷秀昭 教授

- 1) 多因子疾患（癌、神経変性疾患、免疫疾患、糖尿病等）に対する次世代化学療法の開発を指向した先端のケミカルバイオロジー研究
- 2) 創薬リード化合物の開拓を指向した新規生理活性物質の天然物化学・天然物薬学
- 3) ケモインフォマティクス、バイオインフォマティクスを活用したシステムケモセラピー研究
- 4) 有用物質生産・創製のための遺伝子工学的研究（コンビナトリアル合成研究等）

システムケモセラピー（創薬計算化学）：北浦和夫 教授

- 1) 生体高分子のための量子化学計算法の開発
- 2) 生体高分子の構造と機能の理論的研究
- 3) 蛋白質と低分子の分子間相互作用の理論解析
- 4) 計算化学手法によるドラッグデザイン

統合ゲノミクス：金久 實 教授

- 1) バイオ情報を統合するバイオインフォマティクス技術の開発研究
- 2) バイオインフォマティクスに基づく創薬ターゲット探索とバリデーション
- 3) 薬物・化学物質と生体システムとの相互作用予測・反応予測
- 4) 創薬・医療のための統合データベース開発

分子設計情報：馬見塚 拓 教授

- 1) バイオインフォマティクス：ゲノムワイドなデータからの情報処理技術による知識発見
- 2) 先端情報科学技術の創出による生命情報解析・創薬技術の高度化
- 3) 薬物投与データからの生体分子間ネットワーク推定による創薬インフォマティクス
- 4) 生体分子の生命機構の理解に向けた情報抽出技術の高精度化
- 5) システムズバイオロジー：計算機による模倣からの生命現象の解析・理解

寄附講座

創薬神経科学：杉本八郎 寄附講座教授

- 1) アルツハイマー病に代表される神経変性疾患の病因解明に基づく創薬研究
- 2) 生体内物質や天然物の中から生理活性物質を探索し創薬のシードを発見
- 3) ゲノムや神経再生医療技術を駆使した創薬アプローチに関する研究
- 4) コリンエステラーゼ阻害薬の神経細胞保護作用のメカニズムの解明に基づく創薬研究

医薬品理論設計学：北浦和夫 寄附講座教授（兼任）

- 1) 電子状態理論による蛋白質と医薬品候補化合物の分子間相互作用の精密解析
- 2) 統計・情報理論による医薬品候補化合物の高速・高精度親和性予測法の開発
- 3) ドラッグデザインのための計算化学的手法の開発
- 4) 計算化学的手法および SBDD による医薬品化合物の論理的な探索研究
- 5) 生体高分子の構造・機能に関する理論的研究

ナノバイオ医薬創成科学：清水一治 寄附講座教授

- 1) 最先端工学技術とバイオ技術を融合したナノレベル創薬研究
- 2) 先端ナノバイオ工学技術 DNA チップによるがん等の臨床検体の分析
- 3) 病態関連遺伝子やタンパク質情報を活用したテーラーメイド医療
- 4) 分子標的薬のターゲット探索、薬理ゲノミクス研究

COE プログラム協力講座

生命知識システム学：金久 實 教授

- 1) バイオインフォマティクスに基づく創薬科学研究
- 2) 代謝パスウェイ、代謝物質、酵素反応に関する情報科学的解析
- 3) 糖鎖と糖関連遺伝子に関するゲノム科学的解析
- 4) タンパク質と低分子化合物の相互作用予測
- 5) ゲノム多型情報、遺伝子発現情報等の有効利用技術の開発

統合薬学フロンティア教育センター

本センターは、特任教員5名と兼任教員、連携教授から成り、新概念に基づくe-ラーニングを実践する統合型教育支援薬学情報ナビゲーションシステムを始め、薬学の全学問領域を体系的に統合した薬学フロンティア教育プログラムを開発し、革新的医薬品開発、高度先進医療を担う薬学人を育成すると共に、連携ネットワークによる展開を図る。

統合薬学教育開発分野：奥野恭史 准教授

臨床薬学教育開拓分野：矢野義孝 准教授

先端薬学教育開拓分野：板倉匡文 准教授

医療人 GP：柴田敏之 特任教授

全学共通科目（必須・選択必須科目）

科目

薬学倫理・概論、薬学生物学、薬学物理化学（化学熱力学）、基礎有機化学A、基礎有機化学B、数学基礎A、数学基礎B、線形代数学A、線形代数学B、物理学基礎論A、物理学基礎論B、熱力学、物理学実験、基礎化学実験、生物学実習Ⅲ、薬用植物学、基礎情報処理1、基礎情報処理2

専門科目（予定）

	1 回生	2 回生～	3 回生～	4 回生	5 回生	6 回生
化学系講義科目		有機化学1（有機合成化学）、有機化学2（生物有機化学）、天然物薬学1（天然物化学）、天然物薬学2（薬用資源学）、創薬有機化学エクササイズ	有機化学3（創薬化学）、有機化学4（精密合成化学）、天然物薬学3（生薬学）、有機化学5（生体機能化学）、医薬品化学・新薬論			
物理系講義科目		物理化学1（量子化学）、物理化学2（電気化学・界面化学）、分析化学1（薬品分析学）、分析化学2（放射化学）、物理化学3（構造化学）、分析化学3（分光学）、創薬物理化学エクササイズ1、創薬物理化学エクササイズ2	分析化学4（臨床化学）、物理化学4（生物物理化学）、物理化学5（生物構造情報学）			
生物系講義科目		生物化学1（物質生化学）、生物化学2（代謝生化学）、生物化学3（基礎遺伝子学）、衛生薬学1（健康化学）	微生物学1（細菌学）、生物化学4（応用遺伝子学）、生物化学7（生体防御学）、微生物学2（ウイルス学）、衛生薬学2（環境衛生学）、生物化学5（細胞生物学）、生物化学6（生理化学）	微生物学3（感染症学）、生物化学8（腫瘍生物学）		
医療系講義科目	生理学1（解剖生理学）、医療薬学チュートリアル演習1、先端医療 SGD 演習1	生理学2（分子生理学）、生理学3（病態生理学）、薬理学1（総論・未梢薬理）、薬理学1（溶液製剤論）、医療薬学チュートリアル演習2、先端医療 SGD 演習2	薬理学2（循環器薬理）、薬理学3（中枢神経薬理）、薬理学2（固形製剤論）、薬理学3（薬物動態学）、生理学4（病態ゲノム学）	医療薬学1、薬局方・薬事関連法規、臨床薬学総論、薬物治療学1、薬物治療学2、医療薬理学2		
情報系講義科目		バイオサイエンス統計基礎		基礎バイオインフォマティクス、応用バイオインフォマティクス		
専門実習			薬学専門実習1、薬学専門実習2、薬学専門実習3、薬学専門実習4			
薬科学科				特別実習		
薬学科				医療薬学ワークショップ、医療薬学実験技術、学術情報論、特別実習	医療薬学ワークショップ、医療薬学実験技術、学術情報論、医療実務事前学習、病院実務実習、薬局実務実習、特別実習	医療薬学ワークショップ、医療薬学実験技術、学術情報論、臨床薬学総論、特別実習

# 工学部

Faculty of Engineering

## 工学部が望む学生像

- ・ 高等学校の学習内容をよく理解し、工学部で基礎学理を学ぶのに十分な能力を備えている人。
- ・ 既存概念にとらわれず、自分自身の目でしっかりと自然現象を確かめ、その本質を理解しようとする人。
- ・ 創造的に新しい世界を開拓しようとする意欲とバイタリティに満ちた人。

## 工学部への誘い

学問の本質は真理の探究です。その中で工学は人類の生活に直接・間接に関与するテーマを扱っています。そのため、地球社会の持続的な発展や文化の創造といった問題についても責任を負う立場にあります。工学部では、このような考え方に立って教育・研究を行います。教育にあたっては、しっかりとした基礎学力、高度な専門能力、高い倫理性、ならびに豊かな個性を兼ね備えた人材育成を目指しています。

京都大学工学部の歴史は、明治30(1897)年6月、京都帝国大学が創設され、分科大学の一つとして同年9月に理工科大学が開校したことに始まります。大正3(1914)年7月、理工科大学は理科大学と工科大学に分離されました。大正8(1919)年2月、分科大学の制度が学部制に改められ、工科大学が工学部となりました。工学部は創設以来、本学の歴史とともに歩み、それぞれの時代の学問的・社会的要請に応えるように拡充整備され、今日では工学の分野のほとんどを網羅した本学最大の学部で発展しました。大学院重点化に伴う工学部の改組により、平成5年度に工業化学科、平成6年度に物理工学科、平成7年度に電気電子工学科と情報学科、そして平成8年度に地球工学科及び建築学科が誕生し、現在では6学科体制となっています。

また、平成15年10月には京都大学桂キャンパスが開校しました。桂キャンパスへは工学研究科と情報学研究科が移転することになっており、平成19年4月現在で工学研究科の地球系専攻、建築学専攻、電気系専攻、化学系専攻が移転を終え、今後も順次移転することになっています。桂キャンパスでは主に大学院教育を実施し、学部教育は吉田キャンパスで実施しますが、学科によっては第4学年の授業と特別研究(卒業研究)を桂キャンパスで行うことがあります。

[写真] 設計演習講評会の風景(建築学科)



## 工学部の教育

### 「自由の学風」と「学問の基礎重視」

工学部の教育の特徴は、京都大学の伝統である「自由の学風」の下で、「学問の基礎を重視する」ところにあります。「自由の学風」は、既存概念にとらわれず、物事の本質を自分の目でしっかりと科学的に見るといことに基づいています。ここでは、学問に対する厳しさが要求され、それが、「学問の基礎を重視する」ことにつながります。一般的には「工学部は応用を中心とする学部である」と考えられているので、上のように「基礎重視」というと、やや異質な印象をもたれるかも知れません。しかし、京都大学工学部では、基礎となる学理をしっかりと学んでおくことが、将来の幅広い応用を可能とするための必須条件であるという信念の下に、この教育方針を貫いています。

### 第1・2学年では全学共通科目の履修に力を入れる

第1学年から第2学年にかけては、教養科目と自然科学基礎科目を主として履修します。これらの科目は、人間・環境学研究科と理学研究科を実施責任部局として京都大学の全学部ならびに研究所、研究センター等が、全学の学生が履修できるように開講しているもので、「全学共通科目」と呼ばれます。講義以外にも演習、ゼミナール、講読、実験、実習など、様々な形で行われ、これらの科目を履修することによって、専門分野を学ぶための基礎力を養うとともに、幅広い学問に接して高い教養を身につけ、人間としての視野を広げるよう工夫されています。

### 高学年ほど専門科目がふえる

京都大学工学部では、各学科によって多少の差異はありますが、第1学年においても工学部各学科によって開講される専門基礎科目を履修します。専門基礎科目は第2学年になると数が増え、特に第2学年後期以降はかなりの数の専門基礎科目を履修することになります。そして、第2あるいは第3学年以降で専門科目を学びます。

### 第4学年では特別研究(卒業研究)に取り組む

第4学年では、特別研究(卒業研究)を行います。教員の指導・助言を受けながら、各自で専門分野の新しいテーマに関する研究に組み込み、その結果を学士論文にまとめます。学生は各研究室に配属され、研究の最先端に接しながら、教員や大学院生と膝を交えて議論を重ね、創造的な研究活動を体験します。この授業科目はどの学科でも必修になっています。そして、所定の単位を取得し、学士論文を完成すれば、学士(工学)の学位を取得することができます。

### カリキュラムの特徴をつかむ

京都大学工学部では、学生が特定の専門分野の知識を修得するだけでなく、なるべく広い視点から科学・技術の発展を見通し、創造的に新しい世界を開拓していける人材を養成したいと考えています。そのために、いずれの学科でも基礎科目を重視し、伸びのある思考力と実践力を養うようにしています。また、カリキュ

ラムは各学科の特色を十分生かすように工夫されており、更に近い専門分野のカリキュラムには共通性・相互融通性を持たせて、幅広く柔軟な学習ができるようにしています。なお、必要な場合には、他学科や他学部の科目を履修することもできます。

■工学部のホームページ：<http://www.kogaku.kyoto-u.ac.jp/>

■入学についてのお問い合わせ：工学部教務掛 **tel.075-753-5039**

## 在学生からのメッセージ



### 自分で見出す楽しさ

地球工学科 4 回生

梶川 弘太 さん

最近、地球温暖化や資源枯渇といったような環境問題がいろいろなメディアで取り上げられています。このような問題が起こったのは戦後以降、科学技術を急速に著しく発展させてきた結果であると思います。今、自然から享受してきた恩恵の代償を払うべきであり、対策を講じなければなりません。こういった状況の中、自分には一体何が出来るのか知りたく思い地球工学科を選びました。

大学と高校の違いは自主性を重んじるころにあると思います。自分で何が問題点を見つけ出し、それに組み込まなければなりません。とても難しいことだとは思いますが、それだけにやりがいや楽しさもあります。自分がこれから研究することが社会に少しでも貢献できるよう頑張りたいと考えています。



### 夢への架け橋

電気電子工学科 4 回生

山本 詩子 さん

私は、2浪して京大工学部に入りました。大学入学前、私は「京大工学部の先生なんて、変な人ばかりだろう」と思っていました。先生方は、私の期待を裏切りませんでした。先生の言うことは、よくわかりません。先生は新生入生に無理難題を要求します。私は1、2回生の頃、専門科目の授業を受けるのが嫌でした。

そして今、4回生になって改めて気付きました。工学部の先生って、やっぱり変だと。こんなに夢を忘れていない大人はいません。こんなに愛のある教師はいません。そして、先生方は生徒の可能性を見くびりません。

私は単位を取り残してしまったので、いまだに3回生以下の授業を受けていますが、今は先生方の愛に溢れた授業が楽しくて仕方ありません。浪人していた2年間で全く無駄ではなかったと思えます。これから大学院までの数年間、先生方と共に夢を追って行きたいと思っています。



### 物理工学科の魅力

物理工学科 4 回生

小池 雄介 さん

物理工学科では、材料力学や熱力学などの学習を通して工学の知識を学び、それらを利用して社会貢献につながる新しい機械などを生み出す事が求められています。

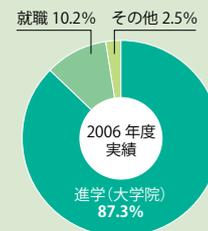
工学の知識を学ぶと、身の周りの物の仕組みをそれらの観点から理解でき、さらに詳しく知りたいと思うようになります。また、その過程で培われた知識と能力は実際に必要とされるので、無駄だと感じる事はありません。

私はこの学問を探究し、世の中に貢献できる研究者になるつもりです。この学科では、そのために必要な物が十分に用意されている上に、自分から求めればさらに与えてくれます。そんな素晴らしい環境に身を置けるのは、本当に幸せな事だと思います。

あなたの身の回りの物全てには工学の知識が詰まっているのです。それだけでも工学に興味湧いてきませんか？

## 卒業後の進路

本学部卒業生の5分の4以上(平成18年度87%)の者が大学院修士課程へ進学しています。将来、大学の研究職に就くことを希望する者のほか、近年の科学技術の進展に伴い、企業においても、高度な研究能力を有する人材を求めているため、大学院に進学を希望する学生は増加しています。



## 工学部で取得可能な資格

在学中に所定の授業科目を修得することによって、測量士、建築士、電気主任技術者、無線従事者、危険物取扱者、ボイラー取扱主任者等の学科試験の全部または一部が免除されます。(また、卒業後に一定の実務期間を経ることで受験資格を得られるものもあります。)

## 卒業生からのメッセージ



### 自分らしさ

2005年 工業化学科卒業  
富士フイルム株式会社 R&D 統括本部 勤務

北川 佳奈 さん

私は、高校の先生の「京都大学はおまえに合っている!何が合っているかは、入ってみれば分かる。」という言葉を引きつけて京都大学に入りました。その答えは、京都大学の「個性を尊重する風潮」だったと思います。周りには、青年海外協力隊に参加する人、部活に専念する人など、目的意識の高い人ばかりで、大変刺激を受けました。また、観光名所で部活をしたり、京料亭や伏見稲荷でアルバイトをしたりと京都でしかない生活から、日本の魅力を知ることができました。現在、仕事で海外のお客様と関わる際に、相手の個性や文化を認め、かつ、日本人としての誇りを持って接することができるのも、京都大学で培った感性のおかげだと思えます。大学時代は人格の核が形成される大切な時期です。ぜひ、京都大学で自分らしさを発見してみてください。



### 大学で学んだことは強力な「武器」

2003年 情報学科卒業  
JFE 技研(株) 計測制御研究部 勤務

梅垣 嘉之 さん

私が工学部情報学科へ入学したきっかけは、大学案内で見つけた「数理工学」という言葉でした。物事を数理的にとらえて数理モデルで表し、それを様々な手法により解き明かすという説明にとっても惹かれました。

実際、大学での勉強はとても刺激的で楽しいものでした。そうして学んだたくさんのことは、現在の自分にとって強力な武器になっていると感じています。

大学院時代のことですが、サークルの先輩に紹介されてはじめて技術開発的なアルバイトで、講義や研究活動を通して得られた知識や経験がかなり直接的に役に立つという経験をしました。

現在は製鉄における計測技術開発の仕事をしていますが、その中でも大学で学んだことが役に立っています。

京都大学を目指されている皆さん、大学で学ぶことは将来きっと仕事などで役に立ちますよ。

## 学科紹介

### 地球工学科

地球工学 (Global Engineering) は、文明の運営に必要な資源・エネルギーの技術体系、文明を支える基盤としてのインフラ (社会基盤施設) の技術体系、人間・自然環境の均衡を維持する技術体系の3つの部門と、それらの有機的な融合部門によって構成されています。地球工学が貢献すべき科学技術は多岐にわたりますが、「Think globally and act locally」の理念で、地球全体の合理的な開発・保全と人類の持続可能な発展を支える学問です。地球工学科では、上記の理念のもとで、様々な領域にまたがる科学技術を総合的に理解する見識を養うとともに、より専門的な科学技術に対しては、世界最先端の知識を習得してもらい、実社会における高度な研究や実務を遂行できる能力を養成することを目標として教育を行っています。

### 建築学科

人間の生活環境を構成し、安全で健康にして快適な生活を発展させるよりどころとなる建築は、多様な技術を総合して行われる創造的な努力によって作りだされます。建築は人間生活のあらゆる面に深く係わるヒューマンな技術です。このような特色から、教科課程も自然科学、人文・社会科学の広い分野にまたがり、卒業後の進路も建築・構造・環境の設計及び施工に従事する建築家及び建築技術者、行政的な指導、監督にあたる建築行政担当者、大学・研究機関で新しい技術を開発する研究者、各種開発事業に携わるプランナーなど実に多様です。したがって建築学科では自然科学だけでなく、人文・社会科学、さらには芸術にも深い関心をもつ学生もひとしく歓迎し、いずれもその才能を十分に伸ばせるような教育を行っています。

### 物理工学科

新時代に向けて、新しいシステム、材料、エネルギー源の開発、宇宙空間の利用など、数多くの工学的課題があります。これらに取り組み新技術を創造するためには、基礎的学問を十分に修得しておくことが必要です。物理工学科はそのための基礎的な教育・研究の場を提供します。同学科には機械システム学、材料科学、エネルギー理工学のエネルギー応用工学と原子核工学、宇宙基礎工学の5つのコース・サブコースがあり、一体となって教育を行っています。また、大学院では、工学研究科の機械理工学、マイクロエンジニアリング、航空宇宙工学、原子核工学、材料工学の各専攻、エネルギー科学研究科と情報学研究科に属するいくつかの専攻が、エネルギー理工学研究科、原子炉実験所、再生医科学研究所、国際融合創造センター及び工学研究科附属量子理工学実験センターなどの協力のもとに、学際的広がりをもつ基礎的研究と幅広い専門教育を行っています。

### 電気電子工学科

電気電子工学は、現代のあらゆる産業や社会生活の基盤として欠くことのできない科学技術を支えており、21世紀社会の発展のための多くの課題 (たとえば高性能で安全な情報通信ネットワーク、ナノテクノロジーによる新しい機能をもった素子や装置、正確な診断技術や人に優しい医療技術、エネルギー生成と利用の高効率化など) において重要な役割を担っています。電気電子工学科では、幅広い領域にわたる総合的な知識と視野を持つ高度な専門性に加えて、高い独創性、倫理性をもった人材の育成をめざしています。そのため、カリキュラムも基礎的な共通科目を学習した後、各自の志望に応じて選択する高度な専門科目を通して、最先端の科学技術を理解し、さらなる発展を担うための基礎を広く身につけることができるよう組まれています。

### 情報学科

現在の高度情報化社会においては、対象とするシステムはますます巨大化・複雑化し、工学の各専門分野が融合した形態をとるのが普通です。このような情勢に対処するためには、システムの機能とそこに流れる“情報”の本質を究明し、それにもとづいて効率的なデザインを考えることが大切です。情報学科では“数理的思考”によって高度なシステムの実際問題を解決し、計算機のハードウェア、システム・ソフトウェア、情報システムを設計・活用できる人材を育てることを目標として、基礎から応用までの総合的な教育研究を行っています。なお、1学年終了時に数理工学コースと計算機科学コースに分かれます。

### 工業化学科

化学は様々な物質を作り出す反応とそのプロセス、物質に機能を与える物性を対象とする学問で、人々の豊かな生活を支えるとともに、最先端科学技術の発展に大きな貢献をしています。工業化学科では、化学に関連した幅広い分野にわたる基礎知識の養成を目的として教育を行います。第一学年では化学・物理学・数学などの自然科学基礎科目と、語学や人文社会科目を学習します。第二学年前期から工業化学科としての専門基礎科目が始まります。第二学年後期より、創成化学コース、工業基礎化学コース、化学プロセス工学コースに別れて、専門教育を受けます。第四学年には各コースの研究室に所属して卒業研究を行い、研究者・技術者としての高度な知識を習得します。

工学部及び各学科の詳細については、「工学部紹介冊子 2008」をご覧ください。また、「工学部紹介冊子 2008」については、前頁の連絡先にお問い合わせください。

## 全学共通科目 (学科指定科目)

学 科	科 目
地球工学科	自然現象と数学、微分積分学 A、微分積分学 B、線形代数学 A、線形代数学 B、基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、熱力学、力学統論、物理学実験、基礎地球科学 IA、基礎地球科学 IB、基礎地球科学 IIA、基礎地球科学 IIB、基礎有機化学 A、基礎有機化学 B、基礎化学実験、図学 A、図学 B、微分積分学統論 A、微分積分学統論 B、線形代数学統論、振動・波動論、無機化学入門 A、無機化学入門 B、生物自然史基礎論 A、生化学入門 101、生化学入門 102、地球科学序論、環境生物・化学、科学英語 (地球)
建築学科	自然現象と数学、線形代数学 A、線形代数学 B、微分積分学 A、微分積分学 B、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、振動・波動論、熱力学、力学統論、図学 A、図学 B、コンピュータグラフィクス実習 A 又は B、物理学実験、生活と数学 A、生活と数学 B、基礎地球科学 IIA、基礎地球科学 IIB、確率論基礎、数理統計、微分積分学統論 A、微分積分学統論 B
物理工学科	自然現象と数学、微分積分学 A、微分積分学 B、線形代数学 A、線形代数学 B、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、物理学実験、基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、図学 A、基礎化学実験、微分積分学統論 A、微分積分学統論 B、電磁気学統論、確率論基礎、数理統計、無機化学入門 A、無機化学入門 B、生命科学概論 A、生命科学概論 B、振動・波動論、統計物理学、基礎有機化学 A、基礎有機化学 B、力学統論
電気電子工学科	微分積分学 A、微分積分学 B、線形代数学 A、線形代数学 B、自然現象と数学、物理学基礎論 A、力学統論、物理学実験、基礎有機化学 A、基礎有機化学 B、基礎化学実験、函数論 (関数論)、線形代数学統論、微分積分学統論 A、微分積分学統論 B、確率論基礎、数理統計、数理論理学 A、数理論理学 B、熱力学、統計物理学、量子物理学、解析力学、特殊相対論、基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、無機化学入門 A、無機化学入門 B、科学英語 (電気電子)
情報学科	自然現象と数学、微分積分学 A、微分積分学 B、線形代数学 A、線形代数学 B、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、物理学実験、力学統論、微分積分学統論 A、微分積分学統論 B、線形代数学統論、熱力学、振動・波動論、確率論基礎、数理統計、数理論理学 A、数理論理学 B、情報と社会、科学英語 (数理)
工業化学科	基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、基礎有機化学 A、基礎有機化学 B、自然現象と数学、微分積分学 A、微分積分学 B、線形代数学 A、線形代数学 B、物理学実験、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、基礎化学実験、微分積分学統論 A、微分積分学統論 B、熱力学、振動・波動論、力学統論、解析力学、科学英語 (創成化学)、科学英語 (工業基礎化学)、科学英語 (化学工学)

専門科目

学 科	1 年生～	2 年生～	3 年生～	4 年生
地球工学科	地球工学総論, 基礎情報処理演習, 基礎情報処理, 情報処理及び演習	確率統計解析及び演習, 地球工学基礎数理, 一般力学, 社会基盤デザイン, 基礎環境工学Ⅰ, 資源エネルギー論, 工業数学 B1, 構造力学Ⅰ及び演習, 水理学及び演習, 土質力学Ⅰ及び演習, 計画システム分析及び演習, 環境衛生学, 物理探査学	測量学及び実習, 連続体の力学, 工業数学 B2, 構造力学Ⅱ及び演習, 材料学, 波動・振動学, 水文学基礎, 水理工学, 海岸環境工学, 土質力学Ⅱ及び演習, 土質実験及び演習, 社会システム計画論, 基礎環境工学Ⅱ, 大気・地球環境工学, 水質学, 環境装置工学, 放射線衛生工学, 環境工学実験Ⅰ, 地質工学及び演習, 弾性学及び演習, 流体力学, 物理化学, 資源工学基礎計測, 資源工学地化学実験, 先端資源エネルギー工学, 学外実習, 空間情報学, 構造実験・解析演習, コンクリート工学, 耐震・耐風・設計論, 河川工学, 水資源工学, 水理実験, 地盤環境工学, 岩盤工学, 都市・地域計画, 公共経済学, 交通マネジメント工学, 交通政策論, 都市景観デザイン, 上水道工学, 下水道工学, 廃棄物工学, 環境工学実験Ⅱ, 資源工学のための材料学, 波動工学, 応力解析法及び演習, 熱流体工学, 分離工学, 工業計測, 資源工学材料実験	地球工学デザイン A, 地球工学デザイン B, 地球工学デザイン C, 土木法規, 地球防災工学, 材料実験, 地殻海洋資源論, 地殻開発工学, 塑性学及び演習, 時系列解析, 工学倫理, 建築工学概論, 特別研究
建築学科	基礎情報処理, 基礎情報処理演習, 建築工学概論, 日本都市史, 世界建築史, 設計演習基礎, 造形実習	建築計画学Ⅰ, 住居計画学, 建築設計論, 設計演習Ⅰ, 設計演習Ⅱ, 建築環境工学Ⅰ, 建築環境工学Ⅱ, 建築構造力学Ⅰ, 建築構造力学Ⅱ, 建築生産Ⅰ, 建築材料, 建築・都市行政, 景観デザイン論, 建築情報処理演習, 工業数学 C	都市設計学, 行動・建築デザイン論, 日本建築史, 建築設備システム, 鉄筋コンクリート構造Ⅰ, 鉄骨構造Ⅰ, 建築構造力学Ⅲ, 建築生産Ⅱ, 建築論, 都市・地域論, 都市環境工学, 建築光・音環境学, 建築熱環境設計, 建築構造解析, 耐震構造, 鉄筋コンクリート構造Ⅱ, 鉄骨構造Ⅱ, 設計演習Ⅲ, 設計演習Ⅳ, 建築応用数学, 建築情報システム学	建築計画学Ⅱ, 建築基礎構造, 耐風構造, 地球工学総論, 設計演習Ⅴ, 構造設計演習, 構造・材料実験, 建築安全設計, 建築環境工学実習, 建築環境工学演習, 工学倫理, 専門英語, 特別研究
理工工学科	物理学総論 A, 物理学総論 B, 基礎情報処理, 基礎情報処理演習	計測学, 計算機数学, 材料力学Ⅰ, 材料力学Ⅱ, 熱力学Ⅰ, 熱力学Ⅱ, 機械設計製作, 工業数学 F1, 工業数学 A1, 材料基礎学Ⅰ, 固体物理学, 応用電磁気学, 原子物理学, 流体力学Ⅰ, 物質科学基礎, 材料統計物理学, 材料科学基礎Ⅰ, 材料科学基礎Ⅱ, 化学熱力学基礎, 原子核工学序論, 機械製作実習, 機械のためのエレクトロニクス	工業数学 F2, 工業数学 A2, 工業数学 F3, 工業数学 A3, 数値解析, 材料基礎学Ⅱ, 量子物理学Ⅰ, 量子物理学Ⅱ, 連続体力学, 流体熱工学, 工業力学 A, エネルギー変換工学, 振動工学, 制御工学Ⅰ, 制御工学Ⅱ, システム工学, 生産工学, 薄膜材料学, 精密加工学, 設計工学, 材料組織学, 結晶物理学, 材料物理化学, 構造物性学, 熱及び物質移動, 統計力学, エネルギー・材料熱化学Ⅰ, エネルギー・材料熱化学Ⅱ, 材料物理学, プラズマ物理学, 量子反応基礎論, 中性子工学, エネルギー化学Ⅰ, エネルギー化学Ⅱ, 流体力学Ⅱ, 統計熱力学, 量子線計測学, 気体力学, 熱統計力学, 空気力学, 推進基礎論, 航空宇宙機力学, 固体力学, 量子無機材料学, 固体電子論, 材料機能学, 材料プロセス工学, 環境物理化学, 電気回路と微分方程式, 電気電子回路, 物理学演習Ⅰ, 物理学演習Ⅱ, 機械システム学演習, 機械システム工学実験Ⅰ, 機械システム工学実験Ⅱ, 機械システム工学実験Ⅲ, 機械設計演習Ⅰ, 機械設計演習Ⅱ, 材料科学実験および演習Ⅰ, 材料科学実験および演習Ⅱ, エネルギー理工学設計演習・実験Ⅰ, エネルギー理工学設計演習・実験Ⅱ, 航空宇宙工学実験Ⅰ, 航空宇宙工学実験Ⅱ, インターシッピング, 金属材料学, 材料強度物性, 材料量子化学, 材料電気化学, 材料分析化学, 加速器工学, 放射化学	量子物理学Ⅱ, 人工知能基礎, システム工学, マイクロ加工学, 物理学英語, 固体物性学, 信頼性工学, 品質管理, 機械要素学, 核物理基礎論, 生物物理学, 原子炉基礎演習・実験, 数理解析, 有限要素法の基礎と演習, 航空宇宙工学演義, 工学倫理, 特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ
電気電子工学科	電気電子工学概論, 電気回路基礎論, 電気電子回路, 基礎情報処理, 基礎情報処理演習	電子回路, 電気電子工学実験 A, 電気電子工学実験 B, 電気電子プログラミング及演習, 電気電子数学, 電磁気学Ⅰ, 電力回路, 電気機器Ⅰ, 論理回路, 計算機工学, 情報理論, 物性・デバイス基礎論, 半導体工学	電気電子工学実習 A, 電気電子工学実習 B, 電気電子計算工学及演習, グラフ理論, 電気回路, 電磁気学Ⅱ, デジタル回路, 電気電子計測Ⅰ, 電気電子計測Ⅱ, 自動制御工学, デジタル制御, システム最適化, 知能型システム論, 電気機器Ⅱ, パワーエレクトロニクス, 発電工学, 放電工学, 通信基礎論, 情報伝送工学, 通信ネットワーク, 電波工学Ⅰ, マイクロ波工学, 計算機ソフトウェア, 計算機システム, デジタル信号処理, 固体電子工学, 電気電子工学のための量子論, プラズマ工学, 真空電子工学Ⅰ, 電気電子材料学, 光工学Ⅰ, 生体医療工学	電波工学Ⅱ, 光通信工学, 電力系統工学, 絶縁設計工学, マンマシンシステム工学, 電気応用工学, 音響工学, 真空電子工学Ⅱ, 光電子デバイス工学, 光工学Ⅱ, 電気伝導論, 工学倫理, アルゴリズム論, 人工知能, 応用代数学, 電気法規, 電波法規, 特別研究
情報学科	計算機科学概論, 数理工学概論, アルゴリズムとデータ構造入門, 線形計画, 電気回路と微分方程式, 電気電子回路, 基礎情報処理演習	工業数学 A1, 数理工学実験, 基礎数理演習, プログラミング演習, 計算機科学実験及演習Ⅰ, 計算機科学実験及演習Ⅱ, システム解析入門, 論理システム, システムと微分方程式, 解析力学, 意思決定論, 論理回路, 言語・オートマトン, 計算機アーキテクチャⅠ, プログラミング言語, コンパイラ, 電子回路, 情報理論, コンピュータネットワーク, グラフ理論, 数値解析	コンピュータネットワーク, 数値解析, 工業数学 A2, 工業数学 A3, 線形制御理論, 確率と統計, 確率離散事象論, 応用代数学, 人工知能, ヒューマンインタフェース, 数値計算演習, 数理工学セミナー, システム工学実験, 計算機科学実験及演習Ⅲ, 計算機科学実験及演習Ⅳ, 物理統計学, 連続体力学, 量子物理学Ⅰ, 量子物理学Ⅱ, 現代制御論, 最適化, 非平衡系の数理, 情報システム理論, 計算機アーキテクチャⅡ, オペレーティングシステム, パターン認識, データベース, 集積システム入門, 技術英語, 情報システム, アルゴリズム論, 画像処理論, ソフトウェア工学, マルチメディア, 計算と論理, 生命情報学, 情報と通信の数理	信号とシステム, 数理解析, 非線形系の力学, 情報と職業, 通信基礎論, 工学倫理, 特別研究
工業化学科	工業化学概論Ⅰ, 工業化学概論Ⅱ, 基礎情報処理, 基礎情報処理演習	物理化学基礎及び演習, 有機化学基礎及び演習, 基礎無機化学, 化学プロセス工学基礎 【創成化学コース】有機化学Ⅰ(創成化学), 物理化学Ⅰ(創成化学), 無機化学(創成化学), 分析化学Ⅰ(創成化学), 高分子化学基礎Ⅰ(創成化学), 化学プロセス工学 【工業基礎化学コース】物理化学Ⅰ(工業基礎化学), 無機化学Ⅰ(工業基礎化学), 分析化学Ⅰ(工業基礎化学), 有機化学Ⅰ(工業基礎化学), 化学プロセス工学, 化学数学Ⅰ(工業基礎化学), 最先端の化学入門(工業基礎化学) 【化学プロセス工学コース】物理化学Ⅰ(化学工学), 無機化学Ⅰ(化学工学), 基礎流体力学, 化学工学計算機演習, 反応工学Ⅰ	【創成化学コース】創成化学実験(創成化学), 有機化学Ⅱ(創成化学), 生体関連物質化学(創成化学), 物理化学Ⅱ(創成化学), 高分子化学基礎Ⅱ(創成化学), 統計熱力学入門(創成化学), 機器分析化学(創成化学), 環境保全概論, 有機化学Ⅲ(創成化学), 物理化学Ⅲ(創成化学), 錯体化学(創成化学), 最先端機器分析(創成化学), 高分子化学Ⅰ, 化学生物学, 環境安全化学 【工業基礎化学コース】工業基礎化学実験(工業基礎化学), 物理化学Ⅱ(工業基礎化学), 有機化学Ⅱ(工業基礎化学), 無機化学Ⅱ(工業基礎化学), 分析化学Ⅱ(工業基礎化学), グリーンケミストリー概論, 生化学Ⅰ(工業基礎化学), 高分子化学概論(工業基礎化学), 化学数学Ⅱ, 環境保全概論, 有機化学Ⅲ(工業基礎化学), 物理化学Ⅲ(工業基礎化学), 無機化学Ⅲ(工業基礎化学), 生化学Ⅱ, 生物化学工学, 有機工業化学, 高分子化学概論Ⅱ(工業基礎化学), 量子化学概論, 環境安全化学, 界面基礎化学 【化学プロセス工学コース】移動現象, 流体系分離工学, プロセス制御工学, 物理化学Ⅱ(化学工学), 化学工学数学Ⅱ, 計算化学工学, 化学工学実験(化学工学), 環境保全概論, 反応工学Ⅱ, 固相系分離工学, 微粒子工学, プロセスシステム工学, 化学工学シミュレーション, 生物化学工学, 環境安全化学, 物理化学Ⅲ(化学工学), 有機工業化学	【創成化学コース】電気化学, 有機分光学, 高分子化学Ⅱ, 化学のフロンティア(創成化学), 産業科学特論, 有機金属化学, 工学倫理, 化学実験の安全指針, 特別研究 【工業基礎化学コース】化学実験の安全指針, 触媒化学, 化学統計力学(工業基礎化学), 有機分光学, 電気化学, 有機金属化学, 先端機器分析科学(工業基礎化学), 工学倫理, 特別研究 【化学プロセス工学コース】化学実験の安全指針, プロセス設計, 工学倫理, 特別研究

# 農学部

Faculty of Agriculture

## 農学部が望む学生像

各学科が対象とする様々な課題に果敢に挑戦する意欲を持ち、それぞれの専門教育で求められる十分な学力を有する人材を求めます。

## 農学部への誘い

わが国は食料の実に60%を輸入に依存しています。途上国では多くの人々が飢えに苦しみ死に瀕しています。また、牛のBSEや鶏のインフルエンザ問題で騒がれたように、食の安全性が問題になっています。現在、われわれ人類が健康で幸せに暮らすために、安全で質の高い食料を十分に供給することが求められています。

他方、この地球上では、人口増加に加えて、砂漠化や地球温暖化などの環境問題が21世紀の緊急の課題となっています。「環境の時代」と言われる21世紀では、自然と人間活動の調和が求められており、環境に負担をかけない食料生産を目指すことが必要です。農村の豊かな生態系や自然景観を維持・保全することも大切です。このような食料と環境の問題を解決して、人類が快適で平和に暮らすためになくてはならない学問が農学です。農学は、生物学のみならず、化学、物理学、社会科学などを基礎とした「生命・食料・環境」に関する総合科学です。研究対象は、分子・細胞などのマイクロレベルから圃場・生態系、さらには地域社会といったマクロレベルまで、広範囲に及んでいます。

京都大学農学部では、資源生物科学科(生物系)、応用生命科学科(化学系)、地域環境工学科(物理系)、食料・環境経済学科(社会科学系)の基礎系4学科、及び、森林科学科、食品生物科学科の総合系2学科、計6学科を設置し、食料の生産・加工から流通に至るまでの諸問題とそれを取り巻く環境の保全・管理・創造などについて幅広い教育・研究を展開しています。本学部は、それぞれの分野に共通する基礎的科目を系統的に教育するとともに、学科ごとに異なる高度な専門教育を実施することを目的としています。

農学部の学部教育の大部分は京都大学吉田キャンパス北部構内の農学部本館で行われますが、一部は、本館の北の農学・生命科学棟、宇治キャンパス(京都府宇治市)、農学部附属の農場(大阪府高槻市)・牧場(京都府京丹波町)で行われます。

[写真] 土壌物理学実験風景



## 農学部の教育

### いま農学部では

衣食住は人類の生活にとって必要不可欠な条件です。食物はもとより、私たちの身の回りの実に多くのものが農林水産業や畜産業に関わりを持っています。21世紀を迎えて、地球環境を守りながら、あまねく人類の健康で文化的な生活を保障するためには、農学はますます重要な使命を担っています。今日では遺伝子組換えなどのバイオテクノロジーを活用した品種改良や食品の生産・加工、高度な機械を利用した生産技術の開発研究に力が注がれています。また、環境にやさしい農業を目指して、人工衛星からのリモートセンシングやIT技術を利用した研究も行われています。また、人類の持続的発展のためには地域の自然条件のみならず、経済的・社会的・文化的諸条件の総合的考察からの検討も不可欠です。今日の農学は、分子・細胞レベルから生態系・地域レベルまでを対象とした生命系の総合科学へと発展しているのです。

農学部は、基礎系4学科と総合系2学科から構成されています。学部では4年一貫教育のもとに、第1・2学年から専門科目も一部学ぶこととなりますが、第3学年から本格的に専門科目を履修し、実験、ゼミナール等が始まります。第4学年では研究分野(研究室)に分かれて課題研究(卒業研究)を行います。教員の指導、助言を受けながら大学院生とともに未知の分野の研究に取り組む最初のステップです。所定の単位を修得した学生は、学士(農学)の学位を取得して卒業することになります。さらに研究を深めようと志す学生は大学院へ進学します。

### 高度な専門的知識の修得と研究者養成

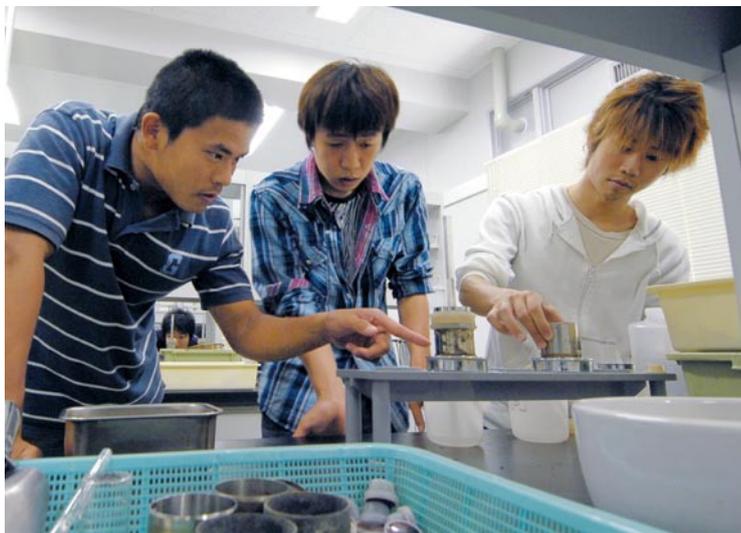
21世紀における地球規模の重要課題として、エネルギー、資源、環境、食料、生命、情報、民族および文化等がありますが、農学はそれら全てに関わっており、その果たすべき役割はますます重くなってきております。これらの課題に対処するため、農学研究科の改組を平成13年4月に行いました。これによって、大学院は教育と研究が有機的により一本化され、社会の期待に応えることのできる組織となりました。そこでは、高い研究水準を持った熱意のある教員と最新の設備が大学院学生の研究意欲を強く刺激します。院生は教員の指導は受けるものの、自由に発想し、自身で考え、近未来を目指した先端的研究や、遠い将来を見据えた着実ではあるがユニークな研究を行うことができます。現在、大学院には、韓国、中国、インドネシアをはじめ27ヵ国からの外国人留学生約80名が在籍しています。多くの留学生と一緒に勉強することで、国際性が身につくことにもなります。農学部は、これら高度な専門知識と研究能力を習得するための基礎を学ぶ場でもあるのです。

### 生産現場に根ざした教育・研究

農学研究科には附属の農場と牧場があり、学部および大学院の教育・研究の

場として利用されています。附属農場では、農業の現状と未来に即した農学研究、特に先端的研究を農場の現場に応用するための理論構築、作物の品種改良などを目的として圃場をベースにした数多くの研究が行われています。

附属牧場は、総面積約15ha(牧草地10ha)を有し、肉用牛を用いて、産肉生理学的な面からの研究を行うとともに、得られた成果にもとづいて効率的な牛肉生産方式を開発しようとしています。



■農学部のホームページ：<http://www.kais.kyoto-u.ac.jp/>  
 ■入学についてのお問い合わせ：農学部第一教務掛 tel.075-753-6012

### 在学生からのメッセージ



#### 幅の広い学問

応用生命科学科4回生  
**加藤 玲子** さん

農学部という場所は、研究の対象が広く、また様々なアプローチが許されているように思います。授業では、様々な視点—私の専攻に限っただけでも食物を生産するという意味での「農学」をはじめとして、細胞の内部のミクロの基礎的な研究、生物を用いた物質の生産などの応用的な研究など—から農学を学ぶことができ、色々な角度から物事を捉えることの楽しさを感じられることと思います。

私は入学当初は生物のしくみを応用して何か生活の役に立てるような研究がしたいと考えていましたが、授業のトピックスや京都大学にいる面白い人々との交流(?)に刺激されて人体に興味を持ち、現在コレステロールの排出機構について研究しています。研究の幅広さという点で、じっくりと自分自身の興味を探究できる場所なのではないでしょうか。



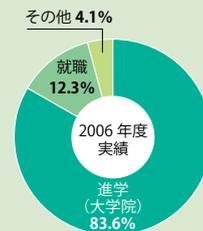
#### 農業と農村の特性が見せてくれる社会像

食料環境経済学科4回生  
**濱 まゆみ** さん

私は大学入学当初は農業にほとんど関心がなく、環境問題を勉強したいと思い農学部を選びました。しかし大学の授業をきっかけに農業のことを徐々に知ることによってその重要さと面白さを知ることになり、今は発展途上国における農村開発に関して勉強しています。それには主に2つの理由があります。1つは私たちの命の土台である農業の現場が資源と食料を求めて不当に開発されている現状が一部であり、その解決に努力したいこと。もう1つは農村に暮らす人々の生きるたくましさや快活さ、そして自然の美しさに魅せられたためです。社会の様々な側面を見せてくれる農業と農村の状況を学ぶことを通じて私たち自身の命と社会に向き合える、それが農学の1つの魅力だと思っています。

## 卒業後の進路

約8割が大学院に進学しますが、就職先は、公務員、研究機関の研究者として、また民間企業では化学・食品等の製造業、バイオテクノロジー関係の産業、あるいは商社・金融・保険・マスコミ・コンピューター等、幅広い分野に進出しています。



#### [就職先の例]

厚生労働省、国土交通省、京都市、クボタ、日本たばこ産業、月桂冠、住友林業、丸紅、三菱商事、三菱東京UFJ銀行、野村證券、日本生命、伊勢丹、高島屋、商船三井、フジテレビなど

## 農学部で取得可能な資格

農学部では、教育職員免許状の取得を目的とした教職課程をはじめ、食衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得、二級建築士試験及び木造建築士資格試験受験資格、測量士及び測量士補の資格取得の教育課程を設けているほか、専門職に必要な資格や受験資格が取得できます。

## 卒業生からのメッセージ



#### 「もがく」ための恵まれた環境

2004年 生物生産科学科卒業  
 香川県農政水産部農業生産流通課 勤務  
**吉田 純也** さん

私は農家で生まれ育ち、自然が身近にある環境や、伝統や文化の受け皿としての農業の役割などに魅力を感じてきました。そして、努力が収入につながるような農業について考えたいという想いから農学部を志望しました。大学時代は、自分と違う様々な想いを持ち、それを実現しようと真剣に取り組む人たちに出会うことができ、影響を受けながら自分なりにもがいた時間だったと思います。現在私は、行政の面から農家をサポートする仕事に就いています。大学での専攻とは違う分野で、分からないことも多く、今もまだまだもがき続けている状態です。しかし、答えの出にくい問題に取り組むための恵まれた環境で過ごした大学時代の経験が、今後の仕事の中でも役に立ってくれると思います。



#### やりたいことを見つける場所

2006年 森林科学科卒業  
 京都大学大学院 農学研究科  
 修士課程森林科学専攻2回生  
**山本 祐輔** さん

私が農学部、特に森林科学科を志望したのは環境に関係することを学びたいと考えたためです。地球温暖化・生物多様性・バイオ燃料・生分解性繊維など、近頃よく耳にするこれらのキーワードは全て森林と密接に関係しており、漠然と環境について学びたいとだけ考えていた私にとって、幅広い側面から森林にアプローチするこの学科は魅力的でした。入学してみると想像以上に京大は物事を探究するのに恵まれた場所でした。中でも専門分野の第一人者が身近にいたり、刺激を与える同級生に恵まれたりと、魅力的な人と数多く接する機会がある点は特に良かったです。大学での勉強は解答の用意されたものばかりではありません。解き明かすべき問いを見つけ、打ち込むために必要な知識や探究心を養うことのできる京都大学でともに学びませんか？

## 学科紹介

### 資源生物科学科

資源生物科学科は、陸地や海洋に生育・生息する資源生物の生産性および品質の向上を、環境との調和を図りながら追求することを目標に、研究・教育を行っています。また、このような資源生物を、外敵や病気から守る技術を開発したり、生育・生息に好ましい環境を持続的に保つ方策を探るとともに、これまで生産性が見込めなかった劣悪な環境に適した、新しい品種の創出を目指すなど、資源生物を対象にした応用研究を多面的に行っています。

資源植物グループ：作物学、育種学、蔬菜花卉園芸学、果樹園芸学、栽培システム学、植物生産管理学、植物遺伝学、植物生理学、栽培植物起原学、品質評価学、品質設計開発学  
資源動物グループ：動物遺伝育種学、生殖生物学、動物栄養科学、生体機構学、畜産資源学、生物資源情報学  
海洋生物グループ：海洋生物環境学、海洋生物増殖学、海洋分子生物学、海洋環境微生物学、海洋生物生産利用学、海洋生物機能学  
生産環境グループ：雑草学、熱帯農業生態学、土壌学、植物病理学、昆虫生態学、昆虫生理学、微生物環境制御学、生態情報開発学

### 応用生命科学科

生物資源の生産・加工・利用・保全の諸側面に含まれる化学的・生物学的原理の探求とその応用に関する様々な分野の教育・研究に携わっています。すなわち、微生物、植物、動物など、生物の生命現象や生命機能を化学、生物学、生化学、物理学、生理学、分子生物学などを基盤として深く探求・理解する（バイオサイエンス）、一方その成果を農・医薬、食品、化成品を初めとする生活関連有用物質の高度な生産や利用に適用する（バイオテクノロジー）ための基礎教育と先端的研究を行っています。

細胞生化学、生体高分子化学、生物調節化学、化学生態学、植物栄養学、発酵生理及び醸造学、制御発酵学、生体機能化学、生物機能制御化学、エネルギー変換細胞学、応用構造生物学、分子細胞育種学（全能性統御機構学）、植物分子生物学（遺伝子特性学）

### 地域環境工学科

地域環境工学科は環境と調和した効率的な食料生産、地球環境も含めた環境・エネルギー問題の解決、環境共生型農村社会の創造をめざし、工学・技術学をツールに研究・教育を行います。水循環の制御による貴重な水資源の合理的な利用、精密農業による資源循環型社会の構築、自然と人間が共存する知的創造的農村の実現、ロボットやIT利用の未来型農業の追求、太陽エネルギー資源の開発利用など様々な研究を通して豊かな21世紀社会を構築します。

施設機能工学、水資源利用工学、水環境工学、農村計画学、農業システム工学、フィールドロボティクス、農産加工学

### 食料・環境経済学科

食料・環境経済学科では、私達の生活に最も関連の深い食料問題と環境問題の研究と教育に携わっています。この問題を国内だけでなく世界的な次元で捉え、途上国の貧困問題、人口問題、技術開発普及、農林水産物の貿易問題あるいは食品安全性、さらに農山漁村の社会経済生活について研究しています。その際、有限な地球環境資源の保全と両立する持続可能な資源循環型社会のあり方について学際的・総合的な研究・教育を行っています。

農業組織経営学、経営情報会計学、地域環境経済学、食料・環境政策学、森林・林業政策学、国際農村発展論、比較農史学、農学原論

### 森林科学科

環境の保全に配慮しながら自然資源を有効に利用するため、森林の持続的管理がキーワードになっています。森林科学科では、森林生態系の機能・構造と物質循環を基礎に、森林資源の持続的な生産技術、木材や紙をはじめセルロースや生分解性プラスチックなどさまざまな林業生産物の利用法、水や大気などの保全に果たす森林の役割、さらにこれらの社会科学的評価などをテーマとして、広く森林を取り扱う教育・研究を行っています。

森林利用学、林産加工学、生物材料設計学、生物繊維学、樹木細胞学、複合材料化学、生物材料化学、森林生化学、森林生態学、熱帯林環境学、森林・人間関係学、森林環境計画学、森林生物学、森林水文学、森林育成学、森林情報学、環境デザイン学、山地保全学、エネルギーエコシステム学、生物圏情報学

### 食品生物科学科

食品生物科学科では、食品を構成する物質の構造と機能、新しい食品機能を持つ物質や遺伝子の探索、疾病を予防する機能や栄養性・安全性などに優れた食品の創成と効率的な生産、並びに地球規模での食環境など、食料全般に関わる諸問題を微生物、植物、動物を対象に研究し、教育を行います。これにより、食料科学の学術の進展のみならず、健康の維持・増進や食料不足の改善など、多様な社会的問題の解決に寄与し、豊かな食生活の確立に貢献することを目指しています。

栄養化学、生体情報応答学、生命有機化学、農産製造学、微生物生産学、酵素化学、食品分子機能学、食品生理機能学、生物機能変換学、食環境学

## 全学共通科目（学科推薦科目）

学 科	科 目
資源生物科学科	数学基礎 A、数学基礎 B、基礎情報処理、基礎情報処理演習、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、無機化学入門 A、無機化学入門 B、基礎有機化学 A、基礎有機化学 B、基礎生物学 A、バイオテクノロジー—農学の新戦略—、生物圏の科学—生命・食糧・環境—、基礎化学実験、環境科学基礎ゼミナール
応用生命科学科	数学基礎 A、数学基礎 B、確率論基礎、基礎情報処理、基礎情報処理演習、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、無機化学入門 A、無機化学入門 B、バイオテクノロジー—農学の新戦略—、基礎化学実験、基礎生物学 A
地域環境工学科	数学基礎 A、数学基礎 B、微分積分学 A、微分積分学 B、数理統計、確率論基礎、基礎情報処理、基礎情報処理演習、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、物理学実験
食料・環境経済学科	数学基礎 A、数学基礎 B、確率論基礎、数理統計、基礎情報処理、基礎情報処理演習、環境学、生命科学概論 A、生命科学概論 B、バイオテクノロジー—農学の新戦略—、生物圏の科学—生命・食糧・環境—、人間と数学 A、人間と数学 B、環境科学基礎ゼミナール
森林科学科	数学基礎 A、数学基礎 B、基礎情報処理、基礎情報処理演習、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、基礎有機化学 A、基礎有機化学 B、生命科学概論 A、生命科学概論 B、物理学実験、基礎生物学 A、基礎生物学 B、基礎化学実験、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B
食品生物科学科	数学基礎 A、数学基礎 B、基礎情報処理、基礎情報処理演習、基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、基礎有機化学 A、基礎有機化学 B、基礎生物学 A、基礎化学実験、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、

専門科目

学 科	1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
資源生物科学科	農学概論Ⅰ, 農学概論Ⅱ, 資源生物科学基礎, 細胞生物学Ⅰ, 遺伝学	資源生物科学概論Ⅰ, 資源生物科学概論Ⅱ, 資源生物科学概論Ⅲ, 資源生物科学概論Ⅳ, 細胞生物学Ⅱ, 細胞生物学Ⅲ, 生態学, 動物生理学, 微生物学, 植物生理学Ⅰ, 応用気象学, 生物統計学, 資源生物科学基礎実験, 土壌学Ⅰ, 海洋動物学, 栽培技術論と実習, 畜産技術論と実習, 海洋生物科学技術論と実習Ⅰ, 海洋生物科学技術論と実習Ⅱ, 海洋生物科学技術論と実習Ⅲ, 植物調査法と実習, 応用数学, 食品安全学Ⅰ	植物遺伝資源学, 植物生理学Ⅱ, 作物学Ⅰ, 育種学Ⅰ, 蔬菜園芸学, 果樹園芸学Ⅰ, 植物生産管理学, 栽培システムⅠ, 品質科学, 動物遺伝育種学, 動物生殖学, 動物栄養学, 動物生体機構学, 資源動物生産学, 海洋環境学, 海洋生物生態学, 海洋微生物学Ⅰ, 海洋生物資源学, 海洋微生物生態学, 雑草学Ⅰ, 植物病理学Ⅰ, 昆虫生態学Ⅰ, 昆虫生理学, 熱帯農業生態学, 微生物生態学, 生物圏情報学Ⅰ, 資源生物科学専門外書講義Ⅰ, 資源生物科学専門外書講義Ⅱ, 資源生物科学専門外書講義Ⅲ, 資源生物科学専門外書講義Ⅳ, 資源生物科学実験及び実験法Ⅰ, 資源生物科学実験及び実験法Ⅱ, 作物学Ⅱ, 育種学Ⅱ, 花卉園芸学, 果樹園芸学Ⅱ, 栽培システムⅡ, 家畜ゲノム科学・バイオテクノロジー, 動物機能開発学, 海洋生物生理学, 海洋微生物学Ⅱ, 魚類学, 海洋生物細胞工学, 雑草学Ⅱ, 昆虫生態学Ⅱ, 生態制御学, バイオインフォマティクス, 遺伝学Ⅱ, 品質設計開発学, 品質評価学, 家畜育種学, 動物栄養機能学, 動物環境生理学, 海洋生態系学, 海洋生体システム利用学, 海洋植物学, 植物病理学Ⅱ, 植物環境ストレス学, 土壌学Ⅱ, 農薬科学, 生物圏情報学Ⅱ, 分析化学, 生物有機化学Ⅱ, 植物栄養学, 食品微生物学, 酵素化学	環境情報処理論, 畜産技術論と実習Ⅱ, 食品安全学Ⅱ, 資源生物科学特別科目Ⅰ, 資源生物科学特別科目Ⅱ, 資源生物科学特別科目Ⅲ, 資源生物科学特別科目Ⅳ, 作物科学演習, 園芸科学演習, 耕地生態学演習, 品質科学演習, 生産管理科学演習, 応用動物科学演習Ⅰ, 応用動物科学演習Ⅱ, 海洋生物資源学演習, 海洋微生物学演習, 海洋生物生産学演習, 資源植物科学演習, 植物保護科学演習, 生産生態学演習, 課題研究,
応用生命科学科	農学概論Ⅰ, 農学概論Ⅱ, 応用生命科学入門Ⅰ, 応用生命科学入門Ⅱ, 応用生命科学入門Ⅲ, 応用生命科学入門Ⅳ	細胞生物学概論, 生化学Ⅰ, 生化学Ⅱ, 有機構造解析学, 生物物理学Ⅰ, 有機反応機構論Ⅰ, 有機反応機構論Ⅱ, 応用微生物学Ⅰ, 食品安全学Ⅰ	生物物理学Ⅱ, 分析化学, 生物有機化学Ⅰ, 生物有機化学Ⅱ, 生物有機化学Ⅲ, 一般生体高分子化学, 生体高分子構造論, 生体触媒化学, 応用微生物学Ⅱ, 応用微生物学Ⅲ, 植物栄養学, 植物生化学, 分子生物学Ⅰ, 分子生物学Ⅱ, 分子細胞生物学Ⅰ, 分子細胞生物学Ⅱ, 醸造食品学概論, 基礎生理学, 専門外国書講義Ⅰ, 専門外国書講義Ⅱ, 産業微生物学, 分析化学実験, 生化学実験, 分子生物学実験, 植物生化学実験, 応用微生物学実験, 有機化学実験, 生物物理学実験	応用微生物学Ⅳ, 栄養化学, 食品工学, 油脂製造加工並びに食品保蔵論, 食品安全学Ⅱ, 応用生命科学演習Ⅰ, 応用生命科学演習Ⅱ, 課題研究
地域環境工学科	農学概論Ⅰ, 農学概論Ⅱ, 地域環境工学概論Ⅰ, 地域環境工学概論Ⅱ, 地域環境工学演習	応用気象学, 応用数学, 応用力学, 材料力学, 水理学, 情報処理学及び演習Ⅰ, 情報処理学及び演習Ⅱ, 栽培技術論と実習	工業数学C, 環境動態学, 測量学, 土木材料学, 構造解析学, 土壌物理学, 農業水文学, 地域整備開発施設学, 灌漑排水学, 農村計画学, 農地整備学, 水資源利用学, 利水システム工学, 生物機械計測学, 振動学, 熱力学及び伝熱工学, 数理計画法, 農用エネルギー動力学, フィールドロボティクス, 農産加工機械学, 制御工学, 機械設計, 農業機械技術の発達, 農業機械学専門外書講義, 作物学Ⅰ, 蔬菜園芸学, 果樹園芸学Ⅰ, 土壌学Ⅰ, 農学原論, 食料・環境政策学, 資源環境経済学, 食品工学, 砂防学Ⅰ, 森林水文学, 森林生態学, 土木材料・環境地盤工学実験, 水理学実験, 土壌物理学・水環境工学実験, 測量法及び実習, 施設機能工学演習, 計算水理学演習, 農業機械学実験Ⅰ, 農業機械学実験Ⅱ, 製図(CAD)演習	国土・地域計画, 生物圏情報学Ⅰ, 生物圏情報学Ⅱ, 地域環境工学実習, 灌漑排水学演習, 農村整備計画演習, 農業機械学演習, 課題研究
食料・環境経済学科	農学概論Ⅰ, 農学概論Ⅱ, 食料・環境経済学概論Ⅰ, 食料・環境経済学概論Ⅱ, 食料環境基礎社会・経済論, 国際農林業概論	経済原論Ⅰ, 経済原論Ⅱ, 経済思想史, 社会経済史, 農林統計利用実習, 農業発展論, 農業会計学基礎実習, 資源生物科学基礎, 調査研究方法実習Ⅰ, 調査研究方法実習Ⅱ	農業組織経営学, 農業経営情報会計学, 資源環境経済学, 食料・環境政策学, 林業政策学, 国際農村発展論, 農業・農村史, 農学原論, 農企業問題特論, アグリビジネス論, 農業資金会計論, 資源環境分析学, 農林統計学, 農産物価格論, 林業経済学, 農村社会学, 専門外国書講義Ⅰ(英語), 専門外国書講義Ⅱ, 地域農業・農業経営管理特論, 作物学Ⅰ, 土壌学Ⅰ, 植物栄養学, 農村計画学, 水資源利用学, 国際森林資源論, 熱帯環境学, 花卉園芸学, 栄養化学, 農地整備学, 野生動物保全学, 熱帯森林資源学, 食品安全学Ⅰ, 食品化学, 食料・環境経済学特別講義Ⅰ, 食料・環境経済学特別講義Ⅱ, 食料・環境経済学特別講義Ⅲ, 食料・環境経済学特別講義Ⅳ, 食料・環境経済学特別講義Ⅴ, リスク管理論, 農業組織経営学演習Ⅰ, 農業経営情報会計学演習Ⅰ, 資源環境経済学演習Ⅰ, 食料・環境政策学演習Ⅰ, 林業政策学演習Ⅰ, 国際農村発展論演習Ⅰ, 農業・農村史演習Ⅰ, 農学原論演習Ⅰ, 農業簿記経営調査実習	国土・地域計画, 食品安全学Ⅱ, 食料・環境経済学特別講義Ⅲ, 森林法律論, 農業組織経営学演習Ⅱ, 農業組織経営学演習Ⅲ, 農業経営情報会計学演習Ⅱ, 資源環境経済学演習Ⅱ, 資源環境経済学演習Ⅲ, 食料・環境政策学演習Ⅰ, 食料・環境政策学演習Ⅱ, 林業政策学演習Ⅱ, 林業政策学演習Ⅲ, 国際農村発展論演習Ⅱ, 国際農村発展論演習Ⅲ, 農業・農村史演習Ⅱ, 農業・農村史演習Ⅲ, 農学原論演習Ⅱ, 農学原論演習Ⅲ, 食料・環境経済学実習, 課題研究
森林科学科	農学概論Ⅰ, 農学概論Ⅱ, 森林基礎科学Ⅰ, 森林基礎科学Ⅱ, 森林基礎科学Ⅲ, 森林基礎科学Ⅳ	森林科学Ⅰ, 森林科学Ⅱ, 森林科学Ⅲ, 森林科学Ⅳ, 応用気象学, 森林科学実習Ⅰ, 森林科学実習Ⅱ, 森林科学実習Ⅲ, 森林科学実習Ⅳ, 研究林実習Ⅰ	国際森林資源論, 森林計画学, 造園学Ⅰ, 造園学Ⅱ, 森林利用学, 樹木生理学, 森林育成学, 森林植物学, 森林管理システム及び応用技術論, 雪水学基礎論, 森林生態学, 群生生態学, 森林植物繁殖学, 野生動物保全学, 熱帯環境学, 熱帯森林資源学, 樹木細胞生理学, 細胞壁形成論, 砂防学Ⅰ, 砂防学Ⅱ, 森林水文学, 森林影響論, 生物材料物性学, 木構造学, 木材加工学Ⅰ, 木材加工学Ⅱ, セルロース化学, バイオマス化学, 森林生化学Ⅰ, 森林生化学Ⅱ, 高分子合成化学, バイオマス複合材料化学, 生物材料物性学, パルプ・紙学, 専門外国書講義Ⅰ, コンピュータ利用と森林科学, 森林総合実習及び実習法, 森林生物学実験及び実験法, 森林物理学実験及び実験法, 森林基礎化学実験及び実験法, 森林利用学実習及び実習法, 生態学実験及び実験法, 樹木の超微形態観察及び観察法, 森林水文・砂防学実験及び実験法, 木材工学実験及び実験法, 木材加工学実験及び実験法, バイオマス化学実験及び実験法Ⅰ, バイオマス化学実験及び実験法Ⅱ, 造園学実習Ⅰ, 研究林実習Ⅱ, 研究林実習Ⅲ, 研究林実習Ⅳ	緑地植物学, 専門外国書講義Ⅱ, 森林法律論, 緑地計画論, 森林有機化学, 高分子物性学, バイオマスエネルギー, 生物圏情報学Ⅰ, 生物圏情報学Ⅱ, 木材保存学, 木質材料学, 住環境学, さのこ学, 森林科学特別科目Ⅰ, 森林科学特別科目Ⅱ, 森林科学特別科目Ⅲ, 林業政策学, 林業経済学, 測量学, 水理学, 土壌学Ⅰ, 土壌学Ⅱ, 材料力学, 構造解析学, 振動学, 熱力学及び伝熱工学, 応用数学, 森林分析化学, 造園学実習Ⅱ, 建築設計・製図実習, 森林科学演習, 生物圏情報学演習Ⅰ, 生物圏情報学演習Ⅱ, 課題研究
食品生物科学科	農学概論Ⅰ, 農学概論Ⅱ, 食品基礎化学Ⅰ, 食品基礎化学Ⅱ, 食品有機化学Ⅰ	食品基礎生物学Ⅰ, 食品有機化学Ⅱ, 食品物理学Ⅰ, 食品生化学Ⅰ, 食品安全学Ⅰ, 食品生物科学入門及び実習	食品有機化学Ⅲ, 食品物理学Ⅱ, 食品生化学Ⅱ, 食品分子生物学, 食品微生物学, 食品生理学, 酵素化学, 生命有機化学, 栄養化学, 食品工学, 食品分子機能学, 食品生理機能学, 生物機能変換学, 生体情報応答学, 微生物生産学, 食品化学, 品質科学, 専門外国書講義Ⅰ, 食品生物科学基礎実験及び実験法, 有機化学実験及び実験法, 食品・栄養化学実験及び実験法, 化学工学実験及び実験法, 酵素化学・生化学実験及び実験法, 微生物学実験及び実験法, 生命科学実験及び実験法	専門外国書講義Ⅱ, 油脂製造加工並びに食品保蔵論, 醸造食品学概論, 食品安全学Ⅱ, 食品生物科学演習, 課題研究

# RESEARCH ACTIVITIES

## 教員の研究テーマ紹介

ここでは、京都大学教員の研究テーマを学部ごとに紹介します。  
進路の選択や、興味ある研究テーマを探すための参考にしてください。

### 総合人間学部

#### 足立幸男 教授

現代政治理論、公共政策学

#### 阿辻哲次 教授

漢字の歴史

#### 石川尚人 教授

古地磁気学・岩石磁気学的情報による地球表層部での地学現象（超大陸の形成史、古環境変遷など）の解明

#### 石田明文 教授

ドイツ近代の知の構造

#### 石原昭彦 教授

神経・筋の可塑性に関する分子生物学的研究

#### 稲垣直樹 教授

■ヴィクトル・ユゴー研究 ■近現代フランス小説とその日本での受容 ■科学技術と擬似科学の文化表象

#### 伊従 勉 教授

近現代建築都市論研究、歴史民俗世界の祭儀空間研究

#### 宇敷重広 教授

力学系の分岐理論、カオス・フラクタル、複素力学系

#### 内田賢徳 教授

古代日本語文法の研究・和歌のことばの研究

#### 内本喜晴 教授

電気化学エネルギー変換

#### 江田憲治 教授

1920 - 30 年代の中国政治史・思想史

#### 大川 勇 教授

ドイツ・オーストリア文学、中欧精神史、教養論

#### 大木 充 教授

外国語教授法、動機づけ、自律学習、CALL

#### 大澤真幸 教授

■社会システムの構造に関する身体論的研究 ■メディア・コミュニケーションの構造に関する研究

#### 岡田温司 教授

イタリアを中心とした中世・近世美術史、芸術理論

#### 岡田敬司 教授

教育において自律、かかわり、共同体を問う

#### 小川 侃 教授

(地球環境学堂)  
現象学と現代の諸思想、西洋の政治哲学の歴史

#### 小田伸午 教授

(高等教育推進センター)  
スポーツ科学、身体運動の制御機構

#### 尾野照治 教授

ドイツ語圏を中心とするヨーロッパ中世の思想・文芸作品および法書・史書に映し出された当時の人々の理想像ならびに生活像

#### 加藤 真 教授

植物や動物の生態と進化、生物の多様性と生態系の保全

#### 加藤幹郎 教授

映画学ならびに表象文化論（アイルランド亡命文学研究等）

#### 金坂清則 教授

■都市の地域的存在様式と地域整備に関する歴史地理学的研究 ■イザベラ・バードを主とする 19 世紀英国の女性旅行家とその活動に関する研究

#### 鎌田浩毅 教授

火山学、地質学、地球科学、科学教育法、コミュニケーション論

#### 川島昭夫 教授

近代イギリスの文化史、社会生活史および科学の制度史

#### 木村 崇 教授

ロシアを中心とするスラブ世界の文化論的諸問題

#### 際本泰士 教授

プラズマ物理学。特に集団的相互作用による多粒子系の自己組織化と輸送過程の実験研究

#### 小林茂夫 教授

(情報学研究科)  
感覚を生むしくみ、情報とは何か

#### 小山静子 教授

近代日本における教育とジェンダーに関する歴史的研究

#### 齋木 潤 教授

視覚認識の認知神経科学的研究

#### 齋藤治之 教授

ドイツ語の歴史および印欧語比較言語学

#### 佐伯啓思 教授

現代社会の諸現象を思想的背景にもとづいて分析する。

#### 阪上雅昭 教授

ブラックホールと宇宙での非平衡線形現象

#### 四日谷敬子 教授

中世スコラ哲学との関連で、デカルト、マールブランシュの観念について。

#### 篠原資明 教授

間哲学と交通論という立場にもとづく芸術の研究

#### 島田真杉 教授

アメリカ現代史における国民統合の研究

#### 新宮一成 教授

精神分析および精神医学の思想と臨床実践の研究

#### 水光雅則 教授

(高等教育推進センター)  
言語習得理論にもとづく英文法研究、外国語習得論、英語教育論

#### 菅原和孝 教授

狩猟採集民の社会と生態、対面相互行為の構造、日常会話の人類学的分析

#### 杉万俊夫 教授

グループ・ダイナミクス、社会心理学

#### 杉山雅人 教授

(地球環境学堂)  
水圏における物質の化学動態、環境化学物質の高感度分析

#### 鈴木雅之 教授

初期近代からロマン主義時代を経てヴィクトリア朝にいたるイギリス文学、視覚芸術・視覚表象文化

#### 高崎金久 教授

代数解析、数理物理、可積分系

#### 高橋義人 教授

■ゲーテ自然科学にもとづく近代科学の批判的検証 ■テモノロジーと近代ヨーロッパ ■グノーシス主義と西欧の宗教史

#### 高橋由典 教授

(高等教育推進センター)  
感情を基点とする社会学理論の研究

#### 竹安邦夫 教授

(生命科学研究所)  
細胞のナノバイオロジー、バイオインフォーマティクス

#### 田地野 彰 教授

(高等教育推進センター)  
教育言語学、教育文法、外国語の教授と学習、第二言語習得論

#### 田邊玲子 教授

近代西欧、特にドイツの文学現象における人間、ジェンダー、セクシュアリティ観

#### 田村 類 教授

■分子のキラリティーが誘起する物質の新しい現象や性質に関する研究 ■キラル機能性有機化合物の設計・合成と物性に関する研究

#### 壇辻正剛 教授

(学術情報メディアセンター)  
音声学、応用言語学

#### 津田謹輔 教授

糖尿病の成因ならびに合併症に関する研究

#### 東郷雄二 教授

フランス語を中心とする談話機能文法と意味論

#### 富田恭彦 教授

■粒子仮説を基盤とした 17 世紀観念説の論理空間とその変貌 ■現代言語哲学・科学哲学

#### 中西輝政 教授

冷戦後の新しい国際政治秩序の形成と東アジアの地域秩序の相関

#### 西井正弘 教授

国境を越える人の移動（難民・移民・逃亡犯罪人など）に関する国際法的規制と国際人権法、国際環境法の研究

#### 西垣安比古 教授

東アジアの住まいに関する建築論的研究 / 住居観の史的研究

#### 西村 稔 教授

18 ~ 19 世紀ドイツ法文化史および近代日本道徳思想史

#### 西山良平 教授

日本古代中世の都市・王権・文化

#### 丹羽隆昭 教授

N. ホーソーンを中心とする 19 世紀アメリカ文学の研究

#### 服部文昭 教授

スラブ諸語の研究

#### 福岡和子 教授

19 世紀アメリカ小説・批評理論

#### 船橋新太郎 教授

(こころの未来研究センター)  
ワーキングメモリの神経機構に関する研究

#### カール・ベッカー 教授

(こころの未来研究センター)  
生命倫理・医療倫理の教育と東西比較

#### 堀 智孝 教授

水圏環境の化学、金属酸化物縮合体の構造化学、物質の地球循環を解明するための分析化学

#### 前川 覚 教授

極低温における磁性体の量子力学的現象やスピン現象の核磁気共鳴法による研究

#### 前川玲子 教授

20 世紀のアメリカ思想・文化史研究

#### 松井正文 教授

両生爬虫類の系統分類学的研究

#### 松浦 茂 教授

17・18 世紀のアムール川流域史、18 世紀東アジア地理学史、清初史

#### 松下和夫 教授

(地球環境学堂)  
公共政策としての環境政策論の研究、特に地球環境に関する法的・制度的な枠組みの検討と政府・企業・NGO などの多様な主体の役割の分析

#### 松田 清 教授

日本洋学史、日欧文化交流史

#### 松村道一 教授

運動制御の神経機構

#### 間宮陽介 教授

公共的空間（コモンズ、都市空間、政治空間）に関する研究

#### 丸橋良雄 教授

英国喜劇と比較演劇

#### 水野尚之 教授

■アメリカ 19・20 世紀の小説 ■アメリカの都市の成立と文化

#### 三谷恵子 教授

中・東欧の言語と文化、言語接触と言語変化、言語と社会

#### 道籟泰三 教授

W. ベンヤミン等 19、20 世紀のドイツ文学・思想の研究

#### 三原弟平 教授

カフカ、ベンヤミンなど 20 世紀ドイツ文学・思想

#### 三室 守 教授

(地球環境学堂)  
光合成の光化学、光物理学的過程の解析。光合成生物の進化。光合成生物の環境科学への応用。

#### 宮本嘉久 教授

ソフトマターの構造形成、緩和現象、破壊

#### 村中重利 教授

酸化物薄膜の蒸着

#### 元木泰雄 教授

日本中世成立期の政治史、院政・武士・内乱について

<b>森谷敏夫 教授</b> 生体信号処理・応用生理学
<b>森本芳則 教授</b> 偏微分方程式に対する超局所解析
<b>山口良平 教授</b> 有機金属分子・錯体の構造と触媒機能の探求、ならびにその触媒機能を活用した環境調和型分子変換に関する研究
<b>山田孝子 教授</b> 東アジア諸民族における宗教と生態に関する人類学的比較研究
<b>山田 誠 教授</b> 北方圏地域の地誌および都市地理学
<b>山梨正明 教授</b> 言語学（意味論・語用論）・記号論
<b>山本行男 教授</b> （高等教育推進センター） 酵素や生体関連物質の機能解明研究
<b>吉田 純 教授</b> （高等教育推進センター） ドイツの社会思想・社会理論、情報ネットワーク社会の理論的・経済的研究
<b>依田義丸 教授</b> 創造行為としての演劇（特にシェイクスピアを中心とした英米演劇）
<b>エンゲルベルト ヨリッセン 教授</b> 日欧交渉史、西南ヨーロッパのルネッサンス・バロック時代、ヨーロッパの領土拡張政策に関連した問題、比較文化・比較文学、インド英文学
<b>赤松記彦 准教授</b> 中国古典演劇
<b>浅野耕太 准教授</b> 環境経済学、応用計量経済学
<b>安部 浩 准教授</b> M. ハイテグラーを中心とする存在論・実存哲学。 H. ヨナスを中心とする環境思想。
<b>市岡孝朗 准教授</b> 生態学、昆虫学、熱帯雨林における群集生態学
<b>上木直昌 准教授</b> 確率解析学
<b>岡 真理 准教授</b> ■現代アラブ文学 ■第三世界のフェミニズム思想 ■パレスチナ問題
<b>小方 登 准教授</b> コンピュータを利用した地理情報処理、宇宙からの映像による遺跡探査と歴史景観復原
<b>奥田敏広 准教授</b> 20世紀ドイツの長編小説 - トーマス・マンを中心に -
<b>小倉紀蔵 准教授</b> 東アジア思想に基づき、特に韓国・朝鮮を主なフィールドとする文化およびメディア概念の研究
<b>小畑光子 准教授</b> （地球環境学堂） 労働災害の予防と補償を中心とする労働法、環境法、民法などの研究
<b>勝又直也 准教授</b> ■中世ヘブライ文学 ■ユダヤ学 ■地中海・中東における3つの一神教文明の交流史
<b>桂山康司 准教授</b> 英国宗教詩人の研究 - ミルトン、ホプキンスを中心に -
<b>河崎 靖 准教授</b> 言語学・文献学
<b>木坂正史 准教授</b> 力学系理論、特に複素力学系

<b>木下俊哉 准教授</b> レーザー冷却、トラッピング、冷却原子を用いた物性物理学
<b>神崎素樹 准教授</b> ■協働筋の機能的意義の解明 ■立位姿勢制御則の解明
<b>酒井 敏 准教授</b> 大気・海洋の流体としての力学
<b>櫻川貴司 准教授</b> 計算機科学
<b>佐藤義之 准教授</b> メルロ = ボンテイ、レヴィナスを手がかりとした、現象学ならびに倫理学の研究
<b>島崎 健 准教授</b> 平安朝文学の研究
<b>須田千里 准教授</b> 日本近代文学の研究
<b>瀬戸口浩彰 准教授</b> 植物系統進化学・植物地理学
<b>大黒弘慈 准教授</b> 貨幣・信用を中心とする経済理論および経済思想史
<b>多賀 茂 准教授</b> 十八世紀フランスの知の構造及びフランス現代思想
<b>高谷 修 准教授</b> 18世紀英文学及び比較文学
<b>田部勢津久 准教授</b> 光機能性ガラスの設計・無機材料科学、固体光物性
<b>立木秀樹 准教授</b> プログラミング言語理論、実数計算、連続性と計算可能性の研究
<b>津江広人 准教授</b> 構造有機化学、合成有機化学を基盤とした、窒素架橋かご形分子の合成と物性に関する研究
<b>辻 正博 准教授</b> 中国中世（六朝隋唐時代）の政治制度、中国法制史、敦煌・トルファン出土文書研究
<b>戸田剛文 准教授</b> 認識論・近代イギリス経験論・知覚
<b>中嶋節子 准教授</b> 近代都市史、都市景観史、建築史。自然景観や建築から都市の歴史を読む
<b>永田素彦 准教授</b> ■環境変化をめぐる対話システムの構築 ■科学技術（バイオテクノロジー）の社会的受容
<b>中森蒼之 准教授</b> 言語学理論、認知科学理論を基盤とした効果的効率的な外国語指導理論の構築
<b>西山教行 准教授</b> 外国語教育ならびに言語政策、フランコフォニー、植民地主義などの研究
<b>林 達也 准教授</b> 運動による糖・脂質・エネルギー代謝活性化とそのメカニズム解明
<b>ブライアン・マサル・ハヤシ 准教授</b> アメリカ20世紀の移民史
<b>日置尋久 准教授</b> （高等教育推進センター） データハイディング
<b>廣野由美子 准教授</b> 19世紀イギリス小説、小説技法、物語論
<b>藤田健一 准教授</b> （地球環境学堂） 新しい有機遷移金属錯体の創製と環境調和型分子変換触媒としての応用

<b>藤田耕司 准教授</b> 生成文法理論にもとづく自然言語の統語論研究
<b>藤原直樹 准教授</b> 高圧を含む多重（極限）環境下における強相関電子系（超伝導、金属絶縁体転移、低次元量子効果）の研究
<b>松田英男 准教授</b> イギリスおよびアメリカ映画論
<b>水野眞理 准教授</b> ■英国ルネサンス期の物語文学 ■イングランド人による自己と他者・異文化の表象
<b>道坂昭廣 准教授</b> 中国古典文学、特に南北朝から唐の散文。江戸から明治時代の漢文学
<b>宮下英明 准教授</b> （地球環境学堂） 光合成生物の多様性と多機能性、光合成の系統進化、光合成生物を利用した環境リスク低減に関する研究
<b>吉村成弘 准教授</b> （生命科学研究所） 1分子イメージング・計測・操作技術を用いて、細胞核内の分子構造や分子反応機構を解明する。
<b>細川 浩 講師</b> （情報学研究科） 神経生物学、細胞生物学
<b>湯山哲守 講師</b> プラズマ境界における不安定波
<b>李 長波 講師</b> 日本語と中国語の歴史的研究、東アジア言語思想史の研究

文学部

<b>伊藤邦武 教授</b> 言語分析による認識論
<b>出口康夫 准教授</b> 統計学・シミュレーションなど現代科学の方法論を視野に入れた認識論・存在論。進化生物学的人間観を批判的に検討する「新・人間本性論」。
<b>中畑正志 教授</b> 西洋古代哲学の研究、現代英語圏哲学を視野に入れた「心の哲学」の研究
<b>川添信介 教授</b> ■西洋13・14世紀のアヴェロス主義の問題 ■スコラ哲学における身心問題
<b>小林道夫 教授</b> デカルト哲学を中心とした西洋近世哲学および科学哲学上の諸問題の研究
<b>福谷 茂 准教授</b> カントを中心とする近世哲学史
<b>藤田正勝 教授</b> ドイツ観念論における哲学と宗教の問題
<b>水谷雅彦 教授</b> ■現代倫理学の理論的研究 ■コミュニケーション及び情報の倫理学的研究
<b>氣多雅子 教授</b> 近代のニヒリズムの本質と思想的系譜について
<b>杉村靖彦 准教授</b> 現代フランス思想を手掛かりに、哲学と宗教がそれぞれ深刻な危機にさらされているこの時代になお可能な宗教哲学を追究する。
<b>片柳榮一 教授</b> （地球環境学堂） ギリシアの存在理解とヘブライの存在理解の問題を、人間存在の歴史性を解明する方向で考究している。

<b>芦名定道 准教授</b> 近代キリスト教世界の形成と現代キリスト教思想の諸問題について
<b>中村俊春 教授</b> 17世紀フランドル絵画史
<b>根立研介 教授</b> 日本には、きわめて写実的な肖像彫刻が数多くのこざれているが、その「写実」の意味など、肖像に関する諸問題を研究する。
<b>吉岡 洋 教授</b> 現代のメディア、テクノロジー環境を見据えた美学・芸術理論
<b>木田章義 教授</b> 日本語の歴史
<b>大谷雅夫 教授</b> 国文学中国文学の比較研究
<b>大槻 信 准教授</b> 古代日本語の研究
<b>金光桂子 准教授</b> 中古・中世の物語文学
<b>川合康三 教授</b> 唐宋変革期の文学
<b>平田昌司 教授</b> 中国における言語の史的変化と社会変動・情報技術の変遷過程について
<b>木津祐子 准教授</b> 近世以降に編まれた対音資料をもとに、基礎または対象となる中国方言音系を分析する。さらにそれを通して中国語の規範意識の所在を探る。
<b>池田秀三 教授</b> 漢魏六朝の学術と思想
<b>宇佐美文理 准教授</b> 中国宋代思想史。特に存在論と藝術論についての研究
<b>徳永宗雄 教授</b> 古代インド宗教思想史・叙事詩研究
<b>赤松明彦 教授</b> 古代インドにおける認識論・存在論・論理学・言語哲学の展開についての思想史的研究
<b>横地優子 准教授</b> インド古代から中世にかけてのヒンドゥー教の神話・信仰の変遷。特に大女神信仰の形成過程
<b>御牧克己 教授</b> インド・チベット仏教思想研究
<b>宮崎 泉 講師</b> 後期インド仏教とそのチベットへの伝播について
<b>中務哲郎 教授</b> 古代ギリシアの説話文学
<b>高橋宏幸 教授</b> ローマ文学におけるベルソナの研究
<b>佐藤昭裕 教授</b> スラブ言語学、アスペクト論、テキスト文法
<b>西村雅樹 教授</b> 19世紀末から20世紀前半にかけてのオーストリアの文学ならびに文化の研究
<b>松村朋彦 准教授</b> 18・19世紀ドイツ文学・文化史
<b>宮内 弘 教授</b> 英詩（特にルネサンス期と20世紀）及び文体論研究
<b>若島 正 教授</b> Vladimir Nabokovを中心としたアメリカ小説の研究

**佐々木徹 教授**  
イギリス小説

**廣田篤彦 准教授**  
初期近代イングランドにおけるナショナリズムの文学作品における表象について

**家入葉子 准教授**  
12世紀から15世紀にかけての英語の文法構造の変化について

**田口紀子 教授**  
フランス語学・ナラトロジー

**吉川一義 教授**  
近現代フランス文学。フルースト小説の生成および絵画との関連。

**増田 眞 准教授**  
ルソーを中心とする18世紀フランスの思想と文学

**永盛克也 准教授**  
フランス17世紀演劇の劇作法と文学理論の関係

**齊藤泰弘 教授**  
レオナルド・ダ・ヴィンチの思想研究

**天野 恵 准教授**  
中世ヨーロッパ文学最古のジャンルのひとつである武闘詩の伝統に、古典文学の要素を盛り込んだルネサンス騎士道文学。

**藤井謙治 教授**  
日本近世政治史研究

**勝山清次 教授**  
これまで収取制度を中心に、日本の中世社会の特質を解明しようとしてきた。最近は権門勢家の形成に関心をもっている。

**吉川真司 准教授**  
日本古代政治の形式と規範に関する研究。畿内の古代寺院および寺領荘園に関する研究

**夫馬 進 教授**  
中国明清社会研究

**杉山正明 教授**  
モンゴル時代史

**吉本道雅 教授**  
中国古代史（西周～前漢）

**中砂明徳 准教授**  
前近代中国人の歴史認識の研究。すぐれた歴史家の、というよりは「俗流」の歴史観の展開に興味がある。

**高嶋 航 准教授**  
中国近代の社会と文化の諸相

**濱田正美 教授**  
中央ユーラシア史上のイスラーム教と政治の相互関係

**久保一之 准教授**  
前近代中央アジア・イラン史

**服部良久 教授**  
ドイツ中世史

**南川高志 教授**  
元首政期ローマ帝国の政治史的研究

**小山 哲 教授**  
16～18世紀のポーランドにおける政治文化について

**上原真人 教授**  
日本における瓦生産体制の変遷について

**泉 拓良 教授**  
西日本縄文文化・社会の研究及び、中東フェニキアの考古学的研究

**吉井秀夫 准教授**  
考古資料を通して朝鮮三国時代の地域性や地域間関係を復元し、その意味を考察する。

**清水芳裕 准教授**  
自然科学的分析による土器・陶器の製作技術復元

**宇阪直行 教授**  
感覚・知覚・意識情報処理

**藤田和生 教授**  
動物の知覚・認知機能に関する実験的な分析と「知性」や「心」の進化の探究

**櫻井芳雄 教授**  
記憶の脳内メカニズムを神経細胞の活動から実験的に解明しようとする認知神経科学的研究

**板倉昭二 准教授**  
ヒト乳児およびチンパンジー乳児における社会的認知に関する実験的研究

**蘆田 宏 准教授**  
人間の視覚情報処理とその脳内機構に関する心理物理学的研究

**吉田和彦 教授**  
インド・ヨーロッパ諸語比較言語学

**田窪行則 教授**  
日本語、英語、朝鮮語の統語論・語用論

**吉田 豊 教授**  
中央アジア出土中世イラン語文献の言語学的・文献学的研究

**白井聡子 講師**  
チベット語および中国西南部少数民族言語の調査研究

**松田素二 教授**  
アフリカ都市社会の研究

**落合恵美子 教授**  
家族社会学、ジェンダー論、歴史社会学、特に近代家族論

**伊藤公雄 教授**  
ポピュラー・カルチャーを対象とした文化社会学的研究

**田中紀行 准教授**  
文化と社会構造の関係にかんするマクロ社会学理論の研究；文化エリートの比較歴史社会学的研究

**金田章裕 教授**  
景観の歴史的生態とその認識の研究

**石川義孝 教授**  
人口移動をはじめとする空間的相互作用の理論的・計量的検討

**杉浦和子 教授**  
都市の空間構造の形成や変化の過程に関するモデル化について

**米家素作 准教授**  
近世・近代日本における地理的知と環境の歴史地理学的検討

**伊藤和行 教授**  
16・17世紀イタリアにおける自然哲学および科学思想の歴史的研究

**林 晋 教授**  
情報化社会と情報技術の人文・社会学的分析

**杉本淑彦 教授**  
フランス植民地帝国の社会史をテーマとし、文学・絵画・映画などを素材にして、フランス民衆のアラブ観・イスラーム観を研究している。

**紀平英作 教授**  
20世紀アメリカ合衆国政治史と合衆国を中心とした国際政治史の研究

**永井 和 教授**  
戦前日本における政軍関係の研究

**小野澤 透 准教授**  
第二次世界大戦以降のアメリカ合衆国の中東地域に対する政策の展開を冷戦史の視点から分析している

## 教育学部

**辻本雅史 教授**  
教育史学：日本教育史・近世思想史

**鈴木晶子 教授**  
教育学：教育哲学・思想史

**駒込 武 准教授**  
教育史学・植民地教育史

**山田洋子 教授**  
発達教育論：生涯発達心理学・ことばとイメージ・フィールド心理学

**田中耕治 教授**  
教育方法学：学力論、授業論、評価論

**遠藤利彦 准教授**  
発達心理学：親子の愛着関係と子どもの社会情緒的発達 / 感情の進化論・文化論

**西岡加名恵 准教授**  
教育方法学：カリキュラム論、教育評価論

**子安増生 教授**  
発達心理学：視点理解、心の理論、創発的思考

**楠見 孝 准教授**  
認知心理学：比喩・類推、知識、熟達化、意思決定

**齊藤 智 准教授**  
認知心理学：記憶・作動記憶、言語産出、言語理解

**岩井八郎 教授**  
教育社会学：ライフコース・教育と社会移動

**稲垣恭子 教授**  
教育社会学：学校社会学・青年文化史

**川崎良孝 教授**  
図書館情報学

**前平泰志 教授**  
生涯教育学

**渡邊洋子 准教授**  
生涯教育学：生涯学習・成人教育の国際比較研究、社会教育史

**佐藤卓己 准教授**  
広報学：メディア社会学、マス・コミュニケーション研究、情報史

**高見 茂 教授**  
教育政策学：教育資源分配と公共政策

**杉本 均 教授**  
比較教育学：教育と国際関係（東南アジア）

**金子 勉 准教授**  
教育行政学：高等教育に関する立法過程、大学の自治

**矢野智司 教授**  
教育人間学：生成の教育人間学

**齋藤直子 准教授**  
教育人間学：アメリカの教育哲学

**桑原知子 教授**  
心理臨床学：人格心理学

**田中康裕 准教授**  
心理臨床学：ユング心理学に基づく心理療法における治癒とその境界

**藤原勝紀 教授**  
臨床実践指導学：心理臨床学・臨床イメージ法による心理体験の研究

**皆藤 章 准教授**  
臨床実践指導学：心理臨床学・心理臨床と教育の接点

**伊藤良子 教授**  
(臨床教育実践研究センター) 臨床心理実践学：心理療法及び臨床人間形成に関する研究

**角野善宏 准教授**  
(臨床教育実践研究センター) 臨床心理実践学：心理療法・精神医学

## 法学部

**法学部の研究テーマ紹介**については、**法学部の学部紹介 (50, 51 ページ)** に記載されています。

## 経済学部

### 経済学科

**依田高典 教授**  
「ネットワーク・エコノミクス」情報通信・電力・ガスのようなネットワーク産業の理論・実証研究。特にBBサービスの需要分析、規制機関分割の契約理論的分析、産業融合における経済政策分析など

**今久保幸生 教授**  
ドイツ経済政策史、ドイツ生産システムの発展、日本のFTA 戦略と東アジア経済

**岩本武和 教授**  
国際貿易・国際金融に関する理論的、歴史的研究

**植田和弘 教授**  
財政と公共政策に関する基礎理論、持続可能な社会の経済と財政、環境制御の財政理論、循環型社会の理論と政策

**宇仁宏幸 教授**  
経済制度の補完性とマクロ経済の安定性に関する理論的、実証的研究

**大西 広 教授**  
「レーニン型」の国際資本リンクモデルの構築から、「マルクス＝新古典派型」の2部間成長モデルの開発へとテーマを移動中である。後者は「技術に依存した経済システムの転換」過程のモデル化でもあり、その観点から中国経済の転換過程分析も実証的分野で行っている。

**岡田知弘 教授**  
日本における地域開発、産業構造の再編と地域経済の変動、経済のグローバル化と地域、都市形成史、農村経済論、アグリビジネス論

**小島孝孝 教授**  
ケインズ経済学形成史を同時代の経済理論との関連で研究。ホートリーを再評価し、ホートリー・コネクションを主張

**塩地 洋 教授**  
自動車産業に関して、その史的形成過程及び現在の構造的特質、国際比較等を生産、開発、流通等の全分野において解明している。

**下谷政弘 教授**  
日本経済における企業グループ、系列、コーポレート・ガバナンス、持株会社を用いた企業統合と産業再編の現況

**田中秀夫 教授**  
17～18世紀の英国（スコットランドを含む）の社会思想の諸側面を原資料の分析を通して解明すること

**成生彦彦 教授**  
ミクロ経済学の応用という観点から、企業組織、企業間関係、マーケティング、流通について研究しています。

**西村周三 教授**  
医療および福祉の経済学、経済心理学、サービス経済論、保険と年金の経済学

**根井雅弘 教授**

マーシャル以後の現代イギリス経済学

**久本憲夫 教授**

一國の労使関係・人材育成・処遇制度などが固有にもつ論理の相違点と共通点を国際比較を通じて解明すること

**文 世一 教授**

都市の空間構造に関する理論的、実証的分析、交通政策の分析

**堀 和生 教授**

日本、中国、朝鮮の近代経済史を比較検討し、東アジアの発展理論を構築することをめざしている

**森棟公夫 教授**

計量経済学の研究を行っている。計量経済学とは、経済分析に必要とされる統計学的な解析方法である。研究としては、特に金融データの時系列分析に携わっている。

**八木紀一郎 教授**

マルクス経済学、オーストリア学派、歴史学派などの学史的な研究をふまえて、制度の成立・変化を解明する理論を探究している

**山本裕美 教授**

開発経済学の立場から現代中国経済の市場化過程を中華民国期の市場経済化との比較の視点から研究している。

**吉田和男 教授**

日本経済・財政の数理分析

**岩城秀樹 准教授**

数理工学的アプローチによる将来の不確実な資産価値及びキャッシュ・フロー（現金流列）の価値評価とその制御

**宇高淳郎 准教授**

応用ミクロ経済学、特にマーケティング戦略の経済分析

**菊谷達弥 准教授**

広い意味での企業組織の経済学的研究。企業分社化行動の国際比較。自動車産業における部品調達・製品販売における企業間関係の分析など。

**宮崎 卓 准教授**

中国経済。経済協力論。

**黒澤隆文 准教授**

近現代ヨーロッパ経済史・経済政策史、工業経済論

**坂出 健 准教授**

20世紀に登場した主要産業の一つである航空機産業における国際的な競争、協調関係の特質の検討を通じて、欧米各国の産業構造の史的展開とその国際的連関を研究している。

**島本哲朗 准教授**

■マスメディアの経済政策 ■金融政策の有効性

**竹澤祐丈 准教授**

近代社会形成期の英国（イングランドとスコットランド）での議論、特に、共和主義思想を、同時代のヨーロッパの動向と関連付けながら、思想的に研究しております。

**曳野 孝 准教授**

経済環境と社会組織が異なる条件のもとで、現在の世界経済の重要な要素である巨大企業がどのように生成し発展を遂げたかを、国際比較によって明らかにすること。

**久野秀二 准教授**

グローバル化下の農業・食料システムの変動と農業政策の展開について。農業バイオテクノロジーの国際規制枠組みをめぐる政治経済的力学について。

**松井啓之 准教授**

■行政の情報化 ■計画支援情報システムの開発 ■マルチエージェントシミュレーション

**諸富 徹 准教授**

環境税、排出権取引制度をはじめとする、環境政策における経済的手段の研究。租税構造の歴史の変動と租税思想史の研究。地域の接続可能な発展とそれを支える財政システムの研究。

**遊喜一洋 准教授**

マクロ経済学、特に経済発展のメカニズムや所得・資産分布の決定要因についての分析

**渡辺純子 准教授**

産業構造の変化に対する企業・政策の対応（日本の繊維産業に関する歴史的研究）

**飯山将晃 講師**

情報処理論。メディア工学。

**稲葉久子 講師**

異なる文化的背景を持つ個人や組織が接触する際に、何を学習し、どのように多文化共存の途に活用できるか、探求すること。

**ジャン・クロード マスワナ 講師**

グローバル化下のビジネスにおける変化、金融システム開発、アジア・アフリカ比較経済開発、非新古典派金融理論

**ティミター・ヤルナゾフ 講師**

■ロシア・東欧における資本市場とコーポレート・ガバナンス ■ブルガリアにおける市場経済移行 ■EU 経済統合とEUの東方拡大

**経営学科****末松千尋 教授**

事業創成、ITビジネス論、IT戦略論

**田尾雅夫 教授**

組織のなかの人間の行動に関する実証的研究

**徳賀芳弘 教授**

会計の国際的調和化現象の分析、ベンチャー企業のIPO前後の会計行動の考察

**西牟田祐二 教授**

経営史、国際経営史、投資銀行史

**日置弘一郎 教授**

比較経営特に組織デザイン論、キャリア形成、権力継承など

**藤井秀樹 教授**

会計の比較制度分析、国際会計論 公会計、非営利組織 (NPO) 会計

**若林靖永 教授**

マーケティング・流通・商業。顧客満足志向マーケティング（組織）、リレーションシップ・マーケティング、非営利・協同組織のマーケティング。

**澤邊紀生 准教授**

会計学、管理会計学、会計制度形成過程の研究

**福山泰生 准教授**

国際的な製品開発組織・戦略、競争優位と国際的な立地戦略、技術と知識のマネジメント。

**若林直樹 准教授**

企業組織でのネットワーク行動に関する実証研究

**理学部****数理科学系****池田 保 教授**

数論

**磯 祐介 教授**

微分方程式論の数値解析、逆問題解析、応用解析学

**上 正明 教授**

低次元トポロジー

**上田哲生 教授**

多変数複素関数論および複素力学系

**上野健爾 教授**

理論物理学への応用を見込んだ複素多様体。数論的多様体の研究

**加藤和也 教授**

整数論、とくに類体論や岩澤理論の代数多様体への拡張

**加藤信一 教授**

代数群の表現論

**木上 淳 教授**

解析学

**熊谷 隆 教授**

確率論

**河野 明 教授**

位相幾何学 リー群やそれに関連する空間をトポロジーの手法、とくにホモトピー論的手法を用いて研究

**國府寛司 教授**

非線形問題 ■カオスの力学系とその分岐 ■力学系理論の非線形微分方程式への応用

**齋藤 裕 教授**

代数群の保型表現・許容表現の研究

**重川一郎 教授**

確率論 無限次元空間上の解析を確率論の立場から研究

**穴倉光広 教授**

力学系理論 ■複素力学系の不変集合や分岐集合 ■実力学系の分岐現象

**堤 誉志雄 教授**

非線形偏微分方程式論 特に非線形分散型及び波動方程式

**中島 啓 教授**

表現論・幾何学 幾何学を用いた量子展開の表現論の研究

**西和田公正 教授**

偏微分方程式の解の構造

**深谷賢治 教授**

幾何学 図形を研究する。現在は位相的場の理論を通じて無限次元幾何学を目指す

**松木敏彦 教授**

リー群論

**三輪哲二 教授**

代数解析学

**森脇 淳 教授**

代数幾何学、特にモディライ空間と数論的多様体の研究

**吉田敏之 教授**

数論 保型形式から得られるL関数について、その特殊値と零点の研究

**浅岡正幸 准教授**

力学系理論 特に低次元力学系の位相的性質の研究

**泉 正己 准教授**

作用素環

**梅田 亨 准教授**

関数解析 量子群対称性に基づく不変式論及び双対性の研究

**大鍛隆昌 准教授**

微分方程式論

**加藤 毅 准教授**

空間の局所的な微分構造から大域的構造を調べる微分位相幾何学

**加藤元文 准教授**

代数幾何学、特に非アルキメデス的解析学やその代数幾何学への応用

**塩田隆比呂 准教授**

微分方程式論

**高村 茂 准教授**

複素曲線の退化の変形の構成や変形に関して最も安定な退化の分類研究

**中西賢次 准教授**

偏微分方程式論

**西村 進 准教授**

計算機科学 特にプログラミング言語の理論、プログラム変換

**西山 享 准教授**

リー群の表現論

**畑 政義 准教授**

超越数論

**日野正訓 准教授**

確率論

**藤井道彦 准教授**

微分位相幾何学 特に双曲多様体の変形の研究

**望月拓郎 准教授**

代数多様体のトポロジー

**山崎愛一 准教授**

多元環の整数論

**吉田伸生 准教授**

確率論 統計物理学の対象となる諸現象を確率論の立場から研究。特に相転移（例えば液体の気化や凝固）の確率的な仕組みについて

**稲場道明 講師**

代数幾何学におけるモジュライ理論

**岸本大祐 講師**

代数的位相幾何学

**久保雅義 講師**

応用解析、数値解析

**平賀 郁 講師**

数論特に保型表現

**若野 功 講師**

応用解析、数値解析：破壊現象の数学解析と数値解析

**物理科学系****前野悦輝 教授**

固体物理学 ■スピン三重項超伝導体などの新しい超伝導体や磁性体の物質開発 ■熱測定などによる低温での量子凝縮状態の研究 ■低温での測定技術の開発

**石田憲二 教授**

固体物理学 新奇な超伝導体や磁性体の研究。主に原子核レベルのミクロな測定（核磁気共鳴 (NMR) 実験を用いた研究)

**松田祐司 教授**

固体物理学 新奇超伝導状態の研究 強く関連し合った電子系の示す新しい量子状態の電子輸送現象を中心に研究

**芝内孝慎 准教授**

固体物性・低温物理学 超伝導を中心とした極低温・強磁場下における物質中の量子現象に関する実験的研究

**高橋義朗 教授**

量子光学 中性原子のレーザー冷却及びその精密測定の基礎物理への応用

**田中耕一郎 教授**

光物性 ■超高速レーザー分光法をもちいた非熱平衡系のダイナミクスの研究 ■光誘起構造変化の素過程の解明 ■新しいテラヘルツ分光法の開発およびソフトマテリアルへの応用

**八尾 誠 教授**
不規則系物理学
液体、アモルファス、マイクロクラスター等の構造、量子物性、ダイナミクスに関する実験的研究

**吉川研一 教授**

時空間秩序・生命物理
生命現象などの非平衡開放系に潜む基本原理を、発見・解明することをめざす。

**瀬戸寿紀 准教授**

時空間秩序・生命物理
両親媒性膜等の柔らかい物質（ソフトマター）系の秩序形成要因を、実験により明らかにする。

**山本 潤 教授**

ソフトマター物理学
液晶・高分子・ゲル・マイクロエマルジョン・生命体の階層構造とダイナミクス

**松原 明 准教授**

低温物理学
量子凝縮系の実験的研究
超流動液体を用いた量子流体力学
超流動ヘリウム3

**佐々木 豊 准教授**

低温物理学
量子固体液体の超流動現象、磁性、輸送現象、相転移のダイナミクスなどの実験研究、NMR、MRI、超音波測定、高精度圧力測定などの極低温下での計測技術の開発

**前川 孝 教授**

プラズマ物理学
  ■プラズマ波動物理
  ■トーラスプラズマの波動加熱・電流駆動及び平衡と安定性

**田中 仁 准教授**

プラズマ物理学
特に、電子サイクロトロン波・電子バースタイン波を用いた球状トカマクの生成、純電子プラズマの閉じ込めと波動特性の研究

**川上則雄 教授**

凝縮系理論
強相関電子系、低次元量子多体系、ナノ量子系などの理論研究

**池田隆介 准教授**

低温物理学・固体物理学
磁場下の超伝導の基礎理論、量子統計物理一般

**太田隆夫 教授**

非線形動力学
非平衡ソフトマターを主たる研究対象としてミクロ非平衡系の基本原理・法則の解明

**篠本 滋 准教授**

非線形動力学、統計物理学、脳の情報処理の理論的研究

**藤 定義 准教授**

流体物理学
  ■乱流ダイナミクスにおける微細構造の役割及び巨視的秩序構造形成メカニズムの研究
  ■乱流混合、拡散の理論

**小貫 明 教授**

統計物理学
  ■相転移ダイナミクス
  ■非平衡現象の統計物理学

**武末真二 准教授**

統計物理学・非線形動力学
格子熱伝導系や粒子流の格子模型を用いた非平衡統計力学の理論的研究

**今井憲一 教授**

原子核物理学
加速器を用いたハドロンと原子核の研究

**川合 光 教授**

物理に限らずサイエンス一般に興味を持っているが、通常は素粒子論を中心とし、場の理論、量子重力、超弦理論に関する研究をしている。特に超弦理論は非常におもしろい段階にさしかかっており、力をいれている。

**畑 浩之 教授**

素粒子基礎論
  ■ゲージ場・重力場理論のダイナミクス
  ■弦理論の基本原則とダイナミクスの解明

**福岡将文 准教授**

素粒子基礎論
  ■場の量子論のダイナミクス
  ■弦理論、量子重力理論の基本原則の解明と理論の定式化

**小林達夫 准教授**

素粒子論。弦理論から素粒子の様々な現象論的性質がどのように導かれるのかを研究している。

**植松恒夫 教授**

素粒子論。特に、量子色力学と深非弾性過程、核子や光子の構造関数、超弦理論など相互作用の統一理論における超対称性とその自発的破れおよび有効作用理論の研究。

**青山秀明 教授**

理論物理学・素粒子論。新しい超対称性の研究の一方で、経済物理学、言語物理学などでも、理論物理学の見方を生かした研究を行っている。

**笹尾 登 教授**

高エネルギー物理学
素粒子の基本構造と相互作用の実験的研究及びビーム物理学の研究。現在は荷電バリティ対称性とその破れの起源に関する研究及び高輝度ミュオン源や高輝度X線源の開発を行っている。

**中家 剛 准教授**

素粒子実験物理学を専門としており、現在はニュートリノ物理学を主に研究を遂行している。テーマとしては、ニュートリノ振動現象の解明、ニュートリノ質量二乗差の精密測定、ニュートリノ・核子相互作用の研究を行っている。

**小山勝二 教授**

宇宙空間からのX線観測
  ■宇宙超高温プラズマ
  ■中性子星・ブラックホール
  ■超高エネルギー粒子

**谷森 達 教授**

高エネルギー宇宙物理学、特にガンマ線天文学及び素粒子論的宇宙観測。それに必要なガンマ線、粒子線、イメージング技術開発。

**鶴 剛 准教授**

高エネルギー宇宙物理学
特に天文衛星など飛翔体を用いた宇宙X線、ガンマ線の観測的研究と、それに必要な観測機器の開発。

**松柳研一 准教授**

核構造物理学（理論）
  ■高速回転する原子核、巨大変形した原子核、中性子スキンをもった不安定核における集団現象に対する視視的モデル
  ■有限量子系における大振幅集団運動の理論

**菅沼秀夫 准教授**

クォーク・ハドロン物理学
  ■量子色力学に基づくクォークの閉じ込めとハドロンの研究

**藤原義和 講師**

原子核物理学（理論）
  ■クォーク模型によるバリオン間相互作用
  ■軽い原子核のクラスター構造、小数多体問題

**中村卓史 教授**

相対論的天体物理学：ブラックホール、動波、中性子星、ガンマ線バースト、ダークマター、ダークエネルギー等の形成、起源の研究

**犬塚修一郎 准教授**

宇宙物理学
  輻射流体力学、磁気流体力学による星・惑星系形成過程の理論的研究など

**田中貴浩 准教授**

初期宇宙論（プレーンワールド、インフレーション、初期密度ゆらぎ）、および、一般相対論（重力波、輻射反作用問題）。

**早田次郎 准教授**

弦理論的宇宙論、およびブラックホール物理学。超弦理論などの量子重力理論に基づいた宇宙初期やブラックホールの理論的研究。

**稲垣省五 教授**

重力多体問題

**岩室史英 准教授**

銀河天文学、高赤方偏移天体、観測装置開発

**太田耕司 准教授**

銀河の形成と進化、QSO/AGNの探査の研究

**戸谷友則 准教授**

宇宙物理学、宇宙論、高エネルギー天体物理学

**長田哲也 教授**

赤外線天文学、銀河中心領域、星間物質、観測装置開発

**北井礼三郎 准教授**

■太陽の対流現象の観測的研究
  ■太陽大気加熱機構の観測的研究

**柴田一成 教授**

太陽・宇宙プラズマ物理学、天体電磁流体力学

**上田佳宏 准教授**

X線天文学、ブラックホール、活動銀河核の進化

## 地球惑星科学系

**福田洋一 教授**

測地学
  ■ジオイドの精密決定
  ■人工衛星アルティメトリー
  ■重力異常と地下構造

**淡路敏之 教授**

海洋物理学
  海洋循環・変動のシミュレーションと輸送力学

**秋友和典 准教授**

海洋物理学
  高緯度海域における“深い対流”と黒潮変動の力学

**余田成男 教授**

気象学
  ■大気大循環の数値実験および理論
  ■非線形力学
  ■カオス理論

**石岡圭一 准教授**

地球流体力学
  地球流体運動に関する数値実験的・理論的研究

**堤 浩之 准教授**

変動地形学及び活構造学
  ■活断層の地震危険度評価に関する研究
  ■東アジアのアクティブテクトニクスに関する研究

**町田 忍 教授**

地球電磁気学及び太陽地球系物理学
  ■地球・惑星磁気圏物理学
  ■磁気圏における粒子加速
  ■プラズマ粒子計測器開発

**中西一郎 教授**

地震学及び地球内部物理学
  ■地球内部構造
  ■地震活動

**平原和朗 教授**

地震学及び地球内部物理学
  ■地震発生シミュレーション
  ■地球内部の構造と運動のモデリング

**久家慶子 准教授**

地震学及び地球内部物理学
  ■地震の破壊過程の推定とその物理に関する研究
  ■地球内部におけるダイナミクスに関する研究

**里村雄彦 教授**

物理気候学
数値モデルを用いた、グローバル及びローカル気候の形成と変動の素過程の研究

**家森俊彦 教授**

■太陽地球系物理学および地球電磁気学
  ■磁気圏および電離層における電磁氣的現象の研究
  ■地磁気の観測とデータ処理に関する研究

**竹村恵二 教授**

地熱テクトニクス、第四紀地質学

**大沢信二 准教授**

水の地球科学，地球熱学

**鍵山恒臣 教授**

火山物理学，火山電磁気学，火山の熱放出，電磁氣的構造探査

**大倉敬宏 准教授**

地震学，火山物理学，測地学，スラブ内部地震，構造

**古川善紹 准教授**

地球惑星科学
  惑星の構造形成，進化，沈み込み帯のダイナミクス

**ヘルミー ハッサン 准教授**

地殻・マグマ形成の過程の岩石学的研究

**小畑正明 教授**

上部マントル、地殻下部の岩石学、マグマの成因
  岩石組織と構造の形成過程の研究

**北村雅夫 教授**

天然の鉱物の形成過程に関する研究、および原始太陽系で形成した隕石の成因に関する研究

**田上高広 教授**

放射性核種の壊変を利用した年代測定による地球変動、特に造山運動と火山活動の研究。

**平島崇男 教授**

世界各地の変動帯に分布する地殻深部物質を岩石学的手法で解析し造山帯の発達過程を研究する

**前田晴良 准教授**

層序学および古生物学、白亜紀アンモナイトの分類、進化、古生態

**山路 敦 准教授**

地質学的手法を用いた地球及び他の惑星・衛星のテクトニクスの研究

**下林典正 准教授**

天然の鉱物に見られる微細組織や集合様式を解析することによって、その形成過程を解明しようとしている。

**三宅 亮 准教授**

天然の鉱物の微細組織に関する研究

## 化学系

**齋藤軍治 教授**

機能性（超伝導性、磁性、等）を持つ分子性結晶、及び、関連物質の開拓と物性研究（ITF誘導体、フラーレン（誘導体）、水素結合能を持つ化合物等）

**三木邦夫 教授**

タンパク質結晶学による生体高分子の構造生物学の研究（タンパク質の構造と機能の解明）

**竹田一旗 講師**

物質輸送を担うタンパク質の構造と作動原理の研究

**谷村吉隆 教授**

凝縮系の化学物理理論、統計力学理論、分光理論の研究

**安藤耕司 准教授**

化学反応量子論、分子多体系における量子移動過程の理論的研究

**加藤重樹 教授**

分子の電子状態と化学反応のダイナミクスの理論的研究

**林 重彦 准教授**

生体機能の分子機構に関する理論的研究

**松本吉泰 教授**

固体表面での光誘起過程と反応ダイナミクスの研究

**寺嶋正秀 教授**

新規レーザー分光の開発と蛋白質反応に関するエネルギーと構造ダイナミクスの研究

**熊崎茂一 准教授**

光合成光化学、レーザー顕微分光學、時間分解レーザー分光学、細胞分光学

**竹腰清乃理 教授**

固体 NMR 法の開発と応用研究

**馬場正昭 准教授**

レーザー分子分光学
  励起分子の構造とダイナミクス

**有賀哲也 教授**

固体表面を利用した低次元物質の作成と新奇物性の探索

**奥山 弘 准教授**

固体表面における分子の吸着および反応の基礎的研究

**吉村一良 教授**

■遷移金属化合物の磁気的・電気的性質の研究 ■核磁気共鳴を用いたミクロな固体物性研究

**陰山 洋 准教授**

新奇物性（磁性）を示す無機化合物の開拓。新合成ルート（低温合成法）の開発。単結晶育成。

**花田禎一 教授**

機能性無機非晶質物質の合成と物性研究

**中西和樹 准教授**

無機系及び有機無機ハイブリッド系多孔材料の液相合成と構造制御

**林 民生 教授**

遷移金属錯体を用いた高選択的な新規有機合成反応の開発

**白川英二 准教授**

遷移金属触媒を用いる新規付加反応および新規高機能反応場の開発

**西村貴洋 講師**

遷移金属を触媒とする新規炭素 炭素結合開裂および炭素 炭素結合形成反応の開発

**丸岡啓二 教授**

ルイス酸型人工酵素の創製と精密有機合成；環境調和型キラル相間移動触媒のデザインと実用的アミノ酸合成

**加納太一 講師**

有機分子触媒を用いた不斉合成反応の開発

**大須賀篤弘 教授**

新規な構造と機能を持つポルフィリン系化合物の開拓

**忍久保 洋 准教授**

■水中での有機合成反応の開発 ■ポルフィリン系化合物の新規合成法の開拓

**杉山 弘 教授**

核酸を中心としたケミカルバイオロジー、遺伝子発現制御化学

**板東俊和 准教授**

有機合成化学を基盤としたケミカルバイオロジー

**井上 丹 教授**

バイオナノサイエンスとテクノロジー：RNP(RNA—タンパク質複合体)の分子デザインと構築

**白石英秋 准教授**

■機能性 RNA の研究 ■植物と藻類の分子生物学

## 生物科学系

**疋田 努 准教授**

爬虫類の系統分類学と生物地理学

**今福道夫 教授**

■昆虫および甲殻類の行動に関する研究 ■動物の左右性に関する研究

**曾田貞滋 准教授**

■昆虫の種分化と複数種の共存機構 ■昆虫の生活史進化

**山極壽一 教授**

■ゴリラ・チンパンジー・ニホンザルの社会生態学 ■人間の社会性の起源

**佐藤矩行 教授**

■動物の進化発生生物学 ■動物の発生ゲノム科学

**森 哲 准教授**

爬虫類の行動および生態に関する研究

**堀 道雄 教授**

■アフリカのタンガニイカ湖の魚類群集の研究 ■甲虫の個体群および生物地理学についての研究 ■水生動物の左右性についての研究

**中務真人 准教授**

■類人猿の進化と人類の起源に関する古人類学 ■霊長類の運動分析と運動器官の形態学

**久保田洋 准教授**

アフリカツメガエルの原腸陥入運動の分子機構の研究・初期発生における細胞内 Ca の役割

**張 秋梅 准教授**

■酸化的 DNA 損傷の生成とその修復機構 ■酸化ストレスと癌化、老化の関係 ■放射線、活性酸素に対する細胞応答

**片山一道 教授**

■古人骨から人物像を復元する研究 ■ポリネシア人の起源と成立を探る人類学的研究

**渡辺勝敏 准教授**

■淡水魚類の保全生態学・遺伝学 ■淡水魚類の系統地理学

**佐藤ゆたか 准教授**

尾索動物ホヤを対象とした分子発生生物学

**中川尚史 准教授**

霊長類の採食生態、および社会生態学的研究

**稲葉カヨ 教授**

異物認識機構と自然免疫ならびに適応免疫応答の制御に関する研究

**高原和彦 講師**

免疫システムにおける外来微生物の認識と生体の応答

**長谷あきら 教授**

植物の光応答に関する、分子遺伝学的、生化学的、生理学的及び細胞学的研究

**井上 敬 講師**

細胞生物学 細胞性粘菌における細胞分化と細胞運動・形態形成機構の研究

**戸部 博 教授**

高等植物の形態学と系統分類学

**西村いくこ 教授**

高等植物の細胞と細胞内小器官の分化に関する分子生物学的・細胞生物学的研究

**藤吉好則 教授**

膜蛋白質を中心とする細胞のシグナル伝達機構についての構造生物学的研究。

**西田栄介 教授**

細胞増殖・分化、発生及び高次生命機能を制御するシグナル伝達に関する分子生物学

**平野丈夫 教授**

脳神経系がはたらくメカニズムについての分子・細胞レベルの研究。

**七田芳則 教授**

生体における情報変換機構の分子レベルでの研究

**石川冬木 教授**

遺伝子の振る舞いが、どのように老化やがん化を引き起こすかを明らかにする。

**森 和俊 教授**

小胞体の恒常性を維持する応答機構の解析

**上村 匡 教授**

高次生命現象を支える、細胞のデザイン、構築、そしてリモデリングに関する研究

**阿形清和 教授**

幹細胞をキーワードにした再生と進化に関する研究

**千坂 修 准教授**

動物の分子発生生物学

**中世古幸信 准教授**

細胞周期を制御する因子の分子生物学的解析

**吉田秀郎 准教授**

高等動物における遺伝子発現制御機構の分子レベルでの研究

**土井知子 准教授**

シグナル伝達における膜蛋白質が担う調節機構の構造生物学的研究

**船山典子 准教授**

カワカイメンを用いた、進化的に最も古い生物での幹細胞分化制御機構、細胞間相互作用

**今元 泰 准教授**

センサー蛋白質の応答に関する物理化学的・構造生物学的研究

**高田彰二 准教授**

生体分子システムの構造・機能についての、理論およびシミュレーション研究

**佐藤 智 講師**

細胞膜を構成する脂質分子の機能研究・分子集合 科学による生命現象の解析

## 医学部

### 医学科

**渡邊 大 教授**

生体情報科学

**塩田浩平 教授**

形態形成機構学

**野間昭典 教授**

細胞機能制御学

**武藤 誠 教授**

遺伝薬理学

**銅島陽一 教授**

腫瘍生物学

**松田道行 教授**

病態生物医学

**光山正雄 教授**

微生物感染症学

**湊 長博 教授**

免疫細胞生物学

**玉木敬二 教授**

法医学

**長田重一 教授**

分子生物学

**岩田 想 教授**

分子細胞情報学

**野田 亮 教授**

分子腫瘍学

**篠原隆司 教授**

分子遺伝学

**武田俊一 教授**

放射線遺伝学

**金子武嗣 教授**

高次脳形態学

**河野憲二 教授**

認知行動脳科学

**大森治紀 教授**

神経生物学

**成宮 周 教授**

神経・細胞薬理学

**芹川忠夫 教授**

実験動物学

**松田文彦 教授**

疾患ゲノム疫学解析

**平出 敦 教授**

医学教育、救急医学、蘇生学

**福山秀直 教授**

脳機能イメージング

**内山 卓 教授**

血液・腫瘍内科学

**中尾一和 教授**

内分泌・代謝内科学

**北 徹 教授**

循環器内科学

**千葉 勉 教授**

消化器内科学

**三嶋理晃 教授**

呼吸器内科学

**三森経世 教授**

臨床免疫学

**稲垣暢也 教授**

糖尿病・栄養内科学

**小池 薫 教授**

初期診療、救急医学

**宮地大樹 教授**

皮膚科学

**中畑龍俊 教授**

発達小児科学

**平岡真寛 教授**

放射線腫瘍学・画像応用治療学

**富樫かおり 教授**

画像診断学・核医学

**一山 智 教授**

臨床病態検査学

**坂井義治 教授**

消化管外科学

**上本伸二 教授**

肝胆脾・移植外科学

**戸井雅和 教授**

乳腺外科学

**福田和彦 教授**

麻酔科学

**小川 修 教授**

泌尿器科学

**米田正始 教授**

心臓血管外科学

**鈴木茂彦 教授**

形成外科学

**吉村長久 教授**

眼科学

**伊藤壽一 教授**

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学

**中村孝志 教授**

整形外科

**別所和久 教授**

口腔外科学

**藤田 潤 教授**

分子病診療学

**高橋良輔 教授**

臨床神経学

橋本信夫 教授
脳神経外科学
林 拓二 教授
精神医学
佐藤俊哉 教授
医療統計学
福原俊一 教授
医療疫学
川上浩司 教授
薬剤疫学
今中雄一 教授
医療経済学
小杉眞司 教授
医療倫理学
中山健夫 教授
健康情報学
小泉昭夫 教授
環境衛生学
木原正博 教授
社会疫学
中原俊隆 教授
健康政策・国際保健学
前川 平 教授
輸血医学、血液学
真鍋俊明 教授
診断病理学（一般）、皮膚病理学、肺病理学
清水 章 教授
分子生物学、遺伝子医学
福島雅典 教授
臨床試験管理学、薬剤疫学
横出正之 教授
先端医療構築学、高齢医学
乾 賢一 教授
医療薬剤学、薬物動態学
吉原博幸 教授
病院情報システム学、医療情報交換規格
中嶋善明 准教授
生体情報科学
石橋 誠 准教授
形態形成機構学
出沢真理 准教授
機能微細形態学
光家 保 准教授
細胞機能制御学
高橋 玲 准教授
腫瘍生物学
豊國伸哉 准教授
病態生物医学
河村伊久雄 准教授
微生物感染症学
服部雅一 准教授
免疫細胞生物学
福永理己郎 准教授
分子生物学
北山仁志 准教授
分子腫瘍学
園田英一朗 准教授
放射線遺伝学
藤山文乃 准教授
高次脳形態学

石井孝広 准教授
神経生物学
渡邊直樹 准教授
神経・細胞薬理学
庫本高志 准教授
実験動物学
角谷 寛 准教授
疾患ゲノム疫学
須山 幹太 准教授
ゲノム情報科学
長峯 隆 准教授
臨床脳生理学
山内 浩 准教授
脳機能イメージング
向山政志 准教授
内分泌・代謝内科学
松森 昭 准教授
循環器内科学
木村 剛 准教授
循環器内科学
陳 和夫 准教授
呼吸器内科、呼吸管理、睡眠呼吸障害
宇谷厚志 准教授
皮膚科学
平家俊男 准教授
発達小児科学
永田 靖 准教授
放射線腫瘍学・画像応用治療学
三木幸雄 准教授
画像診断学・核医学
飯沼由嗣 准教授
臨床病態検査学
渡辺 剛 准教授
消化管外科学
猪飼伊和夫 准教授
肝胆膵・移植外科学
高倉賢二 准教授
婦人科学・産科学
賀本敏行 准教授
泌尿器科腫瘍学、前立腺癌、分子遺伝学
池田 義 准教授
心臓血管外科学、先天性心疾患の外科治療
平田敏樹 准教授
呼吸器外科学
野瀬謙介 准教授
形成外科学
喜多美德里 准教授
眼科学
田中信三 准教授
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
川那辺圭一 准教授
整形外科科学
藤村和磨 准教授
口腔外科学
伊藤克彦 准教授
分子病診療学
池田昭夫 准教授
臨床神経学
野崎和彦 准教授
脳神経外科学

村井俊哉 准教授
精神医学
大森 崇 准教授
医療統計学
山崎 新 准教授
医療疫学
松井茂之 准教授
薬剤疫学、生物統計学
石崎達郎 准教授
医療経済学
沼部博直 准教授
医療倫理学
木原雅子 准教授
社会疫学
里村一成 准教授
健康政策・国際保健学
荒井俊之 准教授
虚血再灌流傷害の研究
柴田登志也 准教授
画像診断学
柿木良介 准教授
末梢神経損傷・上肢損傷に対する手術とリハビリ
西尾彰功 准教授
消化器病学、消化管内視鏡学
江川裕人 准教授
肝移植
白神豪太郎 准教授
麻酔科学
高田泰次 准教授
肝移植
井戸章雄 准教授
肝臓病学、消化器内科学
南 幸太郎 准教授
分子糖尿病学、再生医学
中村 肇 准教授
感染・炎症・ストレスと生体防御レドックス生物学
王 英正 准教授
重症心不全への心筋幹細胞移植療法 の確立
手良向 聡 准教授
臨床統計学
桂 敏也 准教授
医療薬剤学、生物薬剤学
長瀬啓介 准教授
医療管理及び同領域での情報システム応用
岸本寛史 准教授
地域医療学・緩和医療学・心身医学
青木正博 講師
遺伝薬理学
鶴山竜昭 講師
法医学
小川 正 講師
認知行動脳科学
森本 剛 講師
医学教育学、総合内科学、医療安全学、臨床疫学
木下 専 講師
分子細胞生物学
石川隆之 講師
血液・腫瘍内科学

堀 利行 講師
血液・腫瘍内科学
門脇則光 講師
血液・腫瘍内科学
細田公則 講師
内分泌・代謝内科学
荒井宏司 講師
内分泌・代謝内科学
久米典昭 講師
循環器内科学
堀内久徳 講師
循環器内科学
塩井哲雄 講師
循環器内科学
八隅秀二郎 講師
消化器内科学
藤井隆夫 講師
臨床免疫学
若月芳雄 講師
加齢医学
荒井秀典 講師
加齢医学
藤本新平 講師
糖尿病・栄養内科学
高橋健造 講師
皮膚科分子生物学、細胞生物学
是枝 哲 講師
皮膚科学
依藤 亨 講師
内分泌代謝
足立壯一 講師
発達小児科学
光森通英 講師
放射線腫瘍学・画像応用治療学
溝脇尚志 講師
放射線腫瘍学・画像応用治療学
佐藤誠二 講師
消化管外科学
久保 肇 講師
消化管外科学
土井隆一郎 講師
肝胆膵・移植外科学
岡本晋弥 講師
肝胆膵・移植外科学
上田幹子 講師
肝胆膵・移植外科学
廣田喜一 講師
麻酔科学
藤原 浩 講師
婦人科学・産科学
万代昌紀 講師
婦人科学・産科学
西山博之 講師
泌尿器科学
中村英二郎 講師
泌尿器科学
仁科 健 講師
心臓血管外科学
大久保憲一 講師
呼吸器外科学

## 医学部保健学科

<b>片岡和哉 講師</b> 形成外科学
<b>板谷正紀 講師</b> 眼科学
<b>宮本和明 講師</b> 眼科学
<b>平野 滋 講師</b> 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
<b>三浦 誠 講師</b> 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
<b>根尾昌志 講師</b> 整形外科学
<b>中川泰彰 講師</b> 整形外科学
<b>西田光男 講師</b> 口腔外科学
<b>富本秀和 講師</b> 臨床神経学
<b>高橋 潤 講師</b> 脳神経外科学
<b>三國信啓 講師</b> 脳神経外科学
<b>須賀英道 講師</b> 精神医学
<b>岸本卓三 講師</b> 精神医学
<b>宮木幸一 講師</b> 健康情報学
<b>細川雅也 講師</b> 糖尿病学、臨床栄養学
<b>深津敦司 講師</b> 腎臓内科
<b>伊藤順子 講師</b> 臨床神経生理学
<b>岡野嘉明 講師</b> 循環・呼吸病態生理学、肺高血圧症の臨床、心・血管超音波診断、臨床心電図学
<b>樋口壽宏 講師</b> 婦人科腫瘍学
<b>中嶋安彬 講師</b> 診断病理学、骨腫瘍
<b>三上芳喜 講師</b> 診断病理学、婦人科腫瘍学、泌尿器腫瘍学
<b>瀬川 一 講師</b> 集中治療医学、麻酔科学
<b>菅井 学 講師</b> 分子生物学、遺伝子医学
<b>増田智先 講師</b> 薬物の体内動態・毒性発現の分子機構解明
<b>竹村匡正 講師</b> 医療言語処理学、過去症例に基づく医学知識抽出
<b>伊藤俊之 講師</b> 消化器内科学、医学教育学

## 医学部保健学科

<b>齋藤ゆみ 教授</b> 臨床看護学（感染・生体防御看護学）
<b>菅 佐和子 教授</b> 臨床心理学

<b>宮島朝子 教授</b> 「人間－環境系」の視点からみた療養者の生活環境と生活リズムの関係性
---

<b>桂 敏樹 教授</b> 地域看護学（老人保健・成人保健）
------------------------------------

<b>江川隆子 教授</b> 成人看護学（糖尿病患者のフットケア・腎不全患者のセルフケア・リンパドレナージの効果）
--

<b>櫻庭 繁 教授</b> 精神看護学、リエゾン精神看護学、自殺、失感情症、病跡学、精神障害者援助論、精神保健福祉活動
---

<b>我部山キヨ子 教授</b> 助産学・母性看護学・女性生涯看護学
---------------------------------------

<b>林 優子 教授</b> 臓器移植医療および看護に関する研究 患者教育に関する研究
---

<b>成木弘子 教授</b> 地域看護学（地域ケアシステム構築における市民参画に関する研究）
---

<b>菅沼信彦 教授</b> 不妊症学 産婦人科内分泌学
---------------------------------

<b>木下彩栄 教授</b> 認知症の病態に関する分子生物学的研究、および、認知症のケアに関する研究
---

<b>野本愼一 教授</b> 災害医学、医療安全学、心臓血管外科学
--------------------------------------

<b>鈴木真知子 教授</b> 小児在宅療養支援に関する研究、超重症児の自律に向けた育児支援に関する研究、学校看護師の専門的機能と役割に関する研究、訪問看護ステーションにおける重心児（者）の専門特化すべきサービスのあり方に関する研究
---

<b>柳吉桂子 准教授</b> 助産ケアモデルの構築、助産学教育、助産管理
--

<b>赤澤千春 准教授</b> 急性期成人看護 生体肝臓移植術を受けた成人患者の術後精神症状に関する研究、術後精神症状の発症と生体リズムとの関係に関する研究
---

<b>星野明子 准教授</b> 地域看護学 大都市の人口空洞化地域における高齢者の自立支援のためのサテライトシステムの構築
--

<b>若村智子 准教授</b> 生体リズムからみた生活環境調整に関する研究。睡眠に関する研究
---

<b>奥津文子 講師</b> 成人・老年看護学（慢性疾患患者に対する看護診断）
--

<b>渡邊浩子 講師</b> 助産学・母性看護学 妊娠期の栄養・体重管理と胎児発育に関する研究
--

<b>笹田昌孝 教授</b> 血液内科学・感染症学
------------------------------

<b>天野 殖 教授</b> 実験てんかん学、神経病理学
---------------------------------

<b>福田善弘 教授</b> 肝臓病学・臨床免疫学
------------------------------

<b>藤田正俊 教授</b> 内科学・循環器内科学
------------------------------

<b>舩渡忠男 教授</b> 臨床検査医学、腫瘍学（バイオマーカー、抗がん剤）、遺伝子工学（遺伝子検査）
---

<b>岡 昌吾 教授</b> 生化学・神経糖鎖生物学
-------------------------------

<b>杉本直三 教授</b> 医用画像情報学
---------------------------

<b>齋藤邦明 教授</b> 臨床プロテオーム／メタボローム解析、脳神経疾患と免疫およびアミノ酸代謝
---

<b>池本正生 准教授</b> 臨床生化学：急性炎症抑制蛋白に関する研究
---

<b>大塚研一 准教授</b> 偏微分方程式論
----------------------------

<b>笹山 哲 准教授</b> 医療情報処理
---------------------------

<b>野村 巖 教授</b> 神経解剖学・機能解剖学
-------------------------------

<b>坪山直生 教授</b> 整形外科学
-------------------------

<b>黒木裕士 教授</b> 超音波装置を用いた軟骨の評価に関する研究、遠心性収縮による運動療法がラット骨格筋に及ぼす影響に関する研究、空気圧を利用した歩行補助装置の研究
--

<b>市橋則明 教授</b> 骨・関節系理学療法に関する臨床的研究およびバイオメカニクスの研究
--

<b>笠原勝幸 准教授</b> 整形外科学・運動学
------------------------------

<b>バジェル、ブライアン スティーブン 准教授</b> 自律神経の反射
---

<b>玉木 彰 准教授</b> 運動と呼吸のリズムに関する研究、呼吸理学療法に関する研究
---

<b>榊間春利 准教授</b> 骨格筋の萎縮と肥大に関する研究、神経、筋の変性と再生に関する研究、実験的脳梗塞ラットを使用した脳の可塑性に関する研究
---

<b>山根 寛 教授</b> 障害構造およびトータルリハビリテーションシステム、作業活動を介したコミュニケーション、場の機能とグループダイナミクス
--

<b>三谷 章 教授</b> 健康神経科学
--------------------------

<b>十一元三 教授</b> 精神医学、認知神経科学、発達障害学、児童司法精神医学
--

<b>二木淑子 教授</b> 障害学、作業療法学に関する研究（主に身体障害、高次脳機能障害・認知機能障害のリハビリテーションに関する研究）
--

<b>加藤寿宏 准教授</b> 発達障害の作業療法（特に高機能広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害、学習障害児に対する臨床研究）
--

<b>藤井信孝 教授</b> ゲノム・プロテオーム情報収取型創薬研究
---------------------------------------

<b>富岡 清 教授</b> 機能性分子の有機合成化学と生物活性分子の生物有機化学
--

<b>竹本佳司 教授</b> ■金属錯体を用いた立体選択的合成法の開発 ■生物活性天然有機化合物の不斉合成研究
---

<b>松崎勝巳 教授</b> 生体膜における生体分子間相互作用解析と創薬への展開
---

<b>加藤博章 教授</b> 酵素、トランスポーター、チャンネル、シャペロン、レセプターなど細胞内のタンパク質装置がいかにか機能しているのか、X線結晶構造解析で決定した原子レベルの構造に基づいてその仕組みを解明すること。
---

<b>藤井信孝 教授</b> ゲノム・プロテオーム情報収取型創薬研究
---------------------------------------

<b>富岡 清 教授</b> 機能性分子の有機合成化学と生物活性分子の生物有機化学
--

<b>竹本佳司 教授</b> ■金属錯体を用いた立体選択的合成法の開発 ■生物活性天然有機化合物の不斉合成研究
---

<b>松崎勝巳 教授</b> 生体膜における生体分子間相互作用解析と創薬への展開
---

<b>加藤博章 教授</b> 酵素、トランスポーター、チャンネル、シャペロン、レセプターなど細胞内のタンパク質装置がいかにか機能しているのか、X線結晶構造解析で決定した原子レベルの構造に基づいてその仕組みを解明すること。
---

<b>辻本豪三 教授</b> ゲノム包括的解析、バイオインフォマティクスによる in silico 創薬研究とテラーメイド医療
--

<b>半田哲郎 教授</b> 脂質あるいはこれと血漿アポリホ蛋白質による分子集合体形成の生物物理化学とその薬学への応用
--

<b>竹島 浩 教授</b> 細胞内 Ca2+ シグナルと神経情報伝達の分子基盤解明
---

<b>金子周司 教授</b> 神経伝達物質受容体とイオンチャンネルに関する電気生理および分子薬理学的研究
---

<b>伊藤信行 教授</b> 遺伝子探索法による細胞間シグナル分子の探索とその生理的意義
---

<b>中山和久 教授</b> ■細胞内メンブレン・トラフィックの調節機構 ■細胞内タンパク質分解の調節機構
---

<b>橋田 充 教授</b> ■薬物の体内動態の機構解明に関する研究 ■薬物体内動態の精密制御を目的とした新しい薬物投与技術の開発
---

<b>赤池昭紀 教授</b> ■神経疾患におけるニューロン死の機序と神経保護因子の探索 ■虚血性網膜障害の予防・治療薬の研究
--

<b>佐治英郎 教授</b> ■画像診断薬、放射線治療薬の創製 ■病態解明、創薬のための分子イメージング法の開発 ■金属化合物の生体作用の解明
--

<b>高倉喜信 教授</b> ■遺伝子治療医薬品の生物薬剤学的研究 ■培養細胞を利用した薬物動態研究
--

<b>岡村 均 教授</b> 哺乳類における時計遺伝子の分子システムの解明、リズム障害の分子基盤に関する研究
---

<b>掛谷秀昭 教授</b> 次世代化学療法の開発を指向した先端的ケミカルバイオロジー研究および天然物薬学研究
--

<b>北浦和夫 教授</b> 計算化学による生体高分子の構造・機能の研究と創薬のための新規手法の開発
---

<b>大野浩章 准教授</b> 創薬テンプレートの構築を指向した新規変換反応の開発と応用に関する研究
---

<b>山田健一 准教授</b> 有機合成反応の開発と生物活性物質合成への応用
---

<b>高須清誠 准教授</b> 機能性低分子の迅速製造を可能とする分子変換法の開拓と創薬への展開
---

<b>伊藤美千穂 准教授</b> ■植物二次代謝酵素の構造－機能相関研究 ■フィールドワークを軸とする薬用植物の調査・開発研究
---

<b>星野 大 准教授</b> 高分解能 NMR による生体物質の構造機能解析
--

<b>中津 亨 准教授</b> ■光生物タンパク質の構造生物学的研究 ■ヒト赤血球アニオントランスポーターの構造生物学的研究
--

<b>平澤 明 准教授</b> ■オーファン受容体のリガンド探索と機能解析 ■DNA マイクロアレイを用いた発現プロファイル解析
--

<b>中野 実 准教授</b> ■脂質膜の静的・動的構造評価とタンパク質との相互作用評価 ■脂質ナノ粒子の創製と薬学的応用
---

<span>山崎哲男 准教授</span>
<span></span> リンパ球の恒常性維持機構の分子基盤解明
<b>渡部好彦 准教授</b>
サイトカインの細胞生物学および腫瘍免疫学
<b>中川貴之 准教授</b>
■薬物依存形成機構の神経薬理学的解析 ■痛みの発生・制御機構に関する神経薬理学的解析
<b>杉本幸彦 准教授</b>
アスピリンが何故解熱鎮痛薬として効くのか、その標的物質であるプロスタグランジンとその受容体の生理機能を研究している。

<span>山下富義 准教授</span>
<b>■薬物体内動態シミュレーターの開発研究</b> ■微粒子運搬体による薬物体内動態制御に関する研究

<span>久米利明 准教授</span>
神経変性疾患における中枢ニューロン死制御を目指した神経薬理学的研究

<span>矢野育子 准教授</span>
薬物動態と薬効の速度論的解析並びに個別化投与設計に関する研究

<span>久下裕司 准教授</span>
分子・遺伝子レベルでの生体内情報の画像化を指向した診断薬の創製とこれらを用いる病態生理の解明

<span>山岡 清 准教授</span>
■動物体内動態試験での一点 Sampling データに基づく Bootstrap 法による動態パラメータの分散の評価 ■ RNA 干渉の速度論的定量化およびその制御 ■非線形臓器動態と全身動態の関連解析 (in loci)

<span>西川元也 准教授</span>
■核酸を基盤とする治療・テリバリーシステムの開発 ■生体防御関連因子の時空間制御技術の開発

<span>輿水崇鏡 講師</span>
遺伝子改変動物を用いた創薬研究

<span>三宅 歩 講師</span>
ゼブラフィッシュを用いた FGF の機能解析

--

## 工学部

## 地球工学科

<span>杉浦邦征 教授</span>
社会基盤工学専攻　鋼構造・複合構造の力学的特性評価およびその設計法

<span>松本 勝 教授</span>
社会基盤工学専攻　風工学（構造物の耐風設計、強風災害低減）および橋梁工学（景観設計、安全性評価）に関する研究

<span>宮川豊章 教授</span>
社会基盤工学専攻　コンクリート構造物の耐久性、維持管理、補修・補強、新材料・新工法

<span>田村 武 教授</span>
社会基盤工学専攻　応用力学、数値解析、粒状体の力学、トンネル工学

<span>樺津家久 教授</span>
社会基盤工学専攻　各種水域における流れと環境の相互特性および乱流輸送現象に関する研究

<span>岡二三生 教授</span>
社会基盤工学専攻　計算地盤力学、砂地盤の液状化解析、地盤の変形の局所化

<span>小林潔司 教授</span>
都市社会学専攻　国土・地域システムの分析と計画方法論に関する研究

<span>中川 大 教授</span>
都市社会学専攻　都市計画、都市交通対策、公共交通政策

<span>谷口栄一 教授</span>
都市社会学専攻　道路交通計画、地域ロジスティクスに関する研究

<span>北村隆一 教授</span>
都市社会学専攻　交通需要予測、交通システム工学

<span>家村浩和 教授</span>
都市社会学専攻　社会基盤施設の免震・制震装置の開発と動的試験法、都市地震防災への国際協力

<span>チャールズ スコーソーン 教授</span>
都市社会学専攻　地震リスクマネジメント、マルチハザードアナリシス、ライフラインネットワークの信頼性

<span>大津宏康 教授</span>
都市社会学専攻　ジオリスクエンジニアリング、海外建設プロジェクトリスクマネジメント

<span>細田 尚 教授</span>
都市社会学専攻　河川工学、開水路水理学、数値流体力学

<span>田村正行 教授</span>
都市環境工学専攻　衛星リモートセンシング及び地理情報システムに関する研究

<span>大西有三 教授</span>
都市環境工学専攻　地下空間開発に伴う岩盤の力学・水理学特性解明と解析ならびに計測手法の研究

<span>河野広隆 教授</span>
都市環境工学専攻　構造物の維持管理、コンクリート工学

<span>椎葉充晴 教授</span>
都市環境工学専攻　水文学、水資源工学、河川防災

<span>木村 亮 教授</span>
都市環境工学専攻　構造物基礎とトンネルの力学特性の解明と新工法の開発

<span>嘉門雅史 教授</span>
地球環境学堂　社会基盤親和技術の開発、環境地盤工学

<span>藤田正治 教授</span>
社会基盤工学専攻／防災研究所　山地流域の土砂動態に関する研究、水・土砂・生物系に関する研究

<span>中川 一 教授</span>
社会基盤工学専攻／防災研究所　洪水および土砂災害の防止・軽減に関する研究

<span>井合 進 教授</span>
社会基盤工学専攻／防災研究所　地震時の地盤災害、地盤防災に関する研究

<span>関口秀雄 教授</span>
社会基盤工学専攻／防災研究所　水際地形環境の研究、海岸地下水環境に関する研究

<span>澤田純男 教授</span>
都市社会学専攻／防災研究所　震源モデルと地盤振動解析に基づく設計入力地震動評価

<span>小尻利治 教授</span>
都市社会学専攻／防災研究所　水資源工学、総合流域管理、流域環境評価、人工知能システム

<span>中北英一 教授</span>
都市社会学専攻／防災研究所　降雨予測を含むレーダー水文学、世界の異常降雨災害

<span>岡田憲夫 教授</span>
都市社会学専攻／防災研究所　災害リスクマネジメント、特に、計画的的手法やシステム科学的アプローチに関する研究

<span>戸田圭一 教授</span>
都市社会学専攻／防災研究所　地下浸水を含む都市水害の予測と対策

<span>多々納裕一 教授</span>
社会情報学専攻／防災研究所　防災の経済分析、災害リスクガバナンス

<span>河田恵昭 教授</span>
社会情報学専攻／防災研究所　総合減災システムに関する研究、巨大災害過程に関する研究

<span>林 春男 教授</span>
社会情報学専攻／防災研究所　防災心理学、組織の危機管理論、災害情報システム、災害過程論

<span>堀 智晴 教授</span>
都市環境工学専攻／防災研究所　水資源システムの計画と管理、洪水・渇水災害の防止と軽減

<span>間瀬 肇 教授</span>
都市環境工学専攻／防災研究所　海岸災害解析の基礎となる波動理論、数値モデル、耐波設計法

<span>寶 馨 教授</span>
都市環境工学専攻／防災研究所　洪水予報と治水計画、極値統計理論、防災の新技術・政策論

<span>萩原良巳 教授</span>
都市環境工学専攻／防災研究所　災害リスク軽減、環境創生計画、環境と開発のコンフリクト、環境災害、水循環圏再構成

<span>宇都宮智昭 准教授</span>
社会基盤工学専攻　海洋構造物の動的応答に関する研究

<span>白土博通 准教授</span>
社会基盤工学専攻　風工学（構造物の耐風設計、強風災害低減）

<span>角 哲也 准教授</span>
社会基盤工学専攻　ダム工学、水工水理学、ダム貯水地の土砂管理に関する研究

<span>牛島 省 准教授</span>
社会基盤工学専攻　数値流体力学

<span>木元小百合 准教授</span>
社会基盤工学専攻　地盤材料の構成式、地盤数値解析

<span>松島格也 准教授</span>
都市社会学専攻　交通市場分析、交通経済学、コミュニケーション

<span>山田忠史 准教授</span>
都市社会学専攻　輸送システム、ロジスティクス、最適化

<span>宇野伸宏 准教授</span>
都市社会学専攻　道路交通システムの計画とITSを用いた管理運用の方法論に関する研究

<span>吉井稔雄 准教授</span>
都市社会学専攻　交通制御工学、交通流解析、交通ネットワーク解析

<span>五十嵐風 准教授</span>
都市社会学専攻　地震荷重下における社会基盤構造物の安全性および動的応答の制御

<span>清野純史 准教授</span>
都市社会学専攻　地盤震動および地震時の人的被害発生メカニズムの解明に関する研究

<span>岸田 潔 准教授</span>
都市社会学専攻　地盤の力学特性と水理学特性の評価、地盤解明、地下構造物の可視化

<span>須崎純一 准教授</span>
都市環境工学専攻　衛星リモートセンシングによる地球環境・都市環境のモニタリングとモデリング

<span>西山 哲 准教授</span>
都市環境工学専攻　地下空間の創造・保全・維持管理のための力学、水理学的特性を解明する解析および計測手法の研究

<span>後藤仁志 准教授</span>
都市環境工学専攻　海岸工学、流砂・漂砂水理学、数値流体力学

<span>服部篤史 准教授</span>
都市環境工学専攻　コンクリート構造物のマネジメント、耐久性、維持管理、補修・補強、新材料・新工法

<span>立川康人 准教授</span>
社会環境工学専攻　水循環および洪水の数値予測と洪水災害軽減に関する研究

<span>川崎雅史 准教授</span>
都市環境工学専攻　公共空間における景観デザイン

<span>勝見 武 准教授</span>
地球環境学堂　環境地盤工学に関する研究

<span>川池健司 准教授</span>
社会基盤工学専攻／防災研究所　都市水害の氾濫数値解析、防災水工学

<span>三村 衛 准教授</span>
社会基盤工学専攻／防災研究所　粘土地盤の変形解析、地盤情報データベース、土木遺跡の保存

<span>堤 大三 准教授</span>
社会基盤工学専攻／防災研究所　山岳域における土砂生産や流砂の観測および土砂災害防止に関する研究

<span>武藤裕則 准教授</span>
社会基盤工学専攻／防災研究所　河川流および沿岸流の構造観測、河川構造と生態系成立の関連に関する研究

<span>高橋良和 准教授</span>
都市社会学専攻／防災研究所　地震時における土木構造システムの安全性評価、オブジェクト指向地震工学

<span>田中賢治 准教授</span>
都市社会学専攻／防災研究所　陸面過程スキームの開発、全球規模から領域規模までの水・熱循環の予測

<span>城戸由能 准教授</span>
都市社会学専攻／防災研究所　水環境の動態解析と予測・評価

<span>横松宗太 准教授</span>
都市社会学専攻／防災研究所　防災投資による災害リスクの軽減便益の経済評価に関する研究

<span>米山 望 准教授</span>
都市社会学専攻／防災研究所　数値シミュレーションによる流体関連災害メカニズムの解明

<span>畑山満則 准教授</span>
社会情報学専攻／防災研究所　時空間地理情報システム、災害リスク・コミュニケーション、情報システムを用いた災害対応

<span>矢守克也 准教授</span>
社会情報学専攻／防災研究所　防災心理学に関する研究、防災教育を中心とした減災・防災システムに関する研究

<span>牧 紀男 准教授</span>
社会情報学専攻／防災研究所　参画型防災戦略計画、標準的危機管理システム、アジア地域の防災戦略

<span>竹門康弘 准教授</span>
都市環境工学専攻／防災研究所　河川や湖沼の生態系管理のための応用生態学的、生態水文学的研究

<span>青木謙治 教授</span>
都市環境工学専攻　岩盤内の浸透流挙動に関する研究、地殻環境評価技術の研究

<span>松岡俊文 教授</span>
社会基盤工学専攻　地下地質構造の探査および評価技術の確立

**石田 毅 教授**

社会基盤工学専攻 地圧や破壊音の測定による岩盤破壊の研究に基づく地下深部の利用・開発への貢献

**朝倉俊弘 教授**

社会基盤工学専攻 岩盤構造物設計と保守に関する研究

**馬淵 守 教授**

エネルギー科学研究科・エネルギー応用科学専攻 省エネルギー・省資源に資する新材料に関する研究

**宅田裕彦 教授**

エネルギー科学研究科・エネルギー応用科学専攻 加工プロセスにおける省エネルギー・省資源

**福中康博 教授**

エネルギー科学研究科・エネルギー応用科学専攻 宇宙資源エネルギー学、地球環境調和型プロセス及び電気化学プロセスに関する研究

**新苗正和 准教授**

都市環境工学専攻 地殻環境工学及び資源循環工学に関する研究

**三ヶ田均 准教授**

社会基盤工学専攻 統合型マルチスケール構造探査技術の確立と応用

**塚田和彦 准教授**

社会基盤工学専攻 非破壊検査による材料劣化の評価に関する研究

**村田澄彦 准教授**

社会基盤工学専攻 人と地球環境にやさしい資源開発技術の創生

**山田泰広 准教授**

社会基盤工学専攻 資源開発と地球環境保全のための地質モデルに関する研究

**上田 晃 准教授**

社会基盤工学専攻 CO<sub>2</sub>-地下水-岩石間の地球化学的反応解析に関する研究

**楠田 啓 准教授**

エネルギー科学研究科・エネルギー応用科学専攻 資源開発と合理的供給システム、海洋資源エネルギー

**藤本 仁 准教授**

エネルギー科学研究科・エネルギー応用科学専攻 加工プロセスにおける省エネルギー・省資源

**内山巖雄 教授**

都市環境工学専攻 環境が原因となる人の健康のリスク評価に関する研究

**森澤真輔 教授**

都市環境工学専攻 都市環境システムの評価とデザインに関する研究

**津野 洋 教授**

都市環境工学専攻 公共用水域の水質制御と水処理に関する研究

**小山昭夫 教授**

都市環境工学専攻 放射性廃棄物管理に関する研究

**馬原保典 教授**

都市環境工学専攻 環境中での放射能の移動挙動と分布に関する研究

**松岡 譲 教授**

都市環境工学専攻 地球環境の統合評価に関する研究

**東野 達 教授**

エネルギー科学研究科・エネルギー社会・環境科学専攻 エアロゾル粒子の環境動態と環境負荷評価に関する研究

**藤井滋穂 教授**

地球環境学堂 水域水質・生態系の保全と制御に関する研究

**田中宏明 教授**

都市環境工学専攻 健全な水循環・水環境をめざす研究

**酒井伸一 教授**

都市環境工学専攻 循環型社会形成と廃棄物管理に関する研究

**清水芳久 教授**

都市環境工学専攻 環境微量汚染物質の分析手法の開発と挙動の解明、流域管理

**伊藤禎彦 教授**

都市社会学専攻 都市衛生工学、水道水質の安全性評価とその制御

**米田 稔 准教授**

都市環境工学専攻 土壌圏を中心とする環境汚染物質のリスク評価

**藤川陽子 准教授**

都市環境工学専攻 放射性廃棄物地中処分環境安全評価に係わる実験的研究

**松井利仁 准教授**

都市環境工学専攻 騒音が人間の健康に及ぼす影響に関する研究

**松田知成 准教授**

地球環境学堂 環境微量汚染物質の毒性メカニズムの解明

**高岡昌輝 准教授**

都市環境工学専攻 循環型社会形成のための廃棄物の処理・処分・管理に関する研究

**西村文武 准教授**

都市環境工学専攻 水環境の保全と廃水処理に関する研究

**倉田学児 准教授**

都市環境工学専攻 広域大気汚染シミュレーションとその将来影響予測に関する研究

**管運涛 准教授**

都市環境工学専攻 環境用水保全のための雨汚水利用と水道給水管路内における微生物学的安全性に関する研究

**平井康宏 准教授**

都市環境工学専攻 教育研究における環境安全に関する研究、廃棄物管理・物質循環のシステム解析に関する研究

**越後信哉 講師**

都市社会学専攻 浄水処理の化学、高度水処理技術の開発

**山下尚之 講師**

都市環境工学専攻 健全な水環境をめざす研究

**建築学科****加藤直樹 教授**

建築計画、構造、環境の全般にわたる情報工学的、システム工学的技術に関する研究

**門内輝行 教授**

人間生活環境学及び建築・都市設計の方法に関する研究

**高橋康夫 教授**

日本都市・建築史の研究

**渡邊史夫 教授**

コンクリート系建築構造物の耐震設計

**宗本順三 教授**

建築設計方法及び建築計画学の研究

**銚井修一 教授**

エネルギーの有効利用と快適な建築温熱環境の設計

**高松 伸 教授**

建築設計過程の分析を通じた建築意匠学の研究

**前田直忠 教授**

建築的空間の構成システムに関する建築論的・意匠論的研究

**上谷宏二 教授**

弾塑性構造物の臨界現象論と建築構造物の性能設計

**井上一郎 教授**

鋼構造物および鋼・コンクリート合成構造の設計と接合システムに関する研究

**吉田治典 教授**

環境負荷の少ない都市・建築の設計方法の研究

**高田光雄 教授**

建築計画学及び住まい・まちづくりに関する研究

**高橋大弐 教授**

居住・行動空間の音環境設計に関する研究

**竹脇 出 教授**

建築構造物-地盤連成系の逆問題型設計法

**小林正美 教授**

自然が災害によって教える人間らしい居住のあり方に関する研究

**林 康裕 教授**

■地域と建築物の保全再生 ■建築物の耐震性能評価とリスクマネジメント ■建築地震防災

**大崎 純 准教授**

建築システム最適化と大スパン構造物の設計

**石田泰一郎 准教授**

人間の視覚特性に基づいた建築視環境に関する研究

**山岸常人 准教授**

日本建築史及び歴史的建造物保存

**河野 進 准教授**

コンクリート系構造物の耐震設計

**原田和典 准教授**

建築空間の火災安全設計

**竹山 聖 准教授**

建築空間論及び居住形態論

**荒木慶一 准教授**

計算力学、非破壊検査及び構造力学

**吹田啓一郎 准教授**

鋼構造建築物の耐震設計と耐震補強

**古阪秀三 准教授**

建築プロジェクトのマネジメントシステムに関する研究

**金多 隆 准教授**

建築生産システムとマネジメントに関する研究

**上谷芳昭 准教授**

環境共生型昼光照明設計法

**西山峰広 准教授**

コンクリート系建築構造物の耐震設計

**伊勢史郎 准教授**

アクティブ騒音制御、音環境制御及び音環境心理に関する研究

**大窪健之 准教授**

環境と防災に配慮した都市・建築の計画・設計に関する研究

**吉田 哲 准教授**

居住空間における環境心理学の研究

**辻 聖晃 准教授**

粘性系のダンパーを用いた既存建築物の耐震補強

**神吉紀世子 准教授**

都市・農村計画、環境共生の地域づくり

**松下大輔 講師**

人間行動に基づく建築設計方法の研究

**中島正愛 教授**

建物の地震時挙動の解明と震害の防御・軽減技術

**鈴木祥之 教授**

都市空間の耐震安全性向上のための建築・防災技術の構築

**河井宏允 教授**

自然風の特徴を考慮した新しい建築構造物の耐風設計

**田中仁史 教授**

鉄筋コンクリート構造物の耐震設計法

**田中時義 教授**

地震火災被害のリスク評価と防災対策

**丸山 敬 准教授**

市街地における風環境の解明

**田村修次 准教授**

地盤の不均一性評価および地盤-杭-建築物の耐震性能評価法

**日高桃子 准教授**

新素材・合成手法を応用した耐震構造・要素の開発

**理工学****榎木哲夫 教授**

機械理工学専攻・機械システム学コース 人間機械協調システムのデザインと知的意思決定支援

**北條正樹 教授**

機械理工学専攻・機械システム学コース 先進複合材料の破壊における巨視微視相関メカニクス、バイオメカニクス

**宮崎剛幸 教授**

機械理工学専攻・機械システム学コース 電子材料/電子デバイスの強度評価、計算固体力学

**小森 悟 教授**

機械理工学専攻・機械システム学コース 流体装置および環境中に見られる乱流輸送現象の流体工学的解明

**木田重雄 教授**

機械理工学専攻・機械システム学コース 乱流による熱や物質の混合・輸送のメカニズムの解明

**北村隆行 教授**

機械理工学専攻・機械システム学コース 小さな構造材料の破壊機構の解明と数値シミュレーション

**牧野俊郎 教授**

機械理工学専攻・機械システム学コース 熱・ふく射輸送現象の解明と熱・ふく射応用計測

**松久 寛 教授**

機械理工学専攻・機械システム学コース ■機械構造物の振動解析 ■振動および騒音の制御

**中部主敬 教授**

機械理工学専攻・機械システム学コース 熱物質移動現象の解明と制御ならびに熱流体応用計測

**蓮尾昌裕 教授**

機械理工学専攻・機械システム学コース レーザー光・近接場光を用いた光計測・分光法の開発

**富田直秀 教授**

国際融合創造センター・機械システム学コース 荷重支持組織の再生、再建とその生体環境設計

**井手垂里 教授**

国際融合創造センター・機械システム学コース 粒子ビームによる超微細加工・分析

**安達泰治 准教授**  
機械理工学専攻・機械システム学コース 生体組織・細胞の機能的適応のバイオメカニクスとその工学的応用

**池田 徹 准教授**  
機械理工学専攻・機械システム学コース 界面の破壊力学、電子実装における信頼性評価

**花崎秀史 准教授**  
機械理工学専攻・機械システム学コース 流体中の熱・物質輸送現象の解明

**松本充弘 准教授**  
機械理工学専攻・機械システム学コース 分子熱流体現象の解明

**宇津野秀夫 准教授**  
機械理工学専攻・機械システム学コース ■機械構造物の振動、騒音制御 ■連続体を伝わる波動現象の解析

**横小路泰義 准教授**  
機械理工学専攻・機械システム学コース ロボット工学、操縦型マニピュレータの解析と制御

**小森雅晴 准教授**  
機械理工学専攻・機械システム学コース ■メカニズム、機構・機械要素 ■超精密形状計測

**黒潮良一 准教授**  
機械理工学専攻・機械システム学コース 流体装置内および環境中に見られる乱流輸送現象の解明

**水山 元 講師**  
機械理工学専攻・機械システム学コース ■生産システム工学 ■品質管理・品質工学

**中西弘明 講師**  
機械理工学専攻・機械システム学コース 学習・適応システムとシステム制御、自律型ロボットの設計とその安全・防災活動への応用

**澄川貴志 講師**  
機械理工学専攻・機械システム学コース 微小構造体の変形と破壊特性に関する実験及び力学解析

**小寺秀俊 教授**  
マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース マイクロシステムの加工と特性に関する研究

**田畑 修 教授**  
マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース マイクロマシン、マイクロシステム、微小電気機械システム (MEMS) に関する研究

**木村健二 教授**  
マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース 高速荷電粒子と固体表面の相互作用の解明とそれを用いた表面の新しい評価・分析法の開発

**立花明知 教授**  
マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース 量子力学に基づく物性理論とシミュレーション及びそのエレクトロニクス材料設計への応用

**松原 厚 教授**  
マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース ■高速・高精度位置決め技術 ■加工プロセスのモニタリングと制御

**堤 定美 教授**  
再生医科学研究所・機械システム学コース ナノ再生医工学における生体計測、制御・数理モデル化とシミュレーション技術の研究

**楠見明弘 教授**  
再生医科学研究所・機械システム学コース 1分子ナノバイオテクノロジーの開発と細胞の構造形成・情報変換・神経回路研究への応用

**神野伊策 准教授**  
マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース 薄膜材料工学およびマイクロマシンデバイスに関する研究

**土屋智由 准教授**  
マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース マイクロシステム、マイクロマシン用材料の機械的物性評価

**鈴木基史 准教授**  
マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース ■ナノ構造薄膜の電気的、光学的物性に関する研究 ■イオンビームを用いた薄膜表面・界面の解析

**茨木創一 准教授**  
マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース ■加工機の制御と運動精度計測 ■加工プロセスの制御

**玄丞侑 准教授**  
再生医科学研究所・機械システム学コース ■有機高分子医療用材料の合成と物性 ■人工関節軟骨・人口関節のバイオメカニクス ■細胞増殖制御と生体組織の保存

**津守不二夫 講師**  
マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース 粉体成形・粒子系材料を利用したプロセス開発および応用、解析手法の開発

**宮野公樹 科学技術振興講師**  
マイクロエンジニアリング専攻 金属相変態現象における析出相制御 ■バイオ・マイクロデバイス

**吉村允孝 教授**  
航空宇宙工学専攻・機械システム学コース ■最適システム設計・生産 ■生産情報システム

**吉田英生 教授**  
航空宇宙工学専攻・機械システム学コース 熱エネルギーを主体とするシステムの開発

**片井 修 教授**  
情報学研究科システム科学専攻・機械システム学コース ■知能システムの構築と運用 ■メディア技術とヒューマン・インターフェイス ■創発システム論

**熊本博光 教授**  
情報学研究科システム科学専攻・機械システム学コース ■人間中心システム ■乗用車の運転支援 ■信頼性と安全性

**杉江俊治 教授**  
情報学研究科システム科学専攻・機械システム学コース ■アドバンスト制御理論とその応用 ■メカトロニクス系の設計と制御

**西脇眞二 准教授**  
航空宇宙工学専攻・機械システム学コース ■最適設計法 ■車両設計・生産工学

**川上浩司 准教授**  
情報学研究科システム科学専攻・機械システム学コース ■人工工学による設計支援 ■機械学習

**西原 修 准教授**  
情報学研究科システム科学専攻・機械システム学コース ■人間中心システム ■動力学解析によるパーチャル・プロトタイピング

**岩井 裕 准教授**  
航空宇宙工学専攻・機械システム学コース 熱機器における熱移動現象の解明とその予測および制御

**石川将人 講師**  
情報学研究科システム科学専攻・機械システム学コース ■非線形制御理論 ■非ホロノミックシステムの制御 ■ハイブリッドシステムの制御

**稲室隆二 教授**  
航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース 複雑混相流体力学の基礎理論とその応用

**永田雅人 教授**  
航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース 流れの非線形安定性に関する研究と非線形システムにおける解の分岐

**斧 高一 教授**  
航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース 電離気体および反応性気体の力学と物性に関する実験的研究とその航空宇宙工学への応用

**市川 朗 教授**  
航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース システム制御理論とその航空宇宙工学への応用

**大和田拓 准教授**  
航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース 分子気体力学の理論的研究

**幸田武久 准教授**  
航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース システムの信頼性および安全性

**江利口浩二 准教授**  
航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース プラズマと固体表面・界面との反応機構に関する研究と航空宇宙工学への応用

**杉元 宏 講師**  
航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース 微視的流体力学の理論的研究

**青木一生 教授**  
機械理工学専攻・宇宙基礎工学コース 希薄気体力学の理論的研究とその航空宇宙工学への応用

**高田 滋 准教授**  
機械理工学専攻・宇宙基礎工学コース 非平衡気体力学の理論的研究

**福山 淳 教授**  
原子核工学専攻・原子核工学サブコース ■プラズマ物理学 ■核融合プラズマ工学 ■プラズマ応用

**伊藤秋男 教授**  
原子核工学専攻・原子核工学サブコース ■イオンビーム衝突現象の基礎と原子スケール物質科学 ■クラスター粒子を含む量子線ビームの高度利用研究 ■量子線計測

**森山裕丈 教授**  
原子核工学専攻・原子核工学サブコース ■核材料工学 ■放射化学 ■核燃料サイクル

**山本克治 教授**  
原子核工学専攻・原子核工学サブコース ■物理学の基礎理論 ■光と原子の量子状態操作と量子情報通信 ■素粒子物理学

**功刀資彰 教授**  
原子核工学専攻・原子核工学サブコース ■数値熱流体力学 ■ナノ・ミクロ熱流体工学 ■核融合炉熱工学

**高木郁二 准教授**  
原子核工学専攻・原子核工学サブコース ■核融合炉材料 ■軽水炉材料 ■水素エネルギー材料

**神野郁夫 准教授**  
量子理工学研究実験センター・原子核工学サブコース ■放射線物理学 ■放射線検出器と量子励起現象

**村上定義 准教授**  
原子核工学専攻・原子核工学サブコース ■プラズマ物理学 ■核融合プラズマ工学

**松尾二郎 准教授**  
量子理工学研究実験センター・原子核工学サブコース ■量子ビームと物質との相互作用 ■量子ビームによる新材料創製技術■反応ダイナミクス

**田崎誠治 准教授**  
原子核工学専攻・原子核工学サブコース ■低速中性子光学 ■中性子スピン干渉現象の研究と応用

**佐々木隆之 准教授**  
原子核工学専攻・原子核工学サブコース ■アクチノイドの分離分析化学 ■放射性廃棄物の処理処分

**柴田裕実 准教授**  
原子核工学専攻・原子核工学サブコース ■高速クラスターイオンと物質との相互作用 ■超高速微粒子生成と宇宙塵計測 ■マイクロイオンビームに依る微量分析

**河原全作 講師**  
原子核工学専攻・原子核工学サブコース ■エネルギー機器の熱流体工学 ■伝熱工学 ■混相流の物理と工学

**瀬木利夫 講師**  
原子核工学専攻・原子核工学サブコース ■量子ビームの生成と制御 ■量子ビームによる高精度ナノ加工・ナノ材料創成

**松原英一郎 教授**  
材料工学専攻・材料科学コース 構造解析に基づく金属ガラス転移解明、金属ナノ粒子製造、鉛フリーはんだ設計、磁性薄膜自己組織化等を研究

**粟倉泰弘 教授**  
材料工学専攻・材料科学コース 材料電気化学的手法を用いた薄膜材料のプロセッシングと材料表面の耐食性・高機能化

**乾 晴行 教授**  
材料工学専攻・材料科学コース 金属間化合物の格子欠陥と物性

**田村剛三郎 教授**  
材料工学専攻・材料科学コース 物理学的手法を用いた金属材料の研究

**河合 潤 教授**  
材料工学専攻・材料科学コース 材料の構造、物性、電子状態、化学状態、濃度等に関する物質情報を計測したり、環境物質を分析するための新手法の開発

**杉村博之 教授**  
材料工学専攻・材料科学コース 物質の集積化と機能構築

**田中 功 教授**  
材料工学専攻・材料科学コース セラミックス材料の量子材料設計

**酒井 明 教授**  
国際融合創造センター・材料科学コース ナノテクノロジー、特にナノワイヤー、ナノ接点の電子伝導の研究

**落合庄治郎 教授**  
国際融合創造センター・材料科学コース 複合材料の機能発現メカニズムと最適構造デザイン

**中村裕之 教授**  
材料工学専攻・材料科学コース 金属・化合物の磁性、強相関電子系の低温度量子物性

**田中克志 准教授**  
材料工学専攻・材料科学コース 単結晶弾性率測定法の開発と新材料の弾性率測定、外部応力・磁場による組織制御とそのデバイスへの応用

**伊藤和博 准教授**  
材料工学専攻・材料科学コース 薄膜材料の作製と物性

**邑瀬邦明 准教授**  
材料工学専攻・材料科学コース 電気化学的もしくは化学的手法による金属、合金、および化合物薄膜の作製プロセスとその機能評価

**松永克志 准教授**  
材料工学専攻・材料科学コース セラミック材料における格子欠陥の計算設計

**奥田浩司 准教授**  
国際融合創造センター・材料科学コース 多相・複合化材料の構造解析と機能最適化デザイン

**黒川 修 准教授**  
国際融合創造センター・材料科学コース ヌソビック電子現象の研究

**市坪 哲 准教授**  
材料工学専攻・材料科学コース 金属ガラスのガラス転移・緩和挙動、ナノ粒子垂直磁化膜の作成、超音波物性測定

**宇田哲也 准教授**  
材料工学専攻・材料科学コース 新しいタイプの燃料電池の研究、レアメタルの製造プロセス

**岸田恭輔 准教授**

材料工学専攻・材料科学コース 結晶性材料の格子欠陥設計による物性制御

**石原慶一 教授**

エネルギー科学研究科エネルギー社会・環境科学専攻・エネルギー応用工学サブコース エネルギー・環境材料, エネルギー・環境教育, エネルギー環境負荷評価

**奥村英之 准教授**

エネルギー科学研究科エネルギー社会・環境科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 環境材料, 機能性材料, 環境教育, エネルギー環境負荷評価

**萩原理加 教授**

エネルギー科学研究科エネルギー基礎科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 無機合成化学, 物理化学, 電気化学

**岸本泰明 教授**

エネルギー科学研究科エネルギー基礎科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 核融合プラズマ乱流輸送・高強度レーザーと物質相互作用に関する理論・シミュレーション, 相対論プラズマ, 高エネルギー密度科学

**伊藤澄子 准教授**

エネルギー科学研究科 エネルギー基礎科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 統計素粒子物理学

**野平俊之 准教授**

エネルギー科学研究科エネルギー基礎科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 電気化学的エネルギー変換および材料創製

**塩路昌宏 教授**

エネルギー科学研究科 エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 熱機関における燃焼現象の解明とその制御

**石山拓二 教授**

エネルギー科学研究科 エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 内燃機関の燃焼と排気

**川那辺洋 准教授**

エネルギー科学研究科 エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 乱流燃焼の光学計測および数値解析

**松本英治 教授**

エネルギー科学研究科 エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 連続体中の波動伝ばと電磁場下の材料の挙動

**星出敏彦 教授**

エネルギー科学研究科 エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース セラミックス系材料の強度と金属疲労に関する実験と数値シミュレーション, セラミックス薄膜の創製とその機械的特性の評価

**今谷勝次 准教授**

エネルギー科学研究科 エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 高温非弾性変形と材料加工プロセスの解析

**琵琶志朗 准教授**

エネルギー科学研究科 エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 非線形超音波計測によるエネルギー機器の機能・健全性評価

**平藤哲司 教授**

エネルギー科学研究科 エネルギー応用科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 電気化学を基礎とする機能素材プロセスング

**岩瀬正則 教授**

エネルギー科学研究科 エネルギー応用科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 鉄鋼生産をはじめとするエネルギー多量消費型材料生産のプロセスに関する熱化学とプロセス物理化学

**藤原弘康 准教授**

エネルギー科学研究科 エネルギー応用科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 鉄鋼精錬の熱力学およびエネルギー解析

**電気電子工学科****古谷栄光 准教授**

制御理論の医療への応用に関する研究, モデル予測制御系, 状態予測制御系に関する研究, 最適化手法の応用に関する研究, スケジューリング問題の解法に関する研究

**松尾哲司 准教授**

電磁界解析, 計算磁気学

**中村武恒 准教授**

高温超伝導パワー応用, 新磁界応用, 先進電気機器

**小林哲生 教授**

脳機能イメージング, 複合医工学, マンマシンインターフェース, 量子生体計測, 生体信号処理

**濱田昌司 准教授**

表面電荷法, 電荷重量法などによる, 高電圧環境下の複合誘電場の数値電磁界解析. 空間電荷の形成する場が, 放電進展におよぼす影響の実験的検討ならびに, 放電進展数値シミュレーション

**引原隆士 教授**

パワーエレクトロニクス, 電力システムの安定化制御手法の検討, 磁気浮上システム, 非線形力学応用工学

**舟木 剛 准教授**

パワーエレクトロニクス, 電力用半導体素子のモデリング, スイッチ素子による非線形現象の解析

**和田修己 教授**

電気回路モデリング, デジタル EMC 実装工学, 電磁波工学

**久門尚史 准教授**

非線形回路システム, 分布定数回路システム, アルゴリズムのハードウェア化

**萩原朋道 教授**

ディジタル/サンプル値制御理論, 2自由度最適制御系の理論と応用, 動的システム理論

**蛸原義雄 講師**

数値最適化手法を用いた線形制御系の解析・設計

**大澤靖治 教授**

電力システムの安定度解析ならびに安定化制御

**鈴木 実 教授**

異種電子材料の集積による新しいデバイス機能の創製, 超伝導物性工学, 複合酸化物電子応用

**石川順三 教授**

イオンビーム装置の開発とその応用, 真空ナノ(マイクロ)エレクトロニクス

**後藤康仁 准教授**

電界放出現象の解明とその応用, PVD 法による薄膜形成技術開発

**橋 邦英 教授**

プラズマ中の原子分子過程と集団的性質の実験的研究, プラズマを応用した電子材料の薄膜形成と超微細加工

**酒井 道 講師**

マイクロプラズマの生成法の研究, マイクロプラズマによる電磁波制御の研究

**木本恒暢 教授**

ワイドギャップ半導体の結晶成長, 物性制御とデバイス応用

**須田 淳 准教授**

ワイドギャップ半導体ヘテロエピタキシーと機能デバイスへの応用

**松重和美 教授**

分子ナノエレクトロニクス, 有機電子材料の構造制御と電子物性, ナノテクノロジー

**山田啓文 准教授**

ナノスケール構造の光・電子物性とその応用

**川上養一 教授**

原子レベルで制御された低次元量子構造において発現する新しい光物性の解明と探索

**船戸 充 講師**

光材料の育成と物性探索

**野田 進 教授**

光半導体・光結晶, 超高速光エレクトロニクス, 情報通信・ネットワーク用光デバイス

**浅野 卓 講師**

半導体光デバイスの研究

**北野正雄 教授**

量子エレクトロニクス, 量子光学, 電磁メタマテリアル

**杉山和彦 准教授**

高精度レーザー制御・計測, 光シenseサイザ

**青木学聡 講師**

ナノスケール材料の創製, 評価に関するシミュレーション技術

**高岡義寛 教授**

クラスターイオンビーム技術による高能材料創製の研究

**川下将一 講師**

クラスターイオンビーム技術による高能ハイオマテリアルの創製に関する研究

**中村敏浩 講師**

電子材料プロセスの分光診断と反応解析

**黒橋禎夫 教授**

自然言語処理, 知識情報処理

**松山隆司 教授**

ディジタル画像・映像の処理, 認識, 表示, 生成, 編集のためのソフトウェアおよびハードウェアの研究

**牧 淳人 准教授**

画像処理・パターン認識

**吉田 進 教授**

高信頼度ディジタル通信技術, 無線情報ネットワーク

**村田英一 准教授**

ディジタル無線通信技術, 無線通信ネットワークの研究

**田野 哲 准教授**

適応信号処理, 伝送路符号化, ソフトウェア無線技術を駆使した次世代無線通信システムの研究

**高橋達郎 教授**

マルチメディアネットワークアーキテクチャ, プロトコル, システム構成技術

**朝香卓也 准教授**

情報ネットワークの制御・設計・管理技術

**越智裕之 准教授**

再構成アーキテクチャ, マルチメディア機器向け VLSI 技術

**小野寺秀俊 教授**

VLSI の設計手法と CAD 技術

**小林和淑 准教授**

大規模集積回路のアーキテクチャと設計技術

**佐藤 亨 教授**

地下探査, 降雨観測, 宇宙環境探査などにおけるレーダ信号処理法の研究

**乗松誠司 准教授**

光通信, 特に光ファイバ通信に関する研究

**松田哲也 教授**

医用画像診断法および生体物理計測法の開発

**天野 晃 准教授**

生体シミュレーション, 3次元画像処理, 文書画像処理

**下田 宏 准教授**

エネルギーシステムを支える情報技術とヒューマンインタフェース技術

**近藤克己 教授**

高温プラズマ中の多価電離イオンの挙動および電磁エネルギーの放射について

**中村祐司 准教授**

核融合プラズマの閉じ込め及び電磁流体力学的性質に関するコンピュータ数値解析・シミュレーション

**野澤 博 教授**

熱, 光, イオン, プラズマ等各種最先端エネルギーを応用した超 LSI のデバイス構造についての基礎的研究

**白井康之 准教授**

超伝導現象のエネルギー応用に関する研究

**藤田静雄 教授**

量子機能薄膜材料の育成と物性探索, 有機エレクトロニクスの材料

**白藤 立 准教授**

プラズマケミストリーとその応用: 薄膜堆積, 表面改質, プラズマ重合, エッチング等及び「その場診断」とモデリング, シミュレーション

**小山田耕二 教授**

情報可視化に関する研究およびポリウムコミュニケーション分野への応用, パラメータ最適化に関する研究および電子機器製品設計や生体シミュレーションへの応用

**中村裕一 教授**

ネットワークを介したコミュニケーションシステム, 画像・映像メディアの撮影・認識・編集

**山川 宏 教授**

宇宙環境探査工学, 太陽エネルギーを用いた宇宙システム工学, 宇宙機の軌道ダイナミクス

**小嶋浩嗣 准教授**

科学衛星による宇宙プラズマ中のプラズマ波動の探査

**橋本弘藏 教授**

マイクロ波電力伝送, 宇宙プラズマ中の波動現象, 科学衛星による波動観測, 衛星インターネット

**篠原真毅 准教授**

マイクロ波エネルギー伝送, 宇宙太陽発電所

**山本 衛 教授**

電離圏イレギュラリティの研究, レーダーによる大気観測方式に関する研究

**橋口浩之 准教授**

各種大気レーダーの開発とそれを用いた気象現象のリモートセンシングに関する研究

**津田敏隆 教授**

電波・光・音波を用いた地球大気計測技術の開発と大気環境科学への応用

**中村卓司 准教授**

レーダーと光学測器による地球大気の複合計測. レーダー・光学観測ネットワークによる大気のグローバル構造の研究

**大村善治 教授**

宇宙プラズマ中の非線形現象の計算機実験と宇宙電磁環境工学への応用

**臼井英之 准教授**

計算機シミュレーションによる宇宙プラズマ環境および宇宙飛行体環境の研究

**水内 亨 教授**

高温プラズマ周辺領域の物性・制御技術の研究

**長崎百伸 准教授**

高周波を用いたプラズマの生成と加熱に関する研究, ミリ波伝送システムの開発

**佐野史道 教授**

複合複雑系としての高温プラズマ中の協同現象の機構解明

**花谷 清 准教授**  
トラスプラズマにおける輸送と加熱の計算機シミュレーション

**岡田浩之 准教授**  
高温プラズマの生成および閉じ込め

**増田 開 准教授**  
荷電粒子ビーム・電磁界相互作用を用いた高輝度電子ビーム源、自由電子レーザ、ビーム集束核融合の研究

## 情報学科

**佐藤雅彦 教授**  
構成的プログラミング、コンピュータソフトウェア

**山本章博 教授**  
人工知能基礎論、帰納論理、機械学習、知識発見

**西田豊明 教授**  
会話情報学、社会知のデザイン、人工知能

**奥乃 博 教授**  
人工知能、音環境理解、音楽情景分析、ロボット聴覚

**吉川正俊 教授**  
データベース、情報検索、Web、XML

**田中克己 教授**  
Web 情報検索、マルチメディア情報システム、データベース

**石田 亨 教授**  
人工知能、コミュニケーション、社会情報システム

**船越清明 教授**  
非線形力学、流体力学、力学システムのカオス

**藤坂博一 教授**  
非平衡系の統計理論、非線形科学、散逸構造

**西村直志 教授**  
計算力学、応用力学、計算工学

**山本 裕 教授**  
システム・制御理論、デジタルシステムと信号処理、システムモデリング

**中村佳正 教授**  
応用可積分系／計算数学、アルゴリズム、離散構造、計算機代数

**永持 仁 教授**  
離散最適化問題に対するアルゴリズム理論の研究および実用問題への応用

**福嶋雅夫 教授**  
計画工学、システム最適化の理論とアルゴリズム

**太田快人 教授**  
システム制御理論、関数解析手法に基づく制御系設計解析、通信路を有する制御

**宗像豊哲 教授**  
統計物理学、非線形動力学、計算機シミュレーション

**岩井敏洋 教授**  
力学系の微分幾何学的研究

**田中利幸 教授**  
確率モデルに基づく情報処理、情報通信理論、情報統計力学、ニューロコンピュータング

**酒井英昭 教授**  
適応信号処理と通信、雑音制御への応用

**高橋 豊 教授**  
システムのモデル化と性能解析、情報システム、待ち行列理論

**岩間一雄 教授**  
アルゴリズムと計算複雑さの理論

**富田眞治 教授**  
計算機アーキテクチャと並列処理

**湯浅太一 教授**  
プログラミング言語と処理系

**美濃導彦 教授**  
マルチメディア情報処理、3次元モデル中心処理、知的映像メディア処理、環境メディア、スマートクラスルーム、e-Learning

**稲垣耕作 准教授**  
基礎情報学・情報物理学・情報文明学の研究

**五十嵐淳 准教授**  
プログラミング言語の基礎理論

**角 康之 准教授**  
知識処理システム、ヒューマンインタフェース、インタラクティブシステム

**尾形哲也 准教授**  
ヒューマンロボットインタラクション、ロボット認知学習モデル

**岩井原瑞穂 准教授**  
■データベース ■電子商取引システム

**田島敬史 准教授**  
データベースシステム、情報検索

**松原 繁夫 准教授**  
情報経済学、人工知能

**田中泰明 准教授**  
確率力学系の理論とそのリスク解析への応用、効率化シミュレーション

**藤岡久也 准教授**  
サンプル値制御、ロバスト制御、数値最適化に基づく制御系設計解析

**山下信雄 准教授**  
数理計画、均衡問題に対する理論と応用

**鷹羽淨嗣 准教授**  
ロバスト制御、最適制御およびフィルタリング

**五十嵐顕人 准教授**  
統計物理学と確率過程理論を用いた、多数の要素が非線形に相互作用しあっている系の研究

**谷村省吾 准教授**  
量子論、量子情報科学、力学系とゲーシ理論

**池田和司 准教授**  
■機械学習 ■ニューロダイナミクス

**笠原正治 准教授**  
情報システム理論、ネットワークシステム、待ち行列理論とその応用

**伊藤大雄 准教授**  
グラフ・ネットワーク理論とアルゴリズム、離散幾何学

**八杉昌宏 准教授**  
プログラミング言語及び並列処理

**角所 考 准教授**  
コンピュータと人間のコミュニケーションのための知的メディア処理

**宮崎修次 講師**  
複雑力学系や複雑ネットワークの数理解析

**青柳富誌生 講師**  
脳の情報処理のモデルの構成と解析、非線形力学、統計物理学

**辻本 諭 講師**  
離散可積分系の理論とその応用

**趙 亮 講師**  
ネットワークの最適化および応用

**荻野勝哉 講師**  
■意思決定論 ■ゲーム理論 ■紛争と交渉問題

## 工業化学科

**松原誠二郎 教授**  
材料化学専攻 有機反応化学、立体化学、有機合成化学、有機金属化学、有機材料化学

**平尾一之 教授**  
材料化学専攻 無機材料化学、非晶質ガラス科学、無機構造化学、セラミックス工学

**三浦清貴 准教授**  
材料化学専攻 無機材料化学、無機材料光物性、レーザー材料プロセスング、ナノ構造制御

**田中勝久 教授**  
材料化学専攻 無機固体化学、無機材料科学、非線形光学、酸化物磁性体

**藤田晃司 准教授**  
材料化学専攻 無機固体化学、無機材料化学、光機能性材料

**大高幸一郎 教授**  
材料化学専攻 有機反応化学、立体化学、有機合成化学、有機金属化学、有機材料化学

**楢山為次郎 教授**  
材料化学専攻 天然物有機化学、ヘテロ元素化学、有機合成、有機金属、触媒反応、有機材料

**清水正毅 准教授**  
材料化学専攻 有機合成化学、有機金属化学、有機ケイ素化学、有機フッ素化学、有機材料化学

**大塚浩二 教授**  
材料化学専攻 材料解析化学、分離分析化学、マイクロ/ナノ分析、μ\_TAS

**森下富士夫 准教授**  
材料化学専攻 材料解析化学、分離分析化学、環境計測化学

**瀧川敏算 教授**  
材料化学専攻 高分子ダイナミクス、高分子ゲルの物理化学、不均質系のレオロジー

**浦山健治 准教授**  
材料化学専攻 高分子ゲルの物理化学、高分子薄膜の電気力学物性、エラストマーの力学

**木村俊作 教授**  
材料化学専攻 機能材料、高分子超分子化学、ペプチド工学

**小山宗孝 准教授**  
材料化学専攻・協力講座 ナノ材料化学、電子移動化学、電気分析化学、分光電気化学

**小久見善八 教授**  
物質エネルギー化学専攻 電気化学反応の解析とそのための材料の合成

**西本清一 教授**  
物質エネルギー化学専攻 励起状態の物理化学、放射線生物化学、光機能性核酸の化学

**垣内 隆 教授**  
物質エネルギー化学専攻 界面の物理化学、溶液系の界面物性、電気分析化学、機能性材料化学

**井上正志 教授**  
物質エネルギー化学専攻 無機材料の新規合成法とその触媒機能

**江口浩一 教授**  
物質エネルギー化学専攻 環境およびエネルギーに関連した固体触媒の開発と基礎物性

**大江浩一 教授**  
物質エネルギー化学専攻 有機活性種化学、遷移金属錯体を用いる触媒反応の開発

**辻 康之 教授**  
物質エネルギー化学専攻 新規分子触媒の開発とその応用、触媒反応機構の解明

**柴田誠一 教授**  
物質エネルギー化学専攻・協力講座 放射性同位体の生成と利用に関する放射化学的研究

**年光昭夫 教授**  
物質エネルギー化学専攻・協力講座 有機ヘテロ元素化学を利用する材料合成

**小澤文幸 教授**  
物質エネルギー化学専攻・協力講座 高効率遷移金属錯体触媒の開発と機能物質合成

**中村正治 教授**  
物質エネルギー化学専攻・協力講座 元素科学的アプローチによる資源活用型合成反応の開発

**近藤輝幸 教授**  
新規有機金属錯体の合成とその触媒機能の開発

**木下知己 准教授**  
物質エネルギー化学専攻 炭化水素活性種の物理有機化学

**山本雅博 准教授**  
物質エネルギー化学専攻 固体、固液、液液界面の物理化学

**安部武志 准教授**  
物質エネルギー化学専攻 電極、電解質材料のインターカレーションケミストリー

**菊地隆司 准教授**  
物質エネルギー化学専攻 エネルギー変換材料開発システムに関する研究

**沖 雄一 准教授**  
物質エネルギー化学専攻・協力講座 放射性エアロゾルの生成機構と性質の解明

**岡崎雅明 准教授**  
物質エネルギー化学専攻・協力講座 新規遷移金属クラスターの合成と機能発現

**村田靖次郎 准教授**  
物質エネルギー化学専攻・協力講座 機能性π共役系化合物の合成ならびにフラーレン化学

**和田健司 講師**  
物質エネルギー化学専攻 炭素資源変換に用いる新規触媒材料の開発

**白川昌宏 教授**  
分子工学専攻 生体高分子の立体構造と生体計測手法に関する研究

**榊 茂好 教授**  
分子工学専攻 化学反応の理論研究、複合電子系の量子化学研究

**田中一義 教授**  
分子工学専攻 分子ナノ工学、量子機能材料の設計と電子物性解析

**田中庸裕 教授**  
分子工学専攻 エアロビック酸化触媒系の開発、光触媒化学、触媒構造・機能・設計

**今堀 博 教授**  
分子工学専攻 人工光合成系の構築、有機太陽電池の開発

**川崎昌博 教授**  
分子工学専攻 化学反応ダイナミクス、大気環境化学反応

**横尾俊信 教授**  
分子工学専攻・協力講座 機能性無機材料の創製、有機-無機ハイブリッド低温溶融ガラスの構造、機能設計

**渡辺 宏 教授**  
分子工学専攻・協力講座 高分子ダイナミクス、不均質物質の変形、流動とダイナミクス

**堀井文敬 教授**

分子工学専攻・協力講座 高分子の種々の状態における構造と分子運動、高度組織化分子材料の構造と機能、微生物セルコース系ナノハイブリッド材料の創製

**柄尾豪人 准教授**

分子工学専攻 タンパク質の立体構造・運動性・細胞内機能の研究

**佐藤啓文 准教授**

分子工学専攻 溶液内分子の量子化学・統計力学と化学反応理論

**伊藤彰造 准教授**

分子工学専攻 量子機能材料、分子磁性、物理有機化学

**穴戸哲也 准教授**

分子工学専攻 固体酸塩基触媒の化学、選択酸化触媒、固体触媒の構造・機能・設計

**侯野善博 准教授**

分子工学専攻 高原子価ビスマ化合物の化学とヘテロ原子を含む機能性材料の化学

**川崎三津夫 准教授**

分子工学専攻 感光材料の光物理化学と表面化学

**高橋雅英 准教授**

分子工学専攻・協力講座 光機能性無機固体材料の基礎科学と応用開発

**増洲雄一 准教授**

分子工学専攻・協力講座 高分子計算科学、高分子ダイナミクス

**梶 弘典 准教授**

分子工学専攻・協力講座 非晶質材料の構造と発光特性、特に有機EL、新しい個体NMR法の開発。乱れた構造をもつ高分子材料の構造およびダイナミクス

**佐藤 徹 准教授**

分子工学専攻・協力講座 物性理論化学と炭素材料の電子物性解析

**人見 穰 講師**

分子工学専攻 生物無機化学、錯体化学、触媒化学

**橋本 訓 講師**

分子工学専攻 光化学反応、ラジカル反応、大気化学

**増田俊夫 教授**

高分子化学専攻 遷移金属触媒を用いた新規高分子の設計と合成、置換ポリアセチレンの合成と特性、機能性高分子

**澤本光男 教授**

高分子化学専攻 高分子精密合成、カチオン重合、ラジカル重合

**中條善樹 教授**

高分子化学専攻 新しい高分子合成反応の開拓、インテリジェント高分子の創成、高分子ナノハイブリッド材料

**吉崎武尚 教授**

高分子化学専攻 高分子溶液学、高分子ダイナミクス、高分子統計力学

**田中文彦 教授**

高分子化学専攻 高分子基礎物理化学、高分子理論物性学、高分子の会合とゲル化に関する理論・シミュレーション

**伊藤紳三郎 教授**

高分子化学専攻 高分子光物理・光化学、機能性高分子、高分子構造、高分子超薄膜

**赤木和夫 教授**

高分子化学専攻 導電性・発光性・液晶性高分子の合成と性質、不斉液晶場での階層構造盛業、キララ転写・反転による円偏光性発現

**長谷川博一 准教授**

高分子化学専攻 高分子形態学、ブロックコポリマー・ポリマーブレンド・高分子液晶の構造と物性、エレクトロントモグラフィ

**松岡秀樹 准教授**

高分子化学専攻 高分子界面化学、両親媒性高分子の自己組織化、高分子微粒子

**中 建介 准教授**

高分子化学専攻 高分子合成、有機無機複合高分子、新規重合法の開拓

**三田文雄 准教授**

高分子化学専攻 高分子合成、アミノ酸ポリマー

**中村 洋 准教授**

高分子化学専攻 分枝高分子溶液物性

**堂寺知成 准教授**

高分子化学専攻 高分子計算物性学、自己組織化の分子シミュレーション

**大北英生 准教授**

高分子化学専攻 高分子系の光物理・光化学、高分子の光・電子物性、高分子超薄膜

**竹中幹人 講師**

高分子化学専攻 高分子アロイの物理化学、ソフトマター、自己秩序化によるボトムアップ型ナノ材料の構築

**金谷利治 教授**

高分子化学専攻・協力講座 高分子高次構造制御を目指した 1) 高分子結晶化過程の解明 2) 高分子ガラス転移機構の解明 3) 高分子ゲルの生成機構と階層構造

**山子 茂 教授**

高分子化学専攻・協力講座 新しい高分子合成反応および有機合成反応の開発

**岩田博夫 教授**

高分子化学専攻・協力講座 高分子材料の医療への応用と細胞・組織工学の研究

**田畑泰彦 教授**

高分子化学専攻・協力講座 生体材料、再生医学、ドラッグデリバリーシステム (DDS)、幹細胞工学

**辻 正樹 准教授**

高分子化学専攻・協力講座 結晶性高分子の固体の構造とその形成過程

**辻井敬亘 准教授**

高分子化学専攻・協力講座 高分子表面設計、高分子超薄膜、高分子ブラシの合成と物性

**西田幸次 准教授**

高分子化学専攻・協力講座 高分子電解質溶液の構造、高分子の結晶化

**加藤功一 准教授**

高分子化学専攻・協力講座 生体材料、バイオエンジニアリング

**青木裕之 准教授**

高分子物性、近接場光学、単一分子分光、生体イメージング

**吉田潤一 教授**

合成・生物化学専攻 新しい有機合成法の開発、機能性物質および生物活性物質の合成

**今中忠行 教授**

合成・生物化学専攻 生物学、極限環境微生物学、環境バイオテクノロジー

**北川 進 教授**

合成・生物化学専攻 錯体化学、多重機能化学、ナノポーラス錯体マテリアル

**青山安宏 教授**

合成・生物化学専攻 生体認識化学、生体機能工学、応用細胞工学、ゲノム工学

**村上正浩 教授**

合成・生物化学専攻 有機金属化学および有機合成化学

**森 泰生 教授**

合成・生物化学専攻 細胞生理科学、遺伝子工学、分子神経生物学、タンパク質科学、生体分子機能測定

**杉野目道紀 教授**

合成・生物化学専攻 精密有機合成を目指した新反応開拓、新規高分子材料を指向した精密重合法開拓

**浜地 格 教授**

合成・生物化学専攻 生命分子化学、生物有機・無機化学、細胞内有機化学、超分子バイオマテリアル

**跡見晴幸 准教授**

合成・生物化学専攻 微生物を対象とした生化学・分子生物学

**伊藤義勝 准教授**

合成・生物化学専攻 有機固体化学および光化学反応

**江原正博 准教授**

合成・生物化学専攻 理論精密分光学、励起状態ダイナミクス、密度行列の直接決定法

**世良貴史 准教授**

合成・生物化学専攻 人工DNA結合タンパク質を用いた生命現象の人為的操作

**菅 誠治 准教授**

合成・生物化学専攻 新しい合成手法の開発と有機合成への応用

**大場正昭 准教授**

合成・生物化学専攻 金属錯体、錯体磁性体の誘電性・磁気光学特性、多孔性磁性体

**東谷 公 教授**

化学工学専攻 液相微粒子分散系の移動現象の基礎と応用に関する研究

**宮原 稔 教授**

化学工学専攻 界面制御工学、ナノ空間工学、ナノ秩序構造形成

**三浦孝一 教授**

化学工学専攻 反応工学、石炭転換工学、炭素材料

**田門 肇 教授**

化学工学専攻 分離工学、吸着工学、乾燥工学

**大嶋正裕 教授**

化学工学専攻 材料プロセス工学、高分子成形加工、プロセス制御

**長谷部伸治 教授**

化学工学専攻 化学プロセスの最適合成・設計・操作、生産管理

**前 一廣 教授**

化学工学専攻 環境プロセス工学、マイクロリアクター開発、バイオマス転換工学

**丸山敏朗 教授**

化学工学専攻・協力講座 輸送現象、機能性材料工学、光エネルギー変換

**山本量一 准教授**

化学工学専攻 複雑流体・ソフトマターの流動現象に関する基礎研究、計算機シミュレーションを用いた物性研究

**河瀬元明 准教授**

化学工学専攻 反応工学、材料反応工学、反応装置

**松坂修二 准教授**

化学工学専攻 粉体とエアロゾルの特性評価とその応用

**加納 学 准教授**

化学工学専攻 統計的プロセス・品質管理、プロセス制御、生体情報解析

**牧 奉輔 准教授**

化学工学専攻 環境プロセス工学、マイクロリアクター開発

**中川浩行 准教授**

化学工学専攻・協力講座 環境安全学、難処理有害物の効率的処理方法の開発

**長嶺信輔 講師**

化学工学専攻 液相内秩序構造、界面を鏝型にしたナノ材料、微粒子合成

**八尾 健 教授**

エネルギー基礎科学専攻 結晶化学、材料電気化学、リチウム電池・燃料電池の材料開発、生命適合材料、医用セラミックスの開発、無機材料化学

**日比野光宏 准教授**

エネルギー基礎科学専攻 無機固体化学、固体電気化学、種々の固体内におけるイオン輸送現象解明とエネルギーデバイス材料の開発

**尾形幸生 教授**

エネルギー理工学研究所・協力講座 半導体の電気化学と表面改質および太陽光などの光エネルギー有効利用への応用

**作花哲夫 准教授**

エネルギー理工学研究所・協力講座 物質界面層における光化学反応および分光学的研究

**農学部****資源生物科学科****今井 裕 教授**

生殖細胞の分化・脱分化機構の解明と個体生産への応用

**内海 成 教授**

ヒトの健康維持・増進に役立ち、加工食品の製造にも適したタンパク質を含有する作物の開発

**遠藤 隆 教授**

コムギにおける異형染色体断片導入系統の育成と分子細胞遺伝学的研究

**奥野哲郎 教授**

植物ウイルスの増殖機構の研究

**小崎 隆 教授**

地域・地球環境問題と土壌資源の持続的管理

**高藤晃雄 教授**

ハダニ類および捕食性カブリダニ類の種内変異と個体群動態

**谷坂隆俊 教授**

有用遺伝子資源の開発と同定に関する育種学的研究

**廣岡博之 教授**

牛肉生産に関するシステム分析と熱帯地域への応用

**藤崎憲治 教授**

昆虫類の生態学

**矢澤 進 教授**

蔬菜・花卉の生理・生態と発育制御

**稲村達也 准教授**

持続的農業システムのための耕地生態管理に関する研究

**今井一郎 准教授**

有害有毒プランクトンの生理生態と防除技術の開発

**大崎直太 准教授**

植食性昆虫の個体群生態学

**奥本 裕 准教授**

イネの出穂期に関する遺伝子分析

**河原太八 准教授**

コムギ等の栽培植物の起源と近縁野生種の進化に関する研究

**刑部正博 准教授**

ハダニ類の個体群構造と種間相互作用について

左子芳彦 教授
海洋熱水環境に生息する超好熱菌の探索と遺伝子資源の研究開発
<b>田川正朋 准教授</b>
魚類初期生活史の内分泌学的研究
<b>豊原治彦 准教授</b>
海洋生物機能の活用に関する研究
<b>縄田栄治 教授</b>
熱帯作物の生理生態
<b>林 孝洋 准教授</b>
画像解析による植物生態情報の解析

平田 孝 教授
海洋生物生産物の品質および生理機能物質の利用に関する研究

藤原建紀 教授
沿岸の海洋環境ならびに物質・生物輸送に関する研究

二井一禎 教授
森林における微生物と樹木、昆虫の相互関係に関する研究

舟川晋也 准教授
熱帯および半乾燥地土壌の形態と養分維持機構に関する研究

松井 徹 教授
消化管内ミネラルの化学形態とその利用性

松村康生 教授
食品およびその加工素材の品質評価制御

三瀬和之 准教授
植物ウイルスの感染・増殖機構の研究

宮下直彦 准教授
イネ属植物及びシロイヌナズナとハタザオ属植物の分子集団遺伝子学研究

山末祐二 教授
耕地生態系の構造と物質循環に関する研究

山田宜永 准教授
量的形質原因遺伝子の同定に関する研究

山田雅保 准教授
哺乳動物胚の発生と分化

米森敬三 教授
果実生長の制御要因解析と果樹の系統分類

白岩立彦 教授
作物の収量形成の生理・生態的機構と増収技術

田尾龍太郎 准教授
果樹類の形質転換及び受粉開花生理

佐久間正幸 教授
昆虫の感覚と空間定位行動の生理学的研究

笠井亮秀 准教授
海洋環境と生態系に関する研究

菅原達也 准教授
海洋生物の機能性脂質に関する研究

田中千尋 准教授
糸状菌類の生理・生態遺伝学的研究

林 由佳子 准教授
口腔内での味の受容メカニズムの解明とその応用

久米新一 教授
動物の環境生理に関する研究

富永 達 教授
雑草の生活史特性に関する生態・遺伝学的研究

熊谷 元 准教授
・熱帯地域における家畜・飼料生産技術開発 <p>・未利用資源の飼料化に関する研究</p>

南 直治郎 准教授
哺乳動物の初期発生と遺伝子発現に関する研究

高野義孝 講師
植物と病原糸状菌の相互作用の背景にある分子メカニズムの研究

中崎 鉄也 講師
イネの活性型トランスポゾン mPing の転移誘発機構の解明

三浦勲一 講師
アフリカ半乾燥地の雑穀農業における雑草の生態と進化

山下 洋 教授
沿岸域における水産重要魚類の生態、特に、成育場環境と仔稚魚の成長。生き残りとの関係。

山田利昭 教授
イネ、ムギ類、ダイズ等主要な農作物についての遺伝・育種学的研究

北川幸幸 准教授
環境調和型肉用牛飼養に関する研究

北島 宣 准教授
果樹類の生殖生理と染色体解析

益田玲爾 准教授
海産魚類の行動の発達、魚類心理学

梅本信也 准教授
自然域ならびに里域生態系の両存保全と森里海連環学研究

畑 信吾 准教授
マメ科植物の共生窒素固定根粒形成ならびに菌根形成に関する分子生物学的研究

守屋和幸 教授
GPS 首輪を用いた林内放牧牛の移動履歴の収集と解析

荒井修亮 准教授
バイオテレメトリーによる水圏生物資源情報の収集と解析

竹田晋也 准教授
森林資源学／東南アジアモンスーン林の利用と保全

荒木 崇 教授
高等植物の環境応答の分子機構の研究。特に、1) 成長相転換 (花成) の制御機構の解明, 2) 長距離作用性シグナルによる生体調節の研究, 3) 頂端分裂組織の維持機構の解明

丸山伸之 准教授
種子貯蔵タンパク質の細胞内輸送機構の解明と分子農業への応用

田中朋之 准教授
イネ種子登熟過程の解析と生産性・品質の改善

応用生命科学科

清水 昌 教授
微生物の新機能探索・開発と物質生産への応用

喜多恵子 教授
微生物の有用酵素に関する構造・機能相関の解析と分子進化

相原茂夫 准教授
微小重力環境下でのタンパク質の結晶化と酵素反応の構造と機能に関する研究

井上善晴 准教授
生物の環境ストレス応答機構に関する分子細胞生物学的研究

植田和光 教授
健康な体をまもる ABC 蛋白質：脂質トランスポーターの分子メカニズムの解明

片岡道彦 准教授
微生物による有用物質生産に関する研究

加納健司 教授
酵素触媒電子移動反応の基礎と応用

阪井康能 教授
微生物の細胞機能を利用した制御発酵学

白井 理 准教授
生体膜及び模擬膜を介したイオン輸送の物理化学

西田律夫 教授
昆虫生活活性物質の化学生態学的研究

間藤 徹 教授
高等植物における無機元素の生理作用に関する研究

宮川 恒 教授
植物および菌類の二次代謝に関する化学

三芳秀人 准教授
呼吸鎖電子伝達酵素系に作用する生理活性物質のデザイン合成と作用機構研究

中川好秋 准教授
昆虫成育制御剤の構造活性相関と作用機構研究

西岡孝明 教授
新しい生物機能開発を目的とした応用バイオインフォマティクス研究

植田充美 教授
ゲノム情報の解析による細胞分子生物学とその応用

木岡紀幸 准教授
動物細胞の運動、形態の制御に関する研究

森 直樹 准教授
植物と咀嚼性昆虫における防御と適応の有機化学

由里本博也 准教授
微生物の代謝および遺伝子発現制御機構に関する研究

横関健三 教授
微生物の有する潜在機能の探索とものづくりへの応用

萩下大郎 准教授
有用微生物の探索ならびに実用化に向けた機能開発

三上文三 教授
食品タンパク質・食品関連酵素の X 線結晶構造解析及び新機能設計

佐藤文彦 教授
植物細胞の機能分化の分子細胞生物学と分子育種

河内孝之 教授
植物の可塑的発生と環境応答の分子生物学

福澤秀哉 准教授
ゲノム情報を利用した光合成の環境順化（二酸化炭素のセンシングと輸送）ならびに生植に関する分子細胞生物学

小林 優 准教授
細胞壁ヘクチンの機能と生合成機構

遠藤 剛 講師
光合成電子伝達系を中心とした葉緑体機能の環境応答機構の解明

地域環境工学科

梅田幹雄 教授
フィールド及び昆虫ロボットと精密農業

河地利彦 教授
水資源の開発・管理・保全と水環境のモデル化に関する理論と応用

星野 敏 教授
ナレッジマネジメントを導入したコミュニティ再生手法の開発

赤松美紀 准教授
医薬・農業の化学構造と生理活性、農業と環境

飯田訓久 准教授
農業におけるロボティクスおよびメカトロニクス

小林 晃 准教授
農業水利施設の安全性と周辺環境に与える影響

田中 樹 准教授
半乾燥熱帯圏における生業技術群の成立要件および人為・環境連関の解明

中嶋 洋 准教授
土-車両系のテラメカニクス

宇波耕一 准教授
水資源の管理・運用における最適化問題と利水系における水理現象の数値モデリング

三宅 武 准教授
家畜の有用遺伝子資源の開発と遺伝的改良

中村公人 講師
流域圏および農地土壌中の水循環と物質循環の制御・管理

前田滋哉 講師
河川・湖沼における水環境の最適管理手法

食料・環境経済学科

加賀爪 優 教授
農業貿易と環境保全および地域経済発展に関する計量経済分析

野田公夫 教授
近現代日本農業史および比較農業発展史・比較土地制度史

吉田昌之 教授
森林・林業・木材関連産業に関する理論的実証的研究

浅見淳之 准教授
途上国の農村制度と農業発展

足立芳宏 准教授
近代ドイツ農業・農村社会学

小田滋晃 教授
農業経営・情報会計論

末原達郎 教授
地球規模における農業・食料・地域社会の存続に関する比較農学的研究

武部 隆 教授
資源利用評価と環境ガバナンス

新山陽子 教授
アグリビジネス・フードシステム分析の概念と方法

沈 金虎 講師
中国の農業・農村経済と食料・環境問題に関する研究

香川文庸 講師
農業経営・アグリビジネスにおける損益・資産・資本構造の測定

辻村英之 准教授
アフリカの農家経済経営・農村協同組合・フードシステムの分析

川村 誠 准教授
森林・林業政策学

秋津元輝 准教授
現代農村の地域社会と環境に関する社会学的研究

**細野ひろみ 准教授**

食のリスク管理・コミュニケーションと企業倫理に関する研究

**森林科学科****東 順一 教授**

バイオマスの化学と生化学、リグノセルロースの生合成と生分解

**岩井吉彌 教授**

世界の林業ならびに森林資源のあり方についての研究

**奥村正悟 教授**

木材の機械加工と生産加工システム

**武田博清 教授**

森林生態系における生物群集の研究

**谷 誠 教授**

洪水・渇水緩和、地球温暖化抑制など、森林の環境保全機能に関する研究

**中坪文明 教授**

木材をはじめとする生物材料の基礎化学と高機能化

**西尾嘉之 教授**

木材・セルロース・キチン等バイオマスの高機能複合材料化

**藤田 稔 教授**

画像解析による木材の構造的特徴の解析

**太田誠一 教授**

熱帯林の土壌生態と物質循環に関する研究

**水山高久 教授**

土砂の生産、流出とその森林等による制御

**森本幸裕 教授**

緑地環境の保全と創造に関する研究

**岡田直紀 准教授**

温帯および熱帯樹木の成長と材形成に関する生理・生態学的研究

**神崎 護 准教授**

熱帯林の群集生態学と植生管理

**高野俊幸 准教授**

木材成分の化学的利用に関する研究

**高部圭司 准教授**

木質化細胞壁の形成メカニズム

**藤井義久 准教授**

木材の高度利用と加工

**松下幸司 准教授**

森林計画に関する研究

**山内龍男 准教授**

製紙科学に関する研究

**大澤直哉 講師**

森林生態系における昆虫群集の研究

**高柳 敦 講師**

クマハギ発生地域におけるツキノワグマの保護管理に関する研究。カモシカ・シカによる造林木食害に関する研究。狩猟制度に関する研究。

**仲村匡司 講師**

木質系材料の感性的特性、木質環境の居住性

**吉岡まり子 講師**

バイオマスをを用いた高性能・高機能材料の開発に関する研究

**坂本正弘 講師**

木質系バイオマスの形成に関わる生化学・分子生物学的研究

**里深好文 准教授**

土砂の生産、流出とその制御

**安藤 信 准教授**

森林の更新技術に関する研究

**芝 正己 准教授**

森林資源の保続的管理・利用システムに関する研究

**中島 皇 講師**

森林の公益的機能に関する研究

**西村和雄 講師**

金蓄積植物を利用した金鉱脈の探査法、黄砂由来の日本へのリン資源の輸送に関する研究

**徳地直子 准教授**

森林生態系における物質循環に関する研究

**柴田昌三 教授**

都市近郊二次林（里山）の再生に関する研究、竹類の生理・生態学的研究及び造園緑化への利用に関する研究、道路路面緑化工法の開発に関する研究

**坂 志朗 教授**

植物バイオマスのバイオ燃料化・有用ケミカル化及び環境調和型エコ材料の創製

**河本晴雄 准教授**

バイオマス変換およびエネルギー利用の生態系に及ぼす影響

**酒井徹朗 教授**

リモートセンシングやGISを用いた生物圏の環境情報モニタリングと評価

**大澤 晃 教授**

森林の構造発達と炭素動態学

**井鷲裕司 教授**

森林動態と生物保全に関する研究

**中野隆人 教授**

木材の物理的特性と微細構造との関係に関する研究

**木村恒久 教授**

磁場を用いた生物繊維材料の高機能化

**吉岡崇仁 教授**

森里海連環の解明にむけた自然科学および社会科学的研究

**食品生物科学科****井上國世 教授**

酵素の機能発現の解明と有用生理活性物質生産への応用

**北直文 教授**

食品素材の加工特性に関する研究、甘味・渋味・苦味物質の構造と甘味・渋味・苦味発現機構、伝統食に関する食品栄養学的研究

**伏木 亨 教授**

食品の持つ情報と、動物消化管・口腔における情報受容機構、運動能力を増強する食品の開発、おいしさの科学

**村田幸作 教授**

細胞やタンパク質の形はどうして決まるか。細胞はどうして増えるか。DNAはどうしてできたか。遺伝子、タンパク質細胞の進化。

**吉川正明 教授**

・食品中に存在する新しい生体調節因子の探索  
・生体調節因子の作用機構の解明と生活習慣病予防食品の開発  
・生体調節機能を強化した食糧素材の遺伝子生産

**安達修二 教授**

食品製造工学、食品反応工学

**入江一浩 教授**

タンパク質機能ドメインの化学合成と構造および機能の有機化学的解析

**裏出令子 准教授**

・小胞体におけるタンパク質の品質管理機構に関する研究  
・動物細胞における脂質代謝の調節機構に関する研究

**河田照雄 教授**

肥満の発症メカニズムの解明とその応用研究、生活習慣病を防ぐ食品の開発

**谷 史人 准教授**

■自然免疫および粘膜免疫系のストレス応答に関する研究  
■分子進化から眺めたタンパク質の構造と機能

**橋本 渉 准教授**

微生物における高分子物質の輸送と代謝に関わる分子の構造・機能相関解析

**木村幸敬 准教授**

亜臨界水を用いた環境に優しい食品加工、脂溶性食品成分の腸吸収細胞透過に関する研究

**大日向耕作 准教授**

脳神経系や循環系に作用する新しい生理活性ペプチドの探索と作用機構の解明

**保川 清 准教授**

タンパク質分解酵素の酵素化学的性質の解明および改変

**井上和生 准教授**

中枢性疲労発生機構に関する研究、運動時エネルギー代謝の中枢性調節機構に関する研究

**永尾雅哉 教授**

(1) 肝臓の再生や分化に関する研究 (2) 天然物からの有用な生理活性物質の探索

**山本憲二 教授**

(1) 微生物の菌体や酵素が糖タンパク質や糖脂質の糖鎖にどのように働かを解析する研究  
(2) 乳酸菌の腸管接着機構や糖代謝を明らかにする研究

**鈴木秀之 准教授**

微生物のアミノ酸・ペプチド代謝に関する酵素化学的、結晶構造学的、分子生物学的基礎研究とこれらより得られた知見をもとにした応用生命科学的研究。

**増田誠司 准教授**

mRNA 成熟に関わる複合体群の機能解析

**西山 徹 教授**

「食」に関する新たな付加価値創出戦略

**野中雅彦 准教授**

伝統食の有する暗黙知の解明と食品開発への応用

# 入学者選抜要項・学生募集要項の請求方法

## 入学者選抜要項の請求方法

入学者選抜に関する概要を記載した選抜要項は、7月下旬（予定）から配付します。

郵送を希望する場合は、受信者の住所・氏名・郵便番号を明記して、200円分の切手を貼付した返信用封筒（角形2号 332mm×240mm）を同封し、志望する学部の教務担当あてに、「選抜要項請求」と朱書して申し込んでください。

## 学生募集要項の請求方法

本学の学生募集要項等の請求方法には、以下の3つの方法があります。

### ①大学へ請求する方法（12月上旬から請求可能）

#### ■学生募集要項のみ請求する場合

受信者の住所・氏名・郵便番号を明記して、240円分の切手を貼付した返信用封筒（角形2号 332mm×240mm）を同封し、志望する学部の教務担当あてに、「学生募集要項請求」と朱書して申し込んでください。

なお、医学部保健学科後期日程試験の願書を含んだものを請求する場合は、「保健学科後期含む」と朱書してください。

#### ■学生募集要項及び大学案内を請求する場合

受信者の住所・氏名・郵便番号を明記して、390円分の切手を貼付した返信用封筒（角形2号 332mm×240mm）を同封し、志望する学部の教務担当あてに、「学生募集要項・大学案内請求」と朱書して申し込んでください。

なお、医学部保健学科後期日程試験の願書を含んだものを請求する場合は「保健学科後期含む」と朱書してください。また、返信用封筒の切手の金額は580円になります。

#### ■総合人間学部、工学部、農学部を志願する者で学生募集要項及び学部案内を請求する場合

受信者の住所・氏名・郵便番号を明記して、390円分の切手を貼付した返信用封筒（角形2号 332mm×240mm）を同封し、志望する学部の教務担当あてに、「学生募集要項・総合人間学部案内請求」、「学生募集要項・工学部案内請求」又は「学生募集要項・農学部案内請求」と朱書して申し込んでください。

### ②郵便局から請求する方法（10月から請求可能：12月上旬から送付）

郵便局や高等学校等に10月から設置されます「請求申込書」（入学願書ゆうパックカタログ）に必要事項を記入し、最寄りの郵便局に送料と払込手数料100円を添えて

申し込んでください。

### ③テレメール（インターネット・自動応答電話）で請求する方法

学生募集要項は9月から請求可能、12月上旬から送付。

## テレメールによる請求方法

インターネットの場合		電話の場合	
携帯電話・パソコンとも共通アドレス	<a href="http://telemail.jp">http://telemail.jp</a>	IP電話 [一般電話回線からの通話料金は日本全国3分毎に約11円です。]	050-2015-0555
QRコード ※対応する携帯電話で読み取れます。		一般電話	06-6222-0102

資料名	資料請求番号	送料
学生募集要項	584622	210円
学生募集要項 ※ (医学部保健学科後期願書含む)	584602	210円
学生募集要項+大学案内	544612	290円
学生募集要項+大学案内 ※ (医学部保健学科後期願書含む)	544602	340円
大学案内	564602	290円

送料は、お届けした資料に同封されている支払方法に従いお支払いください。なお、払込手数料として100円が必要となります。

※京都大学は医学部保健学科のみ前期・後期日程試験を行い、他学部他学科は前期日程試験のみ行います。医学部保健学科後期日程志願者は、資料番号584602又は544602の資料を請求してください。なお、全学部共通の前期の願書も含まれています。

郵便局・テレメールでの請求についての問い合わせ先：テレメールカスタマーセンター  
050-2015-5050（9:30～18:00）

## 京都大学オープンキャンパス



本学では、京都大学受験を志望する方に京都大学を直接知ってもらうための広報活動として、平成14(2002)年度から年に一度、夏休みを利用して2日間の日程で「京都大学オープンキャンパス」を実施しています。

このオープンキャンパスは、本学各学部の教育研究の紹介・模擬授業体験・施設見学や入試・学生生活・留学などの各種相談等を通して、本学の教員・在学生・事務職員と直接交流していただくことにより、受験生の皆さんに本学を実感していただく場となっています。

近畿を中心に全国から参加があり、平成18(2006)年度には約7,200名の受験生・保護者・学校関係者等の参加を得ました。多くの参加者から「有意義であった」と好評をいただいています。

[問い合わせ先]

学生部入試企画課 Tel.075-753-2524)

# 多様な入学制度／お問い合わせ先一覧

京都大学では、一般選抜のほか、以下のような特別選抜を実施しています。

## 外国学校出身者の入学について

法学部、経済学部で実施しています。  
詳しくは、当該学部の教務掛にお問い合わせください。

## 第3年次編入学試験について

教育学部、法学部、経済学部、医学部保健学科、工学部（高等専門学校卒業（見込）者対象）で実施しています。  
詳しくは、当該学部の教務掛にお問い合わせください。

## 学士入学試験について

1. 大学を卒業した者及び卒業見込の者が対象の学部：文学部で実施しています。
2. 京都大学を卒業した者及び卒業見込の者が対象の学部：総合人間学部、経済学部、

理学部、工学部で実施しています。  
詳しくは、当該学部の教務掛にお問い合わせください。

### 参考：平成19年度外国学校出身者のための選考の実施結果

学 部	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
法 学 部	10名以内	39	5	4
経済学部	10名以内	49	7	6

### 参考：平成19年度3年次編入学試験の実施結果

学 部	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
教育学部	10名	30	10	9
法 学 部	10名	132	9	9
経済学部	20名以内	64	9	9
医学部保健学科	17名	63	16	14
工 学 部	20名程度	83	25	25

## 入学者選抜要項・学生募集要項の請求先／学部・学科に関する問い合わせ先

学 部	担 当 掛	電 話 番 号	所 在 地	URL
総合人間学部	教 務 掛	075-753-6507	〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町	<a href="http://www.h.kyoto-u.ac.jp">http://www.h.kyoto-u.ac.jp</a>
文 学 部	第一教務掛	075-753-2709	〒606-8501 京都市左京区吉田本町	<a href="http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/index-j.html">http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/index-j.html</a>
教 育 学 部	教 務 掛	075-753-3010		<a href="http://www.educ.kyoto-u.ac.jp">http://www.educ.kyoto-u.ac.jp</a>
法 学 部	教 務 掛	075-753-3107		<a href="http://kyodai.jp/">http://kyodai.jp/</a>
経 済 学 部	教 務 掛	075-753-3406		<a href="http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/">http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/</a>
理 学 部	第二教務掛	075-753-3637	〒606-8502 京都市左京区北白川追分町	<a href="http://www.rigaku.kyoto-u.ac.jp">http://www.rigaku.kyoto-u.ac.jp</a>
医学部	医 学 科	教務・学生支援室 (学部教務担当)	〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町	<a href="http://www.med.kyoto-u.ac.jp/">http://www.med.kyoto-u.ac.jp/</a>
	保 健 学 科	教務・学生支援室 (教務保健学科担当)	〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町 53	<a href="http://www.hs.med.kyoto-u.ac.jp/">http://www.hs.med.kyoto-u.ac.jp/</a>
薬 学 部	教 務 掛	075-753-4514	〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町	<a href="http://www.pharm.kyoto-u.ac.jp/index.html">http://www.pharm.kyoto-u.ac.jp/index.html</a>
工 学 部	教 務 掛	075-753-5039	〒606-8501 京都市左京区吉田本町	<a href="http://www.kogaku.kyoto-u.ac.jp/">http://www.kogaku.kyoto-u.ac.jp/</a>
農 学 部	第一教務掛	075-753-6012	〒606-8502 京都市左京区北白川追分町	<a href="http://www.kais.kyoto-u.ac.jp/">http://www.kais.kyoto-u.ac.jp/</a>

## 入学試験・入学後の就学に関する問い合わせ先

担 当 部 課	電 話 番 号	所 在 地	URL
学生部入試企画課	075-753-2521 ~ 2524	〒606-8501 京都市左京区吉田本町	<a href="http://www.kyoto-u.ac.jp">http://www.kyoto-u.ac.jp</a>

# 【資料】入学者選抜実施状況について

平成 18 年度 入学者選抜実施状況（単位：人）

学 部	日 程	募集人員	志願者数	第 1 段階選抜合格者数	受験者数	合格者数	入学辞退者数	追加合格者数	入学者数
総合人間学部	前期文系	65	241	240	239	68			124
	前期理系	55	152	152	151	56			
文 学 部	前 期	220	629	629	617	223			223
教 育 学 部	前期文系	50	178	178	172	51			61
	前期理系	10	27	27	27	10			
法 学 部	前 期	320	867	867	858	332			332
経 済 学 部	前期一般	180	512	512	501	191	3		238
	前期論文	50	302	175	168	50			
理 学 部	前 期	311	812	796	789	318	1		317
医 学 部	前 期	223	604	573	561	237	5		256
	後 期	20	146	146	59	24			
薬 学 部	前 期	80	223	223	217	86			86
工 学 部	前 期	955	2,221	2,221	2,189	960	3	1	958
農 学 部	前 期	300	634	634	629	322			322
小 計	前 期	2,819	7,402	7,227	7,118	2,904			
	後 期	20	146	146	59	24			
合 計		2,839	7,548	7,373	7,177	2,928	12	1	2,917

医学部学科・専攻別／薬学部学科別内訳（単位：人）

学部 (学科・専攻)	日 程	募集人員	志願者数	第 1 段階選抜合格者数	受験者数	合格者数	入学 辞退者数	追 加 合格者数	入学者数
医 学 部	前 期	223	604	573	561	237	5		256
	後 期	20	146	146	59	24			
医 学 科	前 期	100	344	313	310	105			105
保 健 学 科	前 期	123	260	260	251	132	5		151
	後 期	20	146	146	59	24			
看 護 学 専 攻	前 期	63	122	122	118	70	4		73
	後 期	7	47	47	13	7			
検 査 技 術 科 学 専 攻	前 期	30	74	74	72	30			40
	後 期	7	51	51	23	10			
理 学 療 法 学 専 攻	前 期	15	37	37	37	17			20
	後 期	3	19	19	9	3			
作 業 療 法 学 専 攻	前 期	15	27	27	24	15	1		18
	後 期	3	29	29	14	4			
薬 学 部	前 期	80	223	223	217	86			86
薬 科 学 科	前 期	50	113	113	109	55			55
薬 学 科	前 期	30	110	110	108	31			31

工学部・農学部学科別内訳（単位：人）

学 部 (学 科)	日 程	募集人員	志願者数	第 1 段階選抜合格者数	受験者数	合格者数	入 学 辞 退 者 数	追 加 合 格 者 数	入 学 者 数
工 学 部	前 期	955	2,221	2,221	2,189	960	3	1	958
地 球 工 学 科	前 期	185	464	464	460	186	1		185
建 築 学 科	前 期	80	190	190	187	80			80
物 理 工 学 科	前 期	235	522	522	517	238			238
電 気 電 子 工 学 科	前 期	130	267	267	262	130			130
情 報 学 科	前 期	90	225	225	221	90			90
工 業 化 学 科	前 期	235	553	553	542	236	2	1	235
農 学 部	前 期	300	634	634	629	322			322
資 源 生 物 科 学 科	前 期	94				99			99
応 用 生 命 科 学 科	前 期	47				49			49
地 域 環 境 工 学 科	前 期	37				42			42
食 料 ・ 環 境 経 済 学 科	前 期	32				35			35
森 林 科 学 科	前 期	57				60			60
食 品 生 物 科 学 科	前 期	33				37			37

外国学校出身者のための選考の実施結果（外数）（単位：人）

学 部	募集人員	志願者数	第 1 次選考合格者数	受験者数	合格者数	入学者数
法 学 部	10	39	21	11	5	4
経 済 学 部	10	49	21	13	7	6

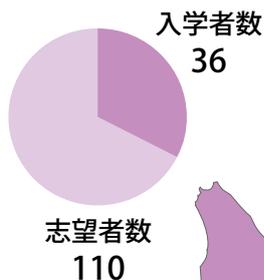
※外国学校出身者のための選考については、下記の各学部教務掛にお尋ねください。

法学部教務掛 (Tel.075-753-3107) 経済学部教務掛 (Tel.075-753-3406)

# [資料] 平成 19 年度 出身高校等所在地別 志願者・入学者数 (単位:人)

## 中部地区

	志願者	入学者
新潟県	33	14
富山県	44	21
石川県	96	49
福井県	85	37
山梨県	21	8
長野県	59	17
岐阜県	140	55
静岡県	156	56
愛知県	411	172
計	1,045	429

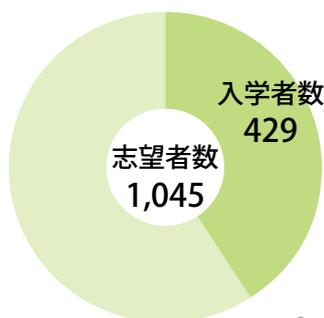


## 北海道

	志願者	入学者
北海道	110	36

## 中国地区

	志願者	入学者
鳥取県	23	6
島根県	33	13
岡山県	107	32
広島県	217	92
山口県	48	24
計	428	167

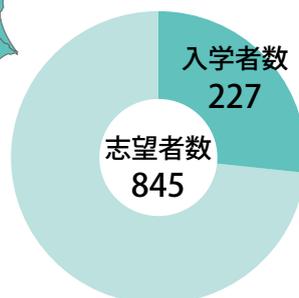
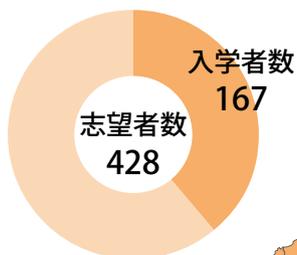


## 入学者数 36



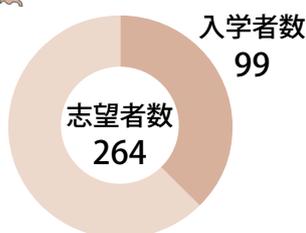
## 東北地区

	志願者	入学者
青森県	18	7
岩手県	10	1
宮城県	44	12
秋田県	11	3
山形県	20	3
福島県	24	10
計	127	36



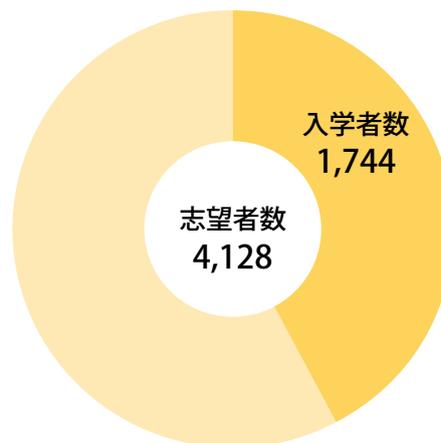
## 関東地区

	志願者	入学者
茨城県	60	20
栃木県	31	13
群馬県	53	25
埼玉県	92	24
千葉県	92	20
東京都	363	92
神奈川県	154	33
計	845	227



## 四国地区

	志願者	入学者
徳島県	38	14
香川県	100	42
愛媛県	77	27
高知県	49	16
計	264	99

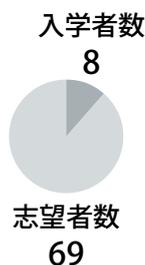


## 近畿地区

	志願者	入学者
三重県	129	67
滋賀県	180	71
京都府	831	324
大阪府	1,428	591
兵庫県	848	383
奈良県	584	257
和歌山県	128	51
計	4,128	1,744

## 九州地区

	志願者	入学者
福岡県	248	91
佐賀県	36	19
長崎県	41	10
熊本県	56	11
大分県	25	7
宮崎県	30	12
鹿児島県	79	18
沖縄県	17	3
計	532	171



## その他

(高校卒業程度認定等)

	志願者	入学者
その他	69	8



## 【資料】平成19年度合格者 最高点・最低点（総点）

学部	日程		満点	総点			
				最高点	最低点	平均点	
総合人間学部	前期	(文系)	750	513.66	414.00	450.93	
		(理系)	800	611.00	388.75	450.46	
文学部	前期		700	524.73	427.00	457.85	
教育学部	前期	(文系)	900	646.43	551.66	584.99	
		(理系)	900	627.03	533.43	581.67	
法学部	前期		750	606.20	485.90	518.47	
経済学部	前期	(一般)	800	604.55	479.05	516.69	
		(論文)	1000	740.16	461.30	509.85	
理学部	前期	注1	650	556.00	313.00	359.09	
		(数理30位)注2	(400)	(383.00)	(255.00)	—	
学部合計	前期		—	—	—	—	
	後期		—	—	—	—	
医学部	医学科		前期	1300	1045.23	855.87	908.89
	保健学科	前期	看護学専攻	1200	865.26	548.73	643.95
			検査技術科学専攻	1200	823.70	659.70	704.25
			理学療法学専攻	1200	843.90	692.73	737.48
			作業療法学専攻	1400	903.70	673.53	780.81
	保健学科	後期	看護学専攻	1000	851.00	777.90	821.97
			検査技術科学専攻	1000	832.80	793.30	810.17
			理学療法学専攻	1000	834.70	830.50	832.07
			作業療法学専攻	1200	927.00	878.60	899.95
	学部合計	前期		950	693.25	530.33	586.46
薬学部	薬科学科		前期	950	693.25	530.33	588.16
	薬学科		前期	950	647.60	552.90	583.46
工学部	学部合計		前期	—	—	—	—
	地球工学科		前期	1000	693.63	534.25	582.15
	建築学科		前期	1050	773.98	566.85	626.06
	物理工学科	前期	(配点A)	1000	754.00	607.33	649.97
			(配点B)	1000	695.00	558.13	608.72
	電気電子工学科	前期	(配点A)	1000	680.69	574.76	616.73
			(配点B)	1000	661.53	506.35	561.04
	情報学科		前期	1000	800.28	542.20	604.55
工業化学科		前期	1000	747.66	518.31	578.09	
農学部	前期		1050	793.23	571.48	630.03	

注1：最高点は合格者のうち総点が最も高い者の得点です。最低点は合格者のうち順位が最下位であった者の得点です。平均点は合格者の総点の平均点です。

注2：合格者のうち個別学力検査の成績順位が「数学」と「理科」の得点合計を用いて定められる30位までの者の「数学」と「理科」の得点合計。

(備考) 1. 法学部・経済学部の外国学校出身者のための選考を除く。

2. 総点については、前期・後期共合格発表時のものです。

[京都大学小史]

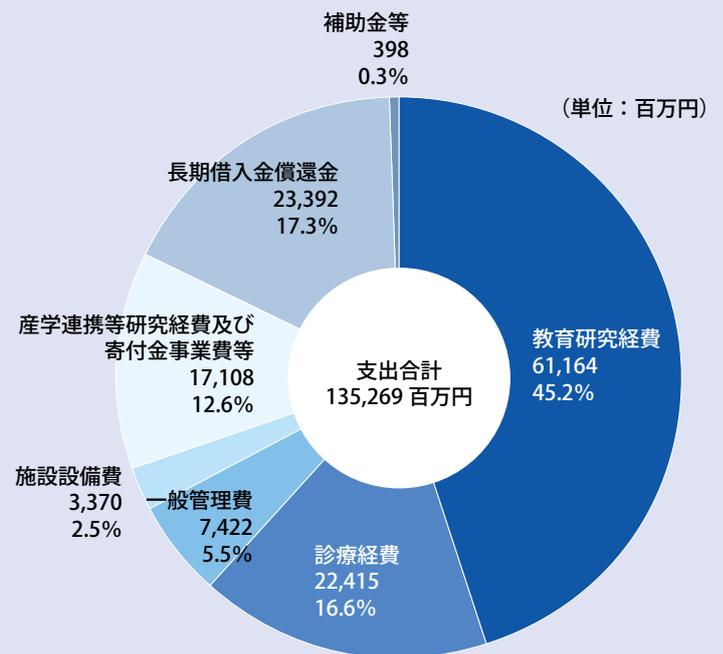
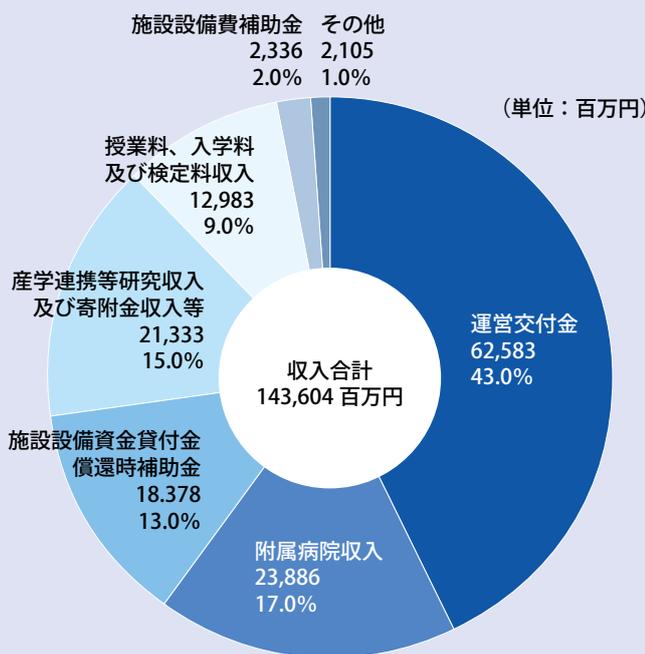
**明治** 明治30年(1897)に京都帝国大学として設置される。理工学(1897)、法科大学、医科大学(1899)、文科大学(1906)が設置される。

**大正** 大正8年(1919)に、分科大学を学部と改称する。経済学部(1919)、農学部(1923)が設置される。

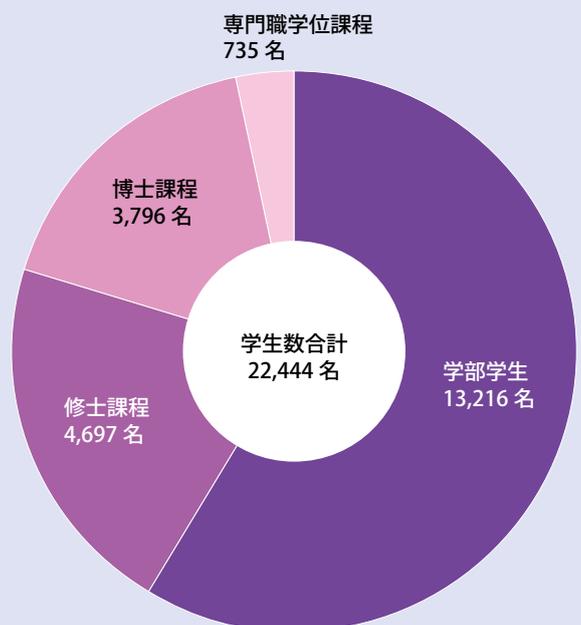
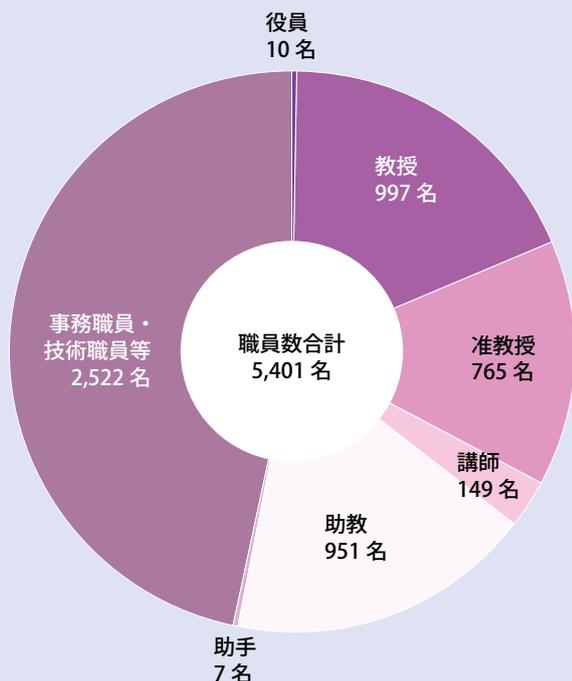
**昭和** 昭和22年(1947)京都帝国大学を京都大学と改称する。昭和24年(1949)、新制大学として発足する。教育学部(1949)、教養部(1954)、薬学部(1960)、総合人間学部(1992)が設置される。独立研究科。大学院重点化。

**平成** 平成16年(2004)国立大学法人京都大学によって京都大学が設置される。

[京都大学の財務状況] 平成17年度



[京都大学の職員数・学生数] 平成19年5月1日現在



# 吉田キャンパス



## 吉田キャンパスへの交通

主要鉄道駅	利用交通機関等	乗車バス停	市バス系統	市バス経路	本学までの所要時間※	下車バス停
京都駅 (JR / 近鉄)	市バス	京都駅前	206 系統	「東山通 北大路バスターミナル」行	約 35 分	「京大正門前」又は「百万遍」, 医・薬は「近衛通」
			17 系統	「河原町通 銀閣寺・錦林車庫」行	約 35 分	「百万遍」, 理・農は「京大農学部前」, 薬は「荒神口」
河原町駅 (阪急)	市バス	四条河原町	201 系統	「祇園・百万遍」行	約 25 分	「京大正門前」又は「百万遍」, 医・薬は「近衛通」
			31 系統	「高野・岩倉」行	約 25 分	
			17 系統	「河原町通 銀閣寺・錦林車庫」行	約 25 分	「百万遍」, 理・農は「京大農学部前」, 薬は「荒神口」
今出川駅 (地下鉄烏丸線)	市バス	烏丸今出川	3 系統	「百万遍 北白川仕伏町」行	約 25 分	「百万遍」, 薬は「荒神口」
			203 系統	「銀閣寺道・錦林車庫」行	約 15 分	「百万遍」, 理・農は「京大農学部前」
東山駅 (地下鉄東西線)	市バス	東山三条	201 系統	「百万遍・祇園」行	約 15 分	「京大正門前」又は「百万遍」, 医・薬は「近衛通」
			206 系統	「高野 千本北大路」行	約 20 分	
			201 系統	「百万遍・千本今出川」行	約 20 分	「京大正門前」又は「百万遍」, 医・薬は「近衛通」
31 系統	「高野・岩倉」行	約 20 分				
出町柳駅 (京阪)	徒歩	(東へ)			約 20 分	文・教育・法・経済・工は、当駅から徒歩約 15 分, 総人・理・農は徒歩約 20 分
	市バス	出町柳駅前	201 系統	「祇園・みぶ」行	約 10 分	「百万遍」又は「京大正門前」, 医・薬は「近衛通」
丸太町駅 (京阪)	徒歩	(東へ)	17 系統	「銀閣寺・錦林車庫」行	約 10 分	「百万遍」, 理・農は「京大農学部前」
					約 10 分	医・薬は、当駅から徒歩約 10 分

※本学までの所要時間はあくまでも目安であり、交通事情等により超えることがあります。

# 宇治キャンパス



## 宇治地区研究所本館

- 化学研究所
- エネルギー理工学研究所
- 生存圏研究所
- 防災研究所
- 農学部, 農学研究科

### 宇治キャンパスへの交通

主要鉄道駅	駅からのアクセス
黄檗駅 (JR / 京阪)	当駅下車西へ徒歩約 10 分

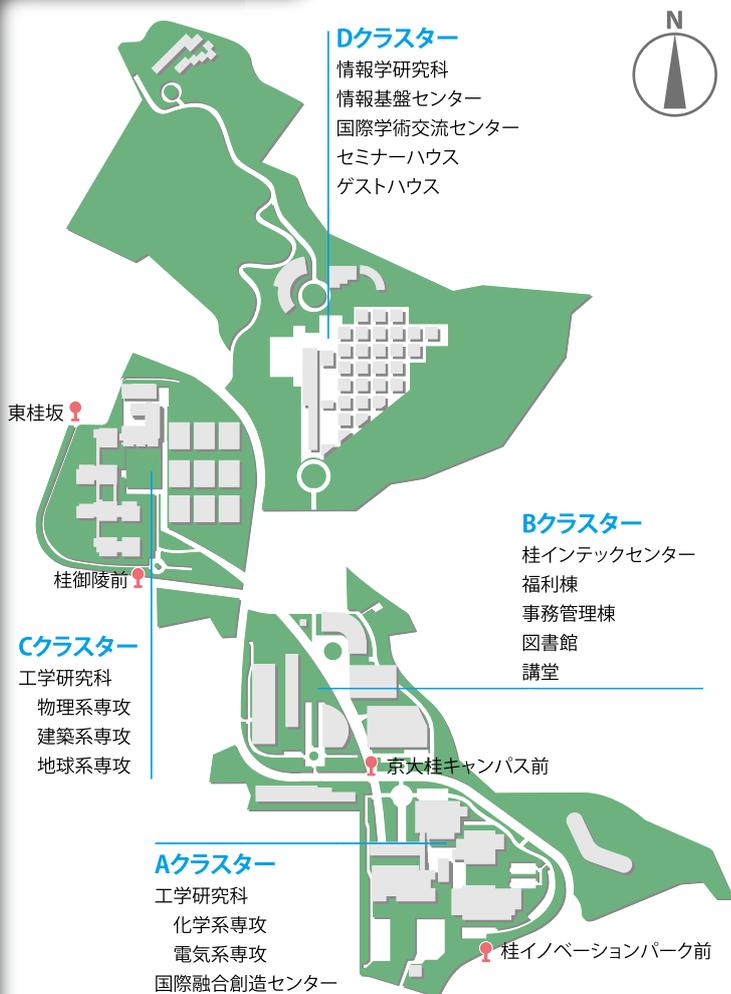
# Campus Map

## 京都大学キャンパス配置図



# 桂キャンパス

\*一部計画中の施設を含む



### Dクラスター

- 情報学研究科
- 情報基盤センター
- 国際学術交流センター
- セミナーハウス
- ゲストハウス

### Bクラスター

- 桂インテックセンター
- 福利棟
- 事務管理棟
- 図書館
- 講堂

### Cクラスター

- 工学研究科
- 物理系専攻
- 建築系専攻
- 地球系専攻

### Aクラスター

- 工学研究科
- 化学系専攻
- 電気系専攻
- 国際融合創造センター

### 桂キャンパスへの交通

主要鉄道駅	乗車バス停	乗車バス系統	経路	下車バス停
桂駅 (阪急)	桂駅西口	市バス 西6系統	「桂坂中央」行	「京大桂キャンパス前」 (所要時間約 17 分)
		京阪京都交通	「桂坂中央」行	
向日町駅 (JR)	JR 向日町	京阪京都交通	「桂坂中央」行	「京大桂キャンパス前」 (所要時間約 20 分)
		ヤサカバス	「桂坂中央」行	

※本学までの所要時間はあくまでも目安であり、交通事情等により超えることがあります。

発行 平成 19 年 7 月

京都大学 学生部入試企画課

〒 606-8501 京都市左京区吉田本町

TEL. 075-753-2521 ~ 2524

<http://www.kyoto-u.ac.jp/>